

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構
(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2022年5月1日現在)

東京薬科大学 薬学部

「基礎資料」（様式4）作成上の注意事項

- 1 データの基準日は、記述の対象となる年度が指示されていない場合、大学が自己点検・評価を実施した年度（評価対象年度）の5月1日現在の数値を記載してください。
ただし、基礎資料4の2023年度入試結果は、「草案」の提出時には空欄のままかまいません。
- 2 記述に際しては、各シートの[注]、脚注を確認して、作成してください。なお、三つの方針については、煩雑さを避けるため「～ポリシー」と表記します。
- 3 各シートの表中の斜体文字の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]、脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について（印刷体とPDFファイルを格納したCD-Rの作成上の注意）
 - ・基本的に、ページ設定で**A4判**に作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号（**基礎資料1から開始**）を付してください。
 - ・**両面印刷**して、加除が可能な体裁でファイル綴じにし、表紙と背表紙部分に「〇〇大学薬学部基礎資料」と明記し、「自己点検・評価書」とは別冊にして提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。
- 7 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所（項目名以外）を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	3
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	92
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	96
基礎資料 5	教員・職員の数	5	97
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	98
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	99
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	120
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	121
基礎資料10	学生の健康管理	6	483
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	484
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	487
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	488

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系性と科目の順次性（学年・学期進行による学習順序）がわかるような図を示してください。

東京薬科大学 薬学部

カリキュラムツリー(2022年度)

別紙参照

ディプロマ・ポリシー：DP

DP1 豊かな人間性と生命の尊厳についての基本的な教養を身につけている。

DP2 医療の担い手として、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を身につけている。

DP3 薬剤師に必要な任務と法令を理解し、専門分野の基礎的な知識・技能・態度と実践的能力を修得している。

DP4 地域医療、チーム医療等の現場で患者や他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。

DP5 薬学・医療の進歩と改革に資するための研究的思考、問題発見・解決能力を身につけている。

DP6 生涯自己研鑽を続けるために必要な情報の活用とともに、次世代への指導能力を持っている。

卒業コンピテンス

- ① 生命・医療倫理
- ② コミュニケーションとチーム医療
- ③ 薬学及び関連領域の知識
- ④ 薬物治療における専門的実践能力
- ⑤ 社会貢献
- ⑥ 薬学・医療領域における科学的探求能力

学び

◆ 統合して学ぶ

◆ 課題研究で学ぶ

◆ 問題発見力

◆ 問題解決力

◆ 演習で学ぶ

◆ 問題解決力

◆ 現場で学ぶ

◆ 社会性

◆ 薬と生体

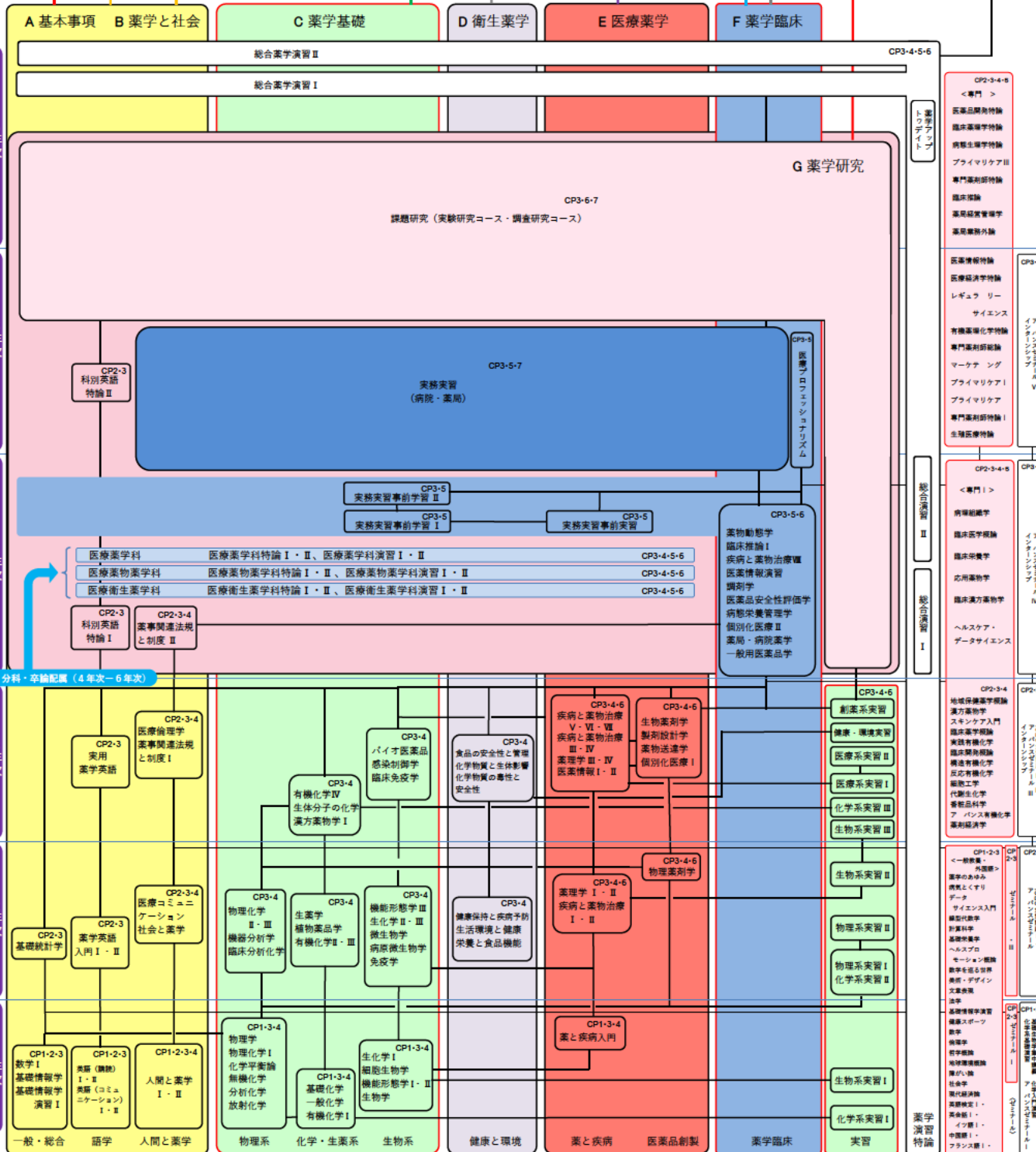
◆ 患者の心を学ぶ

◆ 薬と社会

◆ 実験から学ぶ

◆ 薬学の歴史を学ぶ

◆ 薬学入門



CP1 入学早期から薬学の基礎知識を身につけ、大学での学びへスムーズに移行できるように基礎科目・入門科目を配置します。
 CP2 医療の担い手としての基本的教養（使命感、責任感、倫理観）やコミュニケーション技術を身につけるために、一般教養科目（必修・選択）、外国語科目（必修・選択）を配置します。
 CP3 豊かな人間性と倫理観を有する医療人を養成するために、講義、演習、小グループ討議、PBL、実習、課題研究などの様々な方法を用い、医療の担い手として求められる知識、技能、態度の修得を図ります。
 CP4 薬学の基礎となる「人間と薬学」、「物理系薬学」、「化学系薬学」、「生薬系薬学」、「生物系薬学」、「健康と環境」、「医薬品をつくる」、「薬と疾病」、各々の科目において、薬剤師に必要な専門分野の基本的な知識・技能の修得を図ります。
 CP5 薬学臨床に関連する科目や臨床実習において、薬物療法、地域医療、チーム医療等を実践するための基本的な能力の修得を図ります。
 CP6 高度な医療（臨床）薬学から医薬品開発に関連する科目や課題研究において、薬学・医療の進歩と改革に資するための研究的思考、問題発見・解決能力、倫理観の育成を図ります。
 CP7 臨床実習や課題研究において、生涯にわたり自己研鑽を続けるための情報収集能力及び次世代を育成する意欲と態度の修得を図ります。

(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	人間と薬学Ⅱ (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				(選)プライマリケアⅢ
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	人間と薬学Ⅱ (選)社会学 (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				(選)プライマリケアⅢ
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	人間と薬学Ⅰ (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				(選)プライマリケアⅢ
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)社会学 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)臨床薬学概論		医療プロフェッショナルリズム	
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)薬学のあゆみ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)地域保健薬学概論	調剤学 薬局・病院薬学 医療衛生薬学特論Ⅰ	医療プロフェッショナルリズム	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局業務外論
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	(選)薬学のあゆみ (選)病気とくすり (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ 調剤学 薬局・病院薬学 医療衛生薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局業務外論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。	人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)薬学のあゆみ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)地域保健薬学概論	薬局・病院薬学 一般用医薬品学 医療衛生薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり① 総合演習Ⅱ	医療プロフェッショナルリズム	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局業務外論
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)地域保健薬学概論	薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	医療プロフェッショナルリズム (選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）	基礎情報学演習Ⅰ 人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)社会学 (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学 (選)地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ	医療プロフェッショナルリズム (選)生殖医療特論	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)臨床薬学概論			
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医薬品安全性評価学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	基礎情報学 人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医薬品安全性評価学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。	基礎情報学 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医薬品安全性評価学 薬局・病院薬学 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識）	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医薬品安全性評価学 医療薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医療薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	人間と薬学Ⅰ	微生物学		総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	(選)薬学のおゆみ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)薬学のおゆみ (選)ゼミナールⅠ	微生物学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)薬学のおゆみ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)ヘルスプロモーション概論 (選)薬学のおゆみ (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【2）薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ 基礎生物学実習	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	総合演習Ⅱ	(選)生殖医療特論	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医薬品安全性評価学 医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医薬品安全性評価学 医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医薬品安全性評価学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)生殖医療特論	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	人間と薬学Ⅰ 人間と薬学Ⅱ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ		
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医薬品安全性評価学 医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	人間と薬学Ⅰ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	医薬品安全性評価学 医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）	人間と薬学Ⅰ (選)倫理学 (選)ゼミナールⅠ	(選)倫理学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	医療倫理学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④研究倫理】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	人間と薬学Ⅰ	(選)ゼミナールⅡ	医療倫理学	医療薬物薬学特論Ⅰ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学演習Ⅱ	課題研究（実験・調査研究コース）	総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		課題研究（実験・調査研究コース）
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	医療倫理学	医療薬物薬学特論Ⅰ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学演習Ⅱ	課題研究（実験・調査研究コース）	総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		(選)薬局経営管理学
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		医療薬物薬学演習Ⅱ	課題研究（実験・調査研究コース）	(選)薬局経営管理学
		(選)ゼミナールⅢ		課題研究（実験・調査研究コース）		課題研究（実験・調査研究コース）
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	基礎情報学	医療コミュニケーション		医療薬学演習Ⅰ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ
	(選)障がい論	(選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ				(選)プライマリケアⅢ
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	基礎情報学	医療コミュニケーション		医療薬学演習Ⅰ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ
	人間と薬学Ⅱ	(選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
	(選)障がい論	(選)ゼミナールⅢ				
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	(選)ゼミナールⅠ					
	(選)障がい論	医療コミュニケーション		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論		医療薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅱ		
		医療コミュニケーション		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		(選)プライマリケアⅢ
	人間と薬学Ⅱ	医療コミュニケーション		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅡ	
	(選)障がい論	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅰ		
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅱ		
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅡ	
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅰ		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）	人間と薬学Ⅰ	医療コミュニケーション		医療薬学演習Ⅱ		
	人間と薬学Ⅱ	(選)ゼミナールⅡ		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅱ
	(選)障がい論	(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅰ		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）	(選)健康スポーツ			医療薬学演習Ⅱ		
	(選)ゼミナールⅠ	医療コミュニケーション		(選)臨床栄養学		
		(選)ゼミナールⅡ				
	人間と薬学Ⅰ	医療コミュニケーション		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅱ
	(選)障がい論	(選)ヘルスプロモーション概論		医療薬学演習Ⅰ		
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅱ		
	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅢ		(選)臨床栄養学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）	(選)ゼミナールⅠ					
	人間と薬学Ⅰ	医療コミュニケーション		医療薬学演習Ⅰ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ
	(選)障がい論	(選)ヘルスプロモーション概論		医療薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅱ		(選)プライマリケアⅢ
	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅢ		(選)臨床栄養学		
(選)ゼミナールⅠ						
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論	医療コミュニケーション		医療薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅡ				
		(選)ゼミナールⅢ				
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		一般用医薬品学		
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅰ		
【4）多職種連携協働とチーム医療】						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	(選)倫理学	医療コミュニケーション	医療倫理学	調剤学	医療プロフェッショナルナリズム	総合薬学演習Ⅰ
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)倫理学		医薬品安全性評価学	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅱ
	(選)健康スポーツ	(選)ヘルスプロモーション概論		薬局・病院薬学		
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅰ		
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	(選)倫理学	(選)倫理学		調剤学	医療プロフェッショナルナリズム	総合薬学演習Ⅰ
	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅡ		医薬品安全性評価学		総合薬学演習Ⅱ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学		
				医療薬学演習Ⅰ		
				総合演習Ⅱ		
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	(選)倫理学	医療コミュニケーション	医療倫理学	調剤学	医療プロフェッショナルナリズム	総合薬学演習Ⅰ
	(選)健康スポーツ	(選)倫理学		医薬品安全性評価学		総合薬学演習Ⅱ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		薬局・病院薬学		(選)プライマリケアⅢ
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅰ		
				医療衛生薬学特論Ⅰ		
			総合演習Ⅱ			
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）	(選)社会学	医療コミュニケーション		医療薬学演習Ⅰ		
	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅡ				
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ				
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）	(選)社会学	医療コミュニケーション	医療倫理学	医療薬学演習Ⅰ	医療プロフェッショナルナリズム	総合薬学演習Ⅰ
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)臨床薬学概論	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅡ				(選)プライマリケアⅢ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ				
【5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成】						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論		医療薬学演習Ⅰ	課題研究（実験・調査研究コース）	課題研究（実験・調査研究コース）
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅱ		
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学特論Ⅰ		
				医療衛生薬学特論Ⅰ		
				課題研究（実験・調査研究コース）		
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能）	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅰ	課題研究（実験・調査研究コース）	総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅱ		課題研究(実験・調査研究コース)
				医療衛生薬学特論Ⅱ		
				課題研究(実験・調査研究コース)		
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	(選)社会学	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅰ	課題研究(実験・調査研究コース)	総合薬学演習Ⅰ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		課題研究(実験・調査研究コース)
				課題研究(実験・調査研究コース)		
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	(選)社会学	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅰ	課題研究(実験・調査研究コース)	総合薬学演習Ⅱ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ		医療薬学演習Ⅱ		課題研究(実験・調査研究コース)
				課題研究(実験・調査研究コース)		
5) インターネット上の情報を持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	基礎情報学演習Ⅰ	(選)倫理学		医療薬学演習Ⅰ	課題研究(実験・調査研究コース)	総合薬学演習Ⅰ
	(選)倫理学	(選)ゼミナールⅡ		医療薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
	(選)基礎情報学演習Ⅱ	(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		課題研究(実験・調査研究コース)
	(選)ゼミナールⅠ			課題研究(実験・調査研究コース)		
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	人間と薬学Ⅰ	社会と薬学		総合演習Ⅱ	課題研究(実験・調査研究コース)	総合薬学演習Ⅰ
	人間と薬学Ⅱ	(選)ヘルスプロモーション概論		課題研究(実験・調査研究コース)		総合薬学演習Ⅱ
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ゼミナールⅡ				課題研究(実験・調査研究コース)
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ				
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	基礎情報学	(選)ヘルスプロモーション概論		総合演習Ⅱ	課題研究(実験・調査研究コース)	総合薬学演習Ⅰ
	人間と薬学Ⅰ	(選)ゼミナールⅡ		課題研究(実験・調査研究コース)		総合薬学演習Ⅱ
	(選)基礎情報学演習Ⅱ	(選)ゼミナールⅢ				課題研究(実験・調査研究コース)
	(選)ヘルスプロモーション概論					
	(選)薬学のあゆみ					
	(選)ゼミナールⅠ					
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	基礎情報学	(選)ヘルスプロモーション概論		医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
	(選)社会学	(選)ゼミナールⅡ		医療衛生薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ゼミナールⅢ		医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④		
	(選)健康スポーツ			総合演習Ⅱ	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
	(選)薬学のあゆみ			課題研究(実験・調査研究コース)		
	(選)ゼミナールⅠ					
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論		医療衛生薬学特論Ⅰ	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
	(選)健康スポーツ	(選)ゼミナールⅡ		課題研究(実験・調査研究コース)		
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ				
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅢ (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		課題研究（実験・調査研究コース）	課題研究（実験・調査研究コース）	総合薬学演習Ⅱ 課題研究（実験・調査研究コース）
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	(選)社会学 (選)健康スポーツ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）	人間と薬学Ⅰ (選)健康スポーツ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）	(選)ゼミナールⅠ (選)健康スポーツ (選)社会学	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）	人間と薬学Ⅰ (選)法学 (選)健康スポーツ (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)法学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）	基礎情報学 人間と薬学Ⅰ (選)健康スポーツ (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ				
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	(選)法学 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)法学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	薬事関連法規と制度Ⅰ	調剤学 一般用医薬品学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	薬事関連法規と制度Ⅰ	調剤学 一般用医薬品学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。	(選)法学 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)法学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	薬事関連法規と制度Ⅰ	調剤学 一般用医薬品学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 調剤学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 調剤学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 調剤学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。	基礎情報学 (選)倫理学 (選)法学 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)倫理学 (選)法学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	薬事関連法規と制度Ⅰ	調剤学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。	(選)法学	社会と薬学	薬事関連法規と制度Ⅰ	調剤学		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	(選)ゼミナールⅠ	(選)法学 (選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ				
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。	(選)病気とくすり	社会と薬学	薬事関連法規と制度Ⅰ	医薬品安全性評価学		総合薬学演習Ⅰ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	(選)香粧品科学	医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ	(選)スキンケア入門	医療衛生薬学特論Ⅱ		
				総合演習Ⅱ		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。	(選)病気とくすり	社会と薬学	薬事関連法規と制度Ⅰ	薬事関連法規と制度Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学特論Ⅱ		(選)臨床薬理学特論
				総合演習Ⅱ		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学		医療薬物薬学特論Ⅰ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅡ		医療薬物薬学特論Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	薬事関連法規と制度Ⅰ	医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学	薬事関連法規と制度Ⅰ	医薬品安全性評価学	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅡ		医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学	薬事関連法規と制度Ⅰ	医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ				
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	薬事関連法規と制度Ⅰ	医薬品安全性評価学		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学		医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅡ		総合演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	薬事関連法規と制度Ⅰ	医療薬物薬学特論Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
10) 健康被害救済制度について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学	医療倫理学	薬事関連法規と制度Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅡ		一般用医薬品学		総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学特論Ⅰ		
				総合演習Ⅱ		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		医療薬物薬学特論Ⅰ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	(選)臨床薬学概論	薬事関連法規と制度Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		薬事関連法規と制度Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅡ				総合薬学演習Ⅱ
		(選)ゼミナールⅢ				
【③ 社会保障制度と医療経済】						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	(選)現代経済論	(選)ヘルスプロモーション概論	薬事関連法規と制度Ⅰ	薬事関連法規と制度Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医療保険制度について説明できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 療養担当規則について説明できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 公費負担医療制度について概説できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 介護保険制度について概説できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 薬価基準制度について概説できる。	基礎情報学演習Ⅰ (選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬事関連法規と制度Ⅱ 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)マーケティング	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)臨床薬学概論	薬事関連法規と制度Ⅱ 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)マーケティング	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局業務外論
2) 国民医療費の動向について概説できる。	基礎情報学演習Ⅰ (選)現代経済論 (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)マーケティング	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局業務外論
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。	基礎情報学 基礎情報学演習Ⅰ (選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		調剤学 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)マーケティング	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。	(選)現代経済論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局業務外論
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)臨床薬学概論	調剤学 薬局・病院薬学 一般用医薬品学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	薬事関連法規と制度Ⅰ	調剤学 薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論	社会と薬学		調剤学	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 一般用医薬品学 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
4)セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)病気とくすり (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 一般用医薬品学 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり① 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④ 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
5)災害時の薬局の役割について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④ 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
6)医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1)地域包括ケアの理念について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)地域保健薬学概論	薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
2)在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ (選)薬局経営管理学 (選)薬局業務外論
3)学校薬剤師の役割について説明できる。	(選)病気とくすり (選)ゼミナールⅠ	社会と薬学 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)地域保健薬学概論	薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
4)地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)地域保健薬学概論	薬局・病院薬学 総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
5)地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ヘルスプロモーション概論 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		総合演習Ⅱ	(選)プライマリケアⅡ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)薬局経営管理学
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1)化学結合の様式について説明できる。	無機化学 有機化学Ⅰ (選)計算科学	(選)計算科学	(選)反応有機化学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ 薬学アップデート(総合)
2)分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	物理学	(選)計算科学	(選)反応有機化学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	無機化学					総合薬学演習 I
	有機化学 I					総合薬学演習 II
	(選) 計算科学					
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	物理学	(選) 計算科学	(選) 反応有機化学	総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	無機化学		(選) アドバンス有機 化学			総合薬学演習 I
	基礎化学					総合薬学演習 II
	(選) 計算科学					
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	基礎化学					総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	物理化学 I					総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	基礎化学					総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	基礎化学					総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	基礎化学					総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
5) 光の散乱および干渉について説明できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。	物理化学 I			総合演習 II		薬学アップデート ト(総合)
						総合薬学演習 I

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
						総合薬学演習Ⅱ
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	放射化学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	放射化学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	放射化学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 核反応および放射平衡について説明できる。	放射化学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。	放射化学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学Ⅰ			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理学	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 熱力学第一法則を説明できる。	物理学	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物理学	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理学	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。		物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) エンタルピーについて説明できる。	物理学	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理学	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		物理化学・分析化学 実習				総合薬学演習Ⅱ
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。		物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 熱力学第二法則について説明できる。		物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
3) 熱力学第三法則について説明できる。		物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
4) ギブズエネルギーについて説明できる。		物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	化学平衡論	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	化学平衡論	物理化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		物理化学Ⅲ				総合薬学演習Ⅱ
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
4) 共役反応の原理について説明できる。				総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		物理化学・分析化学 実習				総合薬学演習Ⅰ
3) 状態図について説明できる。	基礎有機化学実習	物理化学Ⅲ	医薬品合成実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		物理化学・分析化学 実習				総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ
		物理化学・分析化学 実習				総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 活量と活量係数について説明できる。	化学平衡論	物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ 薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		臨床分析化学		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) イオン強度について説明できる。	化学平衡論			総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	化学平衡論			総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 電極電位(酸化還元電位)について説明できる。	化学平衡論 分析化学	分析化学実習		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学Ⅲ 物理化学・分析化学実習		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅲ 物理化学・分析化学実習	薬剤学実習			薬学アットゥデイト(総合)
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学Ⅲ	薬剤学実習	総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		物理化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学実習 物理化学・分析化学実習		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）	分析化学	分析化学実習		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
		物理化学・分析化学実習				総合薬学演習Ⅱ
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学	臨床分析化学		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
		分析化学実習				総合薬学演習Ⅱ
（2）溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	化学平衡論	分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
		物理化学・分析化学実習		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）		分析化学実習	薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
		物理化学・分析化学実習		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
3) 溶液の pH を測定できる。（技能）	化学平衡論	物理化学・分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		
				総合演習Ⅱ		
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	化学平衡論	物理化学・分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学平衡論	分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
	無機化学			総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 沈殿平衡について説明できる。	化学平衡論	分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
3) 酸化還元平衡について説明できる。	化学平衡論	分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
4) 分配平衡について説明できる。	化学平衡論	物理化学・分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
（3）化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	化学平衡論			医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
	無機化学			総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	無機化学		医薬品合成実習	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
	分析化学			総合演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
【②定量分析（容量分析・重量分析）】						
1) 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習		医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		総合薬学演習 II 薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習		医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）	分析化学	分析化学実習		医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	無機化学 分析化学			医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学			医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		臨床分析化学 機器分析学 物理化学・分析化学 実習		医療薬物薬学演習 I 医療衛生薬学演習 I セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり③ 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学		医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		臨床分析化学 機器分析学		医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。	一般化学	機器分析学 物理化学・分析化学 実習		医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）		物理化学・分析化学 実習		医療薬物薬学演習 I 総合演習 I		
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		臨床分析化学	(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学		医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④X線分析法】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		機器分析学		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		機器分析学		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		機器分析学		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		機器分析学		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
（5）分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		臨床分析化学 機器分析学 物理化学・分析化学 実習		医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	基礎有機化学実習	機器分析学 有機化学実習 漢方薬物学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		臨床分析化学 機器分析学 物理化学・分析化学 実習		医療薬物薬学演習Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり③ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		機器分析学		医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。（知識・技能）		臨床分析化学 有機化学実習 物理化学・分析化学 実習		医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		臨床分析化学	生化学実習	医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
（6）臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		臨床分析化学	病態生理学・薬物安 全性学実習	医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②分析技術】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学特論 I		薬学アップトゥデイト (総合)
				医療薬物薬学演習 I		総合薬学演習 I
				医療衛生薬学演習 I セルフメディケーション: 薬剤師の関わり③		総合薬学演習 II
				総合演習 II		
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学特論 I		薬学アップトゥデイト (総合)
				医療薬物薬学演習 I		総合薬学演習 I
				医療衛生薬学演習 I セルフメディケーション: 薬剤師の関わり③		総合薬学演習 II
				総合演習 II		
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学特論 I		薬学アップトゥデイト (総合)
				医療薬物薬学演習 I		総合薬学演習 I
				医療衛生薬学演習 I セルフメディケーション: 薬剤師の関わり③		総合薬学演習 II
				総合演習 II		
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学特論 I		薬学アップトゥデイト (総合)
				医療薬物薬学演習 I		総合薬学演習 I
				医療衛生薬学演習 I セルフメディケーション: 薬剤師の関わり③		総合薬学演習 II
				総合演習 II		
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		臨床分析化学		医療薬物薬学特論 I		薬学アップトゥデイト (総合)
				医療薬物薬学演習 I		総合薬学演習 I
				医療衛生薬学演習 II		総合薬学演習 II
				総合演習 II		
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎化学	有機化学実習		医療薬物薬学演習 I		薬学アップトゥデイト (総合)
				総合演習 II		総合薬学演習 I
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎化学	有機化学実習	(選) アドバンス有機化学	医療薬物薬学演習 I		薬学アップトゥデイト (総合)
	基礎有機化学実習			総合演習 II		総合薬学演習 I
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎化学	有機化学実習	(選) 反応有機化学	総合演習 II		総合薬学演習 II
	基礎有機化学実習					薬学アップトゥデイト (総合)
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。		有機化学Ⅲ	(選) 反応有機化学	総合演習 II		総合薬学演習 I
		有機化学実習	(選) アドバンス有機化学			総合薬学演習 II
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	基礎化学			総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合)
						総合薬学演習 I
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。						総合薬学演習 II
	有機化学 I		(選) 反応有機化学	総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
						総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II	(選) 反応有機化学	総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学 I		(選) 反応有機化学	総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学 I	有機化学 II 有機化学 III 有機化学実習	(選) アドバンス有機化学	総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合)
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	一般化学 (選) 基礎情報学演習 II			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	一般化学 (選) 基礎情報学演習 II			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	一般化学 有機化学 I			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	一般化学 有機化学 I			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	一般化学			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
6) 炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	一般化学 有機化学 I			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	一般化学			医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合)
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	一般化学			総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	一般化学			総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎化学			総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合)
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	一般化学			総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	一般化学	有機化学 II		総合演習 II		薬学アップトゥデイト (総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	一般化学	有機化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		有機化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		有機化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学Ⅱ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学Ⅲ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学Ⅲ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学Ⅲ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学Ⅲ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
			(選) アドバンス有機化学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学Ⅲ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
			(選) アドバンス有機化学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	基礎化学	有機化学Ⅲ		総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
	基礎有機化学実習					総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	基礎有機化学実習	有機化学実習				薬学アットゥデイト (総合)
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅱ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅱ	(選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習Ⅰ		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③アルコール・フェノール・エーテル】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I	有機化学 III 有機化学実習	有機化学 IV (選) 反応有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I	有機化学 III	有機化学 IV	医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II 有機化学 III 有機化学実習	有機化学 IV	医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学 III	有機化学 IV	医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II 有機化学 III 有機化学実習	有機化学 IV 医薬品合成実習	医療薬物薬学演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III	有機化学 IV (選) アドバンス有機化学	総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	基礎化学	有機化学 III	有機化学 IV (選) アドバンス有機化学	総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎化学	有機化学 III	有機化学 IV 医薬品合成実習	総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	基礎化学	有機化学 III	有機化学 IV (選) アドバンス有機化学	総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。				医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アットゥデイト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合)
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。				医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。				医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)				医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合)
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。				医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I 総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合)
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)			(選) 構造有機化学	医療薬物薬学演習 I 総合演習 I		薬学アプットウディ ト (総合)
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づく化学的性質を説明できる。	細胞生物学 生物学		生体分子の化学	医療薬物薬学特論 I 医療薬物薬学演習 II	(選) レギュラトリー サイエンス	薬学アプットウディ ト (総合) 総合薬学演習 I

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	生化学 I			医療衛生薬学演習 II 総合演習 II		総合薬学演習 II
2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生体分子の化学 (選) アドバンス有機化学	医療薬物薬学特論 I 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II	(選) レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	機能形態学 II 生化学 I			総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。				総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	無機化学			総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。			生体分子の化学	総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			生体分子の化学	総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。				総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。	薬と疾病入門			医療衛生薬学演習 II 総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。				総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			生体分子の化学	医療薬物薬学特論 I 総合演習 II		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。			生体分子の化学	医療薬物薬学特論 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。				医療衛生薬学演習 II 総合演習 I 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。	基礎情報学演習 I (選)基礎情報学演習 II			総合演習 I 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			生体分子の化学	総合演習 I 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				医療薬物薬学特論 I 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) バイオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。				医療薬物薬学特論 I 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			(選)アドバンス有機化学	医療薬物薬学特論 I 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) スクレオンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		病原微生物学	薬理学IV	医療薬物薬学演習 II 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		病原微生物学		総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		病原微生物学		総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		病原微生物学	(選)アドバンス有機化学	総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医療衛生薬学演習 II 総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	薬と疾病入門 (選)基礎情報学演習 II			総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	(選)基礎情報学演習 II			総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	基礎情報学演習 I			総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			生体分子の化学 薬理学IV (選)アドバンス有機化学	総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			薬理学IV	総合演習 II	(選)有機薬理化学特論	薬学アップトゥデート (総合) 薬学アップトゥデート (医薬品化学) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			生体分子の化学 薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。			薬理学Ⅲ	総合演習Ⅱ	(選)有機薬理化学特論	薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(医薬品化学) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
05 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。		植物薬品学 漢方薬物学実習		医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)		植物薬品学 漢方薬物学実習		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 植物の主な内部形態について説明できる。				総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。		植物薬品学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		植物薬品学 漢方薬物学実習	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。		植物薬品学 漢方薬物学実習	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		植物薬品学	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)臨床漢方薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		植物薬品学	天然医薬品化学実習	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		植物薬品学 漢方薬物学実習	天然医薬品化学実習	医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。			天然医薬品化学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生成経路を概説できる。		植物薬品学 生薬学	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学		医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)臨床漢方薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学	(選)漢方薬物学Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療薬物薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)臨床漢方薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。		微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)			天然医薬品化学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		生薬学		医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。		生薬学		医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 農業や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		生薬学		医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	機能形態学Ⅰ			医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	細胞生物学			総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
	機能形態学 II			総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	機能形態学 I			医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(生物)
	細胞生物学			総合演習 I		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
				総合演習 II		
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	細胞生物学		(選)代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	細胞生物学			総合演習 I		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習 II		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	細胞生物学	生化学 II	(選)代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	生物学	栄養と食品機能		総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
	生化学 I			総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
	(選)基礎栄養学			(選)臨床栄養学		
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	細胞生物学	栄養と食品機能	生体分子の化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	生物学		(選)代謝生化学	総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
	(選)基礎栄養学			総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						総合薬学演習 II
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学	栄養と食品機能	生体分子の化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	(選)基礎栄養学		(選)代謝生化学	総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	細胞生物学	栄養と食品機能	(選)代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	生物学			総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
	生化学 I			総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
	(選)基礎栄養学					
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	細胞生物学		生体分子の化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
	生物学		(選)代謝生化学	総合演習 I		薬学アップデート ト(生物)
			生化学実習	総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	細胞生物学	生化学 III	生体分子の化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	生物学		(選)代謝生化学 生化学実習	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 (選)基礎栄養学	栄養と食品機能		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生物学 (選)基礎栄養学	栄養と食品機能		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		微生物・免疫学実習	生化学実習			薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物)
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	細胞生物学 生化学 I		生化学実習	医療薬物薬学演習 II 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	細胞生物学		(選)細胞工学	医療薬物薬学演習 II 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。				医療薬物薬学演習 II 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学 I		(選)代謝生化学 生化学実習	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学 I		(選)代謝生化学 生化学実習	総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 I		(選)代謝生化学	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)			生化学実習			総合薬学演習Ⅱ 薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物)
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	細胞生物学			総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学Ⅱ		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)応用薬物学		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。		微生物学	バイオ医薬品 (選)細胞工学 生化学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。		微生物学	バイオ医薬品 (選)細胞工学	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	細胞生物学 基礎生物学実習		バイオ医薬品 (選)細胞工学	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エクソン、イントロンなど)を説明できる。			バイオ医薬品 (選)細胞工学	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。			バイオ医薬品 (選)細胞工学	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③遺伝子の複製】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。		微生物学	バイオ医薬品 薬理学Ⅳ	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。		微生物学	バイオ医薬品 薬理学Ⅳ	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 薬学アップデート (生物)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。			(選)細胞工学 生化学実習			総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
			バイオ医薬品	総合演習 I		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学 生化学実習	総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
3) 転写因子による転写制御について説明できる。			バイオ医薬品	総合演習 I		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学 生化学実習	総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。			バイオ医薬品	総合演習 I		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学 生化学実習	総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		微生物学	バイオ医薬品	総合演習 I		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学 生化学実習	総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。			バイオ医薬品	総合演習 I		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学	総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。			バイオ医薬品	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学 生化学実習	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。			バイオ医薬品	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)
			(選)細胞工学	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	(選)基礎栄養学	生化学Ⅲ		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
						薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生化学Ⅱ	(選)代謝生化学	医療薬物薬学演習 II 総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート ト(総合) 薬学アップデート ト(生物) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
					(選)応用薬物学	総合薬学演習 II
						薬学アップデート ト(総合)
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。		生化学Ⅱ	(選)代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
3) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。		生化学 II	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アットゥデイト (総合)
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生化学 II	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アットゥデイト (総合)
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II	(選) 臨床栄養学	総合薬学演習 I
5) 糖新生について説明できる。		生化学 II	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アットゥデイト (総合)
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生化学 II	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アットゥデイト (総合)
		生化学 III		総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II	(選) 臨床薬理学	総合薬学演習 I
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学 III	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		総合薬学演習 II
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II	(選) 臨床栄養学	総合薬学演習 I
				(選) 臨床薬理学	総合薬学演習 II	
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。		生化学 II	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アットゥデイト (総合)
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II	(選) 臨床栄養学	総合薬学演習 I
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学 III	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		総合薬学演習 II
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II	(選) 臨床栄養学	総合薬学演習 I
				(選) 臨床薬理学	総合薬学演習 II	
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。		生化学 III	(選) 代謝生化学	医療薬物薬学演習 II		薬学アットゥデイト (総合)
				総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学 III	薬理学 IV	医療薬物薬学演習 II		総合薬学演習 II
			(選) 代謝生化学	総合演習 I		薬学アットゥデイト (生物)
				総合演習 II		総合薬学演習 I
					総合薬学演習 II	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学Ⅱ	(選)代謝生化学	医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	機能形態学Ⅰ			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅱ			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
	生化学Ⅰ			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
	薬と疾病入門					総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅳ	総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
	生化学Ⅰ			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
	薬と疾病入門					総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅱ			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
	生化学Ⅰ			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
	薬と疾病入門					総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	機能形態学Ⅱ			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
	生化学Ⅰ			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
	薬と疾病入門			(選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学Ⅱ			医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
	生化学Ⅰ			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
	薬と疾病入門			総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学		(選)スキンケア入門	総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	細胞生物学		薬理学Ⅳ	総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	基礎生物学実習			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。				総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【②細胞死】						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	細胞生物学		バイオ医薬品	総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
	生物学			総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。			バイオ医薬品	総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
			薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。			バイオ医薬品	総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	生物学			医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 遺伝子多型について概説できる。	生物学			医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。				医療薬物薬学演習Ⅱ	(選)レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	細胞生物学			医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	細胞生物学			医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)
	基礎生物学実習			総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
						総合薬学演習Ⅱ
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ			総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
	細胞生物学			総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
	基礎生物学実習					総合薬学演習Ⅰ
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	細胞生物学			総合演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	基礎生物学実習	微生物・免疫学実習		総合演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合)
						薬学アップトゥデイト(生物)
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	基礎生物学実習	微生物・免疫学実習		総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅱ	薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学Ⅱ	薬理学Ⅱ		総合演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
	薬と疾病入門			総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
	機能形態学Ⅱ			総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
	(選)健康スポーツ			(選)臨床栄養学		総合薬学演習Ⅰ
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ			総合演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。		機能形態学Ⅲ	薬理学Ⅳ	医療衛生薬学特論Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合)
			(選)化粧品科学	総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(生物)
			(選)スキンケア入門	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	機能形態学Ⅰ		薬理学Ⅲ	医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合)
	基礎生物学実習			総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 血管系について概説できる。	機能形態学Ⅰ		薬理学Ⅲ	医療薬物薬学演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（総合）
	機能形態学Ⅱ			総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（生物）
				総合演習Ⅱ （選）応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) リンパ管系について概説できる。	機能形態学Ⅱ		薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）
				総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。		機能形態学Ⅲ	薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）
				総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
				（選）応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学Ⅰ		薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅳ	総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
				（選）臨床栄養学 （選）応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学Ⅰ		薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅳ	総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
				（選）臨床医学概論 （選）臨床栄養学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。		機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）
				総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
				（選）応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。		機能形態学Ⅲ		総合演習Ⅰ	（選）生殖医療特論	薬学アットウディ ト（総合）
				総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。		機能形態学Ⅲ		総合演習Ⅰ	（選）生殖医療特論	薬学アットウディ ト（総合）
				総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学Ⅱ			総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）
				総合演習Ⅱ		薬学アットウディ ト（生物）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。	機能形態学Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅰ	薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アットウディ ト（総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
			疾病と薬物治療Ⅵ	総合演習Ⅱ (選)応用薬物学		薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学Ⅱ	薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅱ 薬と疾病入門	薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学Ⅰ 機能形態学Ⅱ	機能形態学Ⅲ 薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学Ⅱ	薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ 生化学Ⅰ (選)基礎栄養学	機能形態学Ⅲ 薬理学Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅳ	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ	(選)生殖医療特論	薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生化学Ⅰ 薬と疾病入門			総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生化学Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅰ		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ 生化学Ⅰ 薬と疾病入門 基礎生物学実習		薬理学Ⅲ 病態生理学・薬物安 全性学実習	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)臨床栄養学 (選)応用薬物学		薬学アップデート ト（総合） 薬学アップデート ト（生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	生化学Ⅰ	機能形態学Ⅲ		総合演習Ⅰ		薬学アップデート ト（総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	(選)基礎栄養学	生化学Ⅱ		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
				(選)臨床栄養学		総合薬学演習Ⅰ
				(選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅱ
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅲ	薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
			疾病と薬物治療Ⅲ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
			病態生理学・薬物安全性学実習	(選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅲ	薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
			疾病と薬物治療Ⅲ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
			病態生理学・薬物安全性学実習	(選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅲ		総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
				(選)臨床栄養学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態学Ⅱ	疾病と薬物治療Ⅰ	薬理学Ⅲ	総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
				(選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅲ	疾病と薬物治療Ⅲ	総合演習Ⅰ	(選)生殖医療特論	薬学アップトゥデイト(総合)
		薬理学Ⅰ		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
				(選)臨床栄養学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学	(選)香粧品科学	医療衛生薬学特論Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(生物)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
						(選)医薬品開発特論
2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習Ⅰ		薬学アップトゥデイト(総合)
				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(生物)
						総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学	疾病と薬物治療Ⅴ	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ （選）医薬品開発特論
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学 微生物・免疫学実習	疾病と薬物治療Ⅴ	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ （選）医薬品開発特論
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学	疾病と薬物治療Ⅴ	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ （選）医薬品開発特論
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		免疫学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学 微生物・免疫学実習	（選）細胞工学	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ （選）医薬品開発特論
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ （選）医薬品開発特論
（2）免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【①免疫応答の制御と破綻】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
		微生物・免疫学実習		総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学	臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。			感染制御学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
			臨床免疫学	総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			(選)細胞工学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			臨床免疫学	総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）
			(選)細胞工学	総合演習 II		薬学アップデート ト（生物）
						総合薬学演習 I
						総合薬学演習 II
						(選)医薬品開発特論
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習		総合演習 I		薬学アップデート ト（総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅱ
【3】微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。		微生物学 微生物・免疫学実習		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学 微生物・免疫学実習		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物学	(選)細胞工学	総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		病原微生物学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学 病原微生物学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットウデイト(総合) 薬学アットウデイト(生物) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 微生物・免疫学実習	感染制御学	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学 微生物・免疫学実習	感染制御学	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習				薬学アップデート （生物）
2) 無菌操作を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習				薬学アップデート （生物）
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）		微生物・免疫学実習				薬学アップデート （生物）
（4）病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。		微生物学 病原微生物学	感染制御学 (選)細胞工学	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。			感染制御学	総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。		微生物学 病原微生物学		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。		微生物学 病原微生物学		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。		微生物学 病原微生物学		総合演習 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。		微生物学		総合演習 I		薬学アップデート （総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		病原微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジエジュニノコリなど）およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学		総合演習Ⅰ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		病原微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。		微生物学		総合演習Ⅰ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		病原微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		病原微生物学		総合演習Ⅰ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。		微生物学		総合演習Ⅰ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		病原微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。		微生物学		総合演習Ⅰ		薬学アップデート （総合） 薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		病原微生物学		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （生物） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	(選)基礎栄養学	健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)プライマリケアⅠ	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅱ
3) 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論	健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス (選)マーケティング	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
		(選)ヘルスプロモーション概論				総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。		健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。	(選) データサイエンス入門	健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）		健康保持と疾病予防	衛生化学・公衆衛生学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選) 医薬品開発特論
【(2) 疾病の予防】						
【① 疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	(選) ヘルスプロモーション概論	健康保持と疾病予防	(選) 地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。	(選) 基礎栄養学 (選) ヘルスプロモーション概論	健康保持と疾病予防	(選) 地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ	(選) プライマリケアⅠ	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【② 感染症とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		健康保持と疾病予防	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。		病原微生物学 健康保持と疾病予防	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		健康保持と疾病予防	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。		健康保持と疾病予防	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③ 生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) ヘルスプロモーション概論	健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ	(選) プライマリケアⅠ	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) ヘルスプロモーション概論	健康保持と疾病予防	(選) 地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ	(選) プライマリケアⅠ	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）	(選) 基礎栄養学 (選) ゼミナールⅠ	健康保持と疾病予防	(選) 地域保健薬学概論 衛生化学・公衆衛生学実習	総合演習Ⅱ	(選) プライマリケアⅠ	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
【④ 母子保健】						
1) 新生児マスキューニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。		健康保持と疾病予防		総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		健康保持と疾病予防	感染制御学 (選) 地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ 薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。		健康保持と疾病予防	(選) 地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 労働衛生管理について説明できる。		健康保持と疾病予防	(選) 地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③ 栄養と健康】						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) 健康スポーツ	栄養と食品機能	衛生化学・公衆衛生 学実習	病態栄養管理学 総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	(選) 基礎栄養学	生化学Ⅱ 栄養と食品機能		病態栄養管理学 総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) 健康スポーツ	栄養と食品機能	衛生化学・公衆衛生 学実習	病態栄養管理学 総合演習Ⅱ (選) 臨床栄養学		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。	(選) 基礎栄養学	栄養と食品機能		病態栄養管理学 総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) ヘルスプロモ ーション概論	栄養と食品機能 (選) ヘルスプロモ ーション概論		病態栄養管理学 総合演習Ⅱ	(選) プライマリケア Ⅰ	薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。	(選) 基礎栄養学	栄養と食品機能		病態栄養管理学 総合演習Ⅱ	(選) プライマリケア Ⅰ	薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) ヘルスプロモ ーション概論 (選) 健康スポーツ	栄養と食品機能 (選) ヘルスプロモ ーション概論		病態栄養管理学 総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	(選) 基礎栄養学 (選) ヘルスプロモ ーション概論	栄養と食品機能 (選) ヘルスプロモ ーション概論		病態栄養管理学 総合演習Ⅱ (選) 臨床医学概論 (選) 臨床栄養学	(選) プライマリケア Ⅰ	薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			食品の安全性と管理 衛生化学・公衆衛生 学実習	総合演習Ⅱ		薬学アプットウディ ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。			食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論	栄養と食品機能		一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅠ	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ
		(選)ヘルスプロモーション概論		医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり②（産学連携教育プログラム） 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。		栄養と食品機能	食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		病原微生物学	食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			食品の安全性と管理	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			化学物質と生体影響	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	(選)地球環境概論		化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			化学物質と生体影響 化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）	(選)地球環境概論 (選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	化学物質の毒性と安全性 (選)地域保健薬学概論	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			化学物質の毒性と安全性 病態生理学・薬物安全性学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ
7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。			化学物質の毒性と安全性 病態生理学・薬物安全性学実習	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ 薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。 （態度）	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ	化学物質の毒性と安全性			薬学アップデート （総合）
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		(選)ゼミナールⅢ	化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOEL）などについて概説できる。			化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。			化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。			化学物質の毒性と安全性	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			化学物質と生体影響 病態生理学・薬物安全性学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。			化学物質と生体影響 病態生理学・薬物安全性学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。			化学物質と生体影響	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	放射化学 (選)地球環境概論	生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。	放射化学 (選)地球環境概論	生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。	放射化学	生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。		生活環境と健康	(選)化粧品科学 (選)スキンケア入門	医療衛生薬学特論Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 生活環境と健康						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康	(選)スキンケア入門	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	(選)地球環境概論 (選)ゼミナールⅠ	生活環境と健康 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	衛生化学・公衆衛生 学実習			薬学アップデート ト(総合)
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 環境基本法の理念を説明できる。		生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。		生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。		生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生 学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。		生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生 学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生 学実習	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康		総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
						総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	(選)地球環境概論	生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。	(選)地球環境概論	生活環境と健康		総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		生活環境と健康	衛生化学・公衆衛生学実習	総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。		生活環境と健康		総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		生活環境と健康		総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		生活環境と健康		総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) マニフェスト制度について説明できる。		生活環境と健康		総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。	薬と疾病入門 (選)病気とくすり			医療薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)臨床薬理学特論
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。	薬と疾病入門 (選)病気とくすり			医療薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)医薬品開発特論
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。	薬と疾病入門			医療薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)医薬品開発特論
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。	薬と疾病入門			医療薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)医薬品開発特論
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)	薬と疾病入門			医療薬学演習 I 総合演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)医薬品開発特論
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)	薬と疾病入門			医療薬学演習 I 医療薬学演習 II		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習 I

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論 (選)医薬品開発特論
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。	薬と疾病入門 (選)病気とくすり			医療薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4 (1) 【②吸収】5. 【④代謝】5. 【⑤排泄】5. 参照)	薬と疾病入門			医療薬学演習Ⅰ 医療薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。	薬と疾病入門			医療薬学演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)	基礎生物学実習	微生物・免疫学実習	薬理学実習			薬学アットゥデイト(総合)
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	基礎生物学実習	微生物・免疫学実習	病態生理学・薬物安全性学実習 薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)	基礎生物学実習	微生物・免疫学実習	薬理学実習 病態生理学・薬物安全性学実習			
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害			疾病と薬物治療Ⅳ	臨床推論Ⅰ		薬学アットゥデイト(総合)
			病態生理学・薬物安全性学実習	一般用医薬品学		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ (選)臨床医学概論		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅰ	病態生理学・薬物安全性学実習	臨床推論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅰ		臨床推論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅳ	臨床推論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療 I	臨床免疫学	臨床推論 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療 I		臨床推論 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II （選）臨床推論 II
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療 I	疾病と薬物治療 IV 疾病と薬物治療 V	臨床推論 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II （選）臨床推論 II
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病原微生物学 疾病と薬物治療 I	感染制御学	臨床推論 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		疾病と薬物治療 I		臨床推論 I 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II （選）臨床推論 II
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。			(選) 地域保健薬学概論	病態栄養管理学 総合演習 II (選) 臨床医学概論	(選) 専門薬剤師総論	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）	(選) ゼミナール I	(選) ゼミナール II (選) ゼミナール III		総合演習 II (選) 臨床医学概論		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	(選) 病気とくすり			医療薬物薬学特論 II 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 医薬品開発特論
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		社会と薬学		医療薬物薬学特論 II 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 医薬品開発特論
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害			疾病と薬物治療 IV	一般用医薬品学 医療薬物薬学特論 II 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 医薬品開発特論
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）	(選) ゼミナール I	(選) ゼミナール II (選) ゼミナール III		医療薬物薬学特論 II 総合演習 II		総合薬学演習 I
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬と疾病入門	薬理学 I		医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学 (選) 応用薬物学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 病態生理学特論
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬と疾病入門	薬理学 I		医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート （総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ		医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習	(選)病理組織学		
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ		総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ		総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習	(選)病理組織学		
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)		薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。		薬理学Ⅱ	(選)臨床薬学概論	医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ (選)臨床推論Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬と疾病入門	薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬と疾病入門	薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬と疾病入門	薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ		(選)病理組織学 疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。	薬と疾病入門	薬理学Ⅱ		疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			薬理学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ (選)病理組織学		
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症				疾病と薬物治療Ⅶ 医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬と疾病入門	薬理学Ⅱ		医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬と疾病入門		薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。	薬と疾病入門		薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 創傷治癒の過程について説明できる。			薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	薬と疾病入門		臨床免疫学 薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			臨床免疫学 薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）	薬と疾病入門 (選)病気とくすり		薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹	(選)病気とくすり		薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬と疾病入門		薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
9) 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			バイオ医薬品 薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ 疾病と薬物治療Ⅱ	バイオ医薬品	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ	薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学 I 疾病と薬物治療 II		医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学		薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			臨床免疫学	医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 医薬品開発特論
			薬理学IV 疾病と薬物治療V	総合演習 II (選) 病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (Vf)、房室ブロック、QT延長症候群			薬理学III 疾病と薬物治療VI	医療薬学特論 I 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学 (選) 応用薬物学	(選) 専門薬剤師総論	薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 病態生理学特論 (選) 専門薬剤師特論 II
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学III 疾病と薬物治療VI	医療薬学特論 I 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学 (選) 応用薬物学	(選) 専門薬剤師総論 (選) 専門薬剤師特論 I	薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 病態生理学特論 (選) 専門薬剤師特論 II
3) 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学III 疾病と薬物治療VI	医療薬学特論 I 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学	(選) 専門薬剤師総論 (選) 専門薬剤師特論 I	薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 病態生理学特論 (選) 専門薬剤師特論 II
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	薬と疾病入門		薬理学III 疾病と薬物治療VI 病態生理学・薬物安全性学実習	医療薬学特論 I 医療薬物薬学演習 II 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学 (選) 応用薬物学	(選) 専門薬剤師総論	薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 病態生理学特論 (選) 専門薬剤師特論 II
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			疾病と薬物治療VI	医療薬学特論 I 医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学	(選) 専門薬剤師特論 I	薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 専門薬剤師特論 II
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習	医療薬学特論 I (選) 病理組織学		
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		疾病と薬物治療 I	薬理学III	医療衛生薬学演習 II 総合演習 II (選) 病理組織学 (選) 応用薬物学		薬学アップデート ト (総合) 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅰ	バイオ医薬品 薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論 (選)専門薬剤師特論Ⅱ
		疾病と薬物治療Ⅰ	薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅵ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血		疾病と薬物治療Ⅰ	薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅵ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
4) 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症		疾病と薬物治療Ⅰ	薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅵ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
5) 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複） (E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)		疾病と薬物治療Ⅰ	バイオ医薬品 薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
			疾病と薬物治療Ⅵ			総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
【③泌尿器系、生殖系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			薬理学実習	総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石			疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		薬理学Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ	(選)生殖医療特論	薬学アップデート ト（総合）
				総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬と疾病入門		疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ	(選)生殖医療特論	薬学アップデート ト（総合）
				総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						薬学アップデート ト（総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
8) 以下の生殖系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			疾病と薬物治療Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)生殖医療特論	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ 薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬と疾病入門		薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論 (選)医薬品開発特論
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の 薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の 選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅴ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明 できる。			薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎	薬と疾病入門 (選)病氣とくすり		薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)臨床医学概論 (選)応用薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、 主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)臨床医学概論 (選)応用薬物学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論 (選)医薬品開発特論
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理 作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)臨床医学概論		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状 等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)臨床医学概論		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅲ	(選)臨床医学概論 医療薬学特論Ⅰ		薬学アットゥデイト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅳ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ
				(選)臨床医学概論 (選)応用薬物学		(選)病態生理学特論
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅲ	医療薬学特論Ⅰ		薬学アットゥデイト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅳ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ
				(選)臨床医学概論 (選)病態生理学特論		(選)病態生理学特論
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬と疾病入門		薬理学Ⅲ	医療薬学特論Ⅰ		薬学アットゥデイト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅳ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ
				(選)臨床医学概論		(選)臨床推論Ⅱ
9) 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ		薬学アットゥデイト（総合）
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ
				(選)臨床医学概論		
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ	医療衛生薬学演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合）
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ
				(選)応用薬物学		
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	(選)病氣とくすり	疾病と薬物治療Ⅱ	薬理学Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学	(選)専門薬剤師総論	薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論 (選)専門薬剤師特論Ⅱ
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		生化学Ⅲ 疾病と薬物治療Ⅱ	薬理学Ⅳ (選)代謝生化学	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)応用薬物学	(選)専門薬剤師総論	薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)病態生理学特論
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ 薬理学Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅰ		医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)生殖医療特論	薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅰ 疾病と薬物治療Ⅱ		医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾病と薬物治療Ⅱ		医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学 I		医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート ト（総合）
		疾病と薬物治療 II		総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）		薬理学 I		医療衛生薬学演習 II	(選)生殖医療特論	薬学アップデート ト（総合）
		疾病と薬物治療 II		総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学 I	薬理学IV	総合演習 II		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習 I
				(選)応用薬物学		総合薬学演習 II
						(選)専門薬剤師特論 II
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	薬と疾病入門	薬理学 I	疾病と薬物治療 V	医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療 V	医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学 I	疾病と薬物治療 V	医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			疾病と薬物治療 V	医療衛生薬学演習 II		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学IV	総合演習 II		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療 V	(選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎			薬理学IV	総合演習 II		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 (E2 (2) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)			薬理学IV	医療薬学特論 II	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療 V	医療衛生薬学演習 II		総合薬学演習 I
			(選)スキンケア入門	総合演習 II		総合薬学演習 II
				(選)病理組織学		(選)医薬品開発特論
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 (E2 (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)			薬理学IV	医療薬学特論 II		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習 II (選)病理組織学		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学IV	疾病と薬物治療 VII		薬学アップデート ト（総合）
				医療薬学特論 II 総合演習 II		総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）				(選)病理組織学		
			疾病と薬物治療V	医療薬学特論II		薬学アップデート ト（総合）
			(選)スキンケア入門	総合演習II		総合薬学演習I
				(選)病理組織学		総合薬学演習II (選)医薬品開発特論
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬理学IV	総合演習II		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬		微生物学		医療薬学特論I		薬学アップデート ト（総合）
		病原微生物学		総合演習II		総合薬学演習I
				(選)病理組織学		総合薬学演習II
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。		病原微生物学	感染制御学	医療薬学特論I		薬学アップデート ト（総合）
				総合演習II		総合薬学演習I
				(選)病理組織学		総合薬学演習II
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。				総合演習II		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎	(選)病気とくすり	漢方薬物学実習	感染制御学	総合演習II	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療V	(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、バラチフス、偽膜性大腸炎			感染制御学	総合演習II		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療IV	(選)病理組織学		総合薬学演習I
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			感染制御学	総合演習II		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療V	(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			感染制御学	総合演習II	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療III	(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等			感染制御学	総合演習II		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療III	(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			感染制御学	総合演習II		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習I 総合薬学演習II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病			感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			感染制御学	総合演習Ⅱ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症			感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅴ	(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅴ	(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅳ	(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅴ	(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症		病原微生物学	感染制御学	総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト（総合）
				(選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。			薬理学Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅶ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因		疾病と薬物治療Ⅰ	疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅶ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				(選)病理組織学 (選)臨床栄養学		(選)臨床推論Ⅱ
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			薬理学Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ		薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅶ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				(選)病理組織学 (選)臨床医学概論		(選)臨床推論Ⅱ
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬	(選)病気とくすり		バイオ医薬品	医療薬学特論Ⅰ		薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
			疾病と薬物治療Ⅶ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		(選)医薬品開発特論 総合薬学演習Ⅱ
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	医療薬学特論Ⅰ		薬学アップデート ト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				(選)病理組織学		
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
			疾病と薬物治療Ⅶ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
						(選)専門薬剤師特論Ⅱ
						(選)医薬品開発特論
4) 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート ト（総合）
			薬理学Ⅳ	医療衛生薬学演習Ⅱ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ
			疾病と薬物治療Ⅶ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ
						(選)専門薬剤師特論Ⅱ
						(選)医薬品開発特論
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）			薬理学Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	薬学アップデート ト（総合）
			疾病と薬物治療Ⅵ	医療衛生薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ (選)医薬品開発特論
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅵ	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ (選)医薬品開発特論
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			疾病と薬物治療Ⅳ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート (総合)
			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ (選)医薬品開発特論
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ (選)医薬品開発特論
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			疾病と薬物治療Ⅲ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート (総合)
			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ
			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学		総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅲ	医療薬学特論Ⅰ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート (総合)
			薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)病理組織学	(選)専門薬剤師特論Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床推論Ⅱ (選)医薬品開発特論
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)臨床医学概論		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
						(選)プライマリケアⅢ (選)臨床推論Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾病と薬物治療Ⅶ (選)臨床薬学概論	総合演習Ⅱ (選)病理組織学 (選)臨床医学概論		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ (選)臨床推論Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
【⑩化学構造と薬物】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		微生物学 病原微生物学	感染制御学 薬理学Ⅳ 疾病と薬物治療Ⅶ	総合演習Ⅱ (選)病理組織学		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			バイオ医薬品 薬理学Ⅳ	医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			バイオ医薬品 薬理学Ⅳ	医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			バイオ医薬品 薬理学Ⅳ	医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)医薬品開発特論
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			バイオ医薬品	総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			バイオ医薬品	総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ 薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			バイオ医薬品	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			バイオ医薬品	総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。			バイオ医薬品	総合演習Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			(選)地域保健薬学概論	一般用医薬品学	(選)プライマリケアⅠ	薬学アップデート (総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①	(選)プライマリケア Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり②（産学連携教 育プログラム）		総合薬学演習Ⅱ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり③		
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		
				総合演習Ⅱ		
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。	(選) 病気とくすり			一般用医薬品学		薬学アップトゥデー ト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①		総合薬学演習Ⅰ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				一般用医薬品学		薬学アップトゥデー ト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				一般用医薬品学		薬学アップトゥデー ト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①		
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		
				総合演習Ⅱ		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				一般用医薬品学	(選) プライマリケア Ⅱ	薬学アップトゥデー ト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①		総合薬学演習Ⅰ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。	(選) 病気とくすり		(選) 地域保健薬学概 論	一般用医薬品学	(選) プライマリケア Ⅰ	薬学アップトゥデー ト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①	(選) プライマリケア Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり②（産学連携教 育プログラム）		総合薬学演習Ⅱ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		
				総合演習Ⅱ		
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				一般用医薬品学	(選)プライマリケア Ⅰ	薬学アップトゥデ イト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①		総合薬学演習Ⅰ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり②（産学連携教 育プログラム）		総合薬学演習Ⅱ
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		
				総合演習Ⅱ		
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）				一般用医薬品学		薬学アップトゥデ イト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり①		
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④		
				総合演習Ⅱ		
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。		漢方薬物学実習	漢方薬物学Ⅰ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証			漢方薬物学Ⅰ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。		漢方薬物学実習	漢方薬物学Ⅰ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合）
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。			漢方薬物学Ⅰ	一般用医薬品学		薬学アップトゥデ イト（総合）
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり②（産学連携教 育プログラム）		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。		漢方薬物学実習	漢方薬物学Ⅰ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合）
				(選)臨床漢方薬物学		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。		漢方薬物学実習	漢方薬物学Ⅰ (選)漢方薬物学Ⅱ	医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり① 総合演習Ⅱ (選)臨床漢方薬物学		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		漢方薬物学実習	漢方薬物学Ⅰ (選)漢方薬物学Ⅱ	総合演習Ⅱ (選)臨床漢方薬物学		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		漢方薬物学実習	漢方薬物学Ⅰ (選)漢方薬物学Ⅱ	一般用医薬品学 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり① 総合演習Ⅱ (選)臨床漢方薬物学		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）			医薬情報Ⅱ	総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。	基礎情報学演習Ⅰ (選)病気とくすり		医薬情報Ⅰ	医療薬物薬学特論Ⅱ 医療衛生薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医薬情報Ⅰ	医療薬物薬学特論Ⅱ 医療衛生薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ	(選)医薬情報特論	薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。	(選)病気とくすり		医薬情報Ⅰ	医療薬学特論Ⅱ 医療薬学演習Ⅱ 医療薬物薬学特論Ⅱ 医療衛生薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ	(選)医薬情報特論 (選)レギュラトリー サイエンス	薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論 (選)医薬品開発特論
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。	(選)病気とくすり		医薬情報Ⅰ	医療薬学特論Ⅱ 医療薬学演習Ⅱ 医療薬物薬学特論Ⅱ 医療衛生薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ	(選)医薬情報特論	薬学アップトゥデ イト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 医薬品情報に関する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			製剤設計学 医薬情報 I	医療薬学特論 II 医療薬物薬学特論 II 医療衛生薬学特論 I 総合演習 II	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)医薬品開発特論
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬情報 I	医薬品安全性評価学 医療衛生薬学演習 I セルフメディケーション：薬剤師の関わり④ 総合演習 II	(選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医薬情報 I	医薬品安全性評価学 総合演習 II		総合薬学演習 II 薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医薬情報 I	医薬品安全性評価学 総合演習 II	(選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。	(選)病気とくすり		医薬情報 I	調剤学 医薬品安全性評価学 一般用医薬品学 総合演習 II		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医薬情報 I	調剤学 医薬品安全性評価学 一般用医薬品学 総合演習 II	(選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医薬情報 I	調剤学 医薬品安全性評価学 総合演習 II	(選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			病態生理学・薬物安全性学実習	医薬情報演習 医療薬学演習 II		薬学アップトゥデート（総合）
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）			医薬情報 I	医薬情報演習 総合演習 II	(選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬情報 I	医薬品安全性評価学 医療衛生薬学演習 I セルフメディケーション：薬剤師の関わり④ 総合演習 II	(選)医薬情報特論 (選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選)臨床薬理学特論
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）				医薬情報演習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 II
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。			医薬情報 I	総合演習 II	(選)レギュラトリーサイエンス (選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医薬情報 II	医薬品安全性評価学	(選)専門薬剤師特論 I	薬学アップトゥデート（総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
2) 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医薬情報Ⅱ	医薬品安全性評価学Ⅰ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ (総合)	薬学アップデート (総合)
				医療薬物薬学特論Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				医療薬物薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
				総合演習Ⅱ		
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医薬情報Ⅱ	医薬品安全性評価学Ⅰ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ (総合)	薬学アップデート (総合)
				医療薬物薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。			医薬情報Ⅱ	医薬品安全性評価学Ⅰ	(選)専門薬剤師特論Ⅰ (総合)	薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。		基礎統計学	医薬情報Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅱ		薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)ヘルスケア・データサイエンス		総合薬学演習Ⅱ
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。		基礎統計学	医薬情報Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅱ		薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。		基礎統計学	医薬情報Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅱ		薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。		基礎統計学	医薬情報Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅱ		薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
5) 二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）		基礎統計学	薬理学実習	医薬情報演習		薬学アップデート (総合)
				医療薬物薬学特論Ⅱ		
				総合演習Ⅱ		
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅱ		薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				(選)ヘルスケア・データサイエンス		総合薬学演習Ⅱ
7) 基本的な生存時間解析法（ Kaplan-Meier 曲線など）について概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬物薬学特論Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート (総合)
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
						総合薬学演習Ⅱ
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ	(選)医薬情報特論	薬学アップデート (総合)
			(選)臨床開発概論	医療薬物薬学特論Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				(選)ヘルスケア・データサイエンス		(選)臨床薬理学特論
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。	(選)データサイエンス入門	(選)データサイエンス入門	医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ	(選)レギュラトリーサイエンス	薬学アップデート (総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ 薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
			(選)臨床開発概論	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ	(選)レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
			(選)臨床開発概論	医療薬物薬学特論Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 統計解析時の注意点について概説できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ	(選)レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
			(選)臨床開発概論	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代替のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。			医薬情報Ⅱ	医療薬学特論Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
			(選)臨床開発概論	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）			医薬情報Ⅱ	医薬情報演習	(選)レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				医療薬学特論Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				医療薬物薬学特論Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		(選)臨床薬理学特論 (選)医薬品開発特論
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医薬情報Ⅰ	医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケー ション：薬剤師の関 わり④ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）	基礎情報学演習Ⅰ		医薬情報Ⅱ	医薬情報演習		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）				医薬情報演習		
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬情報Ⅰ	臨床推論Ⅰ 調剤学 総合演習Ⅱ	(選)専門薬剤師特論 Ⅰ	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医薬情報Ⅰ	臨床推論Ⅰ 調剤学	(選)専門薬剤師特論 Ⅰ	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム（POS）を説明できる。			医薬情報Ⅰ	総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医薬情報 I	総合演習 II		総合薬学演習 II 薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医薬情報 I	臨床推論 I 総合演習 II	(選) 専門薬剤師特論 I	薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)			医薬情報 I	総合演習 II	(選) 専門薬剤師特論 I	薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
(3) 個別化医療						
【①遺伝的要因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的要因について、例を挙げて説明できる。			個別化医療 I	個別化医療 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的要因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など） について、例を挙げて説明できる。			個別化医療 I	個別化医療 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 遺伝的要因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			個別化医療 I	個別化医療 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を 説明できる。				薬物動態学 総合演習 II	(選) プライマリケア II	薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			(選) 臨床薬学概論	薬物動態学 個別化医療 II 総合演習 II	(選) プライマリケア II	薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 臨床推論 II
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			個別化医療 I	薬物動態学 個別化医療 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 臨床推論 II
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			個別化医療 I	薬物動態学 個別化医療 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			個別化医療 I	薬物動態学 個別化医療 II 医療薬物薬学演習 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。			個別化医療 I	薬物動態学 個別化医療 II 総合演習 II		薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II (選) 臨床薬理学特論
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			個別化医療 I	薬物動態学 個別化医療 II 総合演習 II	(選) 生殖医療特論	薬学アップデート ト（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			個別化医療Ⅰ	薬物動態学 病態栄養管理学 個別化医療Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）			個別化医療Ⅰ 医薬情報Ⅱ 総合演習Ⅱ	医薬情報演習 個別化医療Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			個別化医療Ⅰ	個別化医療Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。	(選)病気とくすり		生物薬剤学	総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理的要因など）を列挙し、説明できる。	(選)病気とくすり		生物薬剤学	総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)臨床薬理学特論
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	(選)病気とくすり		生物薬剤学 個別化医療Ⅰ	薬物動態学 個別化医療Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アットゥデイト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 初回通過効果について説明できる。	(選)病気とくすり		生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ 総合薬学演習Ⅱ
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学 個別化医療Ⅰ	薬物動態学 個別化医療Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④代謝】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			化学物質と生体影響	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
			生物薬剤学			総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。	(選) 病気とくすり		化学物質と生体影響	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
			生物薬剤学			総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
			個別化医療Ⅰ			総合薬学演習Ⅱ
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			病態生理学・薬物安全性学実習			
			薬物送達学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。	(選) 病気とくすり		生物薬剤学	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
			個別化医療Ⅰ	個別化医療Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
			病態生理学・薬物安全性学実習	総合演習Ⅱ		
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。	(選) 病気とくすり		生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
			病態生理学・薬物安全性学実習			総合薬学演習Ⅰ
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
			生物薬剤学			総合薬学演習Ⅰ
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
						総合薬学演習Ⅰ
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
			個別化医療Ⅰ	個別化医療Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。			生物薬剤学	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
			個別化医療Ⅰ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与〔単回および反復投与〕、定速静注）。（知識、技能）	(選) 数学Ⅱ		生物薬剤学	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
			個別化医療Ⅰ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）			薬剤学実習			
			個別化医療Ⅰ	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬剤学実習	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
			生物薬剤学	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
5) 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			個別化医療Ⅰ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
			生物薬剤学	個別化医療Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
6) 薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。			個別化医療Ⅰ	総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
【②TDM（Therapeutic Drug Monitoring）と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			個別化医療Ⅰ	薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				総合演習Ⅱ		(選) 医薬品開発特論
				薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		(選) 医薬品開発特論
				薬物動態学		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				薬物動態学 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学 薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		物理薬剤学		医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2(2) 【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照)		物理薬剤学	薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学 薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。		物理薬剤学	薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③分散系材料】						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2(2) 【②各種の化学平衡】4.参照)		物理薬剤学	薬物送達学 (選)化粧品科学 薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学特論Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学 薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学 薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学 薬物送達学	医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップトゥデイト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】 1. ~7. 参照)		物理薬剤学	薬剤学実習	医療薬物薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学	製剤設計学	医療薬物薬学演習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。	(選) 病気とくすり	物理薬剤学	製剤設計学 薬剤学実習	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	(選) 病気とくすり		製剤設計学 薬物送達学 薬剤学実習	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。			製剤設計学	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤設計学	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。	(選) 病気とくすり		製剤設計学	医療薬物薬学特論Ⅰ 医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。		漢方薬物学実習	製剤設計学	医療薬物薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習	総合演習Ⅱ	(選) レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習	総合演習Ⅱ	(選) レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習	総合演習Ⅱ	(選) レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤設計学 薬剤学実習	総合演習Ⅱ	(選) レギュラトリー サイエンス	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤設計学 薬物送達学 薬剤学実習	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。	(選) 病気とくすり	物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照)		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ 薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【②コントロールドリリース(放出制御)】						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【③ターゲティング(標的指向化)】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。		物理薬剤学	薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			薬物送達学	医療衛生薬学演習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
F 薬学臨床						
前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	人間と薬学Ⅰ			医療衛生薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	人間と薬学Ⅰ			医療衛生薬学特論Ⅰ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	人間と薬学Ⅱ			総合演習Ⅱ		薬学アップデート (総合) 総合薬学演習Ⅰ
【②臨床における心構え】 【A(1)、(2)参照】						
1) 前)医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	(選)法学 (選)ゼミナールⅠ	(選)法学 (選)ゼミナールⅡ		実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ (選)ゼミナールⅢ		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
		(選)ゼミナールⅢ		実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論		実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ		実務実習事前学習Ⅱ		
		(選)ゼミナールⅢ		実務実習事前実習		
4) 医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ			実務実習	
		(選)ゼミナールⅢ				
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)	(選)法学	(選)法学			実務実習	
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ				
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ			実務実習	
		(選)ゼミナールⅢ				
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	(選)法学	(選)法学			実務実習	
	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ				
		(選)ゼミナールⅢ				
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				薬局・病院薬学		薬学アップデート(総合)
				実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				薬局・病院薬学		薬学アップデート(総合)
				実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。			(選)臨床薬学概論	実務実習事前学習Ⅰ		薬学アップデート(総合)
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				実務実習事前実習		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。			(選)臨床薬学概論	実務実習事前学習Ⅰ		薬学アップデート(総合)
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				実務実習事前実習		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 〔B(3)①参照〕	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論		実務実習事前学習Ⅰ		薬学アップデート(総合)
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				実務実習事前実習		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。			(選)臨床薬学概論		実務実習	薬学アップデート(総合)
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	薬学アップデート(総合)
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)					実務実習	
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					(選)専門薬剤師特論Ⅰ	薬学アップデート(総合)
					実務実習	
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。			(選)地域保健薬学概論		実務実習	薬学アップデート(総合)
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。			(選)臨床薬学概論		実務実習	薬学アップデート(総合)
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	薬学アップデート(総合)
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					実務実習	薬学アップデート(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）					実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
② 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】 [B(2)、(3)参照]						
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	(選) 法学	(選) 法学	薬事関連法規と制度 I	調剤学 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 総合演習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）			薬事関連法規と制度 I		実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）	(選) 法学	(選) 法学			実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				調剤学 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 総合演習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				調剤学 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 総合演習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				調剤学 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 総合演習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				調剤学 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 総合演習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				調剤学 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 総合演習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）				実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 II 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I 総合薬学演習 II
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）			(選) 臨床薬学概論		実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アップトゥデート（総合） 総合薬学演習 I
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）					実務実習	薬学アップトゥデート（総合）
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アップトゥデート（総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アットゥディ ト（総合） 総合薬学演習Ⅰ
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アットゥディ ト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アットゥディ ト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アットゥディ ト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アットゥディ ト（総合）
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アットゥディ ト（総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）					実務実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）					実務実習	
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）					実務実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）					実務実習	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アットゥディ ト（総合）
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。			(選)臨床薬学概論	調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ (選)臨床栄養学 実務実習事前実習	(選)プライマリケアⅡ	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合)
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)				(選)臨床栄養学	実務実習	薬学アップデート ト(総合)
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)				(選)臨床栄養学	実務実習	薬学アップデート ト(総合)
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)			(選)臨床薬学概論		実務実習	薬学アップデート ト(総合)
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			薬事関連法規と制度Ⅰ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			薬事関連法規と制度Ⅰ	実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	放射化学			実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				調剤学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）					実務実習	薬学アップデート （総合）
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）					実務実習	薬学アップデート （総合）
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					実務実習	薬学アップデート （総合）
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。 （知識・技能）					実務実習	薬学アップデート （総合）
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）					実務実習	薬学アップデート （総合）
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	(選) 法学	(選) 法学		医薬品安全性評価学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。				医薬品安全性評価学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）				医薬品安全性評価学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。		微生物・免疫学実習	感染制御学	実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				実務実習事前実習 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。		微生物・免疫学実習	感染制御学	実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。			薬事関連法規と制度Ⅰ	医薬品安全性評価学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
9) 調剤ミス防止のために工夫されている事項を具体的に説明できる。					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート ト(総合)
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)	基礎生物学実習	分析化学実習	医薬品合成実習		実務実習	薬学アップデート ト(総合)
		物理化学・分析化学実習	生化学実習			
		微生物・免疫学実習	薬理学実習			
			衛生化学・公衆衛生学実習			
			病態生理学・薬物安全性学実習			
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)		微生物・免疫学実習			実務実習	薬学アップデート ト(総合)
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)	基礎生物学実習	分析化学実習	医薬品合成実習		実務実習	薬学アップデート ト(総合)
		物理化学・分析化学実習	生化学実習			
		微生物・免疫学実習	薬理学実習			
			衛生化学・公衆衛生学実習			
			病態生理学・薬物安全性学実習			
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)			感染制御学		実務実習	薬学アップデート ト(総合)
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				調剤学 医薬品安全性評価学 病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 【E3(2)①参照】				病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。			病態生理学・薬物安全性学実習	調剤学 医薬品安全性評価学		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)			病態生理学・薬物安全性学実習	病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート(総合)
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録・薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					実務実習	薬学アップデート(総合)
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)					実務実習	薬学アップデート(総合)
【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習	(選) 医薬情報特論	薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					(選) 医薬情報特論 実務実習	薬学アップデート(総合)
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					実務実習	薬学アップデート(総合)
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート(総合)
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					実務実習	薬学アップデート(総合)
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート(総合)
【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				調剤学 医薬品安全性評価学 病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			(選) 臨床薬学概論	調剤学 医薬品安全性評価学 病態栄養管理学 個別化医療Ⅱ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				調剤学 医薬品安全性評価学 個別化医療Ⅱ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				調剤学		薬学アップデート(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				病態栄養管理学 個別化医療Ⅱ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。			(選)臨床薬学概論	調剤学 病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。			(選)臨床薬学概論	調剤学 病態栄養管理学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。			(選)臨床薬学概論	実務実習事前学習Ⅱ	実務実習	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅱ
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。			(選)臨床薬学概論		実務実習	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅱ
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）			(選)臨床薬学概論	個別化医療Ⅱ	実務実習	薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅱ
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）					実務実習	薬学アップデート （総合）
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）					実務実習	薬学アップデート （総合）
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）					実務実習	薬学アップデート （総合）
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					実務実習	薬学アップデート （総合）
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）					実務実習	薬学アップデート （総合）
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				調剤学 医薬品安全性評価学 病態栄養管理学 個別化医療Ⅱ 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート （総合） 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）					実務実習	薬学アップデート （総合）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実行ができる。(知識・態度)					実務実習	薬学アップデート(総合)
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)				個別化医療Ⅱ	実務実習	薬学アップデート(総合)
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				個別化医療Ⅱ	実務実習	薬学アップデート(総合)
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				個別化医療Ⅱ	実務実習	薬学アップデート(総合)
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				個別化医療Ⅱ	実務実習	薬学アップデート(総合)
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)			(選)臨床薬学概論	個別化医療Ⅱ	(選)専門薬剤師総論	薬学アップデート(総合)
11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					実務実習	薬学アップデート(総合)
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					実務実習	薬学アップデート(総合)
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					実務実習	薬学アップデート(総合)
(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)臨床薬学概論	医薬品安全性評価学 薬局・病院薬学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医薬品安全性評価学 病態栄養管理学 薬局・病院薬学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医薬品安全性評価学 薬局・病院薬学 実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ		薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)プライマリケアⅢ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)				医療薬学特論Ⅰ	実務実習	薬学アップデート(総合)
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)			(選)臨床薬学概論	医療薬学特論Ⅰ	実務実習	薬学アップデート(総合) (選)プライマリケアⅢ
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)				医療薬学特論Ⅰ	実務実習	薬学アップデート(総合) 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）				医療薬学特論Ⅰ	実務実習	薬学アプットウディ ト（総合）
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）				医療薬学特論Ⅰ	実務実習	薬学アプットウディ ト（総合）
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）				医療薬学特論Ⅰ (選)臨床医学概論	実務実習	薬学アプットウディ ト（総合） (選)プライマリケア Ⅲ
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。			(選)臨床薬学概論	医薬品安全性評価学		薬学アプットウディ ト（総合）
				薬局・病院薬学		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
				実務実習事前学習Ⅱ		(選)専門薬剤師特論 Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
				実務実習事前実習		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）				実務実習事前学習Ⅰ		薬学アプットウディ ト（総合）
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				実務実習事前実習		(選)プライマリケア Ⅲ
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）					(選)プライマリケア Ⅱ	薬学アプットウディ ト（総合）
					実務実習	総合薬学演習Ⅱ
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）					実務実習	薬学アプットウディ ト（総合）
【⑤地域の保健・医療・福祉への参画】〔B（4）参照〕						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				薬局・病院薬学		薬学アプットウディ ト（総合）
				実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
				実務実習事前実習		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	(選)法学	(選)法学		薬局・病院薬学		薬学アプットウディ ト（総合）
				実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		
				実務実習事前実習		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				薬局・病院薬学		薬学アプットウディ ト（総合）
				実務実習事前学習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
				総合演習Ⅱ		(選)プライマリケア Ⅲ
				実務実習事前実習		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）					(選)プライマリケア Ⅱ	薬学アプットウディ ト（総合）
					実務実習	総合薬学演習Ⅱ
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）					(選)プライマリケア Ⅱ	薬学アプットウディ ト（総合）
					実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）			(選)臨床薬学概論	病態栄養管理学	実務実習	薬学アプットウディ ト（総合）
						総合薬学演習Ⅱ
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)地域保健薬学概論	薬局・病院薬学		薬学アプットウディ ト（総合）
				実務実習事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ
				総合演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				薬局・病院薬学 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)		微生物・免疫学実習			実務実習	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅱ
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)		微生物・免疫学実習			実務実習	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅱ
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論		実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション:薬剤師の関わり①	(選)プライマリケアⅠ (選)プライマリケアⅡ	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション:薬剤師の関わり① 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション:薬剤師の関わり④ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)			(選)スキンケア入門	実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション:薬剤師の関わり① 実務実習事前実習		薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)	(選)基礎栄養学 (選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)スキンケア入門 (選)臨床薬学概論	実務実習事前学習Ⅰ 実務実習事前学習Ⅱ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習	(選)プライマリケアⅠ	薬学アップデート ト(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ (選)専門薬剤師特論Ⅱ
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション:薬剤師の関わり②(産学連携教育プログラム)	実務実習	薬学アップデート ト(総合)
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)			(選)スキンケア入門		実務実習	薬学アップデート ト(総合)
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)			(選)スキンケア入門 (選)臨床薬学概論		実務実習	薬学アップデート ト(総合)
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)ヘルスプロモーション概論	(選)スキンケア入門		実務実習	薬学アップデート ト(総合)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)				医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④	実務実習	薬学アップトゥデート(総合) (選)専門薬剤師特論Ⅱ
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				薬局・病院薬学 実務実習事前学習Ⅰ 総合演習Ⅱ 実務実習事前実習		薬学アップトゥデート(総合) 総合薬学演習Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。				薬局・病院薬学	(選)プライマリケアⅡ 実務実習	薬学アップトゥデート(総合) 薬学アップトゥデート(総合)
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					(選)プライマリケアⅡ 実務実習	薬学アップトゥデート(総合)
9 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		医療薬物薬学特論Ⅱ 課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
(2) 研究に必要な法規制と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	(選)データサイエンス入門 (選)ゼミナールⅠ	(選)データサイエンス入門 (選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ	(選)臨床開発概論	(選)ヘルスケア・データサイエンス 課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲	(選)ゼミナールⅠ	(選)ゼミナールⅡ (選)ゼミナールⅢ		課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				医療衛生薬学演習Ⅱ 課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				医療衛生薬学演習Ⅱ 課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				医療衛生薬学演習Ⅱ 課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				医療衛生薬学演習Ⅱ 課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				医療衛生薬学演習Ⅱ	課題研究(実験・調査研究コース)	課題研究(実験・調査研究コース)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
				課題研究（実験・調査研究コース）		
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）				課題研究（実験・調査研究コース）	課題研究（実験・調査研究コース）	課題研究（実験・調査研究コース）

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		420	420	420	420	420	420
入学時の学生数 ²⁾	A	461	419	492	414	455	425
在籍学生数 ³⁾	B	479	438	459	442	415	467
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	11	32	25	45	29	83
	休学による者 D	7	13	6	24	11	28
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	461	393	428	373	375	356
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	100.0%	93.8%	87.0%	90.1%	82.4%	83.8%
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	3.8%	10.3%	6.8%	15.6%	9.6%	23.8%

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
 ストレート在籍者数 [B-(C+D+E)]
- 6) (ストレート在籍者数)/(入学時の学生数)の値を%で記載してください。
- 7) (過年度在籍者数)/(在籍学生数)の値を%で記載してください。

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	471	433	510	430	479
	休学者数 ²⁾	0	3	6	5	
	退学者数 ²⁾	6	11	15	12	
	留年者数 ²⁾	19	15	5	13	
	進級率 ³⁾	94.7%	93.3%	94.9%	93.0%	
2年次	在籍者数 ¹⁾	442	471	433	490	438
	休学者数 ²⁾	2	4	2	9	
	退学者数 ²⁾	13	20	5	11	
	留年者数 ²⁾	23	25	3	29	
	進級率 ³⁾	91.4%	89.6%	97.7%	90.0%	
3年次	在籍者数 ¹⁾	463	433	438	426	459
	休学者数 ²⁾	5	3	1	3	
	退学者数 ²⁾	8	7	4	10	
	留年者数 ²⁾	24	13	2	14	
	進級率 ³⁾	92.0%	94.7%	98.4%	93.7%	
4年次	在籍者数 ¹⁾	429	460	442	462	442
	休学者数 ²⁾	16	18	5	11	
	退学者数 ²⁾	6	6	2	5	
	留年者数 ²⁾	18	14	26	32	
	進級率 ³⁾	90.7%	91.7%	92.5%	89.6%	
5年次	在籍者数 ¹⁾	365	389	422	410	415
	休学者数 ²⁾	0	0	1	1	
	退学者数 ²⁾	0	0	0	1	
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	
	進級率 ³⁾	100.0%	100.0%	99.8%	99.5%	

1) 在籍者数は、当該年の5月1日における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。

3) 進級率は、次式で計算し、%で記入してください。

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / \text{在籍者数}$$

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		520	375	397	424	423
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B		463	328	355	365	368
卒業率 ²⁾ B/A		89.0%	87.5%	89.4%	86.1%	87.0%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	409	310	341	337	329
	7年	38	16	13	24	36
	8年	14	2	0	1	2
	9年以上	2	0	1	3	1
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		517	401	457	458	425
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		79.1%	77.3%	74.6%	73.6%	77.4%

1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。

なお、卒業者数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A) を%で記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D) を%で記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	平均値 ⁵⁾
入学定員 A	420	420	420	420	420	420	
実入学者数 ¹⁾ B	425	455	414	492	419	461	444.3333333
入学定員充足率 ²⁾ B/A	101.19%	108.33%	98.57%	117.14%	99.76%	109.76%	105.79%
編入学定員	0	0	0	0	0	0	
編入学者数 ³⁾ C+D+E	0	0	0	0	0	0	0
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値を%で記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については%で記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

学部	学科名	入試の種類		2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	2023年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
				(2017年度実施)	(2018年度実施)	(2019年度実施)	(2020年度実施)	(2021年度実施)	(2022年度実施)	
薬学	薬学	一般入試	受験者数	1,480	1,462	1,217	1,215	1,162	1,229	110.91
			合格者数	365	374	416	386	410	458	
			入学者数(A)	129	108	153	111	101	174	
			募集定員数(B)	170	170	170	170	170	170	
			A/B*100(%)	75.88	63.53	90.00	65.29	59.41	102.35	
		大学入学共通テスト利用入試	受験者数	626	553	564	528	432	557	
			合格者数	92	106	97	105	155	260	
			入学者数(A)	2	6	5	5	6	31	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	30	30	
			A/B*100(%)	6.67	20.00	16.67	16.67	20.00	103.33	
		A○入試	受験者数	143	160	137	163	147	133	
			合格者数	65	53	70	66	73	72	
			入学者数(A)	65	53	70	66	73	72	
			募集定員数(B)	40	40	50	50	50	50	
			A/B*100(%)	162.50	132.50	140.00	132.00	146.00	144.00	
		指定校推薦	受験者数	157	160	178	189	207	176	
			合格者数	157	160	178	189	207	176	
			入学者数(A)	157	160	177	189	206	176	
			募集定員数(B)	136	136	120	120	120	120	
			A/B*100(%)	115.44	117.65	147.50	157.50	171.67	146.67	
		公募推薦入試	受験者数	311	257	221	236	260	254	
			合格者数	143	121	123	106	118	158	
			入学者数(A)	101	86	86	48	74	96	
			募集定員数(B)	44	44	50	50	50	50	
			A/B*100(%)	229.55	195.45	172.00	96.00	148.00	192.00	
		社会人入試	受験者数	1	1	2	0	3	5	
			合格者数	0	0	0	0	1	3	
			入学者数(A)	0	0	0	0	1	3	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)							
		帰国生徒入試	受験者数	1	4	1	3	1	5	
			合格者数	1	1	1	0	1	3	
			入学者数(A)	1	1	1	0	0	2	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)							
		学科計	受験者数	2,719	2,597	2,320	2,334	2,212	2,359	
合格者数	823		815	885	852	965	1,130			
入学者数(A)	455		414	492	419	461	554			
募集定員数(B)	420		420	420	420	420	420			
A/B*100(%)	108.33		98.57	117.14	99.76	109.76	131.90			
編(転)入試験	受験者数	0	0	0	0	0	0			
	合格者数	0	0	0	0	0	0			
	入学者数(A)	0	0	0	0	0	0			
	募集定員数(B)	0	0	0	0	0	0			
	A/B*100(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			

- [注]
- 1 入学者数は、実施した入試により5月1日(評価対象年度に実施した入試のデータは調書提出時)に新入学者となっている学生数を記入してください。
 - 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B*100(%)]を算出してください。
 - 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)○年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
44名	32名	28名	30名	134名	63
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
7	9	4	4	24	11名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
9名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
9名	0名	12名	21名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
18名(3名)	0名	0名	18名(3名)

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0.0%
60代	12名	4名	2名	0名	18名	13.4%
50代	28名	16名	5名	1名	50名	37.3%
40代	4名	10名	12名	11名	37名	27.6%
30代	0名	2名	19名	17名	28名	20.9%
20代	0名	0名	0名	1名	1名	0.8%
合計	44名	32名	28名	30名	134名	

専任教員の定年年齢:(65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	41名	26名	21名	21名	109名	81.3%
女性	3名	6名	7名	9名	25名	18.7%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
医療衛生薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51							
							免疫学	7.00	0.23							
							細胞工学	17.50	0.58							
							臨床免疫学	23.33	0.78							
							医療衛生薬学特論Ⅰ	22.17	0.74							
							科別英語特論Ⅰ	7.00	0.23							
							科別英語特論Ⅱ	7.00	0.23							
							微生物・免疫学実習	◎ 44.33	1.48							
							創薬生化学特論	院 3.00	0.10							
							授業担当時間の合計	150.00	5.00							
							医療衛生薬学科	教授						漢方薬物学Ⅰ	21.00	0.70
														漢方薬物学Ⅱ	7.00	0.23
医療衛生薬学演習Ⅰ	8.17	0.27														
科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47														
臨床漢方薬物学	2.33	0.08														
科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51														
漢方薬物学実習	◎ 63.00	2.10														
生薬学特論	院 1.50	0.05														
授業担当時間の合計	132.17	4.41														
医療衛生薬学科	教授													基礎栄養学	30.33	1.01
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							食品の安全性と管理	16.33	0.54							
							医療衛生薬学演習Ⅰ	5.83	0.19							
							科別英語特論Ⅰ	2.33	0.08							
							プライマリケアⅠ	2.33	0.08							
							科別英語特論Ⅱ	2.33	0.08							
							微生物・免疫学実習	◎ 49.00	1.63							
							衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 94.50	3.15							
							授業担当時間の合計	206.50	6.88							
							医療衛生薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
植物薬品学	2.33	0.08														
漢方薬物学Ⅱ	4.67	0.16														
医療衛生薬学演習Ⅰ	10.50	0.35														
臨床漢方薬物学	1.17	0.04														
課題研究(情報収集Ⅱ)	4.67	0.16														
課題研究(情報収集Ⅳ)	22.17	0.74														
総合薬学演習Ⅰ	38.50	1.28														
総合薬学演習Ⅱ	3.50	0.12														
薬学アップデート	29.17	0.97														
授業担当時間の合計	120.17	4.01														
医療衛生薬学科	教授													人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														生化学Ⅱ	16.33	0.54
							生化学Ⅲ	16.33	0.54							
							スキンケア入門	9.33	0.31							
							医療衛生薬学特論Ⅰ	21.00	0.70							
							科別英語特論Ⅰ	11.67	0.39							
							科別英語特論Ⅱ	14.00	0.47							
							生化学実習	◎ 101.50	3.38							
							創薬生化学特論	院 3.00	0.10							
							授業担当時間の合計	196.67	6.56							
医療衛生薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							薬と疾病入門	7.00	0.23							
							薬理学Ⅰ	25.67	0.86							
							医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							生殖医療特論	3.50	0.12							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	1.17	0.04							
							薬理学実習	◎ 98.00	3.27							
							生体機能制御学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	185.83	6.19														

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療衛生薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							薬学のあゆみ	1.67	0.06
							栄養と食品機能	15.17	0.51
							実用薬学英語	2.33	0.08
							食品の安全性と管理	16.33	0.54
							医療衛生薬学演習Ⅰ	5.83	0.19
							衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 52.50	1.75
							衛生化学特論	院 4.50	0.15
							授業担当時間の合計	101.83	3.39
							英語(講読)Ⅰ	30.33	1.01
							英語(講読)Ⅱ	30.33	1.01
人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
薬学英語入門Ⅰ	31.50	1.05							
薬学英語入門Ⅱ	32.67	1.09							
実用薬学英語	2.33	0.08							
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
科別英語特論Ⅱ	18.67	0.62							
フランス語Ⅰ	15.17	0.51							
フランス語Ⅱ	16.33	0.54							
授業担当時間の合計	197.17	6.57							
医療衛生薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							無機化学	7.00	0.23
							ゼミナール(2年前期)	9.33	0.31
							臨床分析化学	22.17	0.74
							実用薬学英語	2.33	0.08
							医療衛生薬学演習Ⅰ	12.83	0.43
							分析化学実習	◎ 70.00	2.33
							臨床分析化学特論	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	130.17	4.34
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
薬学のあゆみ	1.67	0.06							
物理化学Ⅲ	4.67	0.16							
物理薬剤学	4.67	0.16							
薬物送達学	18.67	0.62							
医療衛生薬学演習Ⅱ	14.00	0.47							
科別英語特論Ⅱ	9.33	0.31							
課題研究(情報収集Ⅲ)	1.17	0.04							
薬剤学実習	◎ 101.50	3.38							
薬剤学特論	院 3.00	0.10							
授業担当時間の合計	162.17	5.41							
医療衛生薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							生体分子の化学	24.50	0.82
							医療衛生薬学演習Ⅱ	8.17	0.27
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							有機薬理化学特論	15.17	0.51
							有機化学実習	◎ 38.50	1.28
							医薬品合成実習	◎ 42.00	1.40
							創薬有機化学特論	院 1.50	0.05
							医化学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	166.33	5.54
医療衛生薬学科	教授(実務)						人間と薬学Ⅰ	4.67	0.16
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							薬学のあゆみ	1.67	0.06
							ゼミナール(2年後期)IPE	15.17	0.51
							疾病と薬物治療Ⅰ	14.00	0.47
							医薬品安全性評価学	32.67	1.09
							医療衛生薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47
							課題研究(医療の最前線Ⅰ)	12.83	0.43
							調剤学	35.00	1.17
							薬局・病院薬学	2.33	0.08
							ブライマリアケⅡ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅱ	17.50	0.58
							課題研究(情報収集Ⅰ)	4.67	0.16
							課題研究(情報収集Ⅲ)	1.17	0.04
							専門薬剤師総論	3.50	0.12
							ブライマリアケⅢ	17.50	0.58
							専門薬剤師特論Ⅱ	3.50	0.12
							実務実習事前実習	◎ 21.00	0.70
							授業担当時間の合計	211.67	7.06
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51							
ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
疾病と薬物治療Ⅶ	8.17	0.27							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療衛生薬学科	教授 (実務)						医療衛生薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							病態栄養管理学	4.67	0.16
							薬局・病院薬学	3.50	0.12
							プライマリケアⅡ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅱ	14.00	0.47
							課題研究(情報収集Ⅰ)	2.33	0.08
							課題研究(問題解決 PBL-T)	21.00	0.70
							専門薬剤師総論	3.50	0.12
							専門薬剤師特論Ⅰ	3.50	0.12
							専門薬剤師特論Ⅱ	3.50	0.12
							実務実習事前実習	◎ 42.00	1.40
							生体機能制御学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	160.17	5.34
							医療衛生薬学科	教授	
地球環境概論	5.83	0.19							
健康保持と疾病予防	10.50	0.35							
生活環境と健康	9.33	0.31							
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
科別英語特論Ⅱ	28.00	0.93							
衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 52.50	1.75							
衛生化学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	127.50	4.25							
医療衛生薬学科	教授								
							放射化学	65.33	2.18
							医療衛生薬学特論Ⅰ	22.17	0.74
							実務実習事前学習Ⅰ	1.17	0.04
							総合演習Ⅱ	1.17	0.04
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08
							総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04
							授業担当時間の合計	96.83	3.23
							医療衛生薬学科	教授	
物理化学Ⅰ	16.33	0.54							
物理化学Ⅲ	7.00	0.23							
医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51							
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
物理化学・分析化学実習	◎ 63.00	2.10							
創薬有機化学特論	院 3.00	0.10							
医化学特論	院 3.00	0.10							
授業担当時間の合計	127.33	4.24							
医療衛生薬学科	准教授						科別英語特論Ⅰ	2.33	0.08
							科別英語特論Ⅱ	2.33	0.08
							基礎有機化学実習	◎ 105.00	3.50
							有機化学実習	◎ 63.00	2.10
							医薬品合成実習	◎ 84.00	2.80
							授業担当時間の合計	256.67	8.56
医療衛生薬学科	准教授						化学平衡論	15.17	0.51
							基礎分析化学集中講義	2.33	0.08
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							分析化学	8.17	0.27
							臨床分析化学	9.33	0.31
							医療衛生薬学演習Ⅰ	12.83	0.43
							課題研究(問題解決 PBL-T)	16.33	0.54
							分析化学実習	◎ 70.00	2.33
							臨床分析化学特論	院 1.50	0.05
授業担当時間の合計	139.17	4.64							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
医療衛生薬学科	准教授						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							植物薬品学	7.00	0.23							
							漢方薬物学Ⅰ	4.67	0.16							
							漢方薬物学Ⅱ	7.00	0.23							
							医療衛生薬学演習Ⅰ	11.67	0.39							
							医療衛生薬学特論Ⅰ	3.50	0.12							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							臨床漢方薬物学	2.33	0.08							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							漢方薬物学実習	◎ 63.00	2.10							
							生薬学特論	院 4.50	0.15							
							授業担当時間の合計		152.67	5.09						
							医療衛生薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														薬と疾病入門	16.33	0.54
薬理学Ⅰ	2.33	0.08														
医療衛生薬学演習Ⅱ	10.50	0.35														
医療衛生薬学特論Ⅰ	22.17	0.74														
科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51														
科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51														
生殖医療特論	2.33	0.08														
課題研究(情報収集Ⅳ)	1.17	0.04														
薬理学実習	◎ 96.83	3.23														
生体機能制御学特論	院 1.50	0.05														
授業担当時間の合計		187.00	6.23													
医療衛生薬学科	准教授													人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														物理化学Ⅱ	30.33	1.01
														物理化学Ⅲ	4.67	0.16
							医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08							
							物理化学・分析化学実習	◎ 63.00	2.10							
							創薬有機化学特論	院 1.50	0.05							
							医化学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		122.00	4.07						
							医療衛生薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
ゼミナール(2年前期)	30.33	1.01														
健康保持と疾病予防	2.33	0.08														
生活環境と健康	2.33	0.08														
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54														
科別英語特論Ⅱ	28.00	0.93														
衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 52.50	1.75														
衛生化学特論	院 1.50	0.05														
授業担当時間の合計		136.83	4.56													
医療衛生薬学科	准教授													授業担当時間の合計		
医療衛生薬学科	准教授						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							英語(コミュニケーション)Ⅰ	30.33	1.01							
							英語(コミュニケーション)Ⅱ	30.33	1.01							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
							授業担当時間の合計		110.83	3.69						
							医療衛生薬学科	准教授(実務)						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51
														人間と薬学Ⅰ	4.67	0.16
														人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35														
疾病と薬物治療Ⅰ	16.33	0.54														
医療衛生薬学演習Ⅰ	3.50	0.12														
病態栄養管理学	5.83	0.19														
薬局・病院薬学	3.50	0.12														
プライマリケアⅡ	3.50	0.12														
課題研究(情報収集Ⅰ)	2.33	0.08														
専門薬剤師総論	7.00	0.23														
専門薬剤師特論Ⅰ	3.50	0.12														
課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08														
専門薬剤師特論Ⅱ	3.50	0.12														
実務実習事前実習	◎ 38.50	1.28														
授業担当時間の合計		123.67	4.12													
														人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														ゼミナール(2年後期)IPE	15.17	0.51
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51							
							医療衛生薬学演習Ⅰ	3.50	0.12							
							医療衛生薬学特論Ⅰ	4.67	0.16							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
課題研究(医療の最前線Ⅰ)		12.83	0.43													

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
医療衛生薬学科	准教授 (実務)						調剤学	10.50	0.35							
							科別英語特論Ⅱ	17.50	0.58							
							課題研究(情報収集Ⅰ)	7.00	0.23							
							専門薬剤師特論Ⅰ	7.00	0.23							
							プライマリケアⅢ	10.50	0.35							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08							
							データサイエンス入門	2.33	0.08							
							実務実習事前実習	◎	38.50	1.28						
							授業担当時間の合計	165.67	5.52							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51							
栄養と食品機能	15.17	0.51														
医療衛生薬学特論Ⅰ	22.17	0.74														
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54														
科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54														
課題研究(情報収集Ⅰ)	1.17	0.04														
課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08														
衛生化学・公衆衛生学実習	◎	52.50	1.75													
衛生化学特論	院	1.50	0.05													
授業担当時間の合計	146.17	4.87														
医療衛生薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							植物薬品学	5.83	0.19							
							漢方薬物学Ⅰ	4.67	0.16							
							漢方薬物学Ⅱ	7.00	0.23							
							医療衛生薬学演習Ⅰ	4.67	0.16							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							臨床漢方薬物学	2.33	0.08							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							漢方薬物学実習	◎	63.00	2.10						
							生薬学特論	院	3.00	0.10						
							授業担当時間の合計	124.33	4.14							
医療衛生薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51							
							物理薬剤学	4.67	0.16							
							薬物送達学	11.67	0.39							
							医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅱ	12.83	0.43							
							薬剤学実習	◎	101.50	3.38						
							薬剤学特論	院	1.50	0.05						
							授業担当時間の合計	181.17	6.04							
							医療衛生薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
物理薬剤学	14.00	0.47														
医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51														
医療衛生薬学特論Ⅰ	3.50	0.12														
科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51														
科別英語特論Ⅱ	12.83	0.43														
薬剤学実習	◎	101.50	3.38													
薬剤学特論	院	3.00	0.10													
授業担当時間の合計	168.67	5.62														
医療衛生薬学科	講師													人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														生体分子の化学	7.00	0.23
							医療衛生薬学演習Ⅱ	3.50	0.12							
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
							科別英語特論Ⅱ	30.33	1.01							
							有機化学実習	◎	42.00	1.40						
							医薬品合成実習	◎	42.00	1.40						
							創薬有機化学特論	院	1.50	0.05						
							医化学特論	院	1.50	0.05						
							授業担当時間の合計	147.67	4.92							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療衛生薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							免疫学	8.17	0.27
							細胞工学	16.33	0.54
							臨床免疫学	7.00	0.23
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							微生物・免疫学実習	◎ 44.33	1.48
							創薬生化学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	112.33	3.74
							医療衛生薬学科	講師	
地球環境概論	2.33	0.08							
ゼミナール(2年前期)	30.33	1.01							
健康保持と疾病予防	2.33	0.08							
生活環境と健康	3.50	0.12							
医療衛生薬学特論Ⅰ	22.17	0.74							
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
科別英語特論Ⅱ	28.00	0.93							
課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08							
衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 52.50	1.75							
衛生化学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	164.83	5.49							
医療衛生薬学科	講師								
							薬と疾病入門	7.00	0.23
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51
							薬理学Ⅰ	2.33	0.08
							医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							薬理学実習	◎ 86.33	2.88
							授業担当時間の合計	159.83	5.33
							医療衛生薬学科	助教	
人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
分析化学	7.00	0.23							
医療衛生薬学演習Ⅰ	12.83	0.43							
医療衛生薬学特論Ⅰ	3.50	0.12							
科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
総合薬学演習Ⅰ	2.33	0.08							
分析化学実習	◎ 70.00	2.33							
臨床分析化学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	118.17	3.94							
医療衛生薬学科	助教						ゼミナール(2年後期)	17.50	0.58
							ゼミナール(2年後期)IPE	15.17	0.51
							実用薬学英語	1.17	0.04
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							課題研究(医療の最前線Ⅰ)	12.83	0.43
							科別英語特論Ⅱ	17.50	0.58
							実務実習事前実習	◎ 17.50	0.58
							授業担当時間の合計	96.83	3.23
医療衛生薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							プライマリケアⅠ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 52.50	1.75
							衛生化学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	108.83	3.63
医療衛生薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							地球環境概論	2.33	0.08
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	28.00	0.93
							課題研究(情報収集Ⅰ)	1.17	0.04
							衛生化学・公衆衛生学実習	◎ 52.50	1.75
							衛生化学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	105.33	3.51

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾
医療衛生薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							漢方薬物学Ⅱ	2.33	0.08
							医療衛生薬学演習Ⅰ	8.17	0.27
							医療衛生薬学特論Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							漢方薬物学実習	◎ 63.00	2.10
							生薬学特論	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	113.83	3.79
							医療衛生薬学科	助教(実務)	
人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
疾病と薬物治療Ⅵ	7.00	0.23							
医療衛生薬学演習Ⅰ	3.50	0.12							
プライマリケアⅡ	3.50	0.12							
専門薬剤師総論	3.50	0.12							
専門薬剤師特論Ⅰ	3.50	0.12							
専門薬剤師特論Ⅱ	3.50	0.12							
実務実習事前実習	◎ 42.00	1.40							
授業担当時間の合計	95.67	3.19							
医療衛生薬学科	助教						医療衛生薬学演習Ⅱ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	30.33	1.01
							有機化学実習	◎ 42.00	1.40
							医薬品合成実習	◎ 42.00	1.40
授業担当時間の合計	134.17	4.47							
医療衛生薬学科	助教						科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							微生物・免疫学実習	◎ 44.33	1.48
							授業担当時間の合計	75.83	2.53
医療衛生薬学科	助教						物理化学Ⅰ	7.00	0.23
							医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							物理化学・分析化学実習	◎ 63.00	2.10
							授業担当時間の合計	100.33	3.34
医療衛生薬学科	助教						科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							生化学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	121.33	4.04
医療薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							病氣とくすり	3.50	0.12
							薬学のあゆみ	1.67	0.06
							ゼミナール(2年後期)3大学	8.17	0.27
							疾病と薬物治療Ⅱ	11.67	0.39
							疾病と薬物治療Ⅵ	7.00	0.23
							医療薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							実務実習事前学習Ⅰ	2.33	0.08
							実務実習事前学習Ⅱ	10.50	0.35
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							課題研究(情報収集Ⅰ)	2.33	0.08
							総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04
							病態生理学特論	3.50	0.12
							実務実習事前実習	◎ 31.50	1.05
							生体機能制御学特論	院 3.00	0.10
授業担当時間の合計	124.83	4.16							
医療薬学科	教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							医薬情報Ⅰ	1.17	0.04
							医薬情報Ⅱ	5.83	0.19
							疾病と薬物治療Ⅶ	7.00	0.23
							医薬情報演習	35.00	1.17
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							医薬情報特論	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							臨床薬理学特論	2.33	0.08
授業担当時間の合計	102.67	3.42							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療薬学科	教授(実務)						医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58
							疾病と薬物治療Ⅷ	8.17	0.27
							実務実習事前学習Ⅱ	7.00	0.23
							科別英語特論Ⅱ	24.50	0.82
							実務実習事前実習	◎ 31.50	1.05
							授業担当時間の合計	102.67	3.42
医療薬学科	教授						薬学のあゆみ	1.67	0.06
							疾病と薬物治療Ⅲ	9.33	0.31
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							臨床推論Ⅰ	7.00	0.23
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎ 66.50	2.22
							授業担当時間の合計	114.83	3.83
医療薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							微生物学	32.67	1.09
							病原微生物学	15.17	0.51
							感染制御学	30.33	1.01
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08
							微生物・免疫学実習	◎ 42.00	1.40
							実務実習事前実習	◎ 14.00	0.47
							授業担当時間の合計	184.33	6.14
							医療薬学科	教授	
人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
科別英語特論Ⅰ	4.67	0.16							
科別英語特論Ⅱ	4.67	0.16							
課題研究(情報収集Ⅱ)	4.67	0.16							
課題研究(情報収集Ⅲ)	3.50	0.12							
課題研究(問題解決PBL-T)	19.83	0.66							
課題研究(情報収集Ⅳ)	1.17	0.04							
基礎生物学実習	◎ 105.00	3.50							
微生物・免疫学実習	◎ 43.17	1.44							
薬理学実習	◎ 105.00	3.50							
授業担当時間の合計	298.67	9.96							
医療薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51
							物理化学Ⅲ	7.00	0.23
							生物薬剤学	21.00	0.70
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							薬物動態学	14.00	0.47
							レギュラトリーサイエンス	2.33	0.08
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							薬剤学実習	◎ 21.00	0.70
							薬剤学特論	院 4.50	0.15
							授業担当時間の合計	120.00	4.00
医療薬学科	教授						ゼミナール(1年後期)	14.00	0.47
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							薬学のあゆみ	1.67	0.06
							ゼミナール(2年前期)	16.33	0.54
							社会と薬学	29.17	0.97
							医療薬学特論Ⅰ	1.17	0.04
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							総合演習Ⅱ	2.33	0.08
							レギュラトリーサイエンス	1.17	0.04
							医療プロフェッショナリズム	1.17	0.04
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							課題研究(情報収集Ⅰ)	1.17	0.04
							総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04
授業担当時間の合計	105.50	3.52							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	教授 (実務)						ゼミナール(1年後期)		11.67	0.39
							人間と薬学Ⅰ(SGD)		3.50	0.12
							病氣とくすり		4.67	0.16
							ゼミナール(2年後期)		26.83	0.89
							ゼミナール(2年後期)IPE		10.50	0.35
							臨床薬学概論		4.67	0.16
							個別化医療Ⅱ		17.50	0.58
							実務実習事前学習Ⅰ		9.33	0.31
							実務実習事前学習Ⅱ		63.00	2.10
							薬局・病院薬学		4.67	0.16
							実務実習事前実習	◎	226.33	7.54
							授業担当時間の合計		382.67	12.76
							医療薬学科	教授		
個別化医療Ⅰ		11.67	0.39							
科別英語特論Ⅰ		15.17	0.51							
薬物動態学		7.00	0.23							
科別英語特論Ⅱ		21.00	0.70							
医薬品開発特論		2.33	0.08							
総合薬学演習Ⅰ		2.33	0.08							
実務実習事前実習	◎	38.50	1.28							
臨床分析化学特論	院	1.50	0.05							
授業担当時間の合計		103.00	3.43							
医療薬学科	教授 (実務)						ゼミナール(1年後期)		15.17	0.51
							人間と薬学Ⅰ(SGD)		3.50	0.12
							人間と薬学Ⅱ(介助)		42.00	1.40
							アドバンスゼミナールⅣ(SOAP 医薬品治療整理法と実務)		15.17	0.51
							ヘルスケア・データサイエンス		15.17	0.51
							一般用医薬品学		21.00	0.70
							科別英語特論Ⅰ		11.67	0.39
							科別英語特論Ⅱ		12.83	0.43
							授業担当時間の合計		136.50	4.55
医療薬学科	教授 (実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)		3.50	0.12
							医療薬学演習Ⅱ		14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ		15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ		21.00	0.70
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎	52.50	1.75
							衛生化学特論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		107.67	3.59
医療薬学科	教授						機能形態学Ⅰ		2.33	0.08
							医療薬学演習Ⅰ		14.00	0.47
							基礎生物学実習	◎	105.00	3.50
							授業担当時間の合計		121.33	4.04
医療薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)		3.50	0.12
							化学物質と生体影響		15.17	0.51
							化学物質の毒性と安全性		15.17	0.51
							医療薬学演習Ⅱ		15.17	0.51
							科別英語特論Ⅰ		15.17	0.51
							総合演習Ⅱ		2.33	0.08
							科別英語特論Ⅱ		23.33	0.78
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎	63.00	2.10
							衛生化学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計		154.33	5.14							
医療薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)		3.50	0.12
							ゼミナール(2年前期)		15.17	0.51
							個別化医療Ⅰ		9.33	0.31
							医療薬学演習Ⅱ		14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ		15.17	0.51
							薬物動態学		10.50	0.35
							科別英語特論Ⅱ		15.17	0.51
							課題研究(情報収集Ⅲ)		1.17	0.04
							医薬品開発特論		1.17	0.04
							課題研究(情報収集Ⅳ)		2.33	0.08
							実務実習事前実習	◎	38.50	1.28
							臨床分析化学特論	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計		129.00	4.30

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療薬学科	准教授						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51
							機能形態学Ⅰ	14.00	0.47
							機能形態学Ⅱ	4.67	0.16
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							機能形態学Ⅲ	4.67	0.16
							医療薬学演習Ⅰ	15.17	0.51
							基礎生物学実習	◎ 84.00	2.80
							授業担当時間の合計	141.17	4.71
医療薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	5.83	0.19
							人間と薬学Ⅱ(介助)	42.00	1.40
							ヘルスケア・データサイエンス	15.17	0.51
							一般用医薬品学	17.50	0.58
							科別英語特論Ⅰ	12.83	0.43
							科別英語特論Ⅱ	12.83	0.43
							実務実習事前実習	◎ 42.00	1.40
							授業担当時間の合計	148.17	4.94
医療薬学科	准教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							医薬情報Ⅰ	8.17	0.27
							医薬情報Ⅱ	8.17	0.27
							医薬情報演習	35.00	1.17
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							医薬情報特論	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
臨床薬理学特論	2.33	0.08							
授業担当時間の合計	105.00	3.50							
医療薬学科	准教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年後期)3大学	8.17	0.27
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35
							臨床開発概論	4.67	0.16
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
							科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58
							病態栄養管理学	4.67	0.16
							臨床推論Ⅰ	8.17	0.27
							科別英語特論Ⅱ	25.67	0.86
							課題研究(問題解決 PBL-T)	17.50	0.58
							臨床推論Ⅱ	16.33	0.54
							データサイエンス入門	3.50	0.12
実務実習事前実習	◎ 31.50	1.05							
授業担当時間の合計	165.67	5.52							
医療薬学科	准教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51
							疾病と薬物治療Ⅴ	21.00	0.70
							医療薬学特論Ⅱ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	7.00	0.23
							科別英語特論Ⅱ	4.67	0.16
							臨床薬理学特論	3.50	0.12
							実務実習事前実習	◎ 42.00	1.40
							生体機能制御学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	101.83	3.39
医療薬学科	准教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							地域保健薬学概論	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							実務実習事前学習Ⅰ	10.50	0.35
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							課題研究(問題解決 PBL-T)	15.17	0.51
							総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04
							実務実習事前実習	◎ 189.00	6.30
授業担当時間の合計	330.17	11.01							
医療薬学科	准教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年後期)	17.50	0.58
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35
							科別英語特論Ⅰ	9.33	0.31
							実務実習事前学習Ⅰ	8.17	0.27
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10
							科別英語特論Ⅱ	9.33	0.31
							課題研究(問題解決 PBL-T)	17.50	0.58
							実務実習事前実習	◎ 189.00	6.30
授業担当時間の合計	327.83	10.93							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾							
医療薬学科	准教授 (実務)						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
							疾病と薬物治療Ⅵ	2.33	0.08							
							臨床薬学概論	4.67	0.16							
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
							個別化医療Ⅱ	14.00	0.47							
							実務実習事前学習Ⅰ	7.00	0.23							
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							課題研究(問題解決 PBL-T)	17.50	0.58							
							実務実習事前実習	◎ 186.67	6.22							
							授業担当時間の合計		355.83	11.86						
							医療薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														疾病と薬物治療Ⅳ	30.33	1.01
医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47														
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54														
科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51														
病態生理学特論	3.50	0.12														
病態生理学・薬物安全性学実習	◎ 66.50	2.22														
授業担当時間の合計		149.33	4.98													
医療薬学科	講師						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
							実務実習事前学習Ⅰ	5.83	0.19							
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10							
							課題研究(問題解決 PBL-T)	21.00	0.70							
							実務実習事前実習	◎ 231.00	7.70							
							授業担当時間の合計		350.00	11.67						
医療薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							実用薬学英語	1.17	0.04							
							科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58							
							科別英語特論Ⅱ	23.33	0.78							
							課題研究(問題解決 PBL-T)	17.50	0.58							
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎ 52.50	1.75							
							衛生化学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		117.00	3.90						
医療薬学科	講師						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							病気とくすり	4.67	0.16							
							ゼミナール(2年前期)	16.33	0.54							
							疾病と薬物治療Ⅴ	7.00	0.23							
							個別化医療Ⅱ	3.50	0.12							
							実務実習事前学習Ⅱ	3.50	0.12							
							課題研究(情報収集Ⅰ)	2.33	0.08							
							生殖医療特論	2.33	0.08							
							医薬品開発特論	4.67	0.16							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08							
							臨床薬理学特論	2.33	0.08							
							データサイエンス入門	2.33	0.08							
							実務実習事前実習	◎ 43.17	1.44							
							授業担当時間の合計		113.17	3.77						
医療薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							個別化医療Ⅰ	9.33	0.31							
							医療薬学演習Ⅱ	14.00	0.47							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							総合演習Ⅱ	3.50	0.12							
							薬物動態学	7.00	0.23							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							医薬品開発特論	1.17	0.04							
							実務実習事前実習	◎ 42.00	1.40							
							臨床分析化学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		112.33	3.74						
							医療薬学科	講師						機能形態学Ⅰ	18.67	0.62
機能形態学Ⅱ	3.50	0.12														
人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12														
機能形態学Ⅲ	2.33	0.08														
医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47														
基礎生物学実習	◎ 105.00	3.50														
生体機能制御学特論	院 1.50	0.05														
授業担当時間の合計		148.50	4.95													

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
医療薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51							
							ゼミナール(2年後期)3大学	10.50	0.35							
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
							実用薬学英語	1.17	0.04							
							医薬品安全性評価学	10.50	0.35							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							実務実習事前学習Ⅰ	4.67	0.16							
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10							
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54							
							実務実習事前実習	◎ 189.00	6.30							
							授業担当時間の合計	339.50	11.32							
							医療薬学科	講師(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														医薬情報Ⅰ	2.33	0.08
医薬情報Ⅱ	1.17	0.04														
医薬情報演習	35.00	1.17														
医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47														
科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51														
総合演習Ⅱ	2.33	0.08														
医薬情報特論	3.50	0.12														
科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51														
総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04														
総合薬学演習Ⅱ	1.17	0.04														
臨床薬理学特論	2.33	0.08														
授業担当時間の合計	96.83	3.23														
医療薬学科	講師													人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年後期)	30.33	1.01							
							疾病と薬物治療Ⅱ	3.50	0.12							
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							実務実習事前学習Ⅱ	10.50	0.35							
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54							
							課題研究(情報収集Ⅲ)	1.17	0.04							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08							
							実務実習事前実習	◎ 49.00	1.63							
							授業担当時間の合計	145.83	4.86							
							医療薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51
														微生物学	30.33	1.01
病原微生物学	15.17	0.51														
医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47														
科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51														
科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51														
課題研究(情報収集Ⅱ)	4.67	0.16														
微生物・免疫学実習	◎ 42.00	1.40														
実務実習事前実習	◎ 14.00	0.47														
生体機能制御学特論	院 1.50	0.05														
授業担当時間の合計	170.67	5.69														
医療薬学科	講師													人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														疾病と薬物治療Ⅲ	21.00	0.70
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎ 66.50	2.22							
							生体機能制御学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	136.83	4.56							
医療薬学科	講師(実務)						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
							実務実習事前学習Ⅰ	8.17	0.27							
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10							
							課題研究(問題解決 PBL-T)	15.17	0.51							
							実務実習事前実習	◎ 189.00	6.30							
							授業担当時間の合計	304.50	10.15							
医療薬学科	助教						基礎情報学	15.17	0.51							
							基礎情報学演習Ⅰ	60.67	2.02							
							基礎情報学演習Ⅱ	8.17	0.27							
							人間と薬学Ⅰ(PPT講習会)	2.33	0.08							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)	16.33	0.54							
							医薬情報Ⅰ	3.50	0.12							
							ヘルスケア・データサイエンス	10.50	0.35							
							医薬情報演習	14.00	0.47							
							課題研究(問題解決 PBL-T)	21.00	0.70							
授業担当時間の合計	155.17	5.17														

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
医療薬学科	助教						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)IPE	12.83	0.43							
							疾病と薬物治療Ⅴ	2.33	0.08							
							科別英語特論Ⅰ	4.67	0.16							
							個別化医療Ⅱ	3.50	0.12							
							総合演習Ⅱ	2.33	0.08							
							科別英語特論Ⅱ	5.83	0.19							
							医薬品開発特論	3.50	0.12							
							臨床薬理学特論	3.50	0.12							
							実務実習事前実習	◎ 42.00	1.40							
							授業担当時間の合計	99.17	3.31							
							医療薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	2.33	0.08
														科別英語特論Ⅰ	2.33	0.08
科別英語特論Ⅱ	2.33	0.08														
物理化学・分析化学実習	◎ 105.00	3.50														
分析化学実習	◎ 105.00	3.50														
授業担当時間の合計	217.00	7.23														
医療薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅱ	21.00	0.70							
							課題研究(情報収集Ⅰ)	1.17	0.04							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08							
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎ 52.50	1.75							
							衛生化学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	97.17	3.24							
医療薬学科	助教						機能形態学Ⅰ	2.33	0.08							
							機能形態学Ⅱ	3.50	0.12							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							機能形態学Ⅲ	9.33	0.31							
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47							
							基礎生物学実習	◎ 94.50	3.15							
							生体機能制御学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	128.67	4.29							
医療薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							生物薬剤学	4.67	0.16							
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
							薬物動態学	3.50	0.12							
							レギュラトリーサイエンス	1.17	0.04							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							薬剤学実習	◎ 101.50	3.38							
							薬剤学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	147.33	4.91							
医療薬学科	助教						基礎情報学演習Ⅰ	60.67	2.02							
							基礎情報学演習Ⅱ	7.00	0.23							
							人間と薬学Ⅰ(PPT講習会)	2.33	0.08							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51							
							ヘルスケア・データサイエンス	10.50	0.35							
							医療情報演習	17.50	0.58							
							医療薬学演習Ⅱ	14.00	0.47							
							授業担当時間の合計	130.67	4.36							
医療薬学科	助教						科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎ 38.50	1.28							
							生体機能制御学特論	院 1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	70.33	2.34							
医療薬学科	助教(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35							
							医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47							
							科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58							
							疾病と薬物治療Ⅷ	7.00	0.23							
							実務実習事前学習Ⅱ	10.50	0.35							
							科別英語特論Ⅱ	25.67	0.86							
							実務実習事前実習	◎ 49.00	1.63							
							授業担当時間の合計	137.67	4.59							
医療薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							生物薬剤学	4.67	0.16							
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
							薬物動態学	3.50	0.12							
							レギュラトリーサイエンス	1.17	0.04							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							薬剤学実習	◎ 101.50	3.38							
							薬剤学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	147.33	4.91														

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療薬学科	助教						授業担当時間の合計		
医療薬物薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							薬学のおゆみ	1.67	0.06
							ゼミナール(2年後期)	17.50	0.58
							薬理学Ⅲ	17.50	0.58
							薬理学Ⅳ	18.67	0.62
							医療薬物薬学演習Ⅱ	3.50	0.12
							医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04
							応用薬物学	9.33	0.31
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							課題研究(情報収集Ⅳ)	1.17	0.04
							病態生理学特論	7.00	0.23
							薬理学実習	◎	91.00
生体機能制御学特論	院						1.50	0.05	
授業担当時間の合計	206.17						6.87		
医療薬物薬学科	教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							生物学	3.50	0.12
							アドバンスゼミナールⅣ(薬学基礎)	5.83	0.19
							科別英語特論Ⅰ	2.33	0.08
		総合演習Ⅰ	17.50	0.58					
		総合演習Ⅱ	50.17	1.67					
		課題研究(情報収集Ⅱ)	4.67	0.16					
		課題研究(問題解決PBL-T)	9.33	0.31					
授業担当時間の合計	96.83	3.23							
医療薬物薬学科	教授	ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51					
		生薬学	30.33	1.01					
		構造有機化学	28.00	0.93					
		医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12					
		医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04					
		総合演習Ⅰ	3.50	0.12					
		天然医薬品化学実習	◎	70.00	2.33				
		生薬学特論	院	7.50	0.25				
授業担当時間の合計	159.17	5.31							
医療薬物薬学科	教授	英語(講読)Ⅰ	32.67	1.09					
		英語(講読)Ⅱ	30.33	1.01					
		人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12					
		薬学英語入門Ⅰ	31.50	1.05					
		薬学英語入門Ⅱ	32.67	1.09					
		実用薬学英語	3.50	0.12					
		科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51					
		科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51					
		英語検定Ⅰ	15.17	0.51					
		英語検定Ⅱ	16.33	0.54					
授業担当時間の合計	196.00	6.53							
医療薬物薬学科	教授	一般化学	16.33	0.54					
		基礎化学	30.33	1.01					
		人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12					
		薬学のおゆみ	1.67	0.06					
		医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12					
		医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04					
		科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54					
		科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54					
		基礎有機化学実習	◎	35.00	1.17				
		医薬品合成実習	◎	21.00	0.70				
		創薬有機化学特論	院	3.00	0.10				
医化学特論	院	3.00	0.10						
授業担当時間の合計	151.17	5.04							
医療薬物薬学科	教授	化学平衡論	15.17	0.51					
		人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12					
		機器分析学	15.17	0.51					
		医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12					
		医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04					
		医療薬物薬学特論Ⅱ	1.17	0.04					
		科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51					
		総合演習Ⅱ	2.33	0.08					
		科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51					
		物理化学・分析化学実習	◎	42.00	1.40				
		分析化学実習	◎	35.00	1.17				
臨床分析化学特論	院	1.50	0.05						
授業担当時間の合計	150.83	5.03							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾							
医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							生物学	4.67	0.16							
							薬理学Ⅱ	30.33	1.01							
							バイオ医薬品	24.50	0.82							
							医療薬物薬学演習Ⅱ	3.50	0.12							
							医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04							
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
							病態生理学特論	3.50	0.12							
							生化学実習	◎ 100.33	3.34							
							創薬生化学特論	院 3.00	0.10							
							授業担当時間の合計	204.83	6.83							
							医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	細胞生物学	7.00	0.23
人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12														
生化学Ⅰ	10.50	0.35														
薬学のあゆみ	1.67	0.06														
医療薬物薬学演習Ⅱ	3.50	0.12														
医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04														
基礎生物学実習	◎ 105.00	3.50														
創薬生化学特論	院 4.50	0.15														
授業担当時間の合計	136.83	4.56														
医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]								人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
														有機化学Ⅲ	15.17	0.51
							実践有機化学	16.33	0.54							
							反応有機化学	15.17	0.51							
							有機化学Ⅳ	16.33	0.54							
							医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12							
							医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04							
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54							
							基礎有機化学実習	◎ 35.00	1.17							
							有機化学実習	◎ 21.00	0.70							
							医化学特論	院 4.50	0.15							
							授業担当時間の合計	164.33	5.48							
医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	基礎物理学集中講義	9.33	0.31							
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							物理学	45.50	1.52							
							科別英語特論Ⅱ	10.50	0.35							
							計算科学	31.50	1.05							
							授業担当時間の合計	100.33	3.34							
医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							有機化学Ⅰ	16.33	0.54							
							有機化学Ⅱ	11.67	0.39							
							医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04							
							科別英語特論Ⅰ	11.67	0.39							
							科別英語特論Ⅱ	35.00	1.17							
							総合薬学演習Ⅰ	2.33	0.08							
							基礎有機化学実習	◎ 32.67	1.09							
							医薬品合成実習	◎ 18.67	0.62							
							創薬有機化学特論	院 3.00	0.10							
							医化学特論	院 3.00	0.10							
授業担当時間の合計	139.00	4.63														
医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12							
							科別英語特論Ⅰ	3.50	0.12							
							総合演習Ⅰ	38.50	1.28							
							課題研究(情報収集Ⅳ)	17.50	0.58							
							総合薬学演習Ⅰ	40.83	1.36							
							薬学アップデート	30.33	1.01							
							授業担当時間の合計	134.17	4.47							
							医療薬物薬学科	教授	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
ゼミナール(2年前期)	2.33	0.08														
薬事関連法規と制度Ⅰ	28.00	0.93														
医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04														
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54														
薬事関連法規と制度Ⅱ	45.50	1.52														
レギュラトリーサイエンス	1.17	0.04														
科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54														
課題研究(情報収集Ⅰ)	1.17	0.04														
授業担当時間の合計	115.50	3.85														

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬物薬学科	教授						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51	
							人間と薬学Ⅰ	1.17	0.04	
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12	
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51	
							ゼミナール(2年前期)ポランティア-福祉	21.00	0.70	
							医療倫理学	31.50	1.05	
							医療薬物薬学演習Ⅱ	3.50	0.12	
							医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04	
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51	
							総合演習Ⅱ	2.33	0.08	
							総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04	
							倫理学	2.33	0.08	
							授業担当時間の合計		113.17	3.77
							医療薬物薬学科	教授		
物理化学Ⅰ	7.00	0.23								
物理薬理学	7.00	0.23								
製剤設計学	11.67	0.39								
医療薬物薬学演習Ⅱ	3.50	0.12								
医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04								
科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47								
科別英語特論Ⅱ	14.00	0.47								
薬剤学実習	◎	94.50	3.15							
薬剤学特論	院	3.00	0.10							
授業担当時間の合計		159.33	5.31							
医療薬物薬学科	准教授									
							医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12	
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54	
							総合演習Ⅱ	2.33	0.08	
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54	
							基礎有機化学実習	◎	35.00	1.17
							医薬品合成実習	◎	21.00	0.70
							創薬有機化学特論	院	1.50	0.05
							医化学特論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		112.67	3.76
医療薬物薬学科	准教授						化学系基礎演習	4.67	0.16	
							化学入門演習	4.67	0.16	
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12	
							無機化学	14.00	0.47	
							アドバンス有機化学	32.67	1.09	
							アドバンスセミナーⅣ(薬学基礎)	4.67	0.16	
							総合演習Ⅰ	15.17	0.51	
							総合演習Ⅱ	17.50	0.58	
							課題研究(情報収集Ⅱ)	4.67	0.16	
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08	
							授業担当時間の合計		103.83	3.46
医療薬物薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12	
							物理化学Ⅲ	7.00	0.23	
							製剤設計学	18.67	0.62	
							医療薬物薬学演習Ⅱ	3.50	0.12	
							科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47	
							科別英語特論Ⅱ	14.00	0.47	
							課題研究(情報収集Ⅲ)	1.17	0.04	
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08	
							薬剤学実習	◎	101.50	3.38
							薬剤学特論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		167.17	5.57
医療薬物薬学科	准教授						基礎情報学演習Ⅰ	60.67	2.02	
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12	
							科別英語特論Ⅰ	2.33	0.08	
							科別英語特論Ⅱ	2.33	0.08	
							課題研究(問題解決 PBL-T)	21.00	0.70	
							漢方薬物学実習	◎	63.00	2.10
							天然医薬品化学実習	◎	70.00	2.33
							薬剤学実習	◎	101.50	3.38
授業担当時間の合計		324.33	10.81							
医療薬物薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12	
							生化学Ⅲ	15.17	0.51	
							代謝生化学	16.33	0.54	
							科別英語特論Ⅰ	2.33	0.08	
							科別英語特論Ⅱ	2.33	0.08	
							課題研究(問題解決 PBL-T)	17.50	0.58	
							薬学アップデート	12.83	0.43	
							生化学実習	◎	105.00	3.50
							病態生理学・薬物安全性学実習	◎	105.00	3.50
授業担当時間の合計		280.00	9.33							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾
医療薬物薬学科	准教授						細胞生物学	5.83	0.19
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							生化学Ⅰ	2.33	0.08
							基礎生物学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	116.67	3.89
医療薬物薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							有機化学Ⅲ	15.17	0.51
							有機化学Ⅳ	15.17	0.51
							医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							基礎有機化学実習	◎ 35.00	1.17
							有機化学実習	◎ 21.00	0.70
							創薬有機化学特論	院 4.50	0.15
							授業担当時間の合計	129.33	4.31
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
数学Ⅰ	72.33	2.41							
数学Ⅱ	15.17	0.51							
数学を巡る世界	15.17	0.51							
基礎統計学	15.17	0.51							
線型代数学	15.17	0.51							
授業担当時間の合計	136.50	4.55							
医療薬物薬学科	准教授						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							分析化学	15.17	0.51
							機器分析学	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							課題研究(情報収集Ⅱ)	4.67	0.16
							物理化学・分析化学実習	◎ 42.00	1.40
							分析化学実習	◎ 35.00	1.17
							臨床分析化学特論	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	148.83	4.96
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
有機化学Ⅰ	15.17	0.51							
有機化学Ⅱ	16.33	0.54							
医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12							
科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58							
科別英語特論Ⅱ	35.00	1.17							
基礎有機化学実習	◎ 35.00	1.17							
医薬品合成実習	◎ 42.00	1.40							
創薬有機化学特論	院 1.50	0.05							
医化学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	171.00	5.70							
医療薬物薬学科	准教授						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							生物学	7.00	0.23
							バイオ医薬品	7.00	0.23
							実用薬学英語	1.17	0.04
							医療薬物薬学特論Ⅰ	1.17	0.04
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							課題研究(情報収集Ⅳ)	2.33	0.08
							生化学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	172.67	5.76
医療薬物薬学科	准教授(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							病氣とくすり	4.67	0.16
							ゼミナール(2年後期)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年後期)IPE	10.50	0.35
							科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58
							実務実習事前学習Ⅰ	7.00	0.23
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10
							総合演習Ⅱ	1.17	0.04
							総合薬学演習Ⅱ	1.17	0.04
							実務実習事前実習	◎ 189.00	6.30
							授業担当時間の合計	301.00	10.03
医療薬物薬学科	講師(実務)						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							臨床薬学概論	2.33	0.08
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							実務実習事前学習Ⅰ	5.83	0.19
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10
							科別英語特論Ⅱ	9.17	0.31
							課題研究(問題解決 PBL-T)	19.83	0.66
							実務実習事前実習	◎ 231.00	7.70
授業担当時間の合計	349.83	11.66							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾
医療薬物薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年後期)	17.50	0.58
							薬理学Ⅲ	14.00	0.47
							薬理学Ⅳ	11.67	0.39
							応用薬物学	5.83	0.19
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							薬理学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	190.17	6.34
							医療薬物薬学科	講師(実務)	
臨床薬学概論	3.50	0.12							
科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54							
課題研究(医療の最前線Ⅰ)	7.00	0.23							
実務実習事前学習Ⅰ	7.00	0.23							
実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10							
科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54							
専門薬剤師特論Ⅱ	3.50	0.12							
総合薬学演習Ⅰ	1.17	0.04							
実務実習事前実習	◎ 189.00	6.30							
授業担当時間の合計	310.33	10.34							
医療薬物薬学科	講師						化学系基礎演習	4.67	0.16
							化学入門演習	4.67	0.16
							基礎分析化学集中講義	1.17	0.04
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							無機化学	9.33	0.31
							アドバンスゼミナールⅣ(薬学基礎)	4.67	0.16
							科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47
							総合演習Ⅱ	47.83	1.59
							課題研究(情報収集Ⅱ)	7.00	0.23
							授業担当時間の合計	96.83	3.23
医療薬物薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							有機化学Ⅱ	3.50	0.12
							医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	17.50	0.58
							科別英語特論Ⅱ	35.00	1.17
							基礎有機化学実習	◎ 35.00	1.17
							医薬品合成実習	◎ 42.00	1.40
							授業担当時間の合計	140.00	4.67
医療薬物薬学科	講師						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51
							漢方薬物学Ⅱ	2.33	0.08
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							天然医薬品化学実習	◎ 70.00	2.33
							授業担当時間の合計	136.50	4.55
							医療薬物薬学科	講師	
ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51							
科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47							
科別英語特論Ⅱ	14.00	0.47							
薬剤学実習	◎ 101.50	3.38							
薬剤学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	149.67	4.99							
医療薬物薬学科	講師						細胞生物学	1.17	0.04
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							生化学Ⅰ	1.17	0.04
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							基礎生物学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	126.00	4.20
医療薬物薬学科	助教						人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							植物薬品学	15.17	0.51
							医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅱ	4.00	0.13
							天然医薬品化学実習	◎ 70.00	2.33
							生薬学特論	院 3.00	0.10
							授業担当時間の合計	99.17	3.31
医療薬物薬学科	助教						一般化学	15.17	0.51
							基礎化学	15.17	0.51
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							基礎有機化学実習	◎ 35.00	1.17
医薬品合成実習	◎ 21.00	0.70							
授業担当時間の合計	126.00	4.20							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
医療薬物薬学科	助教(実務)						ゼミナール(1年後期)	15.17	0.51
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							人間と薬学Ⅱ(介助)	9.33	0.31
							ゼミナール(2年後期)	15.17	0.51
							ゼミナール(2年前期)	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							臨床漢方薬物学	5.83	0.19
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							授業担当時間の合計	96.83	3.23
							医療薬物薬学科	助教	
機器分析学	15.17	0.51							
医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12							
科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51							
科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51							
物理化学・分析化学実習	◎ 42.00	1.40							
分析化学実習	◎ 35.00	1.17							
臨床分析化学特論	院 1.50	0.05							
授業担当時間の合計	131.00	4.37							
医療薬物薬学科	助教								
							人間と薬学Ⅰ(SGD)	3.50	0.12
							生化学Ⅰ	1.17	0.04
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							基礎生物学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	126.00	4.20
医療薬物薬学科	助教						医療薬物薬学演習Ⅰ	3.50	0.12
							科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							物理化学・分析化学実習	◎ 42.00	1.40
							分析化学実習	◎ 35.00	1.17
							臨床分析化学特論	院 1.50	0.05
							授業担当時間の合計	112.33	3.74
医療薬物薬学科	助教(実務)						実務実習事前学習Ⅰ	3.50	0.12
							実務実習事前学習Ⅱ	63.00	2.10
							実務実習事前実習	◎ 273.00	9.10
							授業担当時間の合計	339.50	11.32
医療薬物薬学科	助教						科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
							科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
							生化学実習	◎ 105.00	3.50
							授業担当時間の合計	135.33	4.51
医療薬物薬学科	助教						科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54
							科別英語特論Ⅱ	16.33	0.54
							基礎有機化学実習	◎ 35.00	1.17
							有機化学実習	◎ 21.00	0.70
							授業担当時間の合計	88.67	2.96

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間(実働時間)の時間数を、以下に従ってご記入ください(小数点以下2桁まで)。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 6) 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況(続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当たり授業時間															
医療衛生薬学科	助手	[Redacted Name]					基礎分析化学集中講義	2.33	0.08															
							ゼミナール(2年前期)	12.83	0.43															
							医療衛生薬学演習Ⅰ	17.50	0.58															
							科別英語特論Ⅰ	14.00	0.47															
							分析化学実習	◎	70.00	2.33														
医療衛生薬学科	助手						[Redacted Name]					医療衛生薬学演習Ⅱ	15.17	0.51										
												医療衛生薬学特論Ⅰ	3.50	0.12										
												科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51										
												科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51										
												薬理学実習	◎	98.00	3.27									
医療衛生薬学科	助手											[Redacted Name]					科別英語特論Ⅰ	16.33	0.54					
																	生化学実習	◎	105.00	3.50				
医療薬学科	助手																[Redacted Name]					医薬情報演習	35.00	1.17
																						医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
																						科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
		科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51																				
医療薬学科	助手	[Redacted Name]																				医療薬学演習Ⅰ	14.00	0.47
																						科別英語特論Ⅰ	15.17	0.51
																						科別英語特論Ⅱ	15.17	0.51
																						微生物・免疫学実習	◎	42.00
							実務実習事前実習	◎	14.00	0.47														
医療薬物薬学科	助手						[Redacted Name]																	

医療薬物薬学科	助手		科別英語特論Ⅰ		16.33	0.54
			科別英語特論Ⅱ		16.33	0.54
			薬理学実習	◎	105.00	3.50
医療薬物薬学科	助手		科別英語特論Ⅰ		15.17	0.51
			科別英語特論Ⅱ		15.17	0.51
			生化学実習	◎	105.00	3.50
医療薬物薬学科	助手		科別英語特論Ⅰ		17.50	0.58
			科別英語特論Ⅱ		35.00	1.17
			基礎有機化学実習	◎	35.00	1.17
		医薬品合成実習	◎	42.00	1.40	

[注] 担当時間数などの記入については（基礎資料7）の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員（基礎資料5の表2）が担当する薬学科（6年制）の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任 年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した 週当り授業時間
		該当者なし							

[注] 担当時間数などの記入については（基礎資料7）の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	442名
5年生の在籍学生数	415名
6年生の在籍学生数	467名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	生体分析化学教室	4	17	15	14	46	197.0
2	分析化学教室	4	6	11	11	28	254.0
3	天然医薬品化学講座	2	0	1	11	12	197.0
4	機能形態学教室	4	9	11	17	37	197.0
5	薬品化学教室	4	14	10	14	38	197.0
6	薬化学教室	4	11	13	14	38	200.0
7	生化学教室	3	6	14	12	32	259.5
8	応用生化学教室	4	13	10	14	37	201.0
9	免疫学教室	3	10	6	12	28	197.0
10	臨床微生物学教室	3	9	11	15	35	190.0
11	衛生化学教室	3	10	12	11	33	197.0
12	薬物代謝分子毒性学教室	4	13	10	13	36	197.0
13	薬物送達学教室	3	14	10	13	37	197.0
14	薬物動態制御学教室	3	9	12	11	32	197.0
15	分子細胞病態薬理学教室	3	9	10	12	31	259.5
16	内分泌薬理学教室	4	14	10	13	37	250.5
17	病態生化学教室	4	17	15	18	50	200.0
18	公衆衛生学教室	4	15	14	14	43	197.0
19	漢方資源応用学教室	4	15	13	14	42	200.0
20	病態生理学教室	4	16	10	17	43	254.0
21	創剤科学教室	3	10	8	8	26	200.0
22	薬品製造学教室	3	6	5	10	21	201.0
23	分子生物物理学教室	3	1	0	8	9	197.0
24	生物分子有機化学講座	3	6	6	12	24	197.0
25	薬学基礎教育センター 第2英語研究室	1	4	3	3	10	43.0
26	個別化薬物治療学教室	4	8	12	8	28	217.0
27	臨床薬理学教室	3	11	10	14	35	198.0
28	社会薬学教育センター 社会薬学研究室	1	3	4	4	11	72.0
29	臨床医療薬学センター	2	4	8	9	21	75.0
30	臨床薬効解析学教室	4	12	12	12	36	250.5
31	一般用医薬品学教室	2	7	7	5	19	77.5
32	薬学基礎教育センター 第3英語研究室	1	3	0	3	6	43.0
33	薬学基礎教育センター 第4英語研究室	1	4	3	0	7	43.0
34	医療実務薬学教室	3	10	11	10	31	138.5
35	薬学基礎実習教育センター	6	23	19	11	53	606.0
36	薬学実務実習教育センター	11	43	31	27	101	160.0
37	薬学教育推進センター	7	26	25	25	76	278.0
38	臨床薬剤学教室	3	10	11	8	29	110.0
39	医薬品安全管理学教室	3	10	11	11	32	120.0
40	社会薬学教育センター 薬事関係法規研究室	1	4	4	4	12	72.0
41	社会薬学教育センター 生命・医療倫理学研究	1	4	4	4	12	72.0
42	薬用植物園	1	6	3	1	10	54.0
	合計	139	442	415	467	1324	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生体分析化学教室	職名 教授	氏名 柳田 顕郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2018 年以前～ 現在 2018 年以前～ 2020 年 2020 年～現在 2018 年以前～ 現在 2018 年以前～ 現在 2018 年以前～ 現在 2018 年以前～ 現在 2018 年以前～ 現在	1) <u>1 年前期「化学平衡論」講義</u> ： 2) <u>1 年後期「分析化学」講義</u> ： 3) <u>2 年前期「機器分析学」講義</u> ： 4) <u>2 年前期「物理系実習Ⅰ／分析化学実習</u> ： 5) <u>2 年後期「物理系実習Ⅱ／物理化学・分析化学実習</u> ： 6) <u>4 年前期「医療薬物薬学特論Ⅰ／創薬概論</u> ： 7) <u>4 年前期「医療薬物薬学演習Ⅰ-i 医薬品創製と基礎（物理・化学系）」</u> ： 8) <u>4 年前期「総合演習Ⅱ／ゾーン1（物理系薬学）」</u> ： 9) <u>大学院薬学研究科薬学専攻博士課程／臨床分析化学特論</u> ： 10) <u>大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程／薬品分析化学特論</u> ：	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019 年 8 月 30 日 2018 年以前～ 現在	・主に上記 2, 3) 用の教材として下記問題集を作成した。 → 「薬学生のための分析化学問題集（共著）廣川書店」 ・各科目では以下の教材を作成し、毎年更新・ブラッシュアップしている。 1) 講義スライド (ppt/毎コマ)、課題レポート (pdf/毎コマ、2020 年度から) 2) 講義スライド (ppt/毎コマ) 3) 講義スライド (ppt/毎コマ)、課題レポート (pdf/毎コマ) 4) 実習説明用スライド、動画、課題レポート 5) 実習説明用スライド、動画、課題レポート 6) 講義スライド、課題レポート 7) 演習用課題プリント、演習説明用スライド 8) 演習説明用スライド	

		9、10) 講義スライド、課題レポート	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年以前～ 現在 2018年以前～ 2019年 2019～2020年 2019年～現在 2021年～	<ul style="list-style-type: none"> ・4年 OSCE 評価者 ・5年実務実習(薬局)コーディネーター ・人間と薬学運営委員会/委員 ・カリキュラムマネジメント委員会/委員 ・薬学研究科幹事会/委員 ・(薬学部)講義取り纏め(物理系薬学)/調整窓口 ・自己点検・評価内部質保証実施委員会/委員 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 多品目の薬物を対象とする病院内での血中濃度測定のための実用的な HPLC 分析法の開発	共著	2019年7月	分析化学, 68, 473-481 (2019)
(論文) Analysis of Complexation Interactions between Metal Ion and Drugs under Pseudo-physiological pH Conditions by a High-throughput Screening Method Using a Solid-phase Extraction Cartridge	共著	2020年〇月	Anal Sci, 36, 709-715 (2020)
(論文) Optimization of Analytical Procedure for In-hospital Rapid Quantification of Serum Level of Favipiravir in the Pharmacological Treatment of COVID-19	共著	2021年〇月	Anal Sci, 37, 1301-1304 (2021)
(論文) Evaluated blood favipiravir levels are inversely associated with ferritin levels and induce the evaluation of uric acid levels in COVID-19 treatment: A retrospective single-center study	共著	2022年1月	J Infect Chemother, 28, 73-77 (2022)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
HPLC 分析と救命救急センターの使用状況に基づくアミオダロン注射剤の安定性評価と多剤との配合評価		2022年8月	第8回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム

濁度を指標とした3剤配合変化試験に基づく配合変化情報提供による医療安全対策	2022年9月	日本医療薬学会第32回年会
出芽酵母ゲノムにおけるセントロメア特異的ヌクレオソームの分子構築：in vivo ケミカルマッピングによる解析	2022年12月	第45回日本分子生物学会年会
出芽酵母のリボソームタンパク質遺伝子におけるHMGホモログHmo1の結合とヌクレオソームポジショニングとの関連	2022年12月	第45回日本分子生物学会年会
In vivo ケミカルマッピングによる出芽酵母ゲノムにおけるヒストンH1ホモログHho1のDNA結合部位の解析	2022年12月	第45回日本分子生物学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年度以前～現在	クロマトグラフィー科学会 評議員	
2018年度以前～現在	新アミノ酸分析研究会 幹事	
2018年度以前～2019年7月31日	日本薬学会関東支部 奨励賞選考委員	
2018年4月～2020年3月	日本薬学会物理系薬学部会 世話人	
2018年4月～現在	日本薬学会物理系薬学部会・バイオメディカル分析科学シンポジウム(BMAS) 世話人	
2018年4月～2019年3月	日本分析化学会 2018年度学会功労賞・技術賞審査委員	
2021年9月2日～2022年9月3日	第34回 バイオメディカル分析科学シンポジウム(BMAS) 実行委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生体分析化学教室	職名 准教授	氏名 東海林 敦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
「機器分析学」講義に関する工夫	2018年度 ～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・分析機器の装置概略を単なる暗記ではなく、理解してもらうために、必要に応じて、簡単な実験をまとめた動画やスライドを活用しながら解説した。 ・分析化学で重要な、「感度」「精度」「真度(確度)」を担保するために、どのような工夫が機器分析に必要なのかを強調した講義スライドを作成した。 ・講義スライドは一目で理解できるようにイラストを多用した。 ・講義内容の理解を深めることを目的として、オリジナルの動画を配信した。 ・実際に講義で取り扱った分析機器が、産業レベルでどのように活用されているかなど、講義で取り扱うことのない内容に関して関心を示してほしいことから、機器分析メーカーの youtube 動画を紹介した。 ・学生の知識を定着させるために、講義内容の重要箇所を学生自身でまとめることを目的としたレポートを課した。 ・2019年度より、定期試験の再試験を通じて、学生に講義内容を理解してほしいと考え、3～5日間で何度も試験を受験できるようにした(90点以上を合格とした)。 	
「分析化学」の講義について	2019年度 ～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・講義スライドは一目で理解できるようにイラストを多用した。 ・講義内容の理解を深めることを目的として、オリジナルの動画を配信した。 ・2019年度より、定期試験の再試験を通じて、学生に講義内容を理解してほしいと考え、3～5日間で何度も試験を受験できるようにした(90点以上を合格とした)。 	
「分析化学実習」「物理化学・分析化学実習」の講義について	2018年度 ～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・予習動画を配信することで、学生の実技に割り当てる時間を十分に確保するとともに、学生に対する教員の実技指導を充実させた。 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度 ～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料を自作および配布した。また、分析装置を自作し講義時に回覧した。 ・動画を撮影・編集し、youtube を利用して配信した。 ・イラストを多用した講義スライドを作成した。 	

3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		卒論指導では、英語論文を含めた必要な情報の検索方法、発表スライドの作成方法、プレゼンテーションの仕方等、卒業した後も習得したスキルを活かせるように、熱心に指導した。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	Development of a surface plasmon resonance sensor using an optical fiber prepared by electroless displacement gold plating and its application to immunoassay	共著	2022年4月 Talanta, 240, 123162.
	A Measurement Method for Cytochrome P450 3A4 (CYP3A4)-mediated Oxidation of Cholesterol in Lipid Membranes	共著	2022年3月 Sens. Mater., 34, 951-960
	Film-Thickness-Controllable System for Preparing Silver Nanofilms through Absorbance Monitoring of the Thickness during a Silver-Mirror Reaction	共著	2021年4月 Anal. Sci., 2021, 37, 625-631
	Quantification of CRP in human serum using a handheld fluorescence detection system for capillary-based ELISA	共著	2021年3月 Talanta, 224, 121725
	Real-time assay for exosome membrane fusion with an artificial lipid membrane based on enhancement of gramicidin A channel conductance	共著	2020年2月 Biosens. Bioelectron., 150, 111918.
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月 学会名
	Single-cell analysis for measuring intracellular RuBisCO using a cell puncture type immunosensor		2022年7月 The 8th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
	生体膜デザインに基づくバイオセンシング		2022年7月 日本化学会関東支部栃木地区講演会
	生体膜を利用するバイオセンシング		2022年11月 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第22回高山フォーラム
	(演題名) ○○○○		
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年	第32回 バイオメディカル分析科学シンポジウム 若手シンポジウムオー		

	ガナイザー
2019年	日本分析化学会第68年会 実行委員
2019年	日本分析化学会関東支部若手交流会 実行委員長
2020年～2021年	sensors and Materials, special issue on Film and Membrane Sciences, guest editor
2020年～現在	分析イノベーション交流会副実行委員長
2020年～現在	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) 専門調査員
2020年～現在	分析化学会関東支部常任幹事
2020年～現在	分析イノベーション交流会副実行委員長
2020年～現在	ものづくり技術交流会副実行委員長
2020年～現在	ぶんせき誌編集幹事
2020年～現在	生体膜デザインコンフェレンス 代表
2020年～2021年	分析化学誌編集理事
2020年～2021年	日本分析化学会理事
2021年～現在	Membranes, Special Issue "Functional Analysis and Applications of Membrane Lipids" guest editor
2022年	バイオメディカル分析科学シンポジウム 2022 実行委員、若手シンポジウム オーガナイザー
2022年	日本分析化学会 2022年度役員等候補者選考委員
2022年～現在	分析化学誌編集幹事
2022年～現在	日本薬学会物理系薬学若手世話人
2022年～現在	日本分析化学会広報委員会委員長
...	日本薬学会会員※

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生体分析化学教室	職名 助教	氏名 森岡 和大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年度以前 ～現在 2021～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・分析化学に関する講義内容を深く理解してもらうために、自作の分析装置を講義に取り入れることで、実際の装置を見て理解を深められるよう工夫した。 ・動画(簡単な実験を含む)や授業支援システム「WebClass」を有効活用し、学習効果の高い非同期オンライン講義を行った。 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度以前 ～現在 2021～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料を自作および配布した。また、分析装置を自作し講義時に回覧した。 ・動画を撮影・編集し、youtube を利用して配信した。 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021～現在	卒論指導では、英語論文を含めた必要な情報の検索方法、発表スライドの作成方法、プレゼンテーションの仕方等、卒業した後も習得したスキルを活かせるように、熱心に指導した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Development of an On-chip Sample Injection System with a 6-Port Valve Incorporated in a Microchip	共著	2020年9月	RSC Adv., 10, 35848-35855
Development of Portable Fluorescence Microplate Reader Equipped with Indium Tin Oxide Glass Heater for Loop-mediated Isothermal Amplification	共著	2021年1月	Sens. Mater., 34, 971-985
Quantification of GRP in human serum using a handheld fluorescence detection system for capillary-based ELISA	共著	2021年3月	Talanta, 224, 121725
Development of a Simple ELISA System Using a Jungle Gym Structure as an Antibody-Immobilization Substrate	共著	2021年12月	Bunseki Kagaku, 70, 721-728
Development of a fluorescence microplate reader using an organic	共著	2022年2月	Talanta, 238, 122994

photodiode array with a large light receiving area		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
Development of on-chip sample injection system with a 6-port valve for micro-flow-injection analysis	2022年7月	The 8th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
産官学連携で推し進める“その場”分析技術・デバイスの開発	2022年9月	第34回 バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS 2022)
3D プリント構造体を用いるその場分析デバイスの開発	2022年9月	日本分析化学会第71年会
A novel quantitative method based on on-chip flow rate measurement	2022年10月	The 26th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences (MicroTAS 2022)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2018年～現在	日本分析化学会会員	
2018年～現在	日本薬学会会員	
2018年4月～2020年3月	日本分析化学会関東支部幹事	
2020年4月～現在	日本分析化学会関東支部若手の会幹事代表	
2021年4月～現在	日本分析化学会関東支部幹事	
2021年5月～現在	日本化学会会員	
2022年4月～現在	化学とマイクロ・ナノシステム学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生体分析化学教室	職名 助教	氏名 守岩友紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021～現在	・分析化学に関する講義内容を深く理解してもらうために、動画やイラストを自作し理解を促進した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021～現在	課題レポートや、授業資料を授業支援システム「WebClass」に掲載することで、授業の理解を生徒自身で深められるようにした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021～現在	卒論指導では、研究に取り組むうえで必要となる、必要な情報の検索、発表資料の作成、プレゼンテーション能力を向上させる指導に努めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Development of a Colorimetric Assay for Quantification of Favipiravir in Human Serum Using Ferrihydrite	共著	2022年8月	In press
(論文) Development of a Rapid Screening Method for Detecting Drugs-metal Ions Interaction Using Ion Selective Electrode	共著	2022年1月	BUNSEKI KAGAKU, 71, 69-75.
(論文) Optimization of Analytical Procedure for In-hospital Rapid Quantification of Serum Level of Favipiravir in the Pharmacological Treatment of COVID-19.	共著	2021年9月	Anal. Sci., 37, 1301-1304.
(論文) Analysis of Complexation Interactions between Metal Ions and Drugs under Pseudo-physiological pH Conditions by a High-throughput Screening Method Using a Solid-phase Extraction Cartridge.	共著	2020年6月	Anal. Sci., 36, 709-715.

(論文) Development of a Practical HPLC Method for In-hospital Quantitation of Various Medicinal Drugs at Blood Levels	共著	2019年7月	BUNSEKI KAGAKU, 68, 473-481.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Development of colorimetric sensor using microparticles		2022年11月	International Congress on Pure & Applied Chemistry
(演題名) ペルオキシダーゼ様活性を有する高分子修飾シリカマイクロビーズ		2022年10月	第27回高分子分析討論会
(演題名) 粒子を用いる比色センサーによる血中薬物濃度定量		2022年9月	第19回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム
(演題名) フェリハイドライトを利用した血清中のファビピラビルの比色定量法の開発		2022年9月	第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム
(演題名) HPLC 分析と救命救急センターの使用状況に基づくアミオダロン注射剤の安定性評価と他剤との配合評価		2022年8月	第8回 次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本分析化学会会員		
2018年～現在	日本薬学会会員※		
2021年～現在	プラズマ分光分析研究会会員		
2021年～現在	クロマトグラフィー科学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分析化学	職名 教授	氏名 袴田 秀樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・実習説明のオンライン化 ・演習(ゼミナール)のプロダクトの学生間評価	2021年4月～ 2020年4月～	分析化学実習の分析原理、手技、データ整理等に関する実習説明を全てオンライン化した。予習の上で実習に臨むと、実習室では実験に集中でき、学生評価は良好であった。演習のプロダクトファイル(word, powerpoint)の学生間評価と、評価コメントのプロダクトへの反映を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・コアカリ対応分析化学第4版(今井、荒川、小林編・丸善書店)	2022年1月	定性試験と定量の基礎の一部を分担執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・FD研修会への参加	2018年度以前～現在	・大学主催のFD研修会へ参加し、教育活動へ成果を役立てた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Determination of Phenolic Compounds in Beverages by Three-Flow Channel Isocratic HPLC with Electrochemical Detections Using a Column-Switching Technique	共著	2022年1月	Chem Pharm Bull (Tokyo), 70:43-49
(論文) Effects of sampling rate and noise filter processing on repeatability assessment in UHPLC with ultraviolet detection based on the ISO 11843-7	共著	2022年1月	Anal Sci, 38:183-189
(論文) Psychological barriers to the use of opioid analgesics for treating pain in patients with advanced recurrent cancer (BAROC): protocol for a multicentre cohort study	共著	2022年3月	BMJ Open, 12:e054914

(論文) Supercritical fluid chromatography with post-column addition of supporting electrolyte solution for electrochemical determination of tocopherol and tocotrienol isomers	共著	2022年5月	J Sep Sci, 45:1797-1805
(論文) Chemometric evaluations of repeatability and detection limit in high-performance liquid chromatography with electrochemical detection	共著	2022年6月	J Chromatogr A, 1673:463075
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ISO 11843-7 を利用した LC-MS/MS の測定精度の評価		2022年5月	第82回分析化学討論会
(演題名) 日局カシュウ中のエモジン定量のための電気化学検出 HPLC		2022年5月	第82回分析化学討論会
(演題名) HPLC-MS 法による細胞培養液中の脂肪酸含量のモニタリング		2022年9月	第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS 2022)
(演題名) 余剰酸のポルタンメトリーで検出可能な弱塩基性物質の探査		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) UV 検出超臨界流体クロマトグラフィーによるアスピリンとサリチル酸の高速分離		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) 炭素繊維電極を用いるコレステロールの電極酸化反応の解析		2022年9月	日本分析化学会第70年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
1998年4月～現在	日本動脈硬化学会 評議員		
2015年4月～現在	(独) 医薬品医療機器総合機構 専門委員		
2015年4月～現在	日本薬学会 関東支部 幹事		
2015年4月～2019年3月、2021年4月～現在	日本薬学会 代議員		
2017年4月～2020年3月	日本薬学会 Chem Pharm Bull 編集委員		
2018年4月～2019年3月	日本分析化学会 代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分析化学	職名 准教授	氏名 小谷 明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・PBL 教育のオンライン実施 ・能動的学習の促進	2020年11月～ 2020年4月～	Zoom、WebClass、Google Workspace を活用し、TDM と分析化学を学習題材にする PBL 教育を全てオンライン化した。1, 2 年次の科目では各授業後、ポイントを理解させるための復習問題を WebClass に提供した。また、オンラインで学生が意見交換できる場として、レポートの相互評価を学生に行わせた。授業評価では好評であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・薬学生のための分析化学問題集(四宮一総編・廣川書店)	2019年	化学平衡、容量分析、純度試験の一部を分担執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む) ・FD 研修会への参加	2018年度以前～現在	大学主催の FD 活動に積極的に参加し、その成果を授業や学生指導の改善に活かした。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Determination of Ceftriaxone Concentration in Human Cerebrospinal Fluid by High-performance Liquid Chromatography with UV Detection	共著	2019年8月	J Chromatogr B, 1124:161-164
(論文) An automated assessment system of limits of detection and quantitation in gradient high-performance liquid chromatography with ultraviolet detection	共著	2020年6月	J Chromatogr A, 1613:461077
(論文) A simple method for daily inspections of gas chromatography-mass spectrometry systems with a detection limit as an indicator	共著	2021年11月	J Chromatogr A, 1657:462570
(論文) Effects of sampling rate and noise filter processing on	共著	2022年1月	Anal Sci, 38:183-189

repeatability assessment in UHPLC with ultraviolet detection based on the ISO 11843-7			
(論文) Chemometric evaluations of repeatability and detection limit in high-performance liquid chromatography with electrochemical detection	共著	2022年6月	J Chromatogr A, 1673:463075
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ISO 11843-7 を利用した LC-MS/MS の測定精度の評価		2022年5月	第82回分析化学討論会
(演題名) 日局カシュウ中のエモジン定量のための電気化学検出 HPLC		2022年5月	第82回分析化学討論会
(演題名) HPLC-MS 法による細胞培養液中の脂肪酸含量のモニタリング		2022年9月	第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム(BMAS 2022)
(演題名) 炭素繊維電極を用いるコレステロールの電極酸化反応の解析		2022年9月	日本分析化学会第70年会
(演題名) 余剰酸のポルタンメトリーで検出可能な弱塩基性物質の探査		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) UV 検出超臨界流体クロマトグラフィーによるアスピリンとサリチル酸の高速分離		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) エルゴステロール- <i>d</i> ₁ 及びブラジカステロール- <i>d</i> ₁ の合成と LC-MS/MS によるラット血中濃度測定		2022年11月	第9回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム
(演題名) 脳卒中易発症高血圧ラットに投与した重水素標識エルゴステロールの血中動態の解析		2022年12月	第4回生体膜デザインコンファレンス
(演題名) 酸性物質の定量に適用できるハイドロゲル電極の試作		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) セフトリアキソン脳症が疑われた患者における髄液及び血中セフトリアキソンの HPLC による測定		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年5月	日本分析化学会 第分析化学討論会 実行委員		
2020年4月～現在	日本薬学会 編集委員会 委員		
2018年4月～2022年3月	日本分析化学会 Analytical Sciences 誌 編集委員会 委員		
2019年4月～2021年3月	日本分析化学会関東支部 常任幹事		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分析化学教室	職名 助教	氏名 山本法央
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度～現在	講義は、学習すべき内容をまとめた PowerPoint 資料等を用いて視覚的に理解できるように工夫した。LMS (WebClass) を活用して講義資料を公開することで予習・復習し易い環境を整え、講義内容毎に小テストを実施するなど、学習者の理解度を確認できるように取り組んだ。また、一部の演習においては、スモールグループディスカッション (SGD) や相互評価などを取り入れることによって主体的な学修を促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度～現在	講義資料として、PowerPoint 資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	該当なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2018 年度～現在	大学で開催した FD 講演会を聴講した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Electrochemical Detection of Tocopherols in Vegetable Oils by Supercritical Fluid Chromatography Equipped with Carbon Fiber Electrodes	共著	2018 年 9 月	Anal. Methods, 10, 4414-4418
(論文) Assessment of Repeatability in Supercritical Fluid Chromatography with Electrochemical Detection Based on the ISO 11843 Part 7	共著	2019 年 1 月	Chem. Pharm. Bull., 67, 59-63
(論文) Emerging Separation Techniques in Supercritical Fluid Chromatography	共著	2021 年 10 月	Chem. Pharm. Bull., 69, 970-975
(論文) Supercritical Fluid Chromatography with Post-column Addition of Supporting Electrolyte Solution for Electrochemical Determination of Tocopherol and	共著	2022 年 5 月	J. Sep. Sci., 45, 1979-1805

Tocotrienol isomers			
(論文) Gradient elution of hydroxyacetophenones by supercritical fluid chromatography with electrochemical detection	共著	2022年12月	Anal. Sci., in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 日局カシュウ中のエモジン定量のための電気化学検出 HPLC		2022年5月	第82回分析化学討論会
(演題名) HPLC-MS 法による細胞培養液中の脂肪酸含量のモニタリング		2022年9月	第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム(BMAS2022)
(演題名) 炭素繊維電極を用いるコレステロールの電極酸化反応の解析		2022年9月	日本分析化学会第70年会
(演題名) UV 検出超臨界流体クロマトグラフィーによるアスピリンとサリチル酸の高速分離		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) 余剰酸のポルタンメトリーで検出可能な弱塩基性物質の探査		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) エルゴステロール- α_7 及びブラ時価ステロイド α_7 の合成と LC-MS/MS によるラット血中濃度測定		2022年11月	第9回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム
(演題名) 脳卒中易発症高血圧ラットに投与した重水素標識エルゴステロールの血中動態の解析		2022年12月	第4回生体膜デザインコンファレンス
(演題名) 酸性物質の定量に適用できるハイドロゲル電極の試作		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本分析化学会関東支部若手の会幹事		
2021年3月～2022年2月	日本分析化学会関東支部幹事		
2022年5月	第82回分析化学討論会実行委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分析化学教室	職名 助手	氏名 町田 晃一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月	2年分析化学実習 実習内容について実験操作の実写ビデオを撮影・編集し、 コロナ禍の実習に役立てた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月	2年分析化学実習 実験操作に関する実写ビデオ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Electrochemical Determination of Titratable Acidity for the Discrimination of Schisandrae Chinensis Fructus and Schisandrae Sphenantherae Fructus	共著	2020年8月	Anal Sci. 36 1003-1008.
Effects of sampling rate and noise filter processing on repeatability assessment in UHPLC with ultraviolet detection based on the ISO 11843-7.	共著	2022年1月	Anal Sci. 38 183-189.
Determination of Phenolic Compounds in Beverages by Three-Flow Channel Isocratic HPLC with Electrochemical Detections Using a Column-Switching Technique	共著	2022年1月	Chem Pharm Bull (Tokyo). 70 43-49.
Supercritical fluid chromatography with post-column addition of supporting electrolyte solution for electrochemical determination of tocopherol and tocotrienol isomers	共著	2022年3月	J Sep Sci. 45 1797-1805.
Effects of digital processing on repeatability assessment of a multiple reaction monitoring liquid	共著	2022年7月	J Mass Spectrom. 57 e4877

chromatography-tandem mass spectrometry system by ISO 11843-7			
Simultaneous determination of deuterium-labeled ergosterol and brassicasterol in stroke-prone spontaneously hypertensive rats by ultra-high performance liquid chromatography-electrospray ionization-tandem mass spectrometry	共著	2022年12月	Anal Methods 36 1003-1008.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ISO 11843-7 を利用した LC-MS/MS の測定精度の評価		2022年5月	第82回分析化学討論会
日局カシュウ中のエモジン定量のための電気化学検出 HPLC		2022年5月	第82回分析化学討論会
HPLC-MS 法による細胞培養液中の脂肪酸含量のモニタリング		2022年9月	第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS 2022)
余剰酸のポルタンメトリーで検出可能な弱塩基性物質の探査		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
UV 検出超臨界流体クロマトグラフィーによるアスピリンとサリチル酸の高速分離		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
炭素繊維電極を用いるコレステロールの電極酸化反応の解析		2022年9月	日本分析化学会第71年会
エルゴステロール- d_1 及びブラジカステロール- d_1 の合成と LC-MS/MS によるラット血中濃度測定		2022年11月	第9回医薬工3大学包括連携推進シンポジウム
脳卒中易発症高血圧ラットに投与した重水素標識エルゴステロールの血中動態の解析		2022年12月	第4回生体膜デザインコンファレンス
酸性物質の定量に適用できるハイドロゲル電極の試作		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～現在	日本分析化学会 会員		
2019年4月～現在	日本薬学会 会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 天然医薬品化学講座	職名 教授	氏名 一柳幸生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年4月～ 現在	毎回講義終了後に課題を課し、その回答を査読して習熟度が不足していると判断した事項について、次回講義でフィードバックしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年8月20 日	(教科書、共著) 『パートナー天然物化学』改訂第4版、南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Design and synthesis of analogues of RA-VII-an antitumor bicyclic hexapeptide from Rubiae radix	単著	2021年4月	J. Nat. Med., vol. 75, 752-761
(論文) Lipase TL-mediated kinetic resolution of glycerol analogues: Efficient convergent route to both enantiomeric glycerol units	共著	2021年6月	Tetrahedron Lett., vol. 73, 153138
(論文) Garcinielliptone G from Garcinia subelliptica induces apoptosis in acute leukemia cells	共著	2021年9月	Molecules, vol. 26, 2422
(論文) Semisynthesis of antitrypanosomal p-quinone analog possessing the komaroviquinone pharmacophore	共著	2022年4月	Chem. Pharm. Bull., vol. 70, 300-303
(論文) Retusone A, a guaian-type sesquiterpene dimer from Wikstroemia retusa and its inhibitory effects on histone acetyltransferase HBO1 expression	共著	2022年5月	Molecules, vol. 27, 2909
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)フェニルプロパノイド単位が結合したRA系ペプチド化合物の構造		2022年9月	日本生薬学会第68回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 天然医薬品化学講座	職名 助教	氏名 蓮田 知代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年度以前 ～現在	2年植物薬品学 教科書に基づいた資料の作成、重要事項まとめプリント作成、練習問題と低正答率問題に対する補足説明資料の作成、授業内容に関するフィードバックを行う	
	2018年度以前 ～現在	3年天然医薬品化学実習 実習重要項目に対する問題の作成	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度以前 ～現在	2年植物薬品学 講義用パワーポイントファイル、授業の資料、練習問題、補足資料などの作成	
	2018年度以前 ～現在	3年天然医薬品化学実習 実習書の改訂、作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本薬学会会員、日本生薬学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

2022年12月末日現在

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	教室名 薬品化学教室	職名 教授	氏名 林 良雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2007年4月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> ・生体分子化学・医薬品化学 ・有機化学系実習 ・演習形式の講義 	
2 作成した教科書、教材、参考書	22007年4月 ～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック創薬化学 ・薬がわかる構造式集 ・現場で役に立つ!臨床医薬品化学(分担) ・化学系薬学Ⅱ(スタンダード薬学シリーズⅡ-3)(分担) ・薬学演習Ⅱ(スタンダード薬学シリーズⅡ-9)など 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年11月 26日	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議：公開シンポジウム「21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」における講演：「東京薬科大学が進める博士課程高度化への取り組み～未来医療創造人育成プログラム『BUTTOBE』のご紹介～」 	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年10月 ～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術振興機構(JST)次世代研究者挑戦的研究プログラム 東京薬科大学 未来医療創造人育成プログラム『BUTTOBE』事業統括 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Chemical synthesis of an HIV-1 protease analog with some amides in a polypeptide main chain replaced by disulfide bonds	共著	2022年6月	Bull Chem Soc Jpn. in press.
(論文) 3CL Protease Inhibitors with an Electrophilic Arylketone Moiety as Anti-SARS-CoV-2 Agents. J. Med. Chem. in press.	共著	2022年2月	J. Med. Chem. 2022, 65, 4, 2926–2939
(論文) Structural revision of natural cyclic depsipeptide MA026 established by total synthesis and biosynthetic gene cluster analysis.	共著	2021年2月	Angew. Chem. Int. Ed. 2021, 60, 8792–8797.
(論文) “On-resin” disulfide peptides synthesis with methyl 3-nitro-2-pyridinesulfenate	共著	2020年12月	Eur. J. Org. Chem. 2021, 956–963.
(論文) An Efficient Method for the Conjugation of Hydrophilic and Hydrophobic Components by Solid-Phase-Assisted Disulfide Ligation	共著	2018年2月	Angew Chem Int Ed Engl. 19; 57: 2170–2173.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

(演題名) A New Synthetic Chemistry of Cyclic Peptides for the Development of Mid-sized Peptide Drug (招待講演)	2022年8月	Frontiers in Peptide Science and Drug Discovery (School of Biological Sciences, Nanyang Technological University, Singapore) : invited talk
(演題名) SARS coronavirus 3CL protease inhibitors with an electrophilic aryl-ketone warhead (口頭発表)	2022年8月	36 th European Peptide Symposium, 12 th International Peptide Symposium (Barcelona, Spain) : oral presentation
(演題名) マイオスタチン阻害ペプチドの創製 (招待講演)	2021年12月	第7回日本筋学会学術集会
(演題名) コロナウイルス 3CL-プロテアーゼ阻害剤 YH-53 の創製と COVID-19 治療薬開発における課題 (基調講演)	2021年8月	第26回日本病態プロテアーゼ学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2018年4月以前～現在	日本薬学会・医薬化学部会常任世話人	
2018年4月以前～現在	日本薬学会・化学系薬学部会役員	
2018年4月以前～2022年3月	日本ペプチド学会理事ならびに評議員	
2021年2月～現在	Journal of Medicinal Chemistry (ACS) Editorial Advisory Board	
2021年2月～現在	日本薬学会理事	
2021年10月	第58回日本ペプチド討論会・開催世話人代表	
2022年4月～現在	日本薬学会・化学系薬学部会副部会長	
2022年4月～現在	日本ペプチド学会理事	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬品化学教室	職名 准教授	氏名 谷口 敦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～ 現在	・生体分子・医薬品の化学 ・有機化学系実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月～ 現在	・講義で使用しているパワーポイントファイル ・WebClassでの講義の配信動画及び資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	・特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年4月～ 現在	・大学主催のFDフォーラムへの参加 ・高校での模擬講義
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) An Efficient Method for the Conjugation of Hydrophilic and Hydrophobic Components by Solid-Phase-Assisted Disulfide Ligation	共著	2018年2月	Angew Chem Int Ed Engl. 19:57:2170-2173.
(論文) Inactivation of myostatin by photo-oxygenation using catalyst-functionalized peptides	共著	2019年8月	Chem Commun (Camb). 11:55:9108-9111.
(論文) 標的選択的光酸化を用いたタンパク質間相互作用の阻害戦略	単著	2020年10月	CMC出版、ファインケミカル
(論文) Development of functionalized peptides for efficient inhibition of myostatin by selective photooxygenation	共著	2021年1月	Org Biomol Chem. 6:19:199-207.
(論文) Structural Revision of Natural Cyclic Depsipeptide MA026 Established by Total Synthesis and Biosynthetic Gene Cluster Analysis	共著	2021年4月	Angew Chem Int Ed Engl. 12:60:8792-8797.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Development of peptide-photooxygenation catalyst conjugates for myostatin inactivation		2022年8月	36 th European Peptide Symposium, 12 th International Peptide Symposium
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月以前～現在	日本薬学会会員		
2018年4月以前～現在	日本ペプチド学会会員		
2018年4月以前～現在	日本ケミカルバイオロジー学会会員		

2021年4月～2023年3月	日本薬学会代議員
2022年8月	第54回日本ペプチド学会若手夏の勉強会世話人

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬品化学教室	職名 講師	氏名 田口 晃弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～ 現在	・生体分子・医薬品の化学 ・有機化学系実習	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年4月～ 現在	・講義で使用しているパワーポイントファイル ・WebClassでの講義の配信動画及び資料	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	・特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年4月～ 現在	・大学主催のFDフォーラムへの参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) An Efficient Method for the Conjugation of Hydrophilic and Hydrophobic Components by Solid-Phase-Assisted Disulfide Ligation	共著	2018年2月	Angew Chem Int Ed Engl. 19:57:2170-2173.
(論文) Disulfide-driven cyclic peptide synthesis of human endothelin-2 with a solid-supported Npys-Cl	共著	2019年12月	J. Org. Chem. 2020, 85, 1495-1503
(論文) "On-resin" disulfide peptides synthesis with methyl 3-nitro-2-pyridinesulfenate	共著	2020年12月	Eur. J. Org. Chem. 2021, 956-963.
(論文) Influence of novel readthrough agents on myelin protein zero translation in the peripheral nervous system	共著	2022年6月	Neuropharmacology 2022, 211, 109059.
(論文) Chemical synthesis of an HIV-1 protease analog with some amides in a polypeptide main chain replaced by disulfide bonds	共著	2022年6月	Bull Chem Soc Jpn. in press.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Development of Water-soluble Npys Derivative and Application of Efficient Synthesis of Cyclic Disulfide Peptide		2022年8月	36 th European Peptide Symposium, 12 th International Peptide Symposium
(演題名) ジスルフィド形成を基盤とした新規中分子ペ		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会

プチド合成法の開発		
(演題名) 水溶性 Npys 誘導体のジスルフィド形成反応を利用した環状ペプチドの効率的合成法の開発	2022年11月	第48回反応と合成の進歩シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2018年4月以前～現在	日本薬学会会員	
2019年5月～現在	日本薬学会化学系薬学部会員	
2018年4月以前～現在	日本薬学会医薬化学部会員	
2018年4月以前～現在	日本ペプチド学会会員	
2018年4月以前～現在	日本ケミカルバイオロジー学会会員	
2020年5月～現在	有機合成化学協会会員	
2022年8月	第54回若手ペプチド夏の勉強会世話人	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬品化学教室	職名 助教	氏名 今野 翔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年4月～ 現在	・有機化学系実習	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月～ 現在	・講義で使用しているパワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	・特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年4月～ 現在	・大学主催のFDフォーラムへの参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Trapping the Complex Molecular Machinery of Polyketide and Fatty Acid Synthases with Tunable Silylcyanohydrin Crosslinkers	共著	2018年12月	Angew. Chem. Int. Ed. 57, 17009-17013.
(論文) Structural Revision of Natural Cyclic Depsipeptide MA026 Established by Total Synthesis and Biosynthetic Gene Cluster Analysis	共著	2021年4月	Angew. Chem. Int. Ed. 60, 8792-8797.
(論文) Inhibition of efflux pumps aids small-molecule probe-based fluorescence labeling and imaging in the Gram-negative bacterium Escherichia coli	共著	2021年10月	Org. Biomol. Chem. 19, 8906-8911.
(論文) Chemoproteomics profiling of surfactin-producing nonribosomal peptide synthetases in living bacterial cells	共著	2022年1月	Cell Chem. Biol. 29, 145-156.
(論文) 3CL Protease Inhibitors with an Electrophilic Arylketone Moiety as Anti-SARS-CoV-2 Agents	共著	2022年2月	J. Med. Chem. 65, 2926-2939.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

2020年4月～現在	日本薬学会会員
2020年4月～現在	日本薬学会医薬化学部会会員
2020年4月～現在	日本ペプチド学会会員
2020年4月～現在	日本ケミカルバイオロジー学会会員
2022年8月	第54回若手ペプチド夏の勉強会世話人

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	機能形態学	教授	大滝博和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
・複数教科書の対比による資料作成	2018 年度以前 ～現在	複数の教科書を比較しつつ相違点を示すことにより、現時点で明らかになっている部分とそうでない部分を明確にし、理解の促進を促した。	
・講義終了時に確認テスト・教員評価の実施	2018 年度以前 ～現在	講義終了時に確認テストおよび教員評価アンケートを行い、形成評価を行うとともにコメントをフィードバックした。	
・ポートフォリオシステムの構築	2020～2021 年 度年	組織学実習のレポートをオンラインで提出し、教員と学生が相互に修正できるポートフォリオシステム用い、対面実習と同様のフィードバックができるようにした。また、優秀なレポートはほかの学生が閲覧できるようにした。	
・オンラインテストの実施	2020 年度～現 在	オンラインでテストを実施できるようにした。その際にオンラインでリアルタイムに質疑を受けられるようにし、円滑かつ平等な環境を提供した。	
・ハイブリッド講義の実践	2020 年度～現 在	講義を対面で行いつつオンライン配信しコロナ禍で通学できない学生に対しても対面と同じような環境で講義を受けられるようにした。また、それらは録画し、後日オンデマンドでも閲覧できるようにし、様々な環境の学生に対応できるような工夫をした。	
・バーチャル顕微鏡を用いた実習資料の作製	2021 年度	組織学の実習の際にバーチャル顕微鏡を用いオンライン環境での実習を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
・講義資料・スライド・動画の作製	2018 年度以前 ～現在	講義に用いるスライド・配布用の試料の作製を行った。	
・バーチャルスライドの作製	2020～2021 年 度	組織学実習に用いる人体（一部動物含む）の組織標本のバーチャルスライドの撮影およびサーバーへのアップロードを行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
・医学部科研費採択者に聴くシリーズ	2019 年 10 月	科研費採択率向上のための講演を、大学院生以上を対象に開催し講師を務めた。	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
科研費ブラッシュアップ執行委員	2018 年以前～ 2021 年度	昭和大学医学部科研費ブラッシュアップ執行委員を務め研究費獲得のための申請書の校正や大学院生以上を対象とした講演を行った。	

BLS (1次救命救急処置) プロバイダー取得 (米国心臓学会認定)	2018年度以前 ~2019年	BLS (1次救命救急処置) プロバイダーを取得し心肺停止の蘇生法の講義を行った。
医学部准講義執行役員	2018~2021年度	医学部の准教授・講師会の執行委員をつとめ、教育・研究・大学運営に関わる講師の招へいに努め、基礎と臨床の橋渡しや教育・研究の改善に努めた。
医学部教育委員会	2020~2021年度	医学部の教育委員を務め、コロナ禍における講義のあり方や推進に関して協議した。
昭和大学新型コロナウイルス対応 PCRセンター	2020~2021年度	学内に設置された新型コロナウイルス感染症に対するPCRセンターの業務に携わり学生病院実習のサポートや教員(含む入院患者)の健康サポートに努めた。
シラバス作成方法に関するFD講習会	2020年12月	1年次富士吉田教育および多職種連携教育など多学部による教育におけるシラバス作成のFDを受講した。
新任教員FDワークショップ	2021年4月	現職場への着任に伴い新任教員FDワークショップを受講した。
全学FDワークショップ(キャリアパス形成について)	2021年8月	本学学生のキャリアパスの現状を理解し、今後、学生に提供していく教育カリキュラムや研究およびキャリア支援の在り方について検討するFDに参加した。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The enhancement of GCL2 and GCL5 by human bone marrow-derived mesenchymal stem/stromal cells might contribute to inflammatory suppression and axonal extension after spinal cord injury.	共著	2020年5月	PLoS One. 15:e0230080.
(論文) A novel mouse model of heatstroke accounting for ambient temperature and relative humidity.	共著	2021年7月	J Intensive Care. 9:35.
(論文) Heatstroke-induced late-onset neurological deficits in mice caused by white matter demyelination, Purkinje cell degeneration, and synaptic impairment in the cerebellum.	共著	2022年6月	Sci Rep 12:10598.
(論文) New granule cells in the olfactory bulb are associated with high respiratory input in an enriched odor environment	共著	2022年9月	Neurosci Res 182:52-59.
(論文) Mild-intensity running exercise recovered motor function	共著	2023年1月	Brain Res. 1798:148160.

by improvement of ankle mobility after unilateral brain injury of mice using three-dimensional kinematic analysis techniques			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Cis/trans-isomerase (Pin1)の欠損は神経変性疾患モデルとなりえるのか。(特別講演)		2022年7月	第49回昭和大学神経研究会
(演題名) Effect of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) on heat-stress		2022年11月	VPAC ISBAP 2022
(演題名) Amyloid-positive particles in pin1 KO mice are resemble with eosinophilic thalamic body in human.		2022年11月	Neuroscience 2022
(演題名) Heatstroke-induced late-onset neurological deficits in mice caused by white matter demyelination, Purkinje cell degeneration, and synaptic impairment in the cerebellum		2022年11月	Neuroscience 2022
(演題名) Effect of human mesenchymal stem/progenitor cells derived from bone marrow on neuronal damages (招待講演)		2022年11月	Translational Research Seminar Series (Fall 2022) at The University of Texas Rio Grande Valley
(演題名) Pin1KO マウスにおける視床に増加する β アミロイド陽性反応はエオシン陽性封入体に類似する。		2023年3月	第128回日本解剖学会総会・全国学術集会(予定)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年以前～現在	Review Editor for Neuroendocrine Science of Frontiers		
2018年3月	第123回日本解剖学会総会・全国学術集会(東京)シンポジウムオーガナイザーおよび座長		
2020年～現在	日本酸化ストレス学会・関東支部会プログラム委員		
2020年9月	第63回日本神経化学学会大会(八王子)シンポジウムオーガナイザーおよび座長		
2020年9月	第63回日本神経化学学会大会(八王子)・若手道場審査員		
2021年12月	第34回日本酸化ストレス学会関東支部会座長		
2022年6月	International Society of Neurochemistry (ISN)入会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 機能形態学教室	職名 准教授	氏名 山口 宜秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年以前～ 現在	本学の講義に則したカラー図表を含む教科書を作成し、その図表を用いたスライドを活用して講義を行っている。	
	2018年9月8日～ 現在	教科書の図を利用した確認問題演習書を作成し、教科書と共に自発的学習復習が出来るようにしている。	
	2020年4月～ 現在	COVID-19への対応としてWebClassとストレージサーバーを利用したオンデマンドのビデオ講義を行っている。また、復習用にWebClassを利用した小テストを行っている。	
	2018年以前～ 現在	授業評価アンケート(各年度)	
	2018年以前～ 現在	講義内容を理解するための助けとして、関連する内容で実習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年以前～ 2020年	グラフィカル機能形態学 初版(編著 馬場広子, 京都廣川書店)	
	2018年9月8日～ 現在	グラフィカル機能形態学 確認問題演習(編著 馬場広子, 京都廣川書店)	
	2020年9月4日～ 現在	グラフィカル機能形態学 第2版(編著 馬場広子, 京都廣川書店)	
	2018年以前～ 現在	基礎生物学実習 実験書 (製本プリント、各年度)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年以前～ 現在	各年度の全額FD講演会に参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Unconventional myosin ID is involved in remyelination after cuprizone-induced demyelination.	共著	2018年1月	Neurochem Res, 43, 195-204
(論文) Phylogenetically conserved sequences around myelin P0 stop codon are essential for translational readthrough to produce L-MPZ.	共著	2018年1月	Neurochem Res, 43, 227-237
(論文)	共著	2020年3月	Commun Biol, doi: 10.1038/s42003-020-0854-z

Upregulation of large myelin protein zero leads to Charcot-Marie-Tooth disease-like neuropathy in mice.			
(論文) Influence of novel readthrough agents on myelin protein zero translation in the peripheral nervous system	共著	2022年6月	Neuropharmacology. 15;211:109059.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Significant increase of PKC-phosphorylated L-MPZ in peripheral myelin formation		2022年6月	NEURO2022 (第45回日本神経科学大会、第65回日本神経化学学会大会、第32回日本神経回路学会大会 合同大会)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 科学技術専門家ネットワーク 専門調査員		
2018年8月～現在	日本ミエリン研究会 世話人		
2018年9月～2021年3月	第63回日本神経化学学会大会 実行委員長		
2019年7月～現在	日本神経化学学会 評議員		
2021年6月～現在	日本神経化学学会 倫理委員会 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 機能形態学	職名 講師	氏名 林 明子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018～現在	授業評価、アンケート (各学期)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018～現在 2020～現在	基礎生物学実習実習書 改訂 (毎年) グラフィカル機能形態学 第2版 (編者: 馬場広子、京都廣川)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Dysregulation of schizophrenia-related aquaporin 3 through disruption of paranode influences neuronal viability.	共著	2018年12月	J Neurochem. Vol.147 No.3
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
The role of L-MPZ in axonal function in aging of the peripheral nervous system		2022年9月	ISN-APSN 2022 Meeting
Immunoglobulin therapy improves demyelination via anti-inflammatory macrophage accumulation in the lysolecithin-induced demyelination of mouse sciatic nerve		2022年11月	日本薬理学会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本神経化学会 評議委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 機能形態学	職名 助教	氏名 石橋智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・オンライン授業のための音声付きパワーポイント資料作成 ・確認テスト作成	2019年～現在	対面授業が困難な状況のため、オンライン授業のための音声付きパワーポイント作成し、その後小テストで知識を確認できるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 該当なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Paranodal Axoglial Junctions, an Essential Component in Axonal Homeostasis	共著	2022年7月	Frontier in Cell and Developmental Biology. doi:10.3389/fcell.2022.951809
(論文) The role of Sulfatides in Axo-Glia interactions	共著	2019年11月	Adv Exp Med Biol. doi: 10.1007/978-981-32-9636-7_11.
(論文) Expression of Unconventional Myosin VI in Oligodendrocytes	共著	2017年12月	Neurochem Res. 42(12):3372-3381. doi: 10.1007/s11064-017-2377-7.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The importance of the paranodal axoglial junctions in Purkinje axonal homeostasis		2022年・7月	Neuro2022(第65回日本神経化学大会)
(演題名) Immunoglobulin therapy improves the lysolecithin-induced demyelination of mouse sciatic nerve via anti-inflammatory macrophage accumulation		2021年・11月 (予定)	JPW2022(第96回日本薬理学会)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	日本神経化学会会員		
2019～現在	日本神経化学会若手育成委員会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬化学教室	職名 教授	氏名 三浦 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年9月～ 現在 2016年4月～ 現在	有機化学Ⅰ(1年次必修):有機化学反応の全般に関する基礎事項を理解するために、アルケンの基本構造、物理的性質、合成法の概略、反応性について講義した。講義に使用したPowerPointファイルは学内ネットワークに公開し、学生がいつでもダウンロードできるようにした。 有機化学Ⅱ(2年次必修):アルキンの合成法や反応性、および有機ハロゲン化合物の構造、性質、製法、反応性、立体化学との関連性について講義した。講義に使用したPowerPointファイルは学内ネットワークに公開し、学生がいつでもダウンロードできるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年9月～ 現在 2016年4月～ 現在	有機化学Ⅰ講義資料(パワーポイントファイル) 有機化学Ⅱ講義資料(パワーポイントファイル)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年5月22日	新任教員ミニ教育ワークショップにて、「学生から評価される授業を、教員の視点から探る」の演題で講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年～現在	「教職員のための情報倫理と情報セキュリティ」受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Cinchona-Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst for the Highly Enantioselective Hydrophosphonylation of Ketones and Enones	共著	2018年11月	Org. Lett., 20 (18), 5569-5572 (2018)
(論文) Synthesis of chiral γ, γ -disubstituted γ -butenolides via direct vinylogous aldol reaction of substituted furanone derivatives with aldehydes	共著	2019年5月	Org. Lett., 21 (8), 2606-2609 (2019)
(論文) Asymmetric Conjugate Addition of Phosphonates to Enones Using Cinchona-	共著	2020年3月	J. Org. Chem., 85 (5), 3872-3878 (2020)

Diaminomethylenemalononitrile Organocatalysts			
(論文) Asymmetric Direct Vinylogous Conjugate Addition of Substituted Furanone Derivatives to Benzoyl Acrylonitrile: Stereoselective Synthesis Toward Bicyclic γ -Lactams	共著	2021年2月	Org. Lett., 23 (2), 480-485 (2021).
(論文) Asymmetric Henry reaction of trifluoromethyl enones with nitromethane using a <i>N,N</i> -dibenzyl diaminomethylenemalononitrile organocatalyst	共著	2022年2月	Chem. Asian J., 17 (4), e202101299 (2022)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 有機分子触媒を用いた立体選択的スピロイン ドリン-3-オン誘導体の合成		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) 酸化的スピロラクトン化によるキラルスピロ オキシインドールの合成		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 有機分子触媒を用いたトリフルオロメチルエ ノンへの高立体選択的なヘンリー反応の開発		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) カルコゲンホスフィン酸を用いるアジリジンの 不斉開環反応に関する研究		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 第二級ホスフィン sulfid をプロモ核剤と する不斉プロトン化反応の開発		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 有機分子触媒を用いた不斉プロモラクトン化 反応によるフタリド誘導体の合成		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	フルオラス科学研究会 評議員		
2019年10月～現在	学校法人東京薬科大学 第23期 評議員 (年3回、各1日)		
2020年4月～現在	日本私立大学協会 大学教務研究委員会委員 (年6回、各1日)		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬化学教室	職名 講師	氏名 中島康介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年以前～ 現在 2022年4月～ 現在	基礎有機化学実習(1年次)、有機化学実習(2年次)、医薬品合成実習(3年次):水素化ホウ素ナトリウムによるアセトフェノンの還元反応、エステル化反応など実習で取り扱う反応について講義した。反応の手順、ガラス細工、蒸留操作、クロマトグラフィーなどの実験操作手順を実演した。 有機化学II(2年次必修):アルキンの合成法や反応性、および有機ハロゲン化合物の構造、性質、製法、反応性、立体化学との関連性について問題演習を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年以前～ 現在	基礎有機化学実習(1年次)、有機化学実習(2年次)、医薬品合成実習(3年次):講義資料(パワーポイントファイル)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年～現在	「教職員のための情報倫理と情報セキュリティ」受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Asymmetric Conjugate Addition of α -Cyanoketones to Enones Using Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst	共著	2018年1月	J. Org. Chem., 83, 2402-2408.
(論文) Stereoselective conjugate addition of ketones to alkylidene malonates using thiourea-sulfonamide organocatalyst	共著	2018年9月	Chirality, 30, 1215-1224.
(論文) Acylhydrazone Subunits as a Proton Cargo Delivery System in 7-Hydroxyquinoline	共著	2021年6月	Chem. Eur. J., 27, 11559-11566.
(論文) Organocatalytic one-pot asymmetric synthesis of 6-trifluoromethyl substituted 7,8-dihydrochromen-6-ol	共著	2022年4月	Tetrahedron Lett. 95,153733.
(論文) Solvent-Triggered Long-Range Proton Transport in 7-Hydroxyquinoline Using a Sulfonamide Transporter Group	共著	2022年5月	J. Org. Chem., 87, 6794-6806

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
(演題名) 有機分子触媒を用いた立体選択的スピロイン ドリン-3-オン誘導体の合成	2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) ○○○○○	2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2018年4月以前～現在	日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬化学	職名 助手	氏名 松島 恭征
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
基礎有機化学実習	2020年10月～ 現在	有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い、有機化合物の取り扱い方法、分離法、精製法、物性値の測定法、構造確認法などについて、原理を理解して基本的な技能を修得する。また、脱離反応などの実験を通して、有機反応の基礎操作手順を学ぶ。授業科目との連携しながら実施している。	
医薬品合成実習	2021年4月～ 現在	有機化学および医薬品化学系講義で修得する知識を基礎として、有機化学反応を組み合わせることで医薬品を合成し、医薬品合成法の基礎的知識と技能を修得する。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
実習講義プリント	2020年10月	実習の補足資料を紙媒体で配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Asymmetric Direct Vinylogous Conjugate Addition of Substituted Furanone Derivatives to Benzoyl Acrylonitrile: Stereoselective Synthesis Toward Bicyclic γ -Lactams	共著	2021年12月	ACS Publications, Org. Lett. 23, 480–485.
Asymmetric Henry Reaction of Trifluoromethyl Enones with Nitromethane Using a N,N-Dibenzyl Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst	共著	2021年12月	Wiley, Chem Asian J. 17, e202101299
Asymmetric Direct Vinylogous Conjugate Addition of Substituted Furanone Derivatives to (E)- and (Z)-Benzoyl Acrylonitriles Using	共著	2022年3月	Wiley, Asian J. Org. Chem. e202200048

Organocatalysts			
Organocatalytic one-pot asymmetric synthesis of 6-trifluoromethylsubstituted 7,8-dihydrochromen-6-ol	共著	2022年3月	ELSEVIER, Tetrahedron Lett, 95, 153733
Asymmetric conjugate addition-cyclization of cyclohexane-1,2-dione with alkylidenemalononitriles using diaminomethylenemalononitrile organocatalyst	共著	2022年3月	ELSEVIER, Tetrahedron Lett, 95, 153773
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
有機分子触媒による不斉共役付加反応を利用した二環式 γ -ラクタム誘導体合成に関する研究		2023年3月(予定)	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021年2月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	生化学教室	教授	佐藤 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 生化学 II	2018年4月～ 2018年7月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に糖代謝、脂質代謝を中心にエネルギー産生の観点から分子レベルで理解する。また、生物学、細胞生物学および生化学 I の学習内容との関連性を復習しながら、知識の統合化と応用的思考力の養成を目的とする。</p> <p>学習到達度（理解度）を学生自身が把握するために、①細胞生物学と生化学 I（1年生物系科目）の復習（毎週）および②生化学 II 到達度確認テスト（3回）をWebClassにて実施した。さらに、再履修生に対しても、WebClass を活用することでレポート提出や毎週の課題、到達度確認テスト（上述課題）を課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>	
生化学 III	2018年9月～ 2019年1月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に脂質代謝（生合成）、アミノ酸代謝および核酸代謝を分子レベルで理解する。また、代謝の統合的理解を深め、その異常と疾患を分子レベルで理解する。さらに、生化学 I および II の学習内容との関連性を復習しながら、知識の統合化と応用的思考力の養成を目的とする。</p> <p>①生化学 II と生化学 I（核酸）の復習課題（毎週）および②生化学 III 到達度確認テスト（3回）をWebClassにて実施した。さらに、再履修生に対しても、WebClass を活用することでレポート提出や毎週の課題、到達度確認テスト（上述課題）を課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>	
生化学 II	2019年4月～ 2019年7月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に糖代謝、脂質代謝を中心にエネルギー産生の観点から分子レベルで理解する。また、生物学、細胞生物学および生化学 I の学習内容との関連性を復習しながら、知識の統合化と応用的思考力の養成を目的とする。</p> <p>学習到達度（理解度）を学生自身が把握するために、①細胞生物学と生化学 I（1年生物系科目）の復習（毎週）および②生化学 II 到達度確認テスト（3回）をWebClassにて実施した。さらに、再履修生に対しても、WebClass を活用することでレポート提出や毎週の課題、到達度確認テスト（上述課題）を課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>	

生化学 III	2019年9月～ 2020年1月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に脂質代謝（生合成）、アミノ酸代謝および核酸代謝を分子レベルで理解する。また、代謝の統合的理解を深め、その異常と疾患を分子レベルで理解する。さらに、生化学 I および II の学習内容との関連性を復習しながら、知識の統合化と応用的思考力の養成を目的とする。</p> <p>①生化学 II と生化学 I（核酸）の復習課題（毎週）および ②生化学 III 到達度確認テスト（3回）を WebClass にて実施した。さらに、再履修生に対しても、WebClass を活用することでレポート提出や毎週の課題、到達度確認テスト（上述課題）を課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>
生化学 II	2020年4月～ 2020年7月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に糖代謝、脂質代謝を中心にエネルギー産生の観点から分子レベルで理解する。また、生物学、細胞生物学および生化学 I の学習内容との関連性を復習しながら、知識の統合化と応用的思考力の養成を目的とする。</p> <p>本年度は、コロナウイルス感染拡大防止の観点からリモート形式（オンデマンド配信）での講義を行った。WebClass にて事前学習課題（学習事項の報告含む）→ポイント解説（動画配信）の視聴→確認テスト（応用問題含む）→到達度テスト（各章ごと）の流れを構築し、学生にとって計画的な学習姿勢と反復学習による知識の定着を図れるように工夫した。さらに、生化学の理解度を学生自身が把握するために、細胞生物学と生化学 I（1年生物系科目）の復習課題（毎週）を WebClass にて実施した。再履修生に対しても、同様に WebClass を活用することでレポート提出や毎週の課題、確認・到達度テスト（上述課題）を課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>
生化学 III	2020年9月～ 2021年1月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に脂質代謝（生合成）、アミノ酸代謝および核酸代謝を分子レベルで理解する。代謝の統合的理解を深め、その異常と疾患を分子レベルで理解する。</p> <p>本年度は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から Zoom による WEB 講義（同期型）を実施した。学習到達度（理解度）を学生自身が把握しながら取り組めるように、WebClass での予習課題（学習事項の報告含む）→ Zoom 講義 → WebClass での確認テスト（各章ごと）の流れを作り、学生にとって計画的な学習姿勢と反復学習による知識の定着を図れるようにした。また、各回の Zoom 講義は録画して、復習教材としてオンデマンド配信した。</p>
		<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に糖代謝、脂質代謝を中心にエネルギー産生の観点から分子レベルで理解する。ま</p>

生化学 II	2021年4月～ 2021年7月	<p>た、生物学、細胞生物学および生化学 I の学習内容との関連性を復習しながら、知識の統合化と応用的思考力の養成を目的とする。</p> <p>Zoom による WEB 講義（同期型）を実施した。WebClass にて事前学習課題（学習事項の報告含む）→ポイント解説（動画配信）の視聴→確認テスト（応用問題含む）→到達度テスト（各章ごと）の流れを構築し、学生にとって計画的な学習姿勢と反復学習による知識の定着を図れるように工夫した。さらに、各回の Zoom 講義は録画して、復習教材としてオンデマンド配信した。</p> <p>生化学の理解度を学生自身が把握するために、細胞生物学と生化学 I（1 年生物系科目）の復習課題（毎週）を WebClass にて実施した。再履修生に対しても、同様に WebClass を活用することでレポート提出や毎週の課題、確認・到達度テスト（上述課題）を課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>
生化学 III	2021年9月～ 2022年1月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に脂質代謝（生合成）、アミノ酸代謝および核酸代謝を分子レベルで理解する。代謝の統合的理解を深め、その異常と疾患を分子レベルで理解する。</p> <p>Zoom による WEB 講義（同期型）を実施した。学習到達度（理解度）を学生自身が把握しながら取り組めるように、WebClass での予習課題（学習事項の報告含む）→ Zoom 講義 → WebClass での確認テスト（各章ごと）の流れを作り、学生にとって計画的な学習姿勢と反復学習による知識の定着を図れるようにした。また、各回の Zoom 講義は録画して、復習教材としてオンデマンド配信した。</p> <p>再履修生には、講義動画を視聴してもらい、同様に WebClass での課題、確認・到達度テスト（上述課題）への取り組みを課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。</p>
生化学 II	2022年4月～ 2022年7月	<p>生体内の化学反応（代謝調節）、特に脂質代謝（生合成）、アミノ酸代謝および核酸代謝を分子レベルで理解する。代謝の統合的理解を深め、その異常と疾患を分子レベルで理解する。</p> <p>Zoom による WEB 講義（同期型）を実施した。学習到達度（理解度）を学生自身が把握しながら取り組めるように、WebClass での予習課題（学習事項の報告含む）→ Zoom 講義 → WebClass での確認テスト（各章ごと）の流れを作り、学生にとって計画的な学習姿勢と反復学習による知識の定着を図れるようにした。また、Zoom の投票機能を利用して、講義内に小テストを実施した。さらに、各回の Zoom 講義は録画して、復習教材としてオンデマンド配信した。</p>

		再履修生には、講義動画を視聴してもらい、同様にWebClassでの課題、確認・到達度テスト(上述課題)への取り組みを課し、学習意欲を持続させ、理解度の向上に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 生化学 II	2018年4月～ 現在	(1) 重要事項を記入しながら講義を受講できるように、空欄(虫食い)形式の講義プリント(予習課題)(WebClassから事前配布) (2) 講義用スライド (ppt) (3) 講義用補助プリント (pdf) (4) Zoom 講義での学習内容の確認テスト(WebClassによるテスト形式) (5) 各章ごとに学習した内容の到達度テスト(WebClassによるテスト形式) (6) Zoom 講義の動画 (7) 各章ごとに重要事項のポイント解説動画(24編) (8) WebClassにおけるテスト形式の細胞生物学および生化学 I の復習課題
生化学 III	2018年9月～ 現在	(1) 重要事項を記入しながら講義を受講できるように、空欄(虫食い)形式の講義プリント(予習課題)(WebClassから事前配布) (2) 講義用スライド (ppt) (3) 講義用補助プリント (pdf) (4) Zoom 講義での学習内容の確認テスト(WebClassによるテスト形式) (5) 各章ごとに学習した内容の到達度テスト(WebClassによるテスト形式) (6) Zoom 講義の動画 (7) WebClassにおけるテスト形式の生化学 II および生化学 I (核酸) の復習課題
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 教室独自人材育成プログラム(1) スキンケア指導者養成プログラム	2018年4月以前～現在	健常者および患者に対して適切なスキンケア指導ができる人材を養成することを目的に、教室独自の教育プログラムとして化粧品およびスキンケア関連知識を学び、日本コスメティック協会認定資格(コスメマイスターおよびスキンケアマイスター)を取得する。
教室独自人材育成プログラム(2) 皮膚科診療に精通した薬剤師養成プロ	2018年4月以	皮膚疾患患者への薬剤(ステロイド剤や抗菌薬など)使用の適正化を啓発できる薬学生(薬剤師)を育てることを目的に、教室独自の教育プログラムとして上記認定資格を取

グラム	前～現在	得し、実務実習を終了した学生が、大学病院皮膚科および保険薬局において臨床実習に取り組んでいる。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Antineuropathic pain actions of Wu-tou decoction resulted from the increase of neurotrophic factor and decrease of CCR5 expression in primary rat glial cells	共著	2020年3月	Biomed Pharmacother 123: 109812
Different regulation of lipogenesis in sebocytes and subcutaneous preadipocytes in hamsters <i>in vitro</i>	共著	2020年4月	Biochem Biophys Res Commun 537: 100761
Lysophosphatidic Acid Augments the Gene Expression and Production of Matrix Metalloproteinases-1 and -3 in Human Synovial Fibroblasts <i>in Vitro</i>	共著	2021年1月	Biol Pharm Bull 44: 131-135
An increase in normetanephrine in hair follicles of acne lesions through the sympatho-adrenal medullary system in acne patients with anxiety	共著	2021年8月	J Dermatol 48: 1281-1285
Molecular mechanisms of cyclic phosphatidic acid-induced lymphangiogenic actions <i>in vitro</i>	共著	2022年1月	Microvasc Res 139: 104273
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
培養脂腺細胞におけるプロゲステロンによる皮脂産生促進の分子機構		2022年6月	第121回日本皮膚科学会総会
BRAF阻害薬 vemurafenibによる皮脂産生の二方向制御にはMAPK経路の活性化が関与する		2022年6月	第49回日本毒性学会学術年会
環状ホスファチジン酸および血管内皮細胞増殖因子Cによるリンパ管形成調節の分子機構		2022年11月	第95回日本生化学会大会
Augmentation of lymphangiogenic actions by cyclic phosphatidic acid through LPA1/3/6 pathways in human dermal lymphatic endothelial cell		2022年12月	日本研究皮膚科学会 第47回年次学術大会・総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月以前～2019年3月	薬剤師試験委員会委員		
2018年4月以前～現在	日本結合組織学会理事		
2019年4月～現在	一般社団法人SSCI-Net 理事		
2019年6月～現在	日本香粧品学会理事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	生化学教室	助教	奥山 勝揮
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
① 生化学実習	2022年4月～	酵素化学を担当した。実習開始時に説明動画を視聴させて内容を理解させるとともに補足や注意事項を説明した。実習終了時には、レポートの確認・提出をすることにより習熟度を確認した。また、最終日には学生の実験結果に基づいてまとめ講義を行った。	
② 卒論指導	2022年4月～	4年次に卒論課題を決定し、6年前期の卒論発表会までの間に実験手技の指導や研究ディスカッションを行った。また、学会等に積極的に参加させてプレゼンテーション能力の向上に努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
① 2022年度新入教員のためのミニ教育ワークショップ	2022年5月28日	本学の教育に関する姿勢、現状、方向性や教育を実践するうえでの基本的な知識を学んだ	
② 次世代の本学のキャリアパス形成を考える	2022年8月25日	学生に提供する教育カリキュラムや研究およびキャリア支援の在り方について検討した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Involvement of Catechols in Acteoside in the Activation of Promatrix Metalloproteinase-2 and Membrane Type-1-Matrix Metalloproteinase Expression via a Phosphatidylinositol-3-Kinase Pathway in Human Dermal Fibroblasts	共著	2018年7月	Biol Pharm Bull, 41(10), 1530-1536.
Antineuropathic pain actions of Wu-tou decoction resulted from the increase of neurotrophic factor and decrease of CCR5 expression in	共著	2020年1月	Biomed Pharmacother, 123, 109812.

primary rat glial cells			
Lysophosphatidic Acid Augments the Gene Expression and Production of Matrix Metalloproteinases-1 and -3 in Human Synovial Fibroblasts in Vitro	共著	2020年10月	Biol Pharm Bull, 44(1), 131-135.
Molecular mechanisms of cyclic phosphatidic acid-induced lymphangiogenic actions in vitro	共著	2021年10月	Microvasc Res, 139, 104273.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
環状ホスファチジン酸および血管内皮細胞増殖因子 C によるリンパ管形成調節の分子機構		2022年11月	第95回日本生化学会大会
Augmentation of lymphangiogenic actions by cyclic phosphatidic acid through LPA1/3/6 pathways in human dermal lymphatic endothelial cells		2022年12月	日本研究皮膚科学会 第47回年次学術大会・総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在		日本薬学会会員	
2022年～現在		日本生化学会会員	
2022年～現在		日本研究皮膚科学会会員	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生化学教室	職名 助手	氏名 小岩井 利一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 生化学実習、卒論研究	2021年4月1日～現在	生化学実習：酵素反応実験（至適 pH、金属イオンの影響、反応速度論）を行い、酵素化学について学ぶ。 卒論研究：実験研究コースの学生に対して卒論のテーマごとに研究指導並びに助言等を行う。	
2 作成した教科書、教材、参考書	なし	なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 【FD ワークショップ】「次世代の大学のキャリアパス形成を考える」	2022年8月25日	本学の就職状況を維持すべきなのか、変えていくべきなのか、その場合どういった教育カリキュラムや研究テーマを提供すべきなのかを意見交換・討論を行い、グループごとの意見をまとめて口頭発表を行う。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Different regulation of lipogenesis in sebocytes and subcutaneous preadipocytes in hamsters in vitro	共著	2020年7月	Biochemistry and Biophysics Reports (2020) 100761
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
BRAF 阻害薬 vemurafenib による皮膚障害作用の分子機構：皮脂腺における皮脂産生の二方向制御		2022年3月	日本薬学会第142年会
培養皮脂腺細胞におけるプロゲステロンによる皮脂産生促進の分子機構		2022年6月	第121回日本皮膚科学会総会
BRAF 阻害薬 vemurafenib による皮脂産生の二方向制御には MAPK 経路の活性化が関与する		2022年7月	第49回日本毒性学会学術年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年11月～現在	日本薬学会員		
2020年2月～現在	日本毒性学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 免疫学	職名 教授	氏名 安達禎之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～現在	スライド資料、確認テスト、演習問題を WebClass (Web-based learning system) に掲載し、さらに講義内容を録画したビデオも WebClass 経由で視聴可能とし、予習・復習をサポートしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	～現在	教科書及び参考書から図表及び解説文を抜粋したスライド資料を作成、講義内容に基づいて演習問題を作成し、それらを WebClass に教材として掲載。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	～現在	特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	～現在	大学主催の FD 関連講習会に出席。薬学教育新コアカリキュラム対応の講義担当者の学内会議に参加。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) β -Glucan-induced cooperative oligomerization of Dectin-1 C-type lectin-like domain	共著	2018年8月	Glycobiology 28(8)
(論文) N-Terminal (1 \rightarrow 3)- β -D-Glucan recognition proteins from insects recognize the difference in ultra-structures of (1 \rightarrow 3)- β -D-Glucan	共著	2019年7月	Int J Mol Sci 20(14)
(論文) Latent 1,3- β -D-glucan acts as an adjuvant for allergen-specific IgE production induced by Japanese cedar pollen exposure	共著	2021年1月	Allergol Int 70(1)
(論文) Binding Specificity of a New Artificial β -Glucan Recognition Protein and Its Application to β -Glucan Detection in Mushroom Extracts	共著	2021年4月	Int J Med Mushrooms 23(4)
(論文) Development of a Highly Sensitive β -Glucan Detection System Using Scanning Single-Molecule Counting Method	共著	2021年6月	Int J Mol Sci 22(11)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒトキチナーゼを用いた真菌細胞壁キチンの高感度検出法の開発		2022年6月	第41回 関東医真菌懇話会
花粉の Dectin-1 依存性免疫活性化作用における植物種の比較検討		2022年9月	第33回 日本生体防御学会学術総会
スギ花粉 β -グルカンの自然免疫活性化作用とその抑制		2022年10月	第71回 日本アレルギー学会学術大会

SLCA を用いた β -グルカン合成阻害薬曝露後のカンジダ細胞壁多糖構造解析	2022年10月	第66回 日本医真菌学会総会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2006年1月～2017年12月	日本細菌学会評議委員	
2014年6月～現在	日本医真菌学会代議員	
2015年4月～現在	日本生体防御学会運営委員	
2020年6月～現在	内毒素・LPS研究会運営委員	
2021年7月	日本薬学会関東支部奨励賞選考委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名 免疫学教室	職名 講師	氏名 山中 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 講義の工夫	2018 年以前 ～現在	学生が基礎から臨床までステップアップしながら理解を深められるよう、授業ごとに確認テストを実施し、能動的な理解を促した。講義内容に興味を持ちやすいように、イラストを多用した講義スライドを準備した。各講義の後半では、Web 上に演習問題を公開し、理解した内容がどのような形で問われるのか、各自のトレーニングに活用出来るように工夫した。	
・ 授業評価アンケートの実施	2018 年以前 ～現在	毎年授業科目ごとに授業評価アンケートを実施し、学生のコメントや評価をもとに次年度の講義に役立てた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
・ 講義資料	2018 年以前 ～現在	講義・実習で使用しているパワーポイントファイルを作成した。	
・ 免疫学実習 実習書	2018 年以前 ～現在	微生物・免疫学実習で使用する実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年以前 ～現在	毎年実施される大学および薬学部の FD 講演会に参加し、FDに関する見識を高め、授業改善、学生指導に取り入れた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Development of a novel β -1,6- glucan-specific detection system using functionally-modified recombinant endo- β -1,6-glucanase	共著	2020 年 4 月	J Biol Chem. vol.295:5362-5376
(論文) Split Enzyme-Based Biosensors for Structural Characterization of Soluble and Insoluble β -Glucans	共著	2021 年 2 月	Int J Mol Sci. vol. 22:1576
(論文) CARD9 Expression Pattern, Gene	共著	2022 年 2 月	J Clin Immunol. vol.42:336-349.

Dosage, and Immunodeficiency Phenotype Revisited			
(論文) Jerveratrum-Type Steroidal Alkaloids Inhibit β -1,6-Glucan Biosynthesis in Fungal Cell Walls	共著	2022年2月	Microbiol Spectr. vol.10:e0087321.
(論文) Functionally modified chitotriosidase catalytic domain for chitin detection based on split-luciferase complementation	共著	2022年4月	Carbohydr Polym. vol.282:119125
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ヒトキチナーゼを用いた真菌細胞壁キチンの 高感度検出法の開発		2022年6月	第41回関東医真菌懇話会
(演題名) SLCAを用いた β -グルカン合成阻害薬曝露後 のカンジダ細胞壁多糖構造解析		2022年10月	第66回日本医真菌学会総会
(演題名) 糖質分解酵素の機能改変と真菌多糖解析への 応用		2022年10月	第66回日本医真菌学会総会
(演題名) 真菌細胞壁多糖の高感度検出を目的とした糖 質加水分解酵素の機能改変		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2008年～現在		日本薬学会会員	
2018年4月～現在		NISTEP 専門調査員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 免疫学教室	職名 助教	氏名 菅野 峻史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・免疫学実習	2020年4月 ～現在	コロナ禍による50%オンライン実習に際し対面で行う場合に逐次指導が必要だった部分について脱落が無いように実際の操作を複数視点でビデオ撮影するなどして資料を作成し、事前に確認させることで対面実習の指導効果の向上を狙った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・オンライン実習対応教材	2020年11月	免疫学実習のオンライン対応のために教材PPT及び解説動画を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD講習会への参加	2020年4月 ～現在	着任以降全てのFD講習会(計4回)に参加した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Quantification of β -Glucan from culinary-medicinal mushrooms using novel artificial β -Glucan recognition protein.	共著	2020年3月	Int J Med Mushrooms. 22:269-276.
(論文) Latent 1,3- β -D-glucan acts as an adjuvant for allergen-specific IgE production induced by Japanese cedar pollen exposure.	共著	2021年1月	Allergol Int. 70:105-113.
(論文) Possibility of Japanese cedar pollen causing false positives in the deep mycosis test.	共著	2021年2月	Int J Mol Sci. 22:2135.
(論文) Binding specificity of a new artificial β -glucan recognition protein and its application to β -Glucan detection in mushroom extracts	共著	2021年3月	Int J Med Mushrooms. 23:1-12.
(論文) Development of a highly sensitive β -glucan detection system using scanning single-molecule counting method	共著	2021年6月	Int J Mol Sci. 22:5977.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

花粉の Dectin-1 依存性免疫活性化作用における植物種の比較検討	2022・9	日本生体防御学会
カモガヤ花粉 β -1, 3-D-glucan の局在と免疫活性に関する研究(一般演題)	2022・10	日本アレルギー学会
スギ花粉 β -グルカンの自然免疫活性化作用とその抑制(シンポジウム)	2022・10	日本アレルギー学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2017年9月～現在	市民ボランティア団体(博物倶楽部)にて実験観察ワークショップを中心としたボランティア活動(月1回程度)	
2019年4月～現在	日本アレルギー学会会員	
2019年6月～現在	日本生体防御学会会員	
2016年11月～現在	日本薬学会会員	
2016年5月～現在	日本医真菌学会会員	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 応用生化学教室	職名 教授	氏名 高木 教夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年以前-現在	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学 (1年前期必修) ・薬理学Ⅱ (2後期必修) ・バイオ医薬品 (3年前期必修) <p>毎回、講義の最初に進行予定範囲とキーワードを示し、何を学ぶか目標を明確にしている。</p> <p>教科書等に未掲載の最新の作用機序や副作用情報、および新薬に関する情報は講義用補助プリントに随時反映させ、提供・解説している。</p> <p>毎年実施している授業評価では、「資料と説明がとても分かりやすい」「わかりやすくとても良い講義」等で、授業の難易度や満足度は概ね良好と思われる。講義の満足度では、毎年平均値を上回っている評価を得ている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年以前-現在 2017年-現在 2022年-現在	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学 講義用資料 (プリント教材) ・薬理学Ⅱ 講義用資料 (プリント教材) ・バイオ医薬品 講義用資料 (プリント教材) ・薬がわかる構造式集 (廣川書店) 共著 ・薬系薬理学書 (南江堂) 共著 ・バイオ医薬品 (京都廣川書店) 単著 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年8月29日	大学教育再生加速プログラム：テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」：「薬学部ディプロマポリシーを基盤とした卒業コンピテンス・コンピテンシーの導入」(講演)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年4月7日 2018年8月20日 2019年5月11日 2019年8月19日 2020年8月25日 2020年8月25日 2021年5月22日 2021年8月20日 2022年4月1日	<p>新人教員のためのFDワークショップ (タスクフォース)</p> <p>全学FDワークショップ：テーマ「シナリオプランニングの手法」講演司会・グループワーク参加</p> <p>新人教員のためのFDワークショップ (タスクフォース)</p> <p>全学FDワークショップ：テーマ「卒業生調査の結果から卒業論文研究のコースデザイン (指導計画) を考える」(タスクフォース)</p> <p>全学FD講演会：山本眞一先生 (筑波大学・広島大学・桜美林大学名誉教授) の講演「内部質保証について」を拝聴。</p> <p>全学FDワークショップ：「2020年の授業アンケートから授業質保証を考える」(タスクフォース)</p> <p>新人教員のためのFDワークショップ (タスクフォース)</p> <p>全学FDワークショップ：「本学のキャリアパス形成について」(タスクフォース)</p> <p>全学FD講演会：山本眞一先生 (筑波大学・広島大学・桜</p>	

	2022年5月28日 2022年8月25日	美林大学名誉教授)の講演「オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て」を拝聴。 新人教員のためのFDワークショップ(タスクフォース) 全学FDワークショップ:「本学のキャリアパス形成について」(タスクフォース)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Furin inhibitor protects against neuronal cell death induced by activated NMDA receptors.	共著	2018年8月	Sci. Rep. 8 (1), 5212.
Furin-mediated cleavage of LRP1 and increase in ICD of LRP1 after cerebral ischemia and after exposure of cultured neurons to NMDA.	共著	2019年8月	Sci Rep. 9(1), 11782
Investigating the Relationship Between Neuronal Cell Death and Early DNA Methylation After Ischemic Injury.	共著	2020年10月	Front. Neurosci. 14:581915
Possible involvement of progranulin in the protective effect of elastase inhibitor on cerebral ischemic injuries of neuronal and glial cells.	共著	2021年6月	Mol. Cell. Neurosci. 113, 103625
Effect of progranulin on proliferation and differentiation of neural stem/progenitor cells after oxygen/glucose deprivation.	共著	2022年2月	Int. J. Mol. Sci., 23 (4), 1949
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アポE含有リポタンパク質によるLRP1を介した網膜グリア細胞の α 2-マクログロブリン発現抑制とNMDA誘発興奮毒性に対する網膜神経節細胞保護効果		2022年12月	第96回 日本薬理学会年会
(演題名) 脳血管周囲における単量体 visfatin は糖尿病合併脳梗塞の病態進展に関与する		2022年12月	第96回 日本薬理学会年会
(演題名) 網膜グリア細胞のリポタンパク質受容体LRP1を介した α 2-マクログロブリン発現抑制による視神経保護機構		2023年3月	日本薬学会 第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年以前～2019年3月	日本薬学会 学術誌編集委員会		

2016年4月～現在	日本薬学会 関東支部幹事
2003年11月～現在	日本薬理学会 学術評議員 (代議員: 2006~2010, 2012~2016, 2020~2022)
2018年以前～現在	日本薬学会 代議員
2016年～2019年	共用試験センター統括委員会 地区委員
2017年4月～2022年3月	厚生労働省 薬剤師試験委員会
2017年4月～現在	薬学教育協議会生化学関連担当教員会議 (2017年副委員長、2018年委員長)
2019年11月～2020年9月	第63回 日本神経化学学会大会 プログラム委員
2020年1月～現在	日本薬理学会 薬理学エディター
2020年4月～現在	日本薬学会 生物系薬学部会 常任世話人
2022年3月～2022年12月	第96回 日本薬理学会年会 プログラム委員

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 応用生化学教室	職名 准教授	氏名 林 秀樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・アクティブラーニングの実施	2015年12月 ～現在	「1年後期ゼミナール」において、約25名の学生を対象として、中枢神経疾患に関する少人数制のアクティブラーニングを実施した。	
・自身のエピソードを交えた講義	2017年10月 ～現在	「実用薬学英語」において、自身の留学体験に基づいたエピソードを交えて、学生が馴染みやすいように講義を行った。	
・確認テストの実施	2021年5月～ 現在	「生物学」において、講義の内容に合わせ、Web上で毎回確認テストを行った。	
・最新情報や国家試験の動向を交えた講義	2022年6月～ 現在	「バイオ医薬品」において、最新の医薬品のニュースの紹介や国家試験動向の情報を交え、学生が興味を持ちやすいように講義を心掛けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料の作成	2016年5月～ 現在	「生物学」「バイオ医薬品」「実用薬学英語」において、講義用パワーポイント資料を作成した。	
・記入式（穴埋め）講義資料の作成	2018年4月以 前～現在	「生物学」「バイオ医薬品」において、学生が理解を深められるように記入（穴埋め）式の講義資料（pdf）を作成し、Web上で配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD講演会への参加	2018年4月以 前～現在	学内で開催されるFD講演会に参加した。	
・他大学の講義	2021年6月	慶應義塾大学・大学院講義	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

(論文) Effects of laminin-111 peptide coatings on rat neural stem/progenitor cell culture	共著	2021年3月	Exp Cell Res 400, 112440
(論文) Possible involvement of progranulin in the protective effect of elastase inhibitor on cerebral ischemic injuries of neuronal and glial cells	共著	2021年6月	Mol Cell Neurosci 113, 103625
(論文) Neuroprotective effects of Senkyunolide I against glutamate-induced cells death by attenuating JNK/caspase-3 activation and apoptosis.	共著	2021年8月	Biomed Pharmacother 140, 111696
(論文) Apolipoprotein E-containing lipoproteins and LRP1 protect from NMDA-induced excitotoxicity associated with reducing α 2-macroglobulin in Müller glia	共著	2021年10月	Invest Ophthalmol Vis Sci 62, 23
(論文) Effect of Progranulin on Proliferation and Differentiation of Neural Stem/Progenitor Cells after Oxygen/Glucose Deprivation	共著	2022年2月	Int J Mol Sci 23, 1949
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アポE含有リポタンパク質によるLRP1を介した網膜グリア細胞の α 2-マクログロブリン発現抑制とNMDA誘発興奮毒性に対する網膜神経節細胞保護効果		2022年12月	第96回日本薬理学会年会
(演題名) 未定		2023年3月	日本薬学会 第141年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2019年2月～現在	日本薬学会 代議員		
2020年1月～現在	日本薬理学会 薬理学エドゥケーター		
2022年3月～2022年12月	第96回日本薬理学会年会 プログラム委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 応用生化学教室	職名 助教	氏名 森山 慶之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年10月1日- 2022年3月31日	学部学生の課題研究指導を担当している。卒業論文作成に向けて、研究テーマ、方針、実験の進め方について指導した。指導内容は中間発表会で学生からプレゼンテーションとして発表された。	
	2021年10月1日- 2022年3月31日	大学院生研究指導を担当している。博士課程1年生1名の博士論文作成に向けて、研究テーマ、研究の進め方について逐次指導した。また、博士論文作成に必要な実験技術を教え、大学院生に習得させた。博士課程3年時に実施される学内の中間発表に向けてプレゼンテーション資料の作成および研究計画の立案について指導した。指導内容は研究室内のミーティングにおいて発表され、教員間で情報共有されている。	
	2022年4月1日- 2022年7月31日	薬学部3年生の生化学実習を担当した。対面形式およびオンライン形式を併用して実習が実施された。対面形式では核酸抽出を実際の実習で取り扱うことにより、学生のDNAの構造、濃色効果を利用した二重らせん構造の判別に対する理解を深めた。	
	2022年4月1日- 2023年3月31日	2022年度に引き続き、大学院生の研究指導を担当している。博士課程2年生1名、博士課程1年生1名の博士論文作成に向けて、研究テーマ、研究の進め方について指導した。指導成果はラボミーティングで大学院生から発表される。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年4-7月	薬学部3年生生化学実習で使用している実習書および資料。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年5月28日	2022年度新入教員のためのミニ教育ワークショップに参加した。東京薬科大学の目指す教育および本学の現状について理解を深めた。また本学講師による授業動画を視聴し、講義の進め方を理解するとともに、講義に関する学生アンケートに対する対応についても十分な準備を要することを理解した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称

なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年度～現在	日本薬学会会員		
2021年度～現在	日本薬理学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	応用生化学教室	助手	岩谷 結衣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月1日 -2019年7月31日	3年前期の生化学実習では、酵素タンパク質および核酸(DNA および RNA) を実際に取り扱い、逆転写ポリメラーゼ連鎖反応法およびポリアクリルアミドゲル電気泳動法などの実験を通じてそれらの性質と働きについて理解することを目的に実施された。核酸の性状やタンパク質の性質の理解は、これまで講義で得た知識を連動させるよう努めた。また、実習を有意義な学習機会にするために、なるべく学生に近い視点で実験方法や学習方法などを指導するよう心がけた。	
	2019年4月1日 -2020年3月31日	課題研究指導では、4年次9名を担当し、個々の能力や進捗に応じた指導を心がけた。また、学生の年次スケジュールを把握し、効率の良い研究計画を立て、効果的な卒論研究指導を行えるように心がけた。	
	2020年4月1日 -2020年7月31日	3年前期の生化学実習では、コロナ禍による影響でオンライン形式での実施となった。これまでの対面形式を変える「オンライン形式」に対応するべく、ビデオの制作を行った。今季を通じて、次年度の生化学実習の教育・指導に大いに活かす手段となった。	
	2020年4月1日 -2021年3月31日	課題研究指導では、2020年度は5年次9名、4年次4名を担当した。5年次はコロナ禍により実務実習時期が変則的となったため、それに伴って卒論研究時期も例年と比較して変則的であった。そのため、個々のスケジュールを調整しながら、個々の能力や進捗に応じた指導を行うよう努めた。4年次は各自の研究内容に沿って上級生と対になるように組み、教員・上級生からの指導を通じて基礎的な実験手法を得るようにした。	
	2021年4月1日 -2021年7月31日	3年前期の生化学実習では、昨年度に引き続きコロナ禍による影響でオンライン形式を併用した対面形式の実施となった。核酸の性状を学ぶべく、昨年度に制作されたビデオを活用しながら、実際に仔牛胸腺を取り扱い、それらの性質の理解を深めた。	
	2021年4月1日 -2022年3月31日	課題研究指導では、2021年度は6年次9名、5年次4名、4年次2名を担当した。6年次は、コロナ禍の影響を受けて変則的なスケジュールの中、その纏めを卒業論文として作成した。また、その成果は学科主催の課題研究発表会にて発表・討論された。5年次は、6年次の学生が解析した内容を引き継ぐ形式で卒業論文課題として研究を遂	

		行した。なお、実験に必要な材料や方法については、適宜用意・指導することで実施された。4年次は、薬局・病院の実務実習を開始するまでの期間に教員および上級生からの指導を通じて基礎的な実験手法を得るようにした。
	2022年4月1日 -2022年7月31日	3年前期の生化学実習では、昨年度および一昨年度に引き続きコロナ禍による影響でオンライン形式を併用した対面形式の実施となった。オンライン形式では変動的なスケジュールでありながらも、これまでと同様に、核酸の性状やタンパク質の性質等を学ぶべく、既に制作されたビデオやオンデマンドの資料を活用して実施された。対面形式では実際に仔牛胸腺を取り扱い、核酸を抽出することでそれらの性質の理解を深めた。
	2022年4月1日 -2023年3月31日	課題研究指導では、6年次4名、5年次2名、4年次2名を担当した。6年次は個々のスケジュール、能力および進捗状況に応じて指導し、その纏めを卒業論文として作成した。また、その成果は学科主催の課題研究発表会にて発表・討論された。5年次は、6年次の学生が研究報告した内容を引き継ぐ形式で卒業論文課題として研究を遂行した。なお、実験に必要な材料や方法については、適宜用意・指導し、個々の能力を踏まえて実験計画を組立て、実践するように努めた。4年次は、薬局・病院の実務実習を開始するまでの期間に教員および上級生からの指導を通じて基礎的な実験手法を得るようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年4-7月 2020年4-7月 2021年4-7月 2022年4-7月	実習で使用している資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年5月11日	新人教員のためのミニ教育ワークショップと題して、東京薬科大学の教育に関する姿勢、現状、方向性ととも、教育を実践するうえでの基本的な知識を学ぶ目的で当該年度入職者に対して実施された。本学両学部を目指す教育・カリキュラムを学び、大学教育・高等教育の問題点についてKJ法を用いグループワークを行った。また、クラスデザインについても討議・発表を行った。
	2019年8月4日	オープンキャンパスのイベントの一環として、高校生を対象とした薬学体験実習を実施した。高校生でも理解しやすく取り組みやすい内容として、3年前期の生化学実習の実習項目である「核酸の抽出」を題材に行われた。これはDNAを視覚化できる内容であるため、興味深く取

		り組むことができ、アンケート調査では満足度が高い結果を得ることができた。
2019年8月19-20日		研究室指導の効用の具体化とそのため的手法と題されたワークショップに参加した。卒業生調査の結果から卒論の効用を知り、コースデザインの立案に活かすことを目的とし、1日目は矢野特命教授による「卒業生調査の結果から」の講演を拝聴し、教員からの卒論指導の重要性や両学部卒論研究の違い等について調査結果を共有した。その後「卒業生調査の結果から卒業論文研究のコースデザイン(指導計画)を考える」として、より効果的な卒論研究を考えるため、カリキュラムや年間計画等についてグループディスカッション形式で検討した。2日目は、芝浦工業大学の浜野学先生による「研究指導に活用可能な学生の能力を引き出すコーチング技能」について研究室教育の強みと弱みを確認し、コーチングの必要性やゴール設定とモチベーションの関係等について実践を交えながら学んだ。
2020年8月25日		山本眞一先生(筑波大学・広島大学・桜美林大学名誉教授)の講演「内部質保証について」を拝聴した。
2021年8月20日		学内講師より「本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状」と「キャリアパス展開のための学内プログラム実践例」を拝聴した。
2022年4月1日		山本眞一先生(筑波大学・広島大学・桜美林大学名誉教授)の講演「オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て」を拝聴した。講演会の内容では、オンライン教育について否定的な見解は少ないが、インターネット環境や学生への機器の貸与等のハード面・ソフト面で多くの課題があることが示された。今後はデジタル化を見越してこれまでの運営とは異なる構造を構築すること(単位制度の再検討など)が必要であると学んだ。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Furin-mediated cleavage of LRP1 and increase in ICD of LRP1 after cerebral ischemia and after exposure of cultured neurons to NMDA.	共著	2019年8月	Sci Rep. 9(1), 11782
Possible involvement of progranulin in the protective effect of	共著	2021年6月	Mol. Cell. Neurosci. 113: 103625

elastase inhibitor on cerebral ischemic injuries of neuronal and glial cells.			
Neuroprotective effects of Senkyunolide I against glutamate-induced cells death by attenuating JNK/caspase-3 activation and apoptosis.	共著	2021年8月	Biomed. Pharmacother. 140: 111696
Cytotoxic effects of hellebrigenin and arenobufagin against human breast cancer cells	共著	2021年8月	Front. Oncol. 11: 11220
Effect of progranulin on proliferation and differentiation of neural stem/progenitor cells after oxygen/glucose deprivation.	共著	2022年2月	Int. J. Mol. Sci., 23 (4):1949
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
脳血管周囲における単量体 visfatin は糖尿病合併脳梗塞の病態進展に関与する		2022年12月	第96回日本薬理学会年会
糖尿病合併脳梗塞後の脳血管周囲におけるNAMPTの病態生理学的解析		2023年3月 (予定)	第147回日本薬理学会関東部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在		日本薬理学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床微生物学教室	職名 教授	氏名 中南 秀将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018~2022	<ul style="list-style-type: none"> WebClass (本学独自のオンライン教育ツール) を使用した練習問題の配信 定期試験だけでなく、オンライン教材の正答率に応じた成績評価 復習を促すため講義毎に練習問題を提示し、次回講義時に口頭試問を実施 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018~2022	<ul style="list-style-type: none"> 教科書とは別に、重要な部分を空欄にした講義資料 (PDF) を WebClass にアップロード 講義資料は学生自身が印刷またはタブレット端末で持参 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2018 2018~2022	<ul style="list-style-type: none"> 全学 FD・SD ワークショップ「シナリオプランニングに基づいた中長期計画 TOUYAKU150 への具体的提案」に参加 大学主催の FD 講演会を受講 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書)WHAT'S NEW in 皮膚科学 2022-2023	共著	2022年3月	メディカルレビュー社
(論文) Dissemination of Pantone-Valentine leukocidin-positive methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> USA300 clone in multiple hospitals in Tokyo, Japan	共著	2018年11月	Clin. Microbiol. Infect. 24(11)
(論文) Arthritis caused by MRSA GC398 in patient without animal contact, Japan	共著	2020年12月	Emerg. Infect. Dis. 26(12)
(論文) High-level quinolone-resistant <i>Haemophilus haemolyticus</i> in pediatric patient with no history of quinolone exposure	共著	2022年1月	Emerg. Infect. Dis. 28(1)
(論文) Quinolone resistance is transferred horizontally via uptake signal sequence recognition in	共著	2022年2月	Antimicrob. Agents Chemother. 66(2)

<i>Haemophilus influenzae</i>		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
(演題名) Increased prevalence of doxycycline low-susceptible <i>Cutibacterium acnes</i> isolated from acne patients in Japan	2022年7月	FEMS Conference on Microbiology 2022
(演題名) Antimicrobial resistance and transmission of a multidrug-resistant plasmid in <i>Cutibacterium</i> species	2022年7月	FEMS Conference on Microbiology 2022
(演題名) Comparative analysis of PVL-positive MRSA isolated in community and hospital settings in Japan	2022年7月	FEMS Conference on Microbiology 2022
(演題名) イヌの膿皮症から分離されたブドウ球菌の薬剤感受性と流行型	2022年4月	第96回日本感染症学会総会
(演題名) インフルエンザ菌のキノロン耐性は uptake signal 認識を介した相同組み換えで伝播する	2022年4月	第96回日本感染症学会総会
(演題名) 痤瘡環境における痤瘡患者由来アクネ菌に対する外用抗菌薬の活性評価	2022年6月	第121回日本皮膚科学会総会
(演題名) 病院および皮膚科クリニックを受診した痤瘡患者由来アクネ菌の薬剤耐性	2022年6月	第121回日本皮膚科学会総会
(演題名) 本邦の市中と院内から分離された PVL 陽性 MRSA の比較解析	2022年6月	第70回日本化学療法学会総会
(演題名) 本邦で急増する SCCmec IV型 MRSA の流行型	2022年7月	MRSA フォーラム 2022
(演題名) ST834型 CA-MRSA による片側多発リンパ節炎の一例	2022年7月	MRSA フォーラム 2022
(演題名) <i>Cutibacterium avidum</i> による抗アクネ菌活性の解析	2022年8月	第34回微生物シンポジウム
(演題名) キノロン高度耐性 <i>Haemophilus haemolyticus</i> のキノロン耐性化における ParE の関与	2022年9月	第59回日本細菌学会中部支部総会
(演題名) 皮膚感染症における USA300 クローンとその近縁株について	2022年9月	第6回日本ワnhルズサイエンス年次学術集会
(演題名) 日和見感染に関連するアクネ菌の菌株特異性と病原因子の解明	2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
(演題名) SARS-CoV-2 に対する各種消毒薬の有効性	2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
(演題名) 薬剤耐性緑膿菌の分子疫学的解析	2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
(演題名) 日本と韓国で分離された強毒型 MRSA の比較解析	2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
(演題名) 市中における薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランの検証—保険薬局における抗菌薬処方データの解析—	2022年11月	第16回日本薬局学会学術総会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2009年4月～現在	東京医科大学八王子医療センター感染症対策委員会 外部委員
2016年6月～現在	日本化学療法学会 評議員
2019年2月～現在	日本薬学会 代議員
2021年2月～現在	八王子薬剤師会感染症対策委員会 委員
2021年3月～現在	日本細菌学会関東支部 評議員
2021年5月～現在	日本化学療法学会が依頼抗感染症薬認定薬剤師認定委員会 委員
2021年6月～現在	日本化学療法学会・日本感染症学会 MRSA 感染症の治療ガイドライン作成委員会 委員
2021年6月～現在	東京都病院薬剤師会専門薬剤師養成部抗菌化学療法・感染制御専門薬剤師養成小委員会 特別委員
2022年2月～現在	日本環境感染学会 評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床微生物学教室	職名 講師	氏名 中瀬 恵亮
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 反復学習 ・ オンライン講義	2018年4月～ 現在 2020年5月～ 現在	講義終了時に練習問題を提示し、次講義時に振り返ること で理解度を高めた。また、Webclassに練習問題を公開し、 自学習を促すとともに試験対策に利用させた。 コロナ禍のZoom講義において、チャットを利用した質問 対応を講義中に随時受けつけることで理解度の向上に努 めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 新しい微生物学 (東京廣川書店) ・ 講義スライド	2016年3月 2018年4月～ 現在	細菌各論について分担執筆した。 毎年、重要な項目をアップデートしている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等		なし。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・ FD講演会の聴講		年2回の講演会を聴講した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Transferable multidrug-resistance plasmid carrying a novel macrolide- clindamycin resistance gene, <i>erm(50)</i> , in <i>Cutibacterium acnes</i>	共著	2019年12月	Antimicrob Agents Chemother. 2020; 64(3): e01810-19
Characterization of acne patients carrying clindamycin-resistant <i>Cutibacterium acnes</i> : A Japanese multicenter study.	共著	2020年8月	J Dermatol. 2020; 47(8): 863-869
<i>Cutibacterium acnes</i> phylogenetic type IC and II isolated from patients with non-acne diseases exhibit high-level biofilm formation.	共著	2021年10月	Int J Med Microbiol. 2021; 311(7): 151538
新・皮膚科セミナーウム 毛包脂腺系疾 患を極める ざ瘡患者で広まる薬剤耐	共著	2021年11月	日本皮膚科学会雑誌. 2021; 131(12): 2555-2562

性アクネ菌 多様化する耐性メカニズム			
Multidrug-resistant <i>Cutibacterium avidum</i> isolated from patients with acne vulgaris and other infections.	共著	2022年1月	J Glob Antimicrob Resist. 2022; 28: 151-157
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
痤瘡環境における痤瘡患者由来アクネ菌に対する外用抗菌薬の活性評価		2022年6月	第121回日本皮膚科学会総会
病院および皮膚科クリニックを受診した痤瘡患者由来アクネ菌の薬剤耐性		2022年6月	第121回日本皮膚科学会総会
Increased prevalence of doxycycline low-susceptible <i>Cutibacterium acnes</i> isolated from acne patients in Japan		2022年6月	FEMS2022
Antimicrobial resistance and transmission of a multidrug-resistant plasmid in <i>Cutibacterium</i> species		2022年6月	FEMS2022
日和見感染に関連するアクネ菌の菌株特異性と病原因子の解明		2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
薬剤耐性緑膿菌の分子疫学的解析		2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2020年10月～現在	東京薬科大学 PCR検査センター センター員 兼任		
2021年～現在	日本薬学会 代議員		
2021年4月～現在	東京医科大学八王子医療センター 感染症対策委員会 外部委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床微生物学教室	職名 助手	氏名 吉田 拓真
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年～	・実習において在宅学習が可能な範囲は Zoom を利用して指導を行った。 ・アドバンス英語において学生同士が議論する時間を設けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年～	・アドバンス英語においてスライドを作成し、学術論文を読む意義や読み方などについて解説を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
本邦で急増する SCCmec IV 型 MRSA の流行型		2022年7月	MRSA フォーラム 2022
ST834 型 CA-MRSA による片側多発リンパ節炎の一例		2022年7月	MRSA フォーラム 2022
SARS-CoV-2 に対する各種消毒薬の有効性		2022年10月	第69回日本化学療法学会東日本支部総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年～現在	日本薬学会会員		
2020年～現在	日本化学療法学会会員		
2021年～現在	東京薬科大学 PCR 検査センター センター員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 早川 磨紀男
I 教育活動			
2年後期必修科目「栄養と食品機能」(2018年以前～現在),			
3年前期必修科目「食品の安全性と管理」(2018年以前～現在)			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年以前～ 現在	「食品の安全性と管理」では、食品・環境に関わる時事問題についてニュースなどの情報をもとに調査レポートを提出させ、成績評価に反映させている。「栄養と食品機能」では、講義の進行と並行して、WebClassに自己点検用チェック問題をアップして、学生自身が理解度を判断できるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年～現在 2020年11月18日	コロナ禍で対面授業における板書ができないため、講義内容はすべてパワーポイントファイルとしてWebClassにアップし、すべての学生が受講期間閲覧できるようにした。スタンダード薬学シリーズⅡ 9 薬学演習Ⅲ. 薬学総論・衛生薬学 - アクティブラーニング課題付- (日本薬学会編) 共著	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	なし		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
AU-1 from Agavaceae plants downregulates the expression of glycolytic enzyme phosphoglycerate mutase.	共著	2018年1月	J. Nat. Med. 72, 342-346.
Farnesoid X receptor and liver X receptors regulate Oct3/4 expression by multiple feedback regulating system in normal renal-derived cells and renal adenocarcinoma cells.	共著	2020年1月	J. Toxicol. Sci. 45, (1) 25-30.
Ouabagenin, an aglycone of cardiotonic steroid ouabain, functions as LXR ligand but avoids the increase in the SREBP-1 by inducing Krüppel-like factor 15.	共著	2021年3月	Fundam. Toxicol. Sci. 8, (1) 17-22.

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
(演題名) 酸素ストレス応答性 NF- κ B 活性化に対する脂肪酸の影響	2022年8月	フォーラム 2022 衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2021年1月～	日本薬学会関東支部 支部幹事	
2019年4月～	私立大学等研究設備整備費等補助金等に係る選定委員会委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 衛生化学教室	職名 講師	氏名 藤野 智史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
「栄養と食品機能」における工夫	2018 年度～ 2019 年度	講義内容を要約した資料を Web 配布する際、キーワードを空欄とし、復習の際、当該語句を思い出す行動を促した(→記憶の定着に寄与)。	
「衛生化学・公衆衛生学実習」における工夫	2018 年度～ 2022 年度	実験中頻繁に巡回し、操作の意味を問いかけて考えさせて、常に物事に疑問を持つ姿勢を促した(→問題解決能力の醸成に寄与)	
「医療衛生薬学特論 i 薬剤師の職能と自己将来展望」における工夫	2018 年度～ 2022 年度	進路選択の際、募集人数の多い薬局を安易に選びがちな学生達の視野を広げるため、医療問題を多職種の立場から総合的に考察するグループワークを導入した。履修後のアンケートでは、所期の効果が表れているように見受けられた。	
「人間と薬学 I・アドバイザーSGD」における工夫	2018 年度～ 2022 年度	入学間もない1年生の、新生活への不安要素のメインである学業面について、大学の学習に有効な基本的学習姿勢を具体的に指導した。特に、復習がもたらす学習内容の定着促進効果に重点を置いた。	
「医療衛生薬学英语特論」における工夫	2018 年度～ 2022 年度	英語の基本が、英文法に重点をおいた英文解釈であることに根差した指導を行った。文法解釈を誤ると、そこから読み下された日本語が不自然になることを利用し、英文を流暢な日本語に変換することを厳格に求めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
「栄養と食品機能」	2018 年度～ 2019 年度	講義内容を要約した資料のうち、キーワードを空欄とした復習用教材	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		ありません。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		ありません。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) AU-1 from Agavaceae plants downregulates the expression of glycolytic enzyme phosphoglycerate mutase	共著	2018年6月	J. Nat. Med., 72, 342-346(2018)

(論文) Cyclin-dependent kinase inhibitor p21/Cip1 down-regulates the expression of proteasome activator PA28 gamma in normal hepatocyte-derived cells.	共著	2018年7月	Fund. Toxicol. Sci., 5, 203-207(2018)
(論文) SIRT1 knockdown up-regulates p53 and p21/Cip1 expression in renal adenocarcinoma cells but not in normal renal-derived cells in a deacetylase independent manner.	共著	2018年12月	J. Toxicol. Sci., 43, 711-715(2018)
(論文) Farnesoid X receptor and liver X receptors regulate Oct3/4 expression by multiple feedback regulating system in normal renal-derived cells and renal adenocarcinoma cells.	共著	2020年1月	J. Toxicol. Sci., 45, 25-35 (2020)
(論文) Ouabagenin, an aglycone of cardiotonic steroid ouabain, functions as LXR ligand but avoids the increase in the SREBP-1 by inducing Krüppel-like factor 15.	共著	2021年1月	Fund. Toxicol. Sci., 8, 17-22 (2021)
(論文) Transient Receptor Potential Melastatin 8, a sensor of cold temperatures mediates expression of cyclin-dependent kinase inhibitor, p21/Cip1, a regulator of epidermal cell proliferation.	単著	2022年3月	J. Toxicol. Sci., 47, 117-123 (2022)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 食品抽出液の透析効率を制御するための通液型拡散透析システムの開発		2022年5月	第82回分析化学討論会
(演題名) 冷感受容体 TRPM は細胞周期抑制因子 p21/Cip1 の発現調節により上皮系細胞の増殖を制御する		2022年7月	第49回 日本毒性学会学術年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬学会会員		
2018年4月～現在	日本毒性学会会員		
2018年4月～現在	日本分子生物学会会員		
2018年4月～現在	日本毒性学会会員論文審査員		
2022年7月～現在	日本毒性学会会員評議員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

2022年12月末日現在

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	衛生化学教室	助教	大嶋 利之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～現在	<p>健康・環境実習(2018年9月～現在) 卒論指導(2018年9月～現在) プライマリケア I (2021年5月～現在) ゼミナール I (2021年11月～12月) ゼミナール II (2022年4月)</p> <p>【2018年度】 健康・環境実習では、実習内容と実生活を結び付けるような課題および授業評価アンケートを実施した。 卒論指導では、学生ごとに、コンサルタント・コーディネーター・アドバイザー・プランナー的意見等を使い分けて指導した。</p> <p>【2019年度】 健康・環境実習では、実習内容と実生活を結び付けるような課題および授業評価アンケートを実施した。 卒論指導では、学生ごとに、コンサルタント・コーディネーター・アドバイザー・プランナー的意見等を使い分けて指導した。</p> <p>【2020年度】 健康・環境実習では、自宅学習の効果が上がるような動画を作成した。さらに、実習内容と実生活を結び付けるような課題および授業評価アンケートを実施した。</p> <p>【2021年度】 健康・環境実習では、自宅でも学習効果が高まるように、進捗に合わせた確認テストを実施した。さらに、実習内容と実生活を結び付けるような課題および授業評価アンケートを実施した。 ゼミナール I では、学習進捗の確認のために確認テストを実施し、授業評価アンケートを実施した。</p> <p>【2022年度】 ゼミナール II では、学習進捗の確認のために確認テストを実施し、授業評価アンケートを実施した。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年 2021年	非同期型実習のための動画・パワーポイントファイル 講義で使用しているパワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年 2018年～現在	FD研修会への参加 FD・SD講演会への参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
SIRT1 knockdown up-regulates p53 and p21/Cip1 expression in renal adenocarcinoma cells but not in normal renal-derived cells in a deacetylase-independent manner	共著	2018年12月	The Journal of Toxicological Sciences (Vol.43, No.12)
Farnesoid X receptor and liver X receptors regulate Oct3/4 expression by multiple feedback regulating system in normal renal-derived cells and renal adenocarcinoma cells	共著	2020年1月	The Journal of Toxicological Sciences (Vol.45, No.1)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
酸素ストレス応答性 NF- κ B 活性化に対する脂肪酸の影響		2022年8月	フォーラム2022 衛生薬学・環境トキシコロジー
(タイトル未定)		2023年3月 (予定)	日本薬学会第143年会(札幌)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本薬学会会員		
2018年～現在	日本再生医療学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬物代謝分子毒性学	職名 教授	氏名 山折 大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 薬理学 (2年前期)		2018年度以前 ~2019年度	教科書の要点をまとめた講義資料をパワーポイントで作成し、プロジェクターで投影して講義した。看護師として知っておいて欲しいことを【投与時の看護のポイント】として解説したり、医療や医薬品を巡る社会的動向と関連づけて解説することで、講義の内容が医療現場でも役立つことを意識できるように努めた。また、毎回の講義終了後には、理解できなかった点などを質問票に記載してもらい次回の講義で解説することによって、学生の理解度の向上や復習に役立ててきた。授業アンケートでは、8割以上の学生から分かりやすい授業であるとの評価を受けた。
薬理学 (2年前期)		2020年度~ 2021年度	教科書の要点をまとめた動画資料をパワーポイントで作成し、それを基に解説動画を作成した。この動画資料をeALPS上で履修期間中いつでも視聴できるようにした。また、視聴後に講義内容の理解度を問う小テストをeALPS上で実施した。解答後に解説を確認できるようにすることで、学生の理解度の向上や復習に役立ててきた。
ユニット講義 (臨床薬理学) (4年前期)		2018年度以前 ~2019年度	教科書の要点をまとめた講義資料をパワーポイントで作成し、プロジェクターで投影して講義した。イラストやアニメーションを多く取り入れることによって医薬科学の諸現象や概念を理解できるように工夫した。また、医療や医薬品を巡る社会的動向と関連づけて解説するなど講義の内容が医療現場でも役立つことを意識できるように努めた。
ユニット講義 (臨床薬理学) (4年前期)		2020年度~ 2021年度	教科書の要点をまとめた動画資料をパワーポイントで作成し、それを基に解説動画を作成した。この動画資料をeALPS上で履修期間中いつでも視聴できるようにした。また、視聴後に講義内容の理解度を問う小テストをeALPS上で実施した。解答後に解説を確認できるようにすることで、学生の理解度の向上や復習に役立ててきた。

化学物質と生体影響 (3年前期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し、授業開始時刻より公開している。動画資料に沿ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間終了後、模範となるレポートを開示し、復習に役立てている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に出題している。
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し、授業開始時刻より公開している。動画資料に沿ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間終了後、模範となるレポートを開示し、復習に役立てている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に出題している。
病態生理学・薬物安全性学実習 (3年後期)	2021年度～現在	実習書を中心とした20分程度の実習解説動画(4テーマの実習内容から構成される動画資料)を作成し、実習開始時刻より公開している。動画資料に沿った実習レポートを作成させている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に出題している。実習内容のうち1テーマについては対面実習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬理学講義用パワーポイントファイル および配付資料	2018年度以前～2021年度	「抗感染症薬」、「抗がん薬」、「免疫治療薬」、「抗アレルギー薬・抗炎症薬」、「循環器系に作用する薬物」、「呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬」
ユニット講義(臨床薬理学)用パワーポイントファイルおよび配付資料	2018年度以前～2021年度	「薬物の体内動態Ⅰ」、「薬物の体内動態Ⅱ」、「薬物の体内動態Ⅲ」、「薬物の体内動態Ⅳ」、「薬物動態理論」、「薬理遺伝学Ⅰ」、「薬理遺伝学Ⅱ」、「薬物相互作用Ⅰ」、「薬物相互作用Ⅱ」、「薬物動態の変動因子Ⅰ(食事内容・嗜好品・生活習慣と薬物動態)」、「薬物動態の変動因子Ⅱ(年齢と薬物動態)」、「薬物動態の変動因子Ⅲ(女性および妊娠時における薬物動態)」、「病態下における薬物動態Ⅰ」、「病態下における薬物動態Ⅱ」、「TDMに基づく最適投与方法の設計」
病態生理学・薬物安全性学実習用パワーポイントファイル	2021年度～現在	「総合説明」、「第二属不揮発性毒物(裁判化学)」、「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」、「突然変異誘発試験(Ames試験)」
病態生理学・薬物安全性学実習 実験書	2021年度～現在	医療系実習Ⅱ実験書 病態生理学・薬物安全性学実習 「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、

		「突然変異誘発試験」、「第二属不揮発性毒物」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
Aprin e-learning	2019年8月	責任ある研究者の行為：基板編（RCR 医学研究者推薦コース）（2019年度版）
病院・薬局実務実習運営委員会	2021年度～現在	実務実習が円滑に実施できているかのチェック、実務実習関連イベントスケジュールの作成、トラブル対応の方針作成
OSCE 実施委員会	2021年度～現在	薬学共用試験 OSCE を円滑に実施するための準備、スケジュール作成、評価者・担当者の割り当て、当日の運営
情報倫理とセキュリティ e-learning	2021年4月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ（2020年度版）
新入教員のためのミニ教育ワークショップ	2021年5月	本学の目指す教育、本学の学生と求められる学生対応・入学試験および就職状況からみる本学の現状、より良い教育活動のためのワーク
全学 FD 講演会	2021年8月	本学のキャリアパス形成について、本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状、キャリアパス展開のための学内プログラム実践例
Aprin e-learning	2021年9月	2021_基本コース（責任ある研究者の行為、研究における不正行為、データの扱い、共同研究のルール、利益相反、オーサーシップ、盗用と見なされる行為、ピア・レビュー、メンタリング、公的研究費の取扱い、生命倫理の歴史と原則そしてルール作りへ、研究倫理審査委員会による審査、研究における個人に関わる情報の取り扱い、研究におけるインフォームド・コンセント、特別な配慮を要する研究対象者）
研究データの質向上の指導者育成講習会	2021年12月	AMEDの事業。通論および各論（記録・解析、品質管理）に関する座学講義、記録・解析および品質管理に関するグループワーク
ハラスメント防止のための講演会	2021年12月	

全学 SD 講演会	2022年1月	健康な組織づくりのための7つのポイント、事例を通して考える 新型コロナウイルス感染症による就職活動の影響について～大学職員として、今後学生にどのような対応を取れば良いか～
情報倫理とセキュリティ e-learning	2022年3月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2021 年度版)
内部質保証・FD 講演会	2022年4月	オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て
研究倫理コンプライアンス研修	2022年4月	研究活動におけるコンプライアンス、研究費の不正使用と不正受給、研究活動における不正行為、研究活動におけるインフォームド・コンセント、研究成果とオーサーシップ、新型コロナウイルスへの対応

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) A specific probe substrate for evaluation of CYP4A11 activity in human tissue microsomes and a highly selective CYP4A11 inhibitor: luciferin-4A and epalrestat.	共著	2018 年 9 月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 366, 446-457.
(論文) Inhibitory effects of antihypertensive drugs on human cytochrome P450 2J2 activity: potent inhibition by azelnidipine and manidipine.	共著	2019 年 6 月	Chem. Biol. Interact., 306, 1-9.
(論文) Expression profile of cytochrome P450s and effects of polycyclic aromatic hydrocarbons and antiepileptic drugs on CYP1 expression in MOG-G-CCM cells.	共著	2020 年 10 月	Life Sci., 258, 118140.
(論文) Effects of acid and lactone forms of statins on S-warfarin 7-hydroxylation catalyzed by human liver microsomes and recombinant CYP2C9 variants (CYP2C9.1 and CYP2C9.3).	共著	2021 年 2 月	Drug Metab. Pharmacokinet., 36, 100364.

(論文) Detecting drug-drug interactions that increase the incidence of long QT syndrome using a spontaneous reporting system.	共著	2022年1月	J. Clin. Pharm. Ther., 47, 70-80.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
異なるアルキル鎖長を有するホスホニウム系及びアンモニウム系イオン液体の細胞毒性の評価		2022年7月	第49回日本毒性学会学術年会
胎児期における化学物質の安全性評価と適正使用に向けて		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年以前～現在	日本薬物動態学会 代議員、代謝・毒性DIS世話人		
2018年以前～2021年3月	日本医療薬学会 代議員		
2019年2月～現在	日本薬学会関東支部 幹事		
2019年2月～現在	日本薬学会 代議員		
2020年7月～2022年3月	日本医療薬学会 広報・出版委員、国際交流委員		
2020年7月～2022年6月	日本病院薬剤会 感染制御専門薬剤師部門認定審査委員、編集委員		
2021年～現在	日本薬物動態学会 DMPK活性化委員、DMPK編集委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	薬物代謝分子毒性学	准教授	小倉健一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
健康・環境ゼミナール (2年前期)	2018年度以前 ～現在	数名からなるグループを構成し、グループごとに「医薬品や化学物質による薬害や中毒事件」を取り上げ、調査、グループ内討論を行い、調査活動状況レポートを毎回提出させている。中間発表を行い調査内容の概略と質疑応答を行った後、最終発表会を行う。	
化学物質の生体影響 (3年前期)	2018年度以前 ～2020年度	教科書をプロジェクターを用いて映写するとともに板書を行う。板書は授業内容の要点及び重要ポイントの穴埋めを組み込むなどの工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで1テーマを構成し5分から10分の短時間の講義を繰り返し行い講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い知識の定着を図っている。	
化学物質の生体影響 (3年前期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し授業開始時刻より公開している。動画資料に沿ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間を設け、期間終了後、模範となるレポートを開示し、学習者の復習に役立たせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。	
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2018年度以前 ～2020年度	教科書をプロジェクターを用いて映写するとともに板書を行う。板書は授業内容の要点及び重要ポイントの穴埋めを組み込むなどの工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで1テーマを構成し5分から10分の短時間の講義を繰り返し行い講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い知識の定着を図っている。	
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し授業開始時刻より公開している。動画資料	

		に沿ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間を設け、期間終了後、模範となるレポートを開示し、学習者の復習に役立たせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。
病態生理学・薬物安全性学実習 (3年後期)	2018年度以前 ~2020年度	実習専用の実験書を作成し、目的、操作方法等を明確にし、予習に役立てるようにしている。各操作の前には必ずデモンストレーションを行い、間違いが少なくなるよう工夫している。実習項目毎にレポートを提出させている。
病態生理学・薬物安全性学実習 (3年後期)	2021年度~現在	実習書を中心とした20分程度の実習解説動画(4テーマの実習内容から構成される動画資料)を作成し実習開始時刻より公開している。動画資料に沿った実習レポートの作成を行わせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。実習内容のうち1テーマについては、実習室において実験を行っている。
医療薬学演習Ⅱ (4年前期)	2018年度以前 ~現在	本演習のねらいは、医薬品開発における課題や問題点に関する調査・討論を通じ、医療薬学科学生に治験業務への関心と理解を深めてもらうことにある。演習最終日に、各グループの全体発表会及び質疑応答を行った後、教員がそれぞれの発表に対して総評し、フィードバックを行う。
薬学総合演習 (4年後期)	2018年度以前 ~2020年度	本演習では、4年生までに学習した衛生薬学分野の問題について大きく解説する。学生にチェックテストを受験させた後にそのテスト解説を行い、重要点について理解してもらうようにする。
科別英語特論 (4年通年)	2018年度以前 ~2020年3月	TOEIC試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせた。
科別英語特論Ⅰ (4年通年)	2020年4月 ~現在	TOEIC試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせた。
アドバンス英語 (5年通年)	2018年度以前 ~2020年3月	薬学に関する英語論文情報調査を行い、まとめならびに研究室内での発表を行う。

科別英語特論Ⅱ (5年通年)	2020年4月 ～現在	薬学に関する英語論文情報調査を行い、まとめならびに研究室内での発表を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生分野薬剤師国家試験過去問題集	2017年4月	総合薬学演習(卒試)実施委員会(衛生分野オーガナイザー)。薬剤師国家試験の衛生分野を取りまとめ、6年生に対して行われる卒業試験に関わる教材として作成。
病態生理学・薬物安全性学実習用パワーポイントファイル	2018年度以前 ～現在	「総合説明」、「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、「薬毒物検出法」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
病態生理学・薬物安全性学実習 実験書	2018年度以前 ～現在	医療系実習Ⅰ実験書 病態生理学・薬物安全性学実習 「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、「突然変異誘発試験」、「薬毒物検出法」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
総合演習解説資料	2018年度以前 ～現在	衛生薬学分野の問題について解説するためにパワーポイントファイルを作成し、学生に解説とともに配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
薬学共用試験	2018年度以前 ～現在	薬学共用試験 OSCE 評価者
倫理研修会	2018年4月	研究活動における不正防止について
特別講演会 (FD・SD講演会)	2018年3月	教育の質保証と大学構成員の役割、卒業生調査の経過報告
東京薬科大学実務実習指導のためのFD研修会	2018年8月	長期実務実習のための指導者養成研修会
FD実施委員会主催・SD実施委員会共催 特別講演会	2019年8月	卒業生調査の意義 -OB・OGの経験から教育のあり方を考える
Aprin e-learning	2019年9月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト

全学 FD・SD 講演会	2020年8月	内部質保証について
Aprin e-learning	2020年10月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト
自己点検・評価、内部質保証委員会	2021年4月	オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て
全学 FD 講演会	2021年8月	本学のキャリアパス形成について、本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状、キャリアパス展開のための学内プログラム実践例
情報倫理とセキュリティ e-learning	2021年8月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2020 年度版)
Aprin e-learning	2022年4月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト
情報倫理とセキュリティ e-learning	2022年5月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2021 年度版)

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Magnoliae Cortex extract protects PC12 cells from cytotoxicity induced by hydrogen peroxide or 6-hydroxydopamine through enzyme induction.	共著	2019 年 4 月	Fundm. Toxicol. Sci., 6, 107-112.
(論文) 4-(Hydroxymethylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide has the potential to form 2'-deoxyguanosine and N-acetylcysteine adducts.	共著	2019 年 10 月	J. Toxicol. Sci., 44, 693-699.
(論文) Magnolol protects PC12 cells from hydrogen peroxide or 6-hydroxydopamine induced cytotoxicity.	共著	2019 年 11 月	J. Toxicol. Sci., 44, 753-758.
(論文) A Japanese patient with gastric cancer and dihydropyrimidine dehydrogenase deficiency presenting with DPYD variants.	共著	2020 年 12 月	Acta Med. Okayama, 74, 557-562
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

Effects of phosphonium-based ionic liquids with various alkyl chain lengths and ammonium-based ionic liquids on cytotoxicity	2022年6月	日本毒性学会
Dihydropyrimidine dehydrogenase 多型サブユニットのヘテロダイマー形成と活性	2023年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年以前～現在	日本薬物動態学会代議員	
2018年以前～現在	Drug Metab. Pharmacokinet. 誌客員編集委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬物代謝分子毒性学	職名 講師	氏名 西山 貴仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
健康・環境ゼミナール (2年前期)	2018年度以前 ～現在	数名からなるグループを構成し、グループごとに「医薬品や化学物質による薬害や中毒事件」を取り上げ、調査、グループ内討論を行い、調査活動状況レポートを毎回提出させている。中間発表を行い調査内容の概略と質疑応答を行った後、最終発表会を行う。	
化学物質の生体影響 (3年前期)	2018年度以前 ～2020年度	教科書をプロジェクターを用いて映写するとともに板書を行う。板書は授業内容の要点及び重要ポイントの穴埋めを組み込むなどの工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで1テーマを構成し5分から10分の短時間の講義を繰り返し行い、講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い、知識の定着を図っている。	
化学物質の生体影響 (3年前期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し、授業開始時刻より公開している。動画資料に沿ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間を設け、期間終了後、模範となるレポートを開示し、学習者の復習に役立たせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。	
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2018年度以前 ～2020年度	教科書をプロジェクターを用いて映写するとともに板書を行う。板書は授業内容の要点及び重要ポイントの穴埋めを組み込むなどの工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで1テーマを構成し5分から10分の短時間の講義を繰り返し行い、講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い、知識の定着を図っている。	
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し、授業開始時刻より公開している。動画資料に沿	

		ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間を設け、期間終了後、模範となるレポートを開示し、学習者の復習に役立たせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。
病態生理学・薬物安全性学実習(3年後期)	2018年度以前 ~2020年度	実習専用の実験書を作成し、目的、操作方法等を明確にし、予習に役立てるようにしている。各操作の前には必ずデモンストレーションを行い、間違いが少なくなるよう工夫している。実習項目毎にレポートを提出させている。
病態生理学・薬物安全性学実習(3年後期)	2021年度~現在	実習書を中心とした20分程度の実習解説動画(4テーマの実習内容から構成される動画資料)を作成し、実習開始時刻より公開している。動画資料に沿った実習レポートの作成を行わせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。実習内容のうち1テーマについては、実習室において実験を行っている。
医療薬学演習Ⅱ(4年前期)	2018年度以前 ~現在	本演習のねらいは、医薬品開発における課題や問題点に関する調査・討論を通じ、医療薬学科学生に治験業務への関心と理解を深めてもらうことにある。演習最終日に、各グループの全体発表会及び質疑応答を行った後、教員がそれぞれの発表に対して総評し、フィードバックを行う。
アドバンス演習講義	2018年度以前 ~2019年度	本演習では、6年生までに学習した衛生薬学分野の重要点について、過去に出題された国家試験問題を例に解説する。演習後、知識の定着を図るため確認テストを実施している。
総合薬学演習Ⅰ講義(6年後期)	2020年度以前 ~現在	本演習では、6年生までに学習した衛生薬学分野の重要点について、過去に出題された国家試験問題を例に解説する。演習後、知識の定着を図るため確認テストを実施している。
実用薬学英語(3年前期)	2018年度以前 ~2020年度	科学論文に出てくる専門用語の説明と訓練を行うとともに、海外での生活体験をプロジェクターを用いて紹介し、学生の興味を引き出すよう心がけている。
実用薬学英語(3年前期)	2021年度~現在	科学論文に出てくる専門用語の説明と訓練を行うとともに、海外での生活体験を動画資料として授業開始時刻より公開している。学生の興味を引き出すよう心がけている。

PBLT (5年前期)	2018年度以前 ～現在	また、自己学習のため、動画資料に沿った単語問題をWebClass上に設けている。 薬学部卒業生が活躍できる職種、薬学教育に関する学習者と教育者の問題点、国家試験出題傾向など多岐にわたるテーマについて、少人数グループ毎に調査及び議論し発表を行う。各テーマ毎に調査活動状況レポート、発表プロダクツの提出を行う。各グループの発表及び質疑応答を行った後、教員がそれぞれの発表に対して総評し、フィードバックを行う。
科別英語特論 (4年通年)	2018年度以前 ～2020年3月	TOEIC試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせた。
科別英語特論 I (4年通年)	2020年4月 ～現在	TOEIC試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせた。
アドバンス英語 (5年通年)	2018年度以前 ～2020年3月	薬学に関する英語論文情報調査を行い、まとめならびに研究室内での発表を行う。
科別英語特論 II (5年通年)	2020年4月 ～現在	薬学に関する英語論文情報調査を行い、まとめならびに研究室内での発表を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 病態生理学・薬物安全性学実習用パワーポイントファイル	2018年度以前 ～現在	「総合説明」、「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、「薬毒物検出法」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
病態生理学・薬物安全性学実習 実験書	2018年度以前 ～現在	医療系実習 I 実験書 病態生理学・薬物安全性学実習 「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、「突然変異誘発試験」、「薬毒物検出法」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」
アドバンス演習講義	2018年度以前 ～2019年度	衛生薬学分野の問題について解説するためにパワーポイントファイルを作成し、学生に解説とともに配布している。
総合薬学演習 I 講義 (6年後期)	2020年度以前 ～現在	衛生薬学分野の問題について解説するためにパワーポイントファイルを作成し、学生に解説とともに配布している。
	2020年3月	

衛生分野（健康と環境）卒業試験・国家試験対策問題集		総合薬学演習（卒試）実施委員会（衛生分野オーガナイザー）。卒業試験、薬剤師国家試験対策に効率よく対応できるように編集した自習用問題集を作成し、本学WebClassに設けている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第3回日本薬学教育学会大会	2018年9月	ループリック評価表を用いた薬学基礎実習における学生自己評価と成績との相関性
生命科学部25周年記念シンポジウム	2018年10月	薬学基礎実習における学生の自己評価と成績との関連性について
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
PBLT実施委員会	2018年度以前 ～現在	5年次生に対して行われるPBLTの実施運営
薬学共用試験	2018年度以前 ～現在	薬学共用試験OSCE評価者
卒試委員会	2018年度以前 ～現在	薬剤師国家試験出題基準に準拠した卒業試験関連問題、各専門家教員への出題依頼、問題校正
倫理研修会	2018年4月	研究活動における不正防止について
特別講演会（FD・SD講演会）	2018年3月	教育の質保証と大学構成員の役割、卒業生調査の経過報告
東京薬科大学実務実習指導のためのFD研修会	2018年8月	長期実務実習のための指導者養成研修会
FD実施委員会主催・SD実施委員会共催 特別講演会	2019年8月	卒業生調査の意義 -OB・OGの経験から教育のあり方を考える
Aprin e-learning	2019年9月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト
全学FD・SD講演会	2020年8月	内部質保証について
Aprin e-learning	2020年10月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト
自己点検・評価、内部質保証委員会	2021年4月	オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て

全学FD講演会	2021年8月	本学のキャリアパス形成について、本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状、キャリアパス展開のための学内プログラム実践例	
情報倫理とセキュリティ e-learning	2021年8月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2020 年度版)	
Aprin e-learning	2022年4月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト	
情報倫理とセキュリティ e-learning	2022年5月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2021 年度版)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Magnoliae Cortex extract protects PC12 cells from cytotoxicity induced by hydrogen peroxide or 6-hydroxydopamine through enzyme induction.	共著	2019年4月	Fundm. Toxicol. Sci., 6, 107-112.
(論文) 4-(Hydroxymethylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide has the potential to form 2'-deoxyguanosine and N-acetylcysteine adducts.	共著	2019年10月	J. Toxicol. Sci., 44, 693-699.
(論文) Magnolol protects PC12 cells from hydrogen peroxide or 6-hydroxydopamine induced cytotoxicity.	共著	2019年11月	J. Toxicol. Sci., 44, 753-758.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effects of phosphonium-based ionic liquids with various alkyl chain lengths and ammonium-based ionic liquids on cytotoxicity		2022年6月	日本毒性学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年7月～現在	日本毒性学会評議員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

2022年12月末日現在

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	薬物代謝分子毒性学	助教	大沼 友和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
健康・環境ゼミナール (2年前期)	2018年度以前 ～現在	数名からなるグループを構成し、グループごとに「医薬品や化学物質による薬害や中毒事件」を取り上げ、調査、グループ内討論を行い、調査活動状況レポートを毎回提出させている。中間発表を行い調査内容の概略と質疑応答を行った後、最終発表会を行う。	
化学物質の生体影響 (3年前期)	2018年度以前 ～2020年度	教科書をプロジェクターを用いて映写するとともに板書を行う。板書は授業内容の要点及び重要ポイントの穴埋めを組み込むなどの工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで1テーマを構成し5分から10分の短時間の講義を繰り返し行い講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い知識の定着を図っている。	
化学物質の生体影響 (3年前期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し授業開始時刻より公開している。動画資料に沿ったレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間を設け、期間終了後、模範となるレポートを開示し、学習者の復習に役立たせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題をWebClass上に設けている。	
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2018年度以前 ～2020年度	教科書をプロジェクターを用いて映写するとともに板書を行う。板書は授業内容の要点及び重要ポイントの穴埋めを組み込むなどの工夫を行っている。講義毎に行動目標を伝え、さらに行動目標に関連するキーワードを提示している。提示した複数のキーワードで1テーマを構成し5分から10分の短時間の講義を繰り返し行い講義に集中できるよう工夫している。各講義毎に演習及びその解説を行い知識の定着を図っている。	
化学物質の毒性と安全性 (3年後期)	2021年度～現在	教科書を中心とした20分程度の講義解説動画(動画資料)を作成し授業開始時刻より公開している。動画資料に沿っ	

病態生理学・薬物安全性学実習 (3年後期)	2018年度以前 ～2020年度	たレポート課題を1講義あたり2問出題している。レポート提出期間を設け、期間終了後、模範となるレポートを開示し、学習者の復習に役立たせている。また、自己学習のため、動画資料に沿った演習問題を WebClass 上に設けている。
病態生理学・薬物安全性学実習 (3年後期)	2021年度～現在	実習専用の実験書を作成し、目的、操作方法等を明確にし、予習に役立てるようにしている。各操作の前には必ずデモンストレーションを行い、間違いが少なくなるよう工夫している。実習項目毎にレポートを提出させている。
科別英語特論 (4年通年)	2018年度以前 ～2020年3月	TOEIC 試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせた。
科別英語特論 I (4年通年)	2020年4月 ～現在	TOEIC 試験に関する問題集及び平易な英文全訳を行わせた。
アドバンス英語 (5年通年)	2018年度以前 ～2020年3月	薬学に関する英語論文情報調査を行い、まとめならびに研究室内での発表を行う。
科別英語特論 II (5年通年)	2020年4月 ～現在	薬学に関する英語論文情報調査を行い、まとめならびに研究室内での発表を行う。
情報収集 (5・6年)	2018年度以前 ～現在	調査研究コースプログラムの一つとして、薬剤師国家試験 (衛生分野) について、演習問題の解法を中心とした授業を通して、薬学の知識と理解を深める。講義資料としてスライドを作成し学生に配布した。
人間と薬学 I SGD(1)(2)(3) (1年前期)	2018年度以前 ～現在	早期臨床体験に能動的に参加し、薬剤師の役割について理解を深めるため、アドバイザーと SGD を行う。3回目はポスター発表を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書 病態生理学・薬物安全性学実習用パワーポイントファイル	2018年度以前 ～現在	「総合説明」、「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、「薬毒物検出法」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果」

病態生理学・薬物安全性学実習 実験書	2018年度以前～現在	医療系実習Ⅰ実験書 病態生理学・薬物安全性学実習 「生体内薬物代謝酵素活性に及ぼす薬・毒物の影響」、 「突然変異誘発試験」、「薬毒物検出法」、「シアン化合物の急性毒性とその解毒剤の効果
情報収集解説用パワーポイントファイル	2018年度以前～現在	衛生薬学分野の問題について解説するためにパワーポイントファイルを作成し、学生に解説とともに配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
薬学共用試験 (CBT)	2018年度以前～現在	CBT 試験監督
薬学共用試験 (OSCE)	2018年度以前～現在	OSCE 評価者
人間と薬学運営委員会	2018年度以前～現在	「人間と薬学」における講義の補助、成績評価
倫理研修会	2018年4月	研究活動における不正防止について
特別講演会 (FD・SD 講演会)	2018年3月	教育の質保証と大学構成員の役割、卒業生調査の経過報告
東京薬科大学実務実習指導のためのFD研修会	2018年8月	長期実務実習のための指導者養成研修会
FD 実施委員会主催・SD 実施委員会共催 特別講演会	2019年8月	卒業生調査の意義 -OB・OGの経験から教育のあり方を考える
全学FD・SD ワークショップ	2019年8月	「研究室指導の効用の具体化とそのため手法」ワークショップに参加
Aprin e-learning	2019年9月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト
全学FD・SD 講演会	2020年8月	内部質保証について
Aprin e-learning	2020年10月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト

自己点検・評価、内部質保証委員会	2021年4月	オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て	
全学FD講演会	2021年8月	本学のキャリアパス形成について、本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状、キャリアパス展開のための学内プログラム実践例	
情報倫理とセキュリティ e-learning	2021年8月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2020年度版)	
Aprin e-learning	2022年4月	責任ある研究行為、人を対象とした研究 ダイジェスト	
情報倫理とセキュリティ e-learning	2022年5月	教職員のための情報倫理と情報セキュリティ (2021年度版)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Magnoliae Cortex extract protects PC12 cells from cytotoxicity induced by hydrogen peroxide or 6-hydroxydopamine through enzyme induction.	共著	2019年4月	Fundm. Toxicol. Sci., 6, 107-112.
(論文) 4-(Hydroxymethylnitrosamino)-1-(3-pyridyl)-1-butanone glucuronide has the potential to form 2'-deoxyguanosine and N-acetylcysteine adducts.	共著	2019年10月	J. Toxicol. Sci., 44, 693-699.
(論文) Magnolol protects PC12 cells from hydrogen peroxide or 6-hydroxydopamine induced cytotoxicity.	共著	2019年11月	J. Toxicol. Sci., 44, 753-758.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effects of phosphonium-based ionic liquids with various alkyl chain lengths and ammonium-based ionic liquids on cytotoxicity		2022年6月	日本毒性学会
セリ科植物由来成分 falcariindiol によるデキストラン硫酸ナトリウム誘導性大腸炎の抑制		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

なし	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬物送達学	職名 教授	氏名 根岸 洋一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2018年度以前~ 現在	・毎回の講義後に授業に関する感想（フィードバックカード）を提出してもらい、わかりにくい点・授業スタイルの不備等を抽出し、次回の授業にフィードバックした。次年度以降の授業改善にも活用した。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・物理薬剤学テキスト ・薬物送達学テキスト ・最新薬剤学（第11版）		2018年10月以前~ 現在 2018年度以前~ 現在 2018年4月	・物理薬剤学テキスト作成（図解をなるべく増やし、わかりやすく工夫） ・薬物送達学のテキスト作成（図解をなるべく増やし、わかりやすく工夫） ・4.7「薬物送達システム（DDS）」の部分を執筆した。（廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・2022年度ミニ教育ワークショップ		2022年5月28日	・2022年度新入教員のためのミニ教育ワークショップにおいて、授業内容の一部を紹介するとともに、シラバス作成やクラスデザインにおける工夫、フィードバックカードの実践等について説明した。
4 その他教育活動上特記すべき事 ・FD活動 ・薬剤学教科担当教員会議		2018年度以前~ 現在 2018年4月1日~ 現在	FD活動に積極的に参加し、得られた成果を授業・学生指導方針の改善に活かした。 会議へ出席した。（年1回）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）
（論文）Byproduct-Free Intact Modification of Insulin by Cholesterol End-Modified Poly(ethylene glycol) for in Vivo Protein Delivery.		共著	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Development of Antibody-Modified Nanobubbles Using Fc-Region-Binding Polypeptides for Ultrasound Imaging.		共著	2018年1月 Bioconjug Chem. 29:67-73.
（論文）Alpha-dystroglycan binding peptide A2G80-modified stealth liposomes as a muscle-targeting carrier for Duchenne muscular dystrophy.		共著	2019年6月 Pharmaceutics 11:283.
（論文）Development of A2G80 peptide-gene complex for targeted delivery to muscle cells.		共著	2021年1月 J Control Release. 329:1037-1045.
（論文）Ternary Complexes of pDNA, Neuron-Binding Peptide, and PEGylated Polyethyleneimine for Brain Delivery with Nano-Bubbles and Ultrasound.		共著	2021年1月 J Control Release. 329:988-996.
（論文）Ternary Complexes of pDNA, Neuron-Binding Peptide, and PEGylated Polyethyleneimine for Brain Delivery with Nano-Bubbles and Ultrasound.		共著	2021年7月 Pharmaceutics 13:1003.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Ultrasound-responsive nanobubbles loading nucleic acids for cancer therapy		2022年5月	American Society of Gene & Cell Therapy 25th Annual Meeting

Fc 領域結合ポリペプチドを利用した遺伝子デリバリーシステムの開発	2020年5月	日本薬剤学会第37年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年～現在	Scientific Reports 編集委員	
2018年～現在	日本薬剤学会代議員	
2021年1月～現在	日本薬学会代議員（関東支部）	
2021年6月～現在	DDS学会評議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬物送達学	職名 講師	氏名 高橋 葉子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度以前 ～現在 2021 年～現在	実習や演習においては、作業のみとならないよう、確認される事象や内容が創薬の場においてどう役立つものなのかを説明することで、学生の興味や学習への動機づけに繋がるよう努めた。 講義後に短い感想を提出してもらうことで、次回以降の改善や簡単な質問対応をできるようにした。またチェックテストにより、学生の知識の定着を促すよう努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度以前 ～現在	創薬学実習実験書 薬剤学実習 講義で使用している配布資料・パワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年度以前 ～現在	大学開催の FD 講演会を聴講し、自身の教育に取り入れている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Nucleic Acid Delivery System by the Combination of Lipid bubbles and Ultrasound	共著	2018 年 1 月	Curr. Pharm. Des., vol.24, 2673-2677
(論文) Microbubbles and Nanobubbles with Ultrasound for Systemic Gene Delivery	共著	2020 年 10 月	Pharmaceutics, vol.12, 964
(論文) Ternary Complexes of pDNA, Neuron-Binding Peptide, and PEGylated Polyethyleneimine for Brain Delivery with Nano-Bubbles and Ultrasound	共著	2021 年 7 月	Pharmaceutics, vol.13, 1003
(論文) 超音波とバブル製剤によるドラッグデリバリー	共著	2021 年 7 月	Drug Delivery System, vol.36, 166-174
(論文) Gene and oligonucleotide delivery via micro- and nanobubbles by ultrasound exposure	共著	2022 年 6 月	Drug Metab. Pharmacokinet., vol.44, 100445
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Ultrasound-responsive nanobubbles loading nucleic acids for cancer therapy		2022 年 5 月	American Society of Gene & Cell Therapy 25th Annual Meeting

(演題名) miRNA-145 を搭載した超音波応答性ナノバブルによる抗腫瘍効果	2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名) Fc 領域結合ポリペプチドを利用した遺伝子デリバリーシステムの開発	2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名) 血管炎症部位の検出を可能とする光音響・超音波応答性ナノ粒子の開発	2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名) 超音波応答性ナノバブルによる CRISPRi システムを利用した腫瘍増殖抑制効果	2022年6月	第38回日本 DDS 学会学術集会
(演題名) 超音波応答性ナノバブルの開発と核酸・遺伝子治療への応用	2022年7月	第28回日本遺伝子細胞治療学会学術集会
(演題名) miRNA 搭載超音波応答性ナノバブルの開発と腫瘍増殖抑制効果	2022年8月	遺伝子・デリバリー研究会第21回シンポジウム・第20回夏期セミナー
(演題名) 多糖類を利用した核酸搭載ナノバブルによる腫瘍への核酸デリバリー	2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) Fc 領域結合ポリペプチドによる細胞選択的遺伝子導入キャリアの開発	2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
(演題名) 超音波応答性ナノバブル技術を基盤とする疾患の診断・治療(予定)	2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2006年3月～現在	日本薬剤学会	
2006年7月～現在	日本 DDS 学会	
2007年3月～現在	日本薬学会	
2022年4月～現在	日本薬剤学会代議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	薬物送達学	講師	多田 墨
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
物理薬剤学 (2 年次後期必修科目)	2018 年 4 月以前～現在	<p>【教育内容】 医薬品製剤開発に必須な薬物と製剤材料の物理化学的な性質を理解する。具体的な担当項目としては、溶液論、界面科学、分散系、医薬品の安定性および安定化などであり、3 年次の薬物送達学や生物薬剤学などの基礎となる。</p> <p>【教育の工夫】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で配付する資料は穴埋め形式を用い、学生が講義に参加・拝聴出来るように工夫している。 2. 学生の記憶の定着を狙い、各回の最初の 10 分程度を前回の講義内容の復習に当てている。 3. 講義内で理解し難い現象については、動画を用いて視覚的に理解が進むように工夫している。 4. 各単元で学ぶ事柄について、身近な事象を具体例および最新の研究を紹介している。 5. 式を丸暗記しなくても導出できるように数学的な考え方を学べるように工夫している。 6. 物理薬剤学では計算問題が頻出のため、講義内にタブレットの手書きモードを使って演習している。 7. 学生が講義内容を身につけられなければ意味が無いと考え、なるべく教える内容を厳選するようにし進度は可能な限りゆっくり進めている。 8. 学生が自学習を効率よく進められるように演習問題を多く作成し提供している。 9. Google フォームで講義毎に学生の意見を吸い上げ、次の講義に活かすと共に、学生へのフィードバックをおこなっている。 <p>【授業評価】 「わかりやすかった。」、「自分で書き込んでいくスタイルがよかった。」、「国試で問われるポイントを明示してくれるのでよかった。」、「反復してくれるので理解が進んだ。」、「とても興味の湧く講義だった。」、「質問に丁寧に対応してくれてありがたかった。」、「講義の構成が工夫されていてとても興味深かった。」、「図とグラフが多用されていて良かった。」、「他の科目との関連付けが講義中にあり良か</p>	

		った。」「自学習のための資料が豊富でよかった。」など。
物理薬剤実習 (3年次後期)	2018年4月以前～現在	<p>【教育内容】</p> <p>医薬品製剤開発に必須な薬物と製剤材料の物理化学的な性質を理解するために、2年次に物理薬剤学で勉強した界面科学、レオロジー、医薬品の安定性について実習を通じて復習する。</p> <p>【教育の工夫】</p> <p>実習の時間では作業とデータ取得および解釈に集中できるように反転授業のような形を取っている。</p> <p>反転授業の事前資料としては、テキストだけでなく動画も用意することにより理解可能なように工夫している。</p> <p>【授業評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習をしっかりとった学生においては、実習作業と考察に集中できるため良いとの評価である。 2. 実習内容も視覚的に理解しやすい。 3. 現在話題のナノ粒子の内容も一部含まれ興味深い。
2 作成した教科書、教材、参考書		
配布テキスト (物理薬剤学)	2018年4月以前～現在	2年次必修科目の「物理薬剤学」の講義にてメインで使用したテキストを作成し配布した。指定教科書ならびに青本から2年次で身につけて欲しい内容にしぼって図および演習問題を豊富に配置して理解しやすいように工夫している。
実習書、事前学習テキスト、動画 (物理薬剤実習)	2018年4月以前～現在	3年次の実習である「物理薬剤実習」で使用している教材の作成をおこなっている。
		<p>実習書は、穴埋め式および豊富な演習問題を配置しており、実習で得られたデータの考察に役立つ知識の習得に配慮している。</p> <p>事前学習テキストは反転授業用に用意して配付している。</p> <p>また、テキストだけでなく動画での実習説明もアップロードしており事前に理解可能なように配慮している。</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
東京薬科大学 全学 FD 講演会	2022年8月	本学で学んだ学生のキャリアパスに関する分析および現状を学んだ。
東京薬科大学 内部質保証・FD 講演会	2022年4月	オンラインを用いた教育法および未来について学んだ。

東京薬科大学 FD 講演会	2021年8月	キャリア形成と展開についての学内プログラムの現状について学んだ。	
東京薬科大学 FD 講演会	2021年2月	薬学教育評価機構の評価項目などについて学んだ。	
東京薬科大学 全学 FD 講演会	2020年8月	大学の内部質保証について学んだ。	
東京薬科大学 全学 FD 講演会	2019年8月	本学で大規模に実施された卒業生調査のデータ分析についての最終報告を学んだ。	
東京薬科大学 FD 講演会	2019年3月	本学で大規模に実施された卒業生調査のデータ分析についての中間報告を学んだ。	
東京薬科大学 FD・SD ワークショップ	2018年8月	シナリオプランニングについて学んだ。	
東京薬科大学 全学 FD 講演会	2018年3月	教育の質保証と大学教員の役割について学んだ。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Role of interleukin-6 in antigen-specific mucosal immunoglobulin A induction by cationic liposomes	共著	2021年10月	Int Immunopharm, vol. 101
(論文) Polymeric Caffeic Acid Acts as a Nasal Vaccine Formulation against <i>Streptococcus pneumoniae</i> Infections in Mice	共著	2021年4月	Pharmaceutics, vol. 13
(論文) Essential role of host double-stranded DNA released from dying cells by cationic liposomes for mucosal adjuvanticity	共著	2020年1月	Vaccines, vol. 8
(論文) Polymeric caffeic acid is a safer mucosal adjuvant that augments antigen-specific mucosal and systemic immune responses in mice	共著	2018年8月	Mol Pharm, vol. 15
(論文) Nasal vaccination with pneumococcal surface protein A in combination with cationic liposomes consisting	共著	2018年8月	Inter Immunopharm, vol. 61

of DOTAP and DC-chol confers antigen-mediated protective immunity against <i>Streptococcus pneumoniae</i> infections in mice			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 正電荷リポソームの経鼻投与で惹起される鼻腔内への好中球遊走機構		2022年9月	第66回 日本薬学会 関東支部大会
(演題名) 経鼻投与型リポソームワクチンを用いた真菌ワクチン開発に向けた基礎的検討		2022年6月	第38回 日本DDS学会学術集会
(演題名) CpG ODN 搭載正電荷リポソームが有する粘膜アジュバント活性に対する IL-6 の寄与		2022年5月	日本薬剤学会 第37年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	日本薬剤学会 会員		
2014年4月～現在	日本DDS学会 会員		
2004年4月～現在	日本細菌学会 会員		
2003年4月～現在	日本薬学会 会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬物動態制御学教室	職名 教授	氏名 井上 勝央
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020.4~7 2020~2022	・オンデマンド配信による講義の実践 ・遠隔授業システムを使用したインタラクティブ講義
2 作成した教科書、教材、参考書		2018~2022 2018~2022	・授業プリントの自作、毎回配布およびWebClassへ ・薬学テキストシリーズ 生物薬剤学(朝倉書店、2018)、最新薬剤学(廣川書店、2018)、薬がみえるVo.4(メディアメディック、2020)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018~2022 2018~2022 2018~2022	・全学FDワークショップ・講演会への参加 ・授業改善のためのアンケートの実施 ・Aprin e-learningプログラムの受講
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Functional characterization of monocarboxylate transporter 12 (SLC16A12/MCT12) as a facilitative creatine transporter.	共著	2020年6月	Drug Metab Pharmacokinet, 35, 281-287
(論文) Utilization of sodium nitroprusside as an intestinal permeation enhancer for lipophilic drug absorption improvement in the rat proximal intestine.	共著	2021年10月	Molecules, 26, 6396
(論文) Mammalian monocarboxylate transporter 7 (MCT7/SLC16a6) is a novel facilitative taurine transporter.	共著	2022年4月	J Biol Chem, 298, 101800
(論文) Multiple transport mechanisms involved in the intestinal absorption of metformin: Impact on the nonlinear absorption kinetics.	共著	2022年5月	J Pharm Sci, 111, 1531-1541
(論文) SLC46A3 is a lysosomal proton-coupled steroid conjugate and bile acid transporter involved in transport of active catabolites of T-DM1.	共著	2022年7月	PNAS Nexus, 1, pgac063
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)モノカルボン酸トランスポーター6(MCT6)の輸送解析		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名)リソソームトランスポーター SLC46A3 を介したトラスツズマブ エムタンシン-薬物相互作用に関する検討		2022年7月	医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年以前~2020年3月		薬剤師国家試験 試験委員	
2018年以前~現在		Editorial Advisory Board of Journal of Pharmaceutical Sciences	
2018年以前~現在		知的財産高等裁判所 専門委員	
2021年4月~現在		日本薬学会 学術誌編集委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	助教	氏名	岸本 久直
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2016年～現在	・生物薬剤学では、基礎的内容だけでなく最新の話題や関連学会における研究動向など、教科書外の話題を提供した。		
		2016年～現在	・薬物動態学では、演習問題を解きながら理解を深めるよう授業を展開している。取り扱う問題は、毎年更新している。		
		2016年～現在	・レギュラトリーサイエンスでは、10年分の国家試験問題から抜粋し、理解を深める演習を行っている。		
		2022年	・薬剤学特論を担当、研究内容の理解を深めるよう努めた。		
		2013年～現在	・薬剤学実習では、基礎的な内容から実践的な内容までの理解が深まるよう努めた。		
2 作成した教科書、教材、参考書		2016年～現在	・授業毎にパワーポイントを作成、適宜復習などを入れ、授業の理解を深めるように努めている。		
		2013年～現在	・薬剤学実習の試験問題を作成した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017～現在	・人間と薬学運営委員会、早期臨床体験の引率。		
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
(論文) SLC46A3 is a lysosomal proton-coupled steroid conjugate and bile acid transporter involved in transport of active catabolites of T-DM1.	共著	2022年5月	PNAS Nexus, 1, pgac063		
(論文) The lipophilic cyclic peptide cyclosporin A induces aggregation of gel-forming mucins.	共著	2022年4月	Scientific Reports 12, 6153		
(論文) Mammalian monocarboxylate transporter 7 (MCT7/Slc16a6) is a novel facilitative taurine transporter.	共著	2022年4月	J Biol Chem. 298, 101800		
(論文) Multiple Transport Mechanisms Involved	共著	2022年5月	J Pharm Sci. 111, 1531-1541		

in the Intestinal Absorption of Metformin: Impact on the Nonlinear Absorption Kinetics: Contribution of Transporters to Metformin Absorption.			
(論文) Utilization of Sodium Nitroprusside as an Intestinal Permeation Enhancer for Lipophilic Drug Absorption Improvement in the Rat Proximal Intestine.	共著	2021年10月	Molecules. 26, 6396
(論文) Functional characterization of monocarboxylate transporter 12 (SLC16A12/MCT12) as a facilitative creatine transporter.	共著	2020年6月	Drug Metab Pharmacokinet. 35:281-287
(論文) Quantitative analysis of the effect of controlled-release formulation on nonlinear gastrointestinal absorption of P-glycoprotein substrate talinolol using physiologically based pharmacokinetic absorption model.	共著	2020年4月	J Drug Deliv Sci Technol. 56, 101057
(著書) 薬物の腸管吸収過程における粘液層の寄与とその分子機構解明を目指して.	共著	2020年4月	ファルマシア 56, 325-329
(論文) Mucins are Involved in the Intestinal Permeation of Lipophilic Drugs in the Proximal Region of Rat Small Intestine.	共著	2019年11月	Pharm Res. 36, 162
(論文) Effect of Osmolality on the Pharmacokinetic Interaction between Apple Juice and Atenolol in Rats.	共著	2019年4月	Drug Metab Dispos. 47, 386-391
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
中分子環状ペプチドと高分子ゲル形成ムチン間での相互作用評価		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
モノカルボン酸トランスポーター6 (MCT6) の輸送解析		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
リソソーム膜タンパク質 SLC46A3 の機能同定		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
オーファントランスポーターMCT7/Slc16a6 の内因性基質の同定		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
抗がん剤の細胞内移行性に与える糖鎖合成酵素阻害剤の影響		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
リソソームトランスポーターSLC46A3 を介したトラスツ		2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回クリ

ズマブエムタンシン-薬物相互作用に関する検討		ニカルファーマシーシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2019年7月～現在	トランスポーター研究会 幹事	
2018年度以前～現在	日本薬学会会員	
2018年度以前～現在	日本薬剤学会会員	
2018年度以前～現在	日本薬物動態学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬物動態制御学教室	職名 助教	氏名 樋口 慧
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020.7~2022	・遠隔授業システムを使用したインタラクティブ講義	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020.7~2022	・授業プリントの自作、毎回配布およびWebClassへ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020.7~2022 2020.7~2022 2020.7~2022	・全学FDワークショップ・講演会への参加 ・授業改善のためのアンケートの実施 ・Aprin e-learningプログラムの受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The Hepatic Plasma Membrane Citrate Transporter NaCT (SLC13A5) as a Molecular Target for Metformin.	共著	2020年5月	Sci Rep, 10, 8536
(論文) Involvement of a Na ⁺ -coupled Oligopeptide Transport System for β -amyloid Peptide (A β 1-42) in Brain Cells	共著	2020年6月	Pharm Res, 37, 98
(論文) Functional analysis of a species-specific inhibitor selective for human Na ⁺ -coupled citrate transporter (NaCT/SLC13A5/mINDY)	共著	2020年11月	Biochem J, 477, 4149-4165
(論文) A Proton-Coupled Transport System for β - Hydroxy- β -Methylbutyrate (HMB) in Blood- Brain Barrier Endothelial Cell Line hCMEC/D3	共著	2021年9月	Nutrients, 13, 3220
(論文) Mammalian monocarboxylate transporter 7 (MCT7/Slc16a6) is a novel facilitative taurine transporter	共著	2022年4月	J Biol Chem, 298, 101800
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
オーファントランスポーターMCT7/Slc16a6の内因性基 質の同定		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
Na ⁺ 依存性オリゴペプチドトランスポーターを介した β - amyloid 輸送の可能性		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月以前~現在	NGO 医療教育研究所 ビデオ講義担当		
2022年4月~現在	薬剤学編集委員会委員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 分子細胞病態薬理学教室	職名 教授	氏名 田野中 浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年4月から現在	講義用テキストに加え、講義用資料(プリント教材)を作成し、復習に用いるように指導している。プリント教材の項目(治療薬)の最後に要点を纏める問題を掲載し、知識の確認を学生が行えるようにしている。不明な点は、オフィスアワーを提示し、学生への質疑に対応している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年4月から現在 2017年7月から現在	講義用資料(プリント教材)を作成し、講義評価での意見を参照し、毎年改定している。 薬系薬理学書(南江堂)を編集し、講義用テキストとして使用している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		無し	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of 17-AAG on the RIP1/RIP3/MLKL pathway during the development of heart failure following myocardial infarction in rats	共著	2021年6月	Journal of Pharmacological Sciences Vol. 147 No. 2
(論文) Hsp90 inhibitor attenuates the development of pathophysiological cardiac fibrosis in mouse hypertrophy via suppression of the calcineurin-NFAT and c-Raf-Erk pathways	共著	2021年6月	Journal of Cardiovascular Pharmacology. vol. 77 No. 6
(論文) Effects of Hsp90 inhibitor on the RIP1-RIP3-MLKL pathway during the development of heart failure in mice	共著	2021年5月	European Journal of Pharmacology, vol. 898 No. 5
(論文) Transplantation of cardiac Sca-1-positive cells rather than c-Kit-positive cells preserves mitochondrial oxygen consumption of	共著	2019年7月	Journal of Pharmacological Sciences vol. 140 No. 3

the viable myocardium following myocardial infarction in rats			
(論文) Heat-shock protein 90 modulates cardiac ventricular hypertrophy via activation of MAPK pathway	共著	2019年2月	Journal of Molecular and Cellular Cardiology, vol.127 No.2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
無し			
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年1月～現在	国際心臓研究学会日本部会評議員		
2008年11月～現在	日本薬理学会学術評議員(代議員)		
2013年6月～現在	Editorial Board; European Journal of Pharmacology		
2020年6月～現在	Editorial Board; Cardiovascular Toxicology		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分子細胞病態薬理学教室	職名 講師	氏名 丸ノ内 徹郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度以前 ～現在	三年生必修薬理学Ⅲ及び薬理学Ⅳでは、図や絵を多く掲載した独自の講義プリントを作成し、講義内容が理解しやすくなるように努力した。これとは別に、知識のアウトプットができるようになることを目的とした教材として、国家試験の過去問をモディファイした誤文訂正問題集及び講義内容の要点をまとめさせる記述式の問題集を作成した。講義資料等は学生からの要望を反映して毎年更新しており、授業評価アンケートで高評価を受けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度以前 ～現在	薬系薬理学書(南江堂)の循環器系薬理パートを執筆した。講義プリント、各種問題集及実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年度以前 ～現在	全学FD講演会を受講した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Heat-shock protein 90 modulates cardiac ventricular hypertrophy via activation of MAPK pathway.	共著	2019年2月	J. Mol. Cell. Cardiol., vol.127
(論文) Transplantation of cardiac Sca-1-positive cells rather than c-Kit-positive cells preserves mitochondrial oxygen consumption of the viable myocardium following myocardial infarction in rats.	共著	2019年7月	J. Pharm. Sci., vol.140, No.3.
(論文) Effects of Hsp90 inhibitor on the RIP1-RIP3-MLKL pathway during the development of heart failure in mice.	共著	2021年5月	Eur. J. Pharmacol., vol.898.
(論文) Hsp90 Inhibitor Attenuates the Development of Pathophysiological Cardiac	共著	2021年6月	J. Cardiovasc. Pharmacol., vol.77, No.6.

Fibrosis in Mouse Hypertrophy via Suppression of the Calcineurin-NFAT and c-Raf-Erk Pathways.			
(論文) Effects of 17-AAG on the RIP1/RIP3/MLKL pathway during the development of heart failure following myocardial infarction in rats	共著	2021年10月	J. Pharm. Sci., vol.147, No.2.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Simvastatin attenuates cardiac fibrosis during the development of chronic heart failure via an inhibition of Hsp90-regulated cell signaling.		2022年12月	第96回日本薬理学会年会
(演題名)			
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年度以前～現在	日本薬学会会員		
2018年度以前～現在	国際心臓研究学会会員		
2018年度以前～現在	日本薬理学会学術評議員		
2021年3月～2022年12月	第96回日本薬理学会年会プログラム委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分子細胞病態薬理学教室	職名 助手	氏名 矢野 絵美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度以前 ～現在	薬理学実習では、実習に加えて演習の講義を行うことで実習内容の理解を深めている。コロナ禍以降は Zoom での同期型実習の実施や、対面実習とオンライン動画の併用により対応している。学生アンケートに基づき改善を試みている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度以前 ～現在	薬理学実習実習書・演習プリント・オンライン動画の作成に関わった。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年度以前 ～現在	学内 FD 講演会に参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Effects of cardiosphere-derived cell transplantation on cardiac mitochondrial oxygen consumption after myocardial infarction in rats.	共著	2018 年 12 月	Biomed Pharmacother., 108, 883-892
(論文) Transplantation of cardiac Sca-1-positive cells rather than c-Kit-positive cells preserves mitochondrial oxygen consumption of the viable myocardium following myocardial infarction in rats.	共著	2019 年 7 月	J Pharmacol Sci., 140, 236-241
(論文) Effects of Hsp90 inhibitor on the RIP1-RIP3-MLKL pathway during the development of heart failure in mice.	共著	2021 年 5 月	Eur J Pharmacol., 898, 173987
(論文) Hsp90 Inhibitor Attenuates the	共著	2021 年 6 月	J Cardiovasc Pharmacol., 77, 822-829

Development of Pathophysiological Cardiac Fibrosis in Mouse Hypertrophy via Suppression of the Calcineurin-NFAT and c-Raf-Erk Pathways.			
(論文) Effects of 17-AAG on the RIP1/RIP3/MLKL pathway during the development of heart failure following myocardial infarction in rats.	共著	2021年10月	J Pharmacol Sci., 147, 192-199
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)	なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本薬理学会会員		
2018年～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 病態生化学教室	職名 教授	氏名 野水基義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成 16 年～現在	わかりやすい講義を目的に、パワーポイントとそれにそぐった独自の教材を用いて行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		講義用教材「細胞生物学ノート」と「生化学演習 ノート」の作成。各 42 ページからなり、図やグラフ等がプリントされており、講義中に学生が自ら大事なところを書き込む形式にしている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成 23 年～現在 平成 26 年 3 月	米国臨床薬学研修の計画と引率業務。 CITI Japan e-learning プログラム受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Laminin-derived peptides: Applications in drug delivery systems for targeting	共著	2019 年 10 月	<i>Pharmacol Ther.</i> 2019, 202:91-97.
(論文) Evaluation of extracellular matrix mimetic laminin bioactive peptide and elastin-like polypeptide.	共著	2020 年 5 月	<i>FASEB J.</i> 2020, 34:6729-6740.
(論文) Development of Three-Dimensional Cell Culture Scaffolds Using Laminin Peptide-Conjugated Agarose Microgels.	共著	2020 年 9 月	<i>Biomacromolecules.</i> 2020 Sep 14;21(9):3765-3771.
(論文) Laminin β 2 variants associated with isolated nephropathy that impact matrix regulation	共著	2021 年 3 月	<i>JCI Insight.</i> 2021, 6(6):145908.
(論文) Effects of laminin-111 peptide coatings on rat neural stem/progenitor cell culture	共著	2021 年 3 月	<i>Exp Cell Res.</i> 2021, 400, 112440
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Development of cell adhesive peptide-agarose matrices for cell culture		2022 年 6 月	American Peptide Symposium

(演題名) Biologically active peptides from ECM molecules and their application	2022年9月	2022 Korea - Japan Joint Symposium on Matrix Biology
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2016年4月～2022年3月	日本ペプチド学会理事	
2020年4月～2022年3月	日本ペプチド学会会長	
2008年4月～現在	日本結合組織学会理事	
2021年4月～現在	日本結合組織学会理事長	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	病態生化学	准教授	吉川 大和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年度以前 ～現在	細胞生物学(1年次必修、前期) : 多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の構造と機能および組織構築に関する基本的知識を修得させる。さらに、細胞を構成する基本分子としてのタンパク質、糖質および脂質について、それらの分子構造および性状について基本的知識を修得させる。講義用のテキストを作成し、それをベースにしたスライドで講義を行った。2020年度からは、オンラインの講義となった。	
	2018年度以前 ～現在	生化学I(1年次必修、後期) : 生化学は、生命活動を各種生体分子の化学反応として理解する学問であり、医学や薬学を合理的に理解するためには、その正確な知識が欠かせない。生化学Iでは、生理活性物質、受容体、酵素等に関する生化学の基本的な知識を習得する。2020年度からは、オンラインの講義となった。	
	2018年度以前 ～現在	医療薬物薬学演習II 医薬品創製と基礎(生物系・医療薬学系) : 独創的な新しい医薬品を創製するには、ゲノム科学をはじめ、分子生物学、有機合成、薬理学、毒性学、薬物動態学、製剤学、情報科学など、有機化学、物理化学、生物化学分野にわたる幅広いサイエンスに関する知識の習得と実践的応用が必要である。本演習では、細胞生物学、分子生物学、生化学分野の問題演習を行い、知識の整理と応用を行った。2020年度からは、オンラインの講義となった。	
	2018年度以前 ～現在	人間と薬学I(1年次必修、前期) : 早期体験実習への参加およびSGD、グループごとの早期体験実習に挑む為の討論、プレゼンテーション作成時における参加の程度を加味して総合評価を行った。	
	2018年度以前 ～現在	基礎生物学実習(1年次必修、後期) : ヒトのからだでは、細胞がお互いに影響し合いながら統制の取れた機能を発揮する器官を形成し、さらに個体としての正常な生命活動を維持している。本実習においては、実験動物を用いて細胞、器官を観察することにより、個体構築に関する基礎的な知識を修得させる。さらにヒトの各器官系の構造と機能調節および成体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識・技能・態度を修得させる。ラットおよび培養細胞を用いて器官の形成や遺伝情報に関わる	

		染色体の観察を行った。2020年度からは、オンライン併用の講義となった。	
	2018年度以前～現在	医療薬物薬学英語特論Ⅰ(4年次必修、前期)：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。	
	2018年度以前～現在	医療薬物薬学英語特論Ⅱ(5年次必修、通年)：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。	
	2018年度以前～現在	医療薬物薬学課題研究(4,5,6年次必修、通年)：細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する背景を学ぶとともに研究課題の解決に必要な技術を修得させる。卒業論文をまとめることで、細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する研究を理解させる。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度以前～現在	細胞生物学ノート	
	2018年度以前～現在	生化学Ⅰノート	
	2018年度以前～現在	医療薬物薬学演習 演習問題プリント	
	2018年度以前～現在	生物系実習Ⅰ実験書 基礎生物学実習	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度以前～現在	実務実習訪問指導：実務実習先の病院(厚木市立病院・小田原市立病院・多摩南部地域病院)を訪問し、実習生の日誌および週報の確認、薬剤部のセミナーへ参加を行った。	
	2018年度以前～現在	OSCEの評価者(2020年度を除く)	
	2018年度以前～現在	CITI Japan e-learning プログラム 受講：研究倫理に関する講義とテスト	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Internalization of CD239 highly expressed in breast cancer cells: a potential antigen for antibody-drug conjugates.	共著	2018年4月	Sci Rep. 8, 6612

(著書) Laminin beta2 Chain. Encyclopedia of Signaling Molecules.	共著	2018年6月	Springer International Publishing: 2816-2826.
(論文) Characterization of dystroglycan binding in adhesion of human induced pluripotent stem cells to laminin-511 E8 fragment.	共著	2019年9月	Sci Rep. 9, 13037
(論文) Laminin beta2 variants associated with isolated nephropathy that impact matrix regulation.	共著	2021年3月	JCI Insight. 6, e145908
(著書) ラミニンの分離・同定法、細 胞外マトリックス実験法	共著	2021年12月	丸善、215-221
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト・ラミニン α 鎖 LG4-5 モジュールの機能 的な分類		2022年6月	日本結合組織学会
(演題名) RGD X_1X_2 配列の X_1X_2 残基が人工多能性幹細胞 のインテグリン $\alpha v\beta 5$ を介した 細胞接着に必要である		2022年6月	日本結合組織学会
(演題名) 抗体医薬搭載ナノバブルと治療用超音波を併 用した抗体デリバリーシステムの開発		2022年9月	日本薬学会 関東支部大会
(演題名) 筋ターゲティング型 mRNA 封入脂質ナノ粒子 の開発		2022年9月	日本薬学会 関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年1月～現在	日本結合組織学会 評議委員		
2019年6月	ファーマラボ EXP02019 への出展		
2021年3月	研究成果のプレスリリース		
2021年4月	CERT への寄稿		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名 講師	氏名 山田雄二
東京薬科大学	病態生化学教室		
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度～現在	細胞生物学 (1 年次必修、前期) : 多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の構造と機能および組織構築に関する基本的知識を修得させる。さらに、細胞を構成する基本分子としてのタンパク質、糖質および脂質について、それらの分子構造および性状について基本的知識を修得させる。講義用のテキストを作成し、それをベースにしたスライドで講義を行った。2020 年度からは、オンラインの講義となった。	
	2018 年度～現在	生化学 I (1 年次必修、後期) : 生化学は、生命活動を各種生体分子の化学反応として理解する学問であり、医学や薬学を合理的に理解するためには、その正確な知識が欠かせない。生化学 I では、生理活性物質、受容体、酵素等に関する生化学の基本的な知識を習得する。2020 年度からは、オンラインの講義となった。	
	2018 年度～現在	医療薬物薬学演習 II 医薬品創製と基礎 (生物系・医療薬学系) : 独創的な新しい医薬品を創製するには、ゲノム科学をはじめ、分子生物学、有機合成、薬理学、毒性学、薬物動態学、製剤学、情報科学など、有機化学、物理化学、生物化学分野にわたる幅広いサイエンスに関する知識の習得と実践的応用が必要である。本演習では、細胞生物学、分子生物学、生化学分野の問題演習を行い、知識の整理と応用を行った。2020 年度からは、オンラインの講義となった。	
	2019 年度～現在	人間と薬学 I (1 年次必修、前期) : 早期体験実習への参加および SGD、グループごとの早期体験実習に挑む為の討論、プレゼンテーション作成時における参加の程度を加味して総合評価を行った。	
	2018 年度～現在	基礎生物学実習 (1 年次必修、後期) : ヒトのからだでは、細胞がお互いに影響し合いながら統制の取れた機能を発揮する器官を形成し、さらに個体としての正常な生命活動を維持している。本実習においては、実験動物を用いて細胞、器官を観察することにより、個体構築に関する基礎的な知識を修得させる。さらにヒトの各器官系の構造と機能調節および成体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識・技能・態度を修得させる。ラットおよび培養細胞を用いて器官の形成や遺伝情報に関わる染色体の観察を行った。2020 年度からは、オンライン併用の講義となった。	

	2018年度～現在	医療薬物薬学英語特論Ⅰ(4年次必修、前期):細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。
	2018年度～現在	医療薬物薬学英語特論Ⅱ(5年次必修、通年):細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。
	2018年度～現在	医療薬物薬学課題研究(4,5,6年次必修、通年):細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する背景を学ぶとともに研究課題の解決に必要な技術を修得させる。卒業論文をまとめることで、細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する研究を理解させる。
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度～現在	細胞生物学ノート
	2018年度～現在	生化学Ⅰノート
	2018年度～現在	医療薬物薬学演習 演習問題プリント
	2018年度～現在	生物系実習Ⅰ実験書 基礎生物学実習
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度～現在	学内FD講演会への参加

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) ラミニンペプチドと再生医療	共著	2021年8月	化学同人、CSJ カレントレビュー39 生体分子と疾患
(論文) Development of three-dimensional cell culture scaffolds using laminin peptide-conjugated agarose microgels.	共著	2020年9月	Biomacromolecules, 21, 3765-3771.
(論文) Octa-arginine and Octa-lysine Promote Cell Adhesion through Heparan Sulfate Proteoglycans and Integrins.	共著	2022年2月	Biol Pharm Bull, 45, 207-212.
(論文) RGD $\alpha_1\beta_2$ motif regulates integrin $\alpha_5\beta_1$ binding for pluripotent stem cell adhesion.	共著	2022年6月	FASEB J, 36, e22389.
(論文) Effect of amino acid substitution on cell adhesion properties of octa-arginine.	共著	2022年10月	Biol Pharm Bull, in press

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
(演題名) ヒト・ラミニン α 鎖 LG4-5 モジュールの機能的な分類	2022年6月	日本結合組織学会
(演題名) RGD X_1X_2 配列の X_1X_2 残基が人工多能性幹細胞のインテグリン $\alpha v\beta 5$ を介した細胞接着に必要なである	2022年6月	日本結合組織学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2018年度以前～現在	日本ペプチド学会会員	
2018年度以前～現在	日本結合組織学会会員	
2018年度以前～現在	日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	病態生化学教室	助教	濱田 圭佑
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019 年度～現在	細胞生物学 (1 年次必修、前期) : 多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の構造と機能および組織構築に関する基本的知識を修得させる。さらに、細胞を構成する基本分子としてのタンパク質、糖質および脂質について、それらの分子構造および性状について基本的知識を修得させる。講義用のテキストを作成し、それをベースにしたスライドで講義を行った。2020 年度からは、オンラインの講義となった。	
	2019 年度～現在	生化学 I (1 年次必修、後期) : 生化学は、生命活動を各種生体分子の化学反応として理解する学問であり、医学や薬学を合理的に理解するためには、その正確な知識が欠かせない。生化学 I では、生理活性物質、受容体、酵素等に関する生化学の基本的な知識を習得する。2020 年度からは、オンラインの講義となった。	
	2019 年度～現在	医療薬物薬学演習 II 医薬品創製と基礎 (生物系・医療薬学系) : 独創的な新しい医薬品を創製するには、ゲノム科学をはじめ、分子生物学、有機合成、薬理学、毒性学、薬物動態学、製剤学、情報科学など、有機化学、物理化学、生物化学分野にわたる幅広いサイエンスに関する知識の習得と実践的応用が必要である。本演習では、細胞生物学、分子生物学、生化学分野の問題演習を行い、知識の整理と応用を行った。2020 年度からは、オンラインの講義となった。	
	2021 年度～現在	人間と薬学 I (1 年次必修、前期) : 早期体験実習への参加および SGD、グループごとの早期体験実習に挑む為の討論、プレゼンテーション作成時における参加の程度を加味して総合評価を行った。	
	2019 年度～現在	基礎生物学実習 (1 年次必修、後期) : ヒトのからだでは、細胞がお互いに影響し合いながら統制の取れた機能を発揮する器官を形成し、さらに個体としての正常な生命活動を維持している。本実習においては、実験動物を用いて細胞、器官を観察することにより、個体構築に関する基礎的な知識を修得させる。さらにヒトの各器官系の構造と機能調節および成体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識・技能・態度を修得させる。ラットおよび培養細胞を用いて器官の形成や遺伝情報に関わる染色体の観察を行った。2020 年度からは、オンライン併用の講義となった。	

	2018年度～現在	医療薬物薬学英語特論Ⅰ(4年次必修、前期):細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。
	2018年度～現在	医療薬物薬学英語特論Ⅱ(5年次必修、通年):細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関する論文を分担して訳し、発表した。細胞生物学の原著論文を読み解説した。
	2018年度～現在	医療薬物薬学課題研究(4,5,6年次必修、通年):細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する背景を学ぶとともに研究課題の解決に必要な技術を修得させる。卒業論文をまとめることで、細胞外マトリックスおよびバイオマテリアルに関連する研究を理解させる。
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年度～現在	細胞生物学ノート
	2019年度～現在	生化学Ⅰノート
	2018年度～現在	医療薬物薬学演習 演習問題プリント
	2018年度～現在	生物系実習Ⅰ実験書 基礎生物学実習
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度～現在	学内FD講演会への参加

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) New negamycin-based potent readthrough derivative effective against TGA-type nonsense mutations	共著	2019年10月	ACS medicinal chemistry letters, 10, 1450-1456
(論文) St. John's Wort alleviates dextran sodium sulfate-induced colitis through pregnane X receptor-dependent NFκB antagonism	共著	2021年11月	FASEB journal, 35, e21968.
(論文) Withaferin A alleviates ethanol-induced liver injury by inhibiting hepatic lipogenesis	共著	2022年1月	Food and chemical toxicology, 160, 112807.
(論文) Crosstalk between CYP2E1 and PPARα substrates and agonists modulate adipose browning and obesity	共著	2022年2月	Acta pharmaceutica sinica B, DOI: 10.1016/j.apsb.2022.02.004
(論文) Intestinal peroxisome proliferator-activated receptor α-	共著	2022年4月	Hepatology, DOI: 10.1002/hep.32538

fatty acid binding protein 1 axis modulates nonalcoholic steatohepatitis			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト・ラミニン α 鎖 LG4-5 モジュールの機能的な分類		2022年6月	日本結合組織学会
(演題名) RGD X_1X_2 配列の X_1X_2 残基が人工多能性幹細胞のインテグリン $\alpha v\beta 5$ を介した細胞接着に必要なである		2022年6月	日本結合組織学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年度以前～現在		日本ペプチド学会会員	
2018年度以前～現在		日本結合組織学会会員	
2018年度以前～現在		米国細胞生物学会会員	
2018年度以前～現在		日本筋学会会員	
2018年度以前～現在		日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 内分泌薬理学	職名 教授	氏名 田村 和広
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018～現在 2018～現在	【講義・実習】ppt は講義開始前に WebClass に公開し、自学習に役立つようにしている。試験対策用の問題項目・薬物リスト、過去問を配布し学習目標を明確化している。WebClass を活用しインターラクティブ教育を実践している。 【卒論指導】週一回の教室ゼミに全卒論生が参加(2020 年 4 月からは基本オンラインにて)
2 作成した教科書、教材、参考書		2018. 7. 10 2020. 1. 20 2020. 4. 10 2020. 4. 28	・薬系薬理学書(南江堂) (6章 感覚系、7章 内分泌) (共著) ・臨床薬学テキストシリーズ[薬理・病態・薬物治療] (中山書店) 第4章 内分泌疾患: 3. 4. (共著) ・最新 薬理学要説 (愛智出版、編者) ・薬がみえる vol. 4 (メディク・メディア) (「薬理学総論」、「薬の作用様式」) (監修)
3 教育方法・教育実践に関する発表講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		2018～現在 2022. 6. 26	・学内各種 FD 講演会への参加(聴講) ・85 回 薬剤師勉強会 「ホルモンバランス: 更年期」講演
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Cordyceps Militaris fruit body extract decreases testosterone catabolism and testosterone-stimulated prostate hypertrophy	共著	2020 年 12 月	Nutrients 2021, 13, 50 https://dx.doi.org/10.3390/nu13010050
(論文) Senolytic treatment modulates decidualization in human endometrial stromal cells	共著	2021 年 7 月	Biochem Biophys Res Commun. 571, 174-180
(論文) Possible roles of calreticulin in uterine decidualization and receptivity in rats and humans	共著	2021 年 9 月	Int J Mol Sci. 22, 10505. http://doi.org/10.3390/ijms221910505
(論文) PGE2 and thrombin induce myofibroblast transdifferentiation via activinA and CTGF in endometrial stromal cells	共著	2021 年 10 月	Endocrinology 162, 1-13
(論文) Alpha 1 antitrypsin regulates trophoblast syncytialization and inflammatory factor expression	共著	2022 年 2 月	Int J Mol Sci. 23, 1995. http://doi.org/10.3390/ijms23041955
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
子宮内膜細胞の alpha 1 antitrypsin 発現低下は TLR3/4 を介した炎症を増強する		2022. 6 月	第 146 回日本薬理学会関東部会
胎盤栄養膜細胞の融合と炎症反応調節における alpha 1 antitrypsin の役割		2022. 8 月	生体機能と創薬シンポジウム
III 学会および社会における主な活動 (直近 5 年間に携わったもの数件)			
2017 年 4 月～現在		日本胎盤学会常任理事	
2021 年 4 月～現在		日本生殖内分泌学会理事	
2021 年 11 月		第 29 回日本胎盤学会学術集会 会長 (主催)	
2021 年 12 月～現在		Biomolecules, Section Board member of Biomolecules	
2022 年 3 月～現在		Biomolecules, Guest Editor of Special Issue 'State-of-Art Molecular Reproduction in Japan'	

2022年3月～現在

JPW2022(日本薬理学会/日本臨床薬理学会学術集会)プログラム委員

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	内分泌薬理学教室	准教授	吉江 幹浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬と疾病入門	2015 年度～ 現在	神経伝達物質、サイトカイン及びオータコイドなどの生理活性物質の作用とそれに関連する疾患とその治療法を学び、2 学年前期から開始される薬理学への学習基盤を築き、薬物療法の基礎を確立する。また、生理活性物質の受容体、作用、作用発現機序、医療への応用についての基本的な知識も習得し、薬理的な考え方を身につける。	
薬理学 I	2019 年度～ 現在	自律神経系並びに内分泌系に作用する薬物について学習する。自律神経系と内分泌系に関わる生理活性物質の作用の理解を深めると共に、これらの系に作用する薬物の薬理作用、作用機序(治療根拠)、医療用途の他、副作用、薬物相互作用などを学習する。特に性ホルモン関連薬について担当した。	
薬理学実習	2006 年度～ 現在	実験動物を適切に使用する心構え(態度)と正確なデータ取得のための技能を身につけ、臓器レベルあるいは個体レベルでどのような機序を介して薬物の効果が発揮されるかを理解し、講義・演習で得た知識と効果的に連動させ、科学的思考の醸成することを目的とする。また、グループでの実習を通して、チームワークの大切さを理解し、コミュニケーション能力を身につける。	
薬理学特論	2007～2013 年度、2015、2017、2019、2021 年度	薬剤師が重要な役割を担う薬物治療の基盤を形成する薬理学について研究面から新たに学ぶ。薬物の作用機序だけでなく、新たな研究展開により明らかにされた病態およびその治療薬開発について幅広い知識を習得することを目的とする。妊娠の成立から分娩までの生理学と生殖に関わるホルモンならびにその関連薬物について説明した。また、これまでに明らかにされた妊娠制御因子について最新の研究動向を紹介し、その異常により生じる病態と薬物治療について解説した。	
生体機能制御学特論	2012、2018、2020、2022 年度	悪性腫瘍、脳・神経疾患、内分泌・代謝疾患、感染症、循環器疾患等における病態と薬物治療の最先端の知識を習得するために、これらの疾患の概念、症候、診断および治療法を理解し、最先端の薬物療法について学ぶ。特に生殖生理(着床・胎盤形成)と妊娠関連疾患(妊娠高血圧症候群、早産)、また関連薬物について説明した。	
医療衛生薬学演習 II	2009 年度～	少子高齢者社会を迎え、慢性・難治性疾患は著しく増加し	

臨床応用薬学への課題研究チュートリアル	現在	ている。特論 I で得た知識を基に、これらの疾患に対する薬学的アプローチ法や薬剤師の関わりについての考え方や技能を高めるために、本演習では医療衛生薬学科の各研究室において課された課題研究テーマ等を題材にインターラクティブなチュートリアルトレーニングを実施する。課題研究に対する調査・研究に基づいた資料を作成し、個別指導教員（チューター）との討議を通じ、課題となるテーマを解決するための理論的かつ応用可能な発展的展開ができる能力を身につける。
医療衛生薬学特論 薬剤師の職能と自己将来展望	2016 年度～ 現在	研究、医療、保健・衛生、行政、食品、化粧品分野など多様な職業分野において活躍が期待される。6 年制教育の中で自分が希望する将来の進路を考える機会を与え、その具現化に向けた方略とモチベーションを得るために、各分野で活躍の卒業生を中心とした講師の方々との講演を通じて、その分野の現状と将来展望、必要とされる知識、技能、態度、準備期間などを知り、各自必要な情報を収集し、「進路活動プラン」を立案する。また、実際に進路活動において想定される「適性検査」、「自己 PR 作成」、「オンライン模擬面接」などを模擬体験して、現時点における希望進路への準備到達度を把握する。
生殖医療特論	2015 年度～現在	生殖補助医療 (ART) は、不妊症患者を妊娠に導く医療技術であり、現在、急速に普及している。日本における体外・顕微受精の件数は世界最多であり、一般不妊治療と合わせて複雑な社会的、倫理的問題に直面している。本科目では、不妊症と深く関わる生殖器系疾患の病態生理を学ぶと共に、不妊治療における医薬品使用の現状、薬物療法の意義について学ぶ。腺機能の生理学、特に、着床に向けた子宮内膜の準備機構と性ホルモンとの関係、胎盤形成の生理学、妊娠高血圧症候群 (PIH)、性腺機能と関連した疾患 (機能低下症、月経異常、異常妊娠、異常分娩)、不妊症の疫学、原因疾患の概説 (女性、男性)、生殖器系作用薬の講義を担当した。
人間と薬学 I SGD	2013 年度～ 現在	薬剤師や薬学に対する社会のニーズや期待、また医療人としての薬剤師の活動と責務をよく理解しておく必要がある。本科目では、薬剤師に求められる社会的ニーズと期待、医療スタッフとしての倫理観や薬剤師の役割などについて、学内外の専門家の講義を聴講する。また、我が国の医療制度あるいは医療従事者の社会における活動状況と責務の概略を知り、薬学生としての学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する病院および薬局を訪問 (早期臨床体験) し、その体験に基づくグループ討議を行う。本科目を通じて、広い視野から「薬学」を考える力を養い、共感的な態度、能動的な学習態度を身につける。

情報収集Ⅳ	2012年度～ 現在	教育内容と特徴：課題研究を行う上で必要な知識を得ること、質の高い薬剤師を目指す。調査研究コース生を対象として薬理学の内分泌系作用薬の範囲を説明した。	
総合薬学演習Ⅰ		薬学専門科目に関する知識を総合的に整理し、高度化・多様化する医療の一翼を担う薬剤師として必要な知識基盤を確固たるものとする。「医療薬学」では、医薬品の薬理作用と相互作用、病態、薬物治療に関する知識や医薬品の体内動態、製剤に関する知識を習得する。	
医療衛生薬学英语特論Ⅰ、Ⅱ	2010年度～ 現在	薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。課題研究（卒論）テーマに関連する英文学術雑誌を熟読し、その内容を資料・スライドにまとめて発表した。	
医療衛生薬学課題研究	2006年度～ 現在	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、実験研究コースでは、将来、研究活動に参画できるようになるために、その基本的理念および態度を修得し、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。さらに研究活動を通して、自ら得た成果を世に問う研究の醍醐味を体感する。調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年7月 2020年3月	薬系薬理学書（南江堂）、 最新 薬理学要説（愛智出版） 講義用 PPT ファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Stathmin dynamics modulate the activity of eribulin in breast cancer cells.	共著	2021年8月	Pharmacol Res Perspect. 9(4): e00786.
(論文) Possible Roles of Galreticulin in Uterine	共著	2021年9月	Int J Mol Sci. 22(19):10505

Decidualization and Receptivity in Rats and Humans.			
(論文) Possible Involvement of miR-98 in the Regulation of PGRMC1 During Decidualization	共著	2022年7月	Reprod. Med. 3(2):189-200
(論文) PGRMC1 Regulates Cellular Senescence via Modulating FOXO1 Expression in Decidualizing Endometrial Stromal Cells	共著	2022年7月	Biomolecules 12(8): 1046
(著書) 基礎と臨床の両側面からみた胎盤学	共著	2019年12月	日本胎盤学会(編集)、メジカルレビュー社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
子宮内膜細胞の alpha 2 antitrypsin 発現低下は TLR3/4 を介した炎症を増強する		2022年6月	第146回日本薬理学会関東部会
胎盤栄養膜細胞の分化・融合におけるプロゲステロン受容体膜構成因子1発現の意義		2022年7月	第3回生体膜デザインコンファレンス
プロゲステロン受容体膜構成因子1の発現減少は、栄養膜細胞の融合を促進する		2022年11月 (予定)	第30回日本胎盤学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年4月～現在	日本薬理学会 学術評議委員		
2014年4月～現在	日本胎盤学会 学術評議委員		
2018年度以前～現在	日本薬学会 会員		
2018年度以前～現在	日本生殖内分泌学会 会員		
2019年4月～現在	日本内分泌学会 会員		
2020年11月～2021年11月	第29回日本胎盤学会学術集会/第39回日本絨毛性疾患研究会・主催事務局 幹事		
2022年4月～現在	第96回日本薬理学会年会プログラム委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 内分泌薬理学	職名 講師	氏名 草間 和哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年7月～ 現在	教科書と連動した講義プリントによる講義の実施 講義動画の一定期間の視聴による繰り返し学習 授業評価アンケートの結果に基づく講義や資料の改善	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月10 日	最新 薬理学要説-薬の効き方の基礎を学ぶ- (田村、吉江、船田、鈴木、草間 編、愛智出版) 薬理学の教科書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Alpha 1 antitrypsin regulates trophoblast syncytialization and inflammatory factor expression.	共著	2022年2月	Int. J. Mol. Sci., 23:1955
(論文) PGE2 and thrombin induce myofibroblast transdifferentiation via activinA and CTGF in endometrial stromal cells.	共著	2021年10月	Endocrinology, 162:bqab207
(論文) Senolytic treatment modulates decidualization in human endometrial stromal cells.	共著	2021年7月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 571:174-180
(論文) Endometrial epithelial-mesenchymal transition (EMT) by menstruation-related inflammatory factors during hypoxia.	共著	2021年5月	Mol. Hum. Reprod., 27:gaab036
(論文) Alpha-1 antitrypsin-induced endoplasmic reticulum stress promotes invasion by extravillous trophoblasts.	共著	2021年4月	Int. J. Mol. Sci., 22:3683
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 子宮内膜細胞の alpha 1 antitrypsin 発現低下は TLR3/4 を介した炎症を増強する		2022年6月	第146回日本薬理学会関東部会

(演題名) 胎盤栄養膜細胞の分化・融合におけるプロゲステロン受容体膜構成因子1発現の意義	2022年7月	第3回生体膜デザインコンファレンス
(演題名) 胎盤栄養膜細胞の融合と炎症反応調節におけるAlpha 1 antitrypsinの役割	2022年8月	生体機能と創薬シンポジウム2022
(演題名) 牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)感染に関するゲノムワイド関連解析	2022年9月	日本畜産学会第130回大会
(演題名) HDPにおける絨毛外栄養膜の浸潤と小胞体ストレス応答	2022年12月	第96回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2020年11月~2021年11月	第29回日本胎盤学会学術集会/第39回日本絨毛性疾患研究会・主催事務局	
2022年1月~現在	Guest Editor (Int. J. Mol. Sci.)	
2022年3月~現在	Review Editor (Front. Cell. Dev. Biol.)	
2010年~現在	日本薬学会会員	
2019年~現在	日本薬理学会会員	
2010年~現在	日本生殖内分泌学会会員(2022年度より評議委員)	
2011年~現在	日本胎盤学会会員	
2015年~現在	日本繁殖生物学会会員	
2019年~現在	日本内分泌学会会員	
2016年~現在	Society for the Study of Reproduction (SSR)会員	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 内分泌薬理学	職名 助手	氏名 安曇 麻奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021/4～現在	実習の理解度をはかるため確認テストの実施 授業評価アンケートの実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021/4～現在	実習、演習のパワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021/1～現在	学内開催のFD研修会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Stathmin dynamics modulate the activity of eribulin in breast cancer cells.	共著	2021年8月	Pharmacol Res Perspect, 9: e00786.
(論文) Senolytic treatment modulates decidualization in human endometrial stromal cells.	共著	2021年9月	Biochem Biophys Res Commun, 571:174-180
(論文) PGE2 and Thrombin Induce Myofibroblast Transdifferentiation via Activin A and CTGF in Endometrial Stromal Cells.	共著	2021年12月	Endocrinology, 162: bqab207
(論文) Possible Involvement of miR-98 in the Regulation of PGRMC1 During Decidualization.	共著	2022年6月	Reproductive Medicine, 3:189-200.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名 Eribulin modulates stathmin dynamics and enhances paclitaxel sensitivity in ovarian cancer cells.		2022年11月	第96回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年1月～現在		公益社団法人日本薬学会会員	

2021年1月～現在	日本生殖内分泌学会会員
2021年1月～現在	公益社団法人日本薬理学会会員
2021年1月～現在	日本胎盤学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 教授	氏名 藤原 泰之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・2年前期(必須)「健康保持と疾病予防」 ・2年後期(必須)「生活環境と健康」		2018年4月以前 ～現在	「健康保持と疾病予防」・「生活環境と健康」 両講義ともに、初回講義の際に衛生薬学と本講義に関する概要を説明するとともに、薬剤師国家試験との関連性等について説明し、本講義の重要性を周知した。また、講義に必要な資料並びに昨年度の定期試験問題を配付し、授業内容のポイントの理解に役立たせた。さらに、フィードバック講義を実施することで学習効率の向上を目指した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
衛生試験法・注解 2020(日本薬学会編/小椋康光編集委員長/神野透人・藤原泰之副編集委員長)。金原出版。		2020年3月20日	学校薬剤師が小・中学校や高等学校で実施する試験項目を含んだ「衛生試験法」に関する内容を掲載した書籍の編集を副編集委員長として担当した。
コンパス衛生薬学 ―健康と環境― 改訂第3版(鍛冶利幸・佐藤雅彦編集)。南江堂。		2020年3月30日	衛生薬学系の講義内容をまとめた薬学生向けの教科書であり、分担執筆を行った。担当箇所は、「水環境」の章中の「水質汚濁」、「DO, BOD, CODの測定」、「富栄養化」の3項目である。
必携・衛生試験法 第3版(日本薬学会編/藤原泰之編集委員長/佐藤雅彦監修)。金原出版。		2021年3月20日	衛生薬学系の講義並びに実習で活用するための教科書である。「衛生試験法・注解 2020」から、衛生薬学系の講義並びに衛生系実習に活用するための項目を抜粋し、より理解しやすいように改変した内容を掲載した。本書籍の編集を編集委員長として担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項(FDを含む)		2021年3月15日	第15回薬学教育協議会衛生薬学教員担当会議(オンライン開催)にて、衛生試験法に関する話題～必携・衛生試験法第3版について～という演題で、衛生試験法に関する話題を提供した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦) 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Nuclear factor erythroid 2-related factor 2		共著	2020年4月 J. Toxicol Sci., 45,

(NRF2) is a negative regulator of tissue plasminogen activator synthesis in cultured human vascular endothelial EA.hy926 cells.			237-243.
Cadmium induces iron deficiency anemia through the suppression of iron transport in the duodenum.	共著	2020年7月	Toxicol. Lett., 332, 130-139.
Possible mechanism of heme oxygenase-1 expression in rat malignant meningioma KMY-J cells subjected to talaporfin sodium-mediated photodynamic therapy.	共著	2020年10月	Photodiagnosis Photodyn. Ther., 32, 102009.
Arsenite inhibits tissue-type plasminogen activator synthesis through NRF2 activation in cultured human vascular endothelial EA.hy926 cells.	共著	2021年1月	Int. J. Mol. Sci., 22, 739.
Arsenite induces tissue factor synthesis through Nrf2 activation in cultured human aortic smooth muscle cells.	共著	2021年4月	J. Toxicol. Sci., 46, 187-192.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
亜ヒ酸による血管内皮細胞および血管平滑筋細胞の凝固系亢進とその分子機構		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
亜ヒ酸単回投与マウスの血管および血管周囲脂肪組織のメタロチオネイン発現誘導		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
メチル水銀による感覚障害からの回復～後根神経節における感覚神経新生の可能性についての探索～		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
鉛により血管内皮細胞のパールカン発現はEGFR-ERK1/2-COX-2/PGI ₂ 経路を介して抑制される		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
亜ヒ酸による血管内皮細胞の活性硫黄分子産生酵素 cystathionine γ -lyase の発現誘導		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
マウス血管組織における線溶系因子の発現に対する亜ヒ酸曝露の影響		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
血液凝固・線溶系に対する亜ヒ酸の毒性発現機構 (シンポジウム: 生体金属部会シンポジウム ～ヒ素の毒性発現機序の解明に向けた挑戦～)		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
Cadmium induces metallothionein expression in mouse thoracic aorta and perivascular adipose tissue.		2022年7月	The 8 th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
Induction of a reactive sulfur-producing enzyme cystathionine gamma-lyase in cultured vascular endothelial cells exposed to arsenite		2022年7月	The 8 th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
メチル水銀投与ラットにおける後根神経節の組織学的解析～回復期における感覚神経再生の可能性～		2022年8月	フォーラム2022: 衛生薬学・環境トキシコロジー
新たな水俣病原物質候補 (Hg-CHO, Hg-COOH) の細胞毒性試験		2022年8月	フォーラム2022: 衛生薬

		学・環境トキシコロジー
メチル水銀曝露ラット後根神経節における炎症応答細胞の経時変化	2022年8月	フォーラム2022: 衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞において cystathionine gamma-lyase が亜ヒ酸毒性に対して防御的な作用を有する	2022年8月	フォーラム2022: 衛生薬学・環境トキシコロジー
メチル水銀投与ラットにおける末梢感覚神経障害後回復には神経新生が伴うのか	2022年10月	メタルバイオサイエンス研究会2022
マウスの血液線溶系に対する亜ヒ酸の毒性発現	2022年10月	メタルバイオサイエンス研究会2022
グリオブラストーマに対する抗腫瘍活性を示す薬剤の併用効果	2022年10月	メタルバイオサイエンス研究会2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2016年～現在	日本結合組織学会 評議員	
2021年～現在	日本薬学会 代議員	
2014年～2019年	日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 委員(2014-2019)・委員長(2019-2022)	
2022年～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 必携・衛生試験法編集委員会 オブザーバー	
2016年～2022年	日本薬学会 環境・衛生部会 常任世話人	
2016年～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 総務委員会 委員長(2016-2022)・委員(2022-現在)	
2016年～2022年	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法用語専門委員会 委員(2016-2019)・委員長(2019-2022)	
2022年～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法用語委員会 オブザーバー	
2018年～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 BPB Reports 編集委員会 委員	
2022年～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 関連法規情報委員会 委員	
2012年～現在	日本毒性学会 評議員	
2018年～2022年	日本毒性学会 理事	
2014年～現在	日本毒性学会 編集委員会 委員(2014-2022)・副委員長(2022-現在)	
2014年～2020年	日本毒性学会 編集委員会 田邊賞選考小委員会 委員(2014-2018)・副委員長(2018-2019)・委員長(2019-2020)	
2018年～2022年	日本毒性学会 財務委員会 委員	
2018年～現在	日本毒性学会 学術広報委員会 学術小委員会 委員	
2018年～2020年	日本毒性学会 生体金属部会 幹事	
2020年～現在	日本毒性学会 生体金属部会 常任幹事	
2021年～現在	日本毒性学会 生体金属部会 総務委員会 委員長	
2014年～現在	The Journal of Toxicological Sciences, Associate Editor (2014-2022)・Deputy Editor-in-Chief (2022-現在)	
2014年～現在	Fundamental Toxicological Sciences, Editorial Board Member	
2018年～現在	BPB Reports, Associate Editor	
2019年～現在	厚生労働省 薬剤師国家試験 試験委員	
2014年～現在	薬学教育協議会 衛生薬学教科担当教員会議 担当者	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 准教授	氏名 篠田陽
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) LMSとしてWebclassを使用	2019年4月～	LMSとしてWebclassを使用したオンデマンド教材により、頻回の復習を可能にした。また復習テスト導入により講義内容の理解度を可視化した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生化学	2020年～	公衆衛生学授業で使用する教科書(執筆中)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 慶應義塾大学 JST グローバルサイエンスキャンパス 参画委員—重点連携機関 代表 JST アジアサイエンスキャンプ推進委員会 委員 2021年 東京薬科大学スピリッツ賞 アカデミックストリートWG創設	2019年-現在 2017年-現在 2021年 2021年-現在	選抜された高校生に対する研究指導。イベント開催。 サイエンスを志向する高校生・大学生の日本代表選抜とアジア諸国への引率 コロナ禍における遠隔教育の推進や効果的教授法を展開した功績に対する受賞 低学年学生や外部来校者に向けた本学研究のポスター展示ストリートの開設とポスター展示	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Synaptotagmin-3 drives AMPA receptor endocytosis, depression of synapse strength, and forgetting	共著	2019年	<i>Science</i> (2019) 363 (6422), eaav1483
Systematic review and meta-analysis of <i>in vitro</i> anti-human cancer experiments investigating the use of 5-aminolevulinic acid (5-ALA) for photodynamic therapy	共著	2021年	<i>Pharmaceuticals</i> (2021) 14(3), 229
Hypoalgesia and recovery in methylmercury-exposed rats	共著	2021年	<i>J. Toxicol. Sci.</i> (2021) 46(6), 303-309
The physiological role of Homer2a	共著	2021年	<i>Mol. Brain</i> (2021) 14: 90

and its novel short isoform, Homer2e, in NMDA receptor-mediated apoptosis in cerebellar granule cells			
Avenaciolide Induces Apoptosis in Human Malignant Meningioma Cells through the Production of Reactive Oxygen Species	共著	2022年	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> (2022) 45(4), 517-521
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
メチル水銀による感覚障害からの回復～後根神経節における感覚神経新生の可能性についての探索～		2022年・6月	第49回日本毒性学会学術年会
新たな水俣病原因物質候補(Hg-CHO, Hg-COOH)の細胞毒性試験		2022年・8月	フォーラム2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本毒性学会 生体金属部会幹事会 幹事		
2019年4月～現在	慶應義塾大学 JST グローバルサイエンスキャンパス 重点連携機関 代表		
2020年4月～現在	日本生理学会 集会委員会		
2021年4月～現在	学術調査官		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 講師	氏名 高橋 勉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・2年前期(必須)「健康保持と疾病予防」 ・2年後期(必須)「生活環境と健康」		2018年4月以前～現在	「健康保持と疾病予防」・「生活環境と健康」 両講義ともに、衛生薬学における本講義に関する位置付け・重要性を概説するとともに、薬剤師国家試験との関連性等について説明した。また、講義に必要な資料並びに昨年度の定期試験問題を配付し、授業内容のポイントの理解に役立たせた。さらに、フィードバック講義を実施することで学習効率の向上を目指した。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Nuclear factor erythroid 2-related factor 2 (NRF2) is a negative regulator of tissue plasminogen activator synthesis in cultured human vascular endothelial EA.hy926 cells.	共著	2020年4月	J. Toxicol Sci., 45, 237-243.
Possible mechanism of heme oxygenase-1 expression in rat malignant meningioma KMY-J cells subjected to talaporfin sodium-mediated photodynamic therapy.	共著	2020年10月	Photodiagnosis Photodyn. Ther., 32, 102009.
Arsenite inhibits tissue-type plasminogen activator synthesis through NRF2 activation in cultured human vascular endothelial EA.hy926 cells.	共著	2021年1月	Int. J. Mol. Sci., 22, 739.
Arsenite induces tissue factor	共著		

synthesis through Nrf2 activation in cultured human aortic smooth muscle cells.		2021年4月	J. Toxicol. Sci., 46, 187-192.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
亜ヒ酸による血管内皮細胞および血管平滑筋細胞の凝固系亢進とその分子機構		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
亜ヒ酸単回投与マウスの血管および血管周囲脂肪組織のメタロチオネイン発現誘導		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
メチル水銀による感覚障害からの回復～後根神経節における感覚神経新生の可能性についての探索～		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
亜ヒ酸による血管内皮細胞の活性硫黄分子産生酵素 cystathionine γ -lyase の発現誘導		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
マウス血管組織における線溶系因子の発現に対する亜ヒ酸曝露の影響		2022年6-7月	第49回日本毒性学会学術年会
Cadmium induces metallothionein expression in mouse thoracic aorta and perivascular adipose tissue.		2022年7月	The 8 th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
Induction of a reactive sulfur-producing enzyme cystathionine gamma-lyase in cultured vascular endothelial cells exposed to arsenite		2022年7月	The 8 th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
メチル水銀投与ラットにおける後根神経節の組織学的解析～回復期における感覚神経再生の可能性～		2022年8月	フォーラム2022：衛生薬学・環境トキシコロジー
新たな水俣病原因物質候補(Hg-CHO, Hg-COOH)の細胞毒性試験		2022年8月	フォーラム2022：衛生薬学・環境トキシコロジー
メチル水銀曝露ラット後根神経節における炎症応答細胞の経時変化		2022年8月	フォーラム2022：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞において cystathionine gamma-lyase が亜ヒ酸毒性に対して防御的な作用を有する		2022年8月	フォーラム2022：衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2019年～2021年	日本薬学会 学術誌編集委員		
2018年～現在	日本毒性学会 生体金属部会 幹事		
2016年～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 若手研究者活性化小委員会委員		
2014年～現在	日本毒性学会 Fund. Toxicol. Sci. 誌 Editorial Board(査読委員)		
2014年～現在	日本毒性学会 評議委員		
2010年～現在	日本毒性学会 J. Toxicol. Sci. 誌 Editorial Board(査読委員)		
2015年～2017年	日本薬学会 日本薬学会ファルマシアトピックス小委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 助教	氏名 恒岡 弥生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	なし		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・衛生化学・公衆衛生学実習 実習書 ・情報収集Ⅲ (2018~2020年), 情報 収集Ⅰ (2021年) 講義資料 ・総合薬学演習Ⅰ 講義資料	2018~2021年 2018~2021年 2021年	空気試験法(1), 空気試験法(2), 水質試験法(1), 水質試験法(2), 環境放射線試験法およびデータシートの編集を行った。 資料は, 穴埋めや問題解説を加えて作成し, 復習や自学習で用いやすいことを意識した。 資料は, 穴埋めや問題解説を加えて作成し, 復習や自学習で用いやすいことを意識した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年	実務実習指導薬剤師のためのFD研修会(第3回)に大学内受講者として出席。実務実習における問題を挙げ、実務実習に関連するより良いカリキュラムを作り上げていく手法を考えた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Cell morphology and early-phase Ca ²⁺ transients of guinea-pig pulmonary vein cardiomyocytes compared with atrial and ventricular cardiomyocytes.	共著	2019年1月	Bioimages, 27, 1-12
Arsenite inhibits gene expression of perlecan, syndecan-1, -2, -3 and biglycan in cultured vascular endothelial cells.	共著	2020年3月	Fundam. Toxicol., 7(2), 77-83
Benzothiazepines, diltiazem and JTV-519, exert an anxiolytic-like effect via neurosteroid biosynthesis in mice.	共著	2020年7月	J. Pharmacol. Sci., 143(3), 234- 237
Systematic review and meta- analysis of in vitro anti-human cancer experiments investigating	共著	2021年3月	Pharmaceuticals, 14(3), 229-242

the use of 5-aminolevulinic acid (5-ALA) for photodynamic therapy.			
Fluorescein permeability of the blood-brain barrier is enhanced in juvenile- but not young adult-onset type 1 diabetes in rats.	共著	2021年7月	Biol. Pharm. Bull., 44(8), 1088-1092
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
メチル水銀による感覚障害からの回復～後根神経節における感覚神経新生の可能性についての探索～		2022年6, 7月	第49回毒性学会学術年会
亜ヒ酸による血管内皮細胞の活性イオウ分子産生酵素 cystathionine γ -lyase の発現誘導		2022年6, 7月	第49回毒性学会学術年会
亜ヒ酸単回投与マウスの血管および血管周囲脂肪組織のメタロチオネイン発現誘導		2022年6, 7月	第49回毒性学会学術年会
マウス血管組織における線溶系因子の発現に対する亜ヒ酸曝露の影響		2022年6, 7月	第49回毒性学会学術年会
Cadmium induces metallothionein expression in mouse thoracic aorta and perivascular adipose tissue		2022年7月	The 8th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
Induction of a reactive sulfur-producing enzyme cystathionine gamma-lyase in cultured vascular endothelial cells exposed to arsenite		2022年7月	The 8th International Symposium on Metallomics (ISM-8)
新規オキサゼピン誘導体の心血管への薬理作用の検討		2022年8月	第8回東京環境健康薬学研究会(予定)
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～現在	日本薬理学会学術評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 漢方資源応用学教室	職名 教授	氏名 三巻祥浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年以前～現在	漢方薬物学 I (3 年次前期必修科目) では、薬学生のための漢方薬入門 (廣川書店) を教科書として使用した。講義プリントとして本編と資料集編を作成し、重要ポイントを書き込む形式で講義を進めた。過年度の定期試験問題を講義プリント資料集編に掲載し、最低限理解して欲しい点を示した。毎年実施している授業評価では、パワーポイントスライドが分かり易い、講義プリントに重要な点を書き込む形式で講義が進められるので、要点が分かり易いというコメントが多く、概ね好評と考えている。講義の満足度では、毎年平均値を上回っている評価を得ている。 漢方薬物学 II (3 年次後期選択科目) では、過去 10 年の薬剤師国家試験問題のうち漢方薬に関連した出題を例示し、重要ポイントの復習を兼ねつつ、アドバンス的な内容を盛り込んでいる。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年 4 月 1 日 2019 年 4 月 1 日 2020 年 4 月 1 日 2021 年 4 月 1 日 2021 年 8 月 20 日 2022 年 2 月 20 日 2022 年 3 月 30 日 2022 年 4 月 1 日	2018 年度 漢方薬物学 I 講義ノート、2018 年度 漢方薬物学 I 講義資料集 2019 年度 漢方薬物学 I 講義ノート、2019 年度 漢方薬物学 I 講義資料集 2020 年度 漢方薬物学 I 講義ノート、2020 年度 漢方薬物学 I 講義資料集 2021 年度 漢方薬物学 I 講義ノート、2021 年度 漢方薬物学 I 講義資料集 パートナー天然物化学 (改訂第 4 版) パートナー生薬学 (改訂第 4 版) 薬学生のための漢方薬入門 第 5 版 2022 年度 漢方薬物学 I 講義ノート、2022 年度 漢方薬物学 I 講義資料集	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019 年 5 月 11 日 2021 年 5 月 22 日 2022 年 5 月 28 日	新入教員のための FD ワークショップ：薬学部の目指す教育・カリキュラムについて (講演) 2021 年度 新入教員のためのミニ教育ワークショップ：薬学部の目指す教育・カリキュラムについて (講演) 2021 年度 新入教員のためのミニ教育ワークショップ：薬学部の目指す教育・カリキュラムについて (講演)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2019 年 5 月 11 日 2021 年 5 月 22 日 2022 年 5 月 28 日	新入教員のための FD ワークショップ (タスクフォース) 2021 年度 新入教員のためのミニ教育ワークショップ (タスクフォース) 2022 年度 新入教員のためのミニ教育ワークショップ (タスクフォース)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Aestivalosides A-L, twelve pregnane glycosides from the seeds of <i>Adonis aestivalis</i> .	共著	2018 年 5 月	Phytochemistry, 150, 75-84
(論文) Total synthesis and determination of the absolute configuration of paralemnolin C and biological studies of eremophilane derivatives	共著	2019 年 5 月	Tetrahedron Lett., 60, 1604-1606
(論文) A Total of Eight Novel Steroidal Glycosides Based on Spirostan, Furostan, Pseudofurostan, and Cholestane from the Leaves of <i>Cestrum newellii</i> .	共著	2020 年 9 月	Molecules, 25, e4462

(論文) Steroidal glycosides from the aerial parts of <i>Avena sativa</i> L. and their cytotoxic activity	共著	2021年11月	J. Agric. Food Chem., 69, 14568-14579
(論文) Cytotoxic triterpene and steroidal glycosides from the seeds of <i>Digitalis purpurea</i> and the synergic cytotoxicity steroidal glycosides and etoposide in SBC-3 cells	共著	2022年2月	Bioorg. Chem., 122, 105697
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
トリプシン阻害活性を示す漢方エキス製剤のスクリーニング(2)		2022年8月	第39回 和漢医薬学会学術大会
がん治療薬のシズ化合物の探索研究 ～ステロイド系化合物を中心に～		2022年8月	第39回 和漢医薬学会学術大会
ムラサキクンシラン <i>Agapanthus africanus</i> 地下部より単離された新規ステロイド配糖体は SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞をアポトーシスに誘導する		2022年8月	超異分野学会大阪大会 2022
観賞用植物サボンソウから単離された化合物はがん細胞の細胞死(アポトーシス)を誘導する		2022年8月	超異分野学会大阪大会 2022
Cholestane 型ステロイド配糖体 OSW-1 の SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞に対するアポトーシス誘導メカニズムの検討		2022年8月	2022年度 若手支援技術講習会
ジギタリス種子由来の新規ステロイド系化合物の構造と細胞毒性		2022年9月	第64回 天然有機化合物討論会
ユリ科 <i>Agapanthus africanus</i> 地下部から単離された新規ステロイド配糖体の構造と SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞に対するアポトーシス誘導活性		2022年9月	日本生薬学会 第68回年会
キンポウゲ科植物の化学成分(38) <i>Helleborus niger</i> 全草から単離された ecdysteroid 誘導体の構造と腫瘍細胞毒性		2022年9月	日本生薬学会 第68回年会
<i>Allium</i> 'Globemaster' 鱗茎から単離されたステロイド配糖体は SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞をアポトーシスに誘導する		2022年9月	第66回 日本薬学会関東支部大会
トベラ科トベラ <i>Pittosporum tobira</i> 葉の化学成分と ID01 阻害活		2022年9月	第66回 日本薬学会関東支部大会
トリプシン阻害活性を示す漢方エキス製剤のスクリーニング(3)		2022年9月	第66回 日本薬学会関東支部大会
キンポウゲ科 <i>Helleborus niger</i> 全草から単離された新規 bufadienolide 誘導体は SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞をアポトーシスに誘導する		2022年11月	第9回 医薬工3大学包括連携推進シンポジウム
サボンソウ <i>Saponaria officinalis</i> 種子由来新規トリテルペン配糖体はヒト小細胞肺癌細胞をアポトーシスに誘導する		2022年12月	第4回 生体膜デザインコンファレンス
キンポウゲ科植物の化学成分(39) <i>Helleborus niger</i> 全草から単離された bufadienolide 誘導体のアポトーシス誘導活性		2023年3月	日本薬学会 第143年会
漢方薬中の生薬成分に関する研究(12) ダイオウ配合漢方薬煎液および医療用漢方エキス製剤中のセノシド A、B の定量		2023年3月	日本薬学会 第143年会
ユリ科 <i>Ornithogalum thyrsoides</i> 鱗茎から単離された新規ステロイド配糖体の構造と腫瘍細胞毒性		2023年3月	日本薬学会 第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2005年4月～現在	和漢医薬学会代議員		
2006年1月～2018年12月	Natural Product Communications 誌編集委員		
2010年1月～2018年12月	Phytochemistry 誌 Editorial Board Member		
2010年4月～2019年3月	日本生薬学会代議員		
2010年4月～現在	Steroids 誌 Editorial Board Member		
2014年4月～現在	日本生薬学会関東支部役員		
2019年4月～現在	日本薬学会生薬天然物部会代表世話人会(2019年～2020年庶務担当)		
2019年4月～現在	Natural Product Communications 誌 Editorial Board Member		
2019年4月～現在	日本生薬学会関東甲信越地区幹事		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

2022年12月末日現在

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	漢方資源応用学教室	准教授	横須賀 章人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年以前～ 現在 2019年～現在	<p>漢方薬物学 II の講義では、植物薬品学、生薬学、漢方薬物学 I のアドバンス的な内容を含め、国家試験に対応できるよう問題演習を多く取り入れている。</p> <p>漢方薬物学実習では、漢方処方とそれらの構成生薬に関する知識を学ぶほか、漢方薬を実際に煎じてエキス剤との比較をするなど、実務に沿った内容も行っている。毎回の実習終了時に口頭試問を行い、知識の定着をはかっている。</p> <p>植物薬品学の講義では、パワーポイントを活用して講義を進めている。教材は、教科書以外に、講義の要点をまとめたプリント・資料を準備し、学生が理解を深められるよう心がけている。授業評価における学生からの要望は可能な限り次年度に取り入れている。</p> <p>漢方薬物学 I の講義では、講義の配布資料の冊子体（漢方薬物学 I 講義ノート、漢方薬物学 I 資料集）を予め配布して講義を進めている。</p> <p>総合系ゼミナールでは、「アンチ・ドーピングと薬剤師」をテーマとしている。個人で調査・発表を行う機会を多く設け、学生の能動的学修を促すように心がけている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年以前～ 現在 2022年3月	<p>講義の要点をまとめたプリント・資料</p> <p>薬学生のための漢方薬入門 第5版</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年以前～ 現在 2018年以前～ 現在	<p>毎年、大学主催のFD講演会・研修会へ参加し、FDに関する見識を深めている。</p> <p>毎年、研究倫理に関する e-learning プログラムを受講している。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Cytotoxic bufadienolides from the whole plants of <i>Helleborus foetidus</i>	共著	2018年2月	Phytochemistry Lett. 23, 94-99
(論文) Pregnane glycosides from	共著	2019年1月	J Nat Med, 73, 93-103

the bark of <i>Marsdenia cundurango</i> and their cytotoxic activity			
(論文) Bufadienolide glycosides and bufadienolides from the whole plants of <i>Helleborus lividus</i> , and their cytotoxic activity	共著	2020年8月	Phytochemistry, 176, 112415
(論文) Steroidal glycosides from the aerial parts of <i>Avena sativa</i> L. and their cytotoxic activity	共著	2021年12月	J Agric Food Chem, 76, 78-82
(論文) Chemical components from the leaves of <i>Hedera rhombea</i> and their cytotoxicity	共著	2022年10月	Chem Pharm Bul, 70: 175-181
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) キンポウゲ科植物の化学成分(38) <i>Helleborus niger</i> 全草から単離された ecdysteroid 誘導体の構造と腫瘍細胞毒性		2022年9月	日本生薬学会 第68回年会
(演題名) ユリ科 <i>Agapanthus africanus</i> 地下部から単離された新規ステロイド配糖体の構造と SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞に対するアポトーシス誘導活性		2022年9月	日本生薬学会 第68回年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年以前～現在	日本ラグビーフットボール協会 アンチ・ドーピング委員		
2019年4月～現在	日本生薬学会関東支部役員(生薬に関する懇談会担当)		
2019年4月～現在	日本薬剤師研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師 講師		
2020年9月～現在	Molecules 誌 Editorial Board Member (Natural Products Chemistry Section)		
2021年2月～現在	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 漢方資源応用学教室	職名 講師	氏名 松尾侑希子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～現在	<u>漢方薬物学実習</u> 操作手順が理解しやすいように、図や写真を多用して事前説明を行った。考察の仕方、レポート作成法は全員が理解できるように、実験終了後に詳細に説明した。	
	2018年～現在	<u>植物薬品学</u> 暗記科目の勉強の仕方やまとめ方を例示し、テスト勉強に取り組みやすくした。	
	2018年～現在	<u>漢方薬物学 II</u> イメージ図や色の使い方を工夫して、生合成経路を親しみやすく印象付けた。	
	2019年～現在	<u>漢方薬物学 I</u> 混乱しないよう、漢方処方の違いをまとめながら学習を進めた。	
	2022年4月～現在	<u>臨床漢方薬物学</u> 最新の研究成果とともに漢方薬の臨床研究を提示し、重要性と難しさを伝えた。科学的に信頼のおけるデータを示した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年～現在 2022年3月30日	2年化学系実習 II 実験書(毎年度) 薬学生のための漢方薬入門(第5版)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年8月25日	2020全学FDワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Benzofuran and coumarin derivatives from the root of <i>Angelica dahurica</i> and their PPAR- γ ligand-binding activity	共著	2020年5月	Phytochemistry, 173, 112301
Chemical Constituents of the Bulbs of <i>Scilla peruviana</i> and Their Pancreatic Lipase Inhibitory	共著	2021年1月	Int. J. Mol. Sci., 22, 1262

Activity			
Digipregnosides A-C, three novel rearranged 11,12-secopregnane glycosides, and digipregnosides D and E, 12,20-epoxypregnane glycosides from the seeds of <i>Digitalis purpurea</i>	共著	2021年4月	Tetrahedron Letters, 70, 153020
Cytotoxic triterpene and steroidal glycosides from the seeds of <i>Digitalis purpurea</i> and the synergistic cytotoxicity of steroidal glycosides and etoposide in SBC-3 cells	共著	2022年5月	Bioorganic Chemistry, 122, 105697
Lanceolanone A, a new biflavanone, and a chalcone glucoside from the flower heads of <i>Coreopsis lanceolata</i> and their aldose reductase inhibitory activity and AMPK activation	共著	2022年9月	Journal of Natural Medicines, 1-9
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
トリプシン阻害活性を示す漢方エキス製剤のスクリーニング (2)		2022年8月	第39回和漢医薬学会学術大会
がん治療薬のシズ化合物の探索研究～ステロイド系化合物を中心に～ (シンポジウム)		2022年8月	第39回和漢医薬学会学術大会
ジギタリス種子由来の新規ステロイド系化合物の構造と細胞毒性		2022年9月	第64回天然有機化合物討論会
トベラ科トベラ <i>Pittosporum tobira</i> 葉の化学成分と ID01 阻害活性		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
トリプシン阻害活性を示す漢方エキス製剤のスクリーニング (3)		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
キノロンアルカロイド類とヒト隣リパーゼのドッキングシミュレーション		2022年9月	日本物理学会 2022年秋季大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本生薬学会会員		
2018年～現在	和漢医薬学会会員		
2018年～現在	日本がん分子標的治療学会		
2018年～現在	日本薬学会会員※		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 漢方資源応用学教室	職名 助教	氏名 井口巴樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 教育内容の工夫	2019年4月～ 現在	学部実習では、実習内容のより深い理解への工夫を行った。大学院講義では、最新の研究例を紹介した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料の作成	2019年4月～ 現在	学部実習では、詳細な実験手順や内容について、適宜動画を用いて講義した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 薬用植物園運営委員会 新任教員FDワークショップ 全学FDワークショップ 2019年度調整機構認定指導薬剤師 養成ワークショップ 全学FD・SD講演会 全学FD講演会	2019年4月～ 2019年5月 2019年8月 2020年1月 2020年8月 2021年8月	<p>本学薬用植物園の運営、管理ならびに見学会開催 大学教育／高等教育の問題点について討論した。 卒業生調査の意義についての講演の聴講 「卒業生調査の結果から卒業論文研究のコースデザインを考える」のグループワーク参加 「研究室指導に活用可能な学生の力を引き出すコーチング技能」のワークショップ参加 実務実習認定指導薬剤師養成ワークショップに参加</p> <p>「内部質保証について」の講演の聴講 「本学のキャリアパス形成について」、「本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状」、「キャリアパス展開のための学内プログラム実践例」の講演の聴講</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Novel steroidal glycosides from the whole plants of Helleborus foetidus	共著	2019年12月	Chem. Pharm. Bull., 68, 273-287
(論文) Bufadienolides from the whole plants of Helleborus foetidus and their cytotoxicity	共著	2020年1月	Phytochemistry, 172, e112277
(論文) Bufadienolide glycosides and bufadienolides from the whole plants of Helleborus lividus, and	共著	2020年5月	Phytochemistry, 176, e112415

their cytotoxic activity			
(論文) A total of eight novel steroidal glycosides based on spirostan, furostan, pseudofurostan, and cholestane from the leaves of <i>Cestrum newellii</i>	共著	2020年9月	Molecules, 25, e4462
(論文) Novel Oleanane-Type Triterpene Glycosides from the <i>Saponaria officinalis</i> L. Seeds and Apoptosis-Inducing Activity via Mitochondria	共著	2022年2月	Int. Mol. Sci., 23, e2047
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ムラサキクンシラン <i>Agapanthus africanus</i> 地下部より単離された新規ステロイド配糖体は SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞をアポトーシスに誘導する		2022年8月	超異分野学会 2022 シーズン大阪大会
(演題名) ユリ科 <i>Agapanthus africanus</i> 地下部から単離された新規ステロイド配糖体の構造と SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞に対するアポトーシス誘導活性		2022年9月	日本生薬学会第68回年会
(演題名) <i>Allium</i> 'Globemaster' 鱗茎から単離されたステロイド配糖体は SBC-3 ヒト小細胞肺癌細胞をアポトーシスに誘導する		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
...	日本薬学会会員		
...	日本生薬学会会員		
...	日本がん分子標的治療学会		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 創剤科学教室	職名 教授	氏名 石原 比呂之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月～ 現在	3年次の担当科目については、オンライン講義中に時折、Zoomのアンケート機能を用いて前学年等で既に学習した関連事項などに関するクイズを解かせるなど、講義への集中力が継続できる様に働きかけた。 4年次の科別演習においては、国家試験過去問の解説に加えて、製薬企業での研究事例に関する小グループでの討議などを取り入れ、学習内容の具体的な活用について考える機会とした。また、講義を通して学習した内容と感想レポートを履修者に提出を求め、学習効果を確認した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月～ 現在	3年次、4年次の担当科目では、オンライン授業に向けて、教科書の内容の重要なポイントを簡潔に整理し、それに文献等からのトピックスを追加した講義資料(pdfファイル)を講義毎に作成し、講義の数日前から開示した。また、3年次の担当科目については、復習用の演習問題を作成し、毎回の講義終了後に提供した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年4月～ 現在	学内教員を対象としたFD研修(毎年、年1回)に参加。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Simulation of Stimuli-Responsive and Stoichiometrically Controlled Release Rate of Doxorubicin from Liposomes in Tumor Interstitial Fluid	共著	2018年5月	Pharm. Res., 35, 103-111
医薬品開発におけるドラッグデリバリーシステム	単著	2019年7月	化学工学, 83, 30-33
PEG shedding-rate-dependent blood clearance of PEGylated lipid nanoparticles in mice: Faster PEG shedding attenuated anti-PEG IgM production	共著	2020年10月	Int. J. Pharmaceut. 588, 1610-1613
rf5 siRNA-loaded biodegradable lipid nanoparticles ameliorate concanavalin A-induced liver injury	共著	2021年9月	Mol. Ther. Nucleic Acids, 25, 708-715

Difference in the lipid nanoparticle technology employed in three approved siRNA (Patisiran) and mRNA (COVID-19 vaccine) drugs	共著	2021年10月	Drug Metab. Pharmacokinet., 41, 100424
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
多機能性ペプチド修飾リポソームの構成アミノ酸による siRNA 細胞内導入効率への影響		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
実用化されたナノ DDS 製剤		2022年9月	第3回超分子薬剤学フォーカスグループシンポジウム
リポソーム製剤の設計と評価		2022年9月	第30回 DDS カンファランス
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2010年6月～2021年3月	日本 DDS 学会評議員		
2012年6月～現在	日本薬剤学会代議員		
2019年10月～現在	日本核酸医薬学会評議員・DDS セッション主任幹事		
2020年4月～現在	日本核酸医薬学会 COI 委員会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 創剤科学	職名 准教授	氏名 高島 由季
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚教育技術を活用した授業の実施 ・ 演習問題の作成 <p>・ eラーニングシステムの活用</p> <p>・ 授業アンケートによる評価</p> <p>・ オフィスアワーの活用</p> <p>・ ティーチング・アシスタントの活用</p>	2018 年度～現在	<p>「製剤設計学」(3年前期、必修1単位)、「薬物送達学」(3年後期、必修1単位)、「物理化学」(2年後期、必修1単位、2022年度より担当)、「情報収集Ⅲ」(5年後期、必修1単位)、「情報収集Ⅳ」(6年後期、必修1単位)、「総合薬学演習Ⅰ講義(2020年度よりアドバンス演習講義から名称変更)」(6年後期、必修1単位)、「分子創剤制御学特論」(修士課程1年前期、必修1単位)、「薬剤学特論」(博士課程1年前期、必修1単位)において、製剤設計技術や製薬会社で実際に使用されている製剤の製造機械、薬物送達システムの必要性と実際に医薬品に組み込まれている仕組みや製剤の構造などを学生がイメージしやすいよう、写真やカラー図を多く取り入れた教材を作成。特に、教科書の図ではイメージしにくい製造機械については、機械の動きがわかる動画を自ら撮影・編集し、理解しやすい視聴覚教材を作成。また、復習時に講義内容及び要点を整理しやすい内容の演習問題を作成し、学生に提示。</p> <p>2020年度より、上記に加え、学内eラーニングシステム(WebClass)を活用し、講義資料と演習問題及び講義録画の掲載により予習復習しやすくしている。また、「薬剤学実習」(3年後期、必修1単位)の実習説明及び実習内容の資料と動画を作成・掲載し、対面実習の事前学習ならびに非同期型実習を実施した。</p> <p>大学全体の授業アンケート、独自の授業内アンケートを行い、進め方・話す速度や講義資料の見やすさなど学生からの指摘や要望を確認し、改善に努めている。学生からは概ね高い評価を得ている。</p> <p>上記科目において、オフィスアワーを実践。授業で理解できなかった点や、さらに詳細な説明や解説を求める学生に対し、個別に対応。個々の理解力に応じることができるよう、学生の理解度・満足度につながっている。</p> <p>「薬剤学実習」(3年後期、必修1単位)において、ティーチング・アシスタント(TA)制度を活用。TAには主に実習の補助と学生への質疑応答時の補助を担当させた。これまで以上にきめ細かい学生への指導が可能となり、製剤機械を扱う際に事故等が起きないように、より注意をはらいなが</p>	

		ら進めることができている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
1) 講義用パワーポイント、配布資料、動画資料	2018 年度～現在	講義及び実習で使用する教材として、パワーポイントスライド、配布資料、参考動画を撮影し、編集、作成した。
2) 薬物送達学テキスト(根岸洋一、高島由季 著)	2018 年度～2021 年度	東京薬科大学学生協から販売の「薬物送達学テキスト」の「粘膜投与型 DDS 製剤」を執筆。本テキストは年度ごとに編集印刷し、薬学部3年次のテキストとして活用。
3) 薬剤学実習書	2018 年度～現在	薬剤学実習で使用する実習書の内容を毎年度改訂。
4) 最新薬剤学第11版(編集:尾関哲也、井上勝央、廣川書店)	2018 年 4 月 30 日	本書の「局方一般試験法中の製剤試験法」(p. 430-475)を執筆。日本薬局方の改正に伴う変更箇所を含め、最新薬剤学第10版の内容を更新した。医薬品の品質管理・品質保証に重要な試験法を学ぶ薬学部生のテキストとして活用されている。講義で使用。
5) 基礎から学ぶ製剤化のサイエンス第4版(編集:原島秀吉、伊藤智夫、寺田勝英、伊藤清美、南江堂)	2022 年 2 月 15 日	本書の「反応速度論と医薬品安定性」(p. 271-288)を執筆。薬物の溶解や分解等に関わる反応速度論および医薬品の安定性を学ぶ薬学部生のテキストとして活用されている。
6) 臨床に生きる物理薬剤学・製剤学(監修:深水啓朗、南山堂)	2022 年 10 月発売予定	本書の「固形製剤の製造工程、日本薬局方の基礎、製剤試験法」を執筆(ページ未定)。製剤の製造機械などの動画撮影、編集も担当。錠剤などの固形製剤の製造方法、品質管理・品質保証に重要な試験法を学ぶ薬学部生のテキスト。動画付きの新しいタイプの教科書である。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		
1) 薬学部学生委員会委員	2021 年度～現在	薬学部学生に関わる業務を務めている。
2) OSCE 実施委員会委員	2020 年度～現在	OSCE 実施委員会委員として、薬学部生4年次の全国薬学共用試験(OSCE)の実施運営に関わる業務を務めている。
3) 文部科学省平成28年度大学教育再生戦略推進費大学教育再生加速プログラム(AP)実行委員会委員	2018 年度以前～2020 年度	東京薬科大学大学教育再生戦略推進費大学教育再生加速プログラム(AP)実行委員会委員として、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組実施に関わる業務を務めた。
4) 薬学部 FD 委員会委員委員	2018 年度以前～現在	薬学部 FD 委員会委員として、学内での FD 活動に関わる業務を務めている。
5) 総合薬学演習実施委員会委員	2018 年度以前～現在	薬学部6年次生対象の総合薬学演習Ⅰ講義及び総合薬学演習Ⅱ試験の薬剤学分野の講義取り纏め、試験問題出題、試験問題と解説書の作成におけるオーガナイザーを務めている。

6) 卒後・生涯教育委員会委員	2018 年度以前 ～現在	卒業後の生涯教育として春期と秋期に開催する卒後教育講座の企画運営業務を務めている。
7) 実務実習先病院コーディネーター	2018 年度以前 ～現在	薬学部5年次生の実務実習先病院の担当コーディネーターとして、施設への挨拶、最終報告会参加、実習生との面談と実習進捗確認等の業務を務めている。
8) 薬学部教務委員会委員	2018 年度、2020 年度～2021 年 度	東京薬科大学薬学部教務委員会委員として、薬学部教務に関わる業務を務めた。
9) 日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤学」部会 大学担当	2018 年度以前 ～2021 年度	日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤学」部会の東京薬科大学担当として、国家試験終了後に 出題問題内容の適切性等の評価に関わる業務を務めた。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Transdermal anti-nuclear kappaB siRNA therapy for atopic dermatitis using a combination of two kinds of functional oligopeptide.	共著	2018 年 8 月	Int J Pharm, 542: P. 213-220
(論文) Effects of surface charge and flexibility of liposomes on dermal drug delivery.	共著	2019 年 1 月	J Drug Deliv Sci Technol, 50: P. 155-162
(論文) Anti-RelA siRNA-encapsulated flexible liposome with tight junction-opening peptide as a non-invasive topical therapeutic for atopic dermatitis.	共著	2019 年 4 月	Biol Pharm Bull, 42: P. 1-11
(論文) Therapeutic Effects in a Transient Middle Cerebral Artery Occlusion Rat Model by Nose-To-Brain Delivery of Anti-TNF-Alpha siRNA with Cell-Penetrating Peptide-Modified Polymer Micelles.	共著	2019 年 9 月	Pharmaceutics, 11 (9): P. 478-492
(論文) The effects of surface properties of liposomes on their activity against Pseudomonas aeruginosa PAO-1 biofilm.	共著	2020 年 10 月	Journal of Drug Delivery Science and Technology, 57: P. 101754-101761
(論文) Development of a Liquid Crystal Formulation that Can Penetrate the Stratum Corneum for Intradermal Delivery of Small Interfering RNA.	共著	2020 年 12 月	Mol Pharm, 18 (3): P. 1038-1047

(論文) Electroporation-based ex vivo gene delivery into dendritic cells by anionic polymercoated versatile nuclear localization signal/pDNA complex.	共著	2021年9月	Bio Pharm Bull, 44(12): P. 1866-1871
(論文) In Vivo Fluorescence Imaging of Passive Inflammation Site Accumulation of Liposomes via Intravenous Administration Focused on Their Surface Charge and PEG Modification.	共著	2021年12月	Pharmaceutics, 13(1): P. 104-118
(著書) 皮膚疾患治療に向けた siRNA 送達システム	共著	2018年4月	Drug Delivery System, 33(4): P. 285-292
(著書) 網膜疾患治療に向けた後眼部指向型核酸封入点眼剤の設計	単著	2018年4月	PHARM TECH JAPAN, 34(5): P. 969-972
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
多機能性ペプチド修飾リポソームの構成アミノ酸による siRNA 細胞内導入効率への影響		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
BxPC-3 担がんマウスにおける組織浸透性 siRNA 内封リポソームの腫瘍内分布と抗腫瘍効果		2022年8月	日本核酸医薬学会第7回年会
組織浸透性核酸内封リポソームの開発と静脈投与後の腫瘍内浸透性および抗腫瘍効果の検証		2022年10月	第43回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年度以前～現在	日本 DDS 学会評議員		
2018年度以前～現在	製剤機械技術学会評議員		
2018年度以前～2021年度	日本薬剤学会核酸・遺伝子医薬フォーカスグループ執行部メンバー		
2018年度以前～現在	日本化学会コロイド及び界面化学部会事業企画委員会委員 (2022年度より副委員長)		
2018年4月～2019年3月	日本化学会コロイドおよび界面化学討論会キャリ探セッション委員長		
2018年4月～2019年3月	創剤フォーラム 日韓若手薬剤学研究者ワークショップ実行委員会委員		
2018年4月～2020年3月	一般社団法人薬学評価機構委員		
2018年4月～2020年3月	科学技術予測センター専門調査員		
2018年4月～現在	日本薬剤学会代議員		
2019年4月～2021年3月	製剤機械技術学会 30周年記念事業/30回大会実行委員会委員		
2019年4月～現在	日本眼薬理学会評議員		
2020年4月～2021年3月	界面コロイドラーニング第37回現代コロイド・界面化学基礎講座実行委員副委員長		
2021年1月～現在	厚生労働省医薬・生活衛生局 薬事・食品衛生審議会臨時委員		
2021年4月～現在	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		

2021年4月～現在	日本医薬品添加剤協会監査
2022年1月～現在	製剤機械技術学会第32回大会実行委員会委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 創剤科学教室	職名 講師	氏名 濱野 展人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
「創薬系実習 薬剤学実習」における工夫	2019 年度	薬剤学実習において、物理薬剤学分野を担当した。界面活性剤、反応速度、レオロジーについて講義・説明した。いずれの項目においても、学生がイメージしやすいように日常での応用例などを出しながら、わかりやすい説明を心がけた。また口頭試問でも国家試験を意識した問いかけを行い、学生に対して国家試験と考えることを意識させた。	
「ゼミナール」における工夫	2020 年度	2 年生に対し、「薬の効き目を高め、副作用を抑える技術：ドラッグデリバリーシステムとは？」というテーマに基づき、ドラッグデリバリーシステム (DDS) 製剤に関する概説及びスモールグループディスカッション (SGD) をオーガナイズした。コロナ禍のためSGD含め、すべてオンライン講義とした。Zoom ブレイクアウトルームなど、zoom の機能を最大限に活用し、コロナ禍でも従来と変わらぬ質を担保した講義を行った。	
「創薬系実習 薬剤学実習」における工夫	2020 年度	薬剤学実習において、物理薬剤学分野を担当した。界面活性剤、反応速度、レオロジーについて講義・説明した。コロナ禍によりオンライン併用の講義であったが、オンラインのビデオ録画を活用し、わかりやすい実習手技の動画編集や繰り返し視聴することができる動画作成を心がけコロナ禍でも従来と変わらぬ質を担保した実習を行った。	
「物理薬剤学」講義における工夫	2021 年度	物理薬剤学においてレオロジーについて講義した。レオロジーというなじみがない言葉を身近な例をあげることで理解しやすい講義を展開した。講義の最後には国家試験から抜粋した問題を出し、解説を行うことで講義内容の定着を試みた。	
「創薬系実習 薬剤学実習」における工夫	2021 年度	薬剤学実習において、物理薬剤学分野を担当した。界面活性剤、反応速度、レオロジーについて講義・説明した。前年度同様、コロナ禍によりオンライン併用の講義であり、前年度の学生からのコメントを考慮し、解説などを改善した。またオンラインによる学生の質問にも答えるため、zoom での質疑応答時間を設け、学生の理解力向上にも努めた。	
「ゼミナール」における工夫	2022 年度	2 年生に対し、「薬をきちんと創るには？医薬品開発における重要な性質を学ぼう」というタイトルでゼミナールを開講した。本学学生の苦手意識が高い物理薬学分野に対して、苦手意識を改善してもらうために、製剤（薬剤・創薬）の実例を交えながら、創薬におけるシュミレーション、それぞれグループ別のテーマに関するSGDやグループ発表に取り組んでもらった。	
「創薬系実習 薬剤学実習」における工夫	2022 年度	薬剤学実習において、製剤工学分野を担当した。粉体の物性、製剤の打錠や比表面積測定及び崩壊試験について講義・説明した。コロナ禍によりオンライン併用の講義であったが、オンラインのビデオ録画を活用し、わかりやすい実習手技の動画編集や繰り返し視聴することができる動画作成を心がけコロナ禍でも従来と変わらぬ質を担保した実習を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書			

「ゼミナール」で活用したスライド	2020年度	講義を行う時点で2年生はドラッグデリバリーシステムに対して未修学の段階である。そのため講義スライドにおいては、具体例を多くだし、難易度を下げることで理解しやすいスライドを作成した。また、プレゼンテーション方法に関しても、実際のスライドを用いて比較説明することでわかりやすいプレゼンテーションとはどのようなものか理解してもらった。	
「創薬系実習 薬剤学実習」で活用したスライド	2020年度	オンライン講義用の動画を作成した。実習手技の動画編集や繰り返し視聴することができる、発声や説明などわかりやすい動画を作成した。	
「物理薬剤学」で活用したスライド	2021年度	物理薬剤学におけるレオロジーについてのスライドを作成した。レオロジーというなじみがない言葉を身近な例をスライドにして説明することで、具体的なイメージを学生に持たせることで理解を深めることを心がけた。	
「創薬系実習 薬剤学実習」で活用したスライド	2021年度	オンライン講義用の動画を作成した。実習手技の動画編集や繰り返し視聴することができる、発声や説明などわかりやすい動画を作成した。前年度の学生からの意見を元に改善を試みた。	
「ゼミナール」で活用したスライド	2022年度	製剤（薬剤・創薬）で実際に起こるアクシデントを元に、どのような剤形が良いのかというクイズ・シュミレーション形式のスライド・SGDを展開した。クイズ・シュミレーション形式によって、学生を能動的に参加させること、また実際の創薬・製剤での場面を考えてもらうことで物理薬学分野を身近に感じてもらい、苦手意識を払しょくさせることを試みた。	
「創薬系実習 薬剤学実習」で活用したスライド	2022年度	薬剤学実習において、製剤工学分野の粉体の物性にかめするオンライン用講義動画を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Development of a screening system for targeting carriers using peptide-modified liposomes and tissue sections.	共著	2018年4月	Biol Pharm Bull., 41, 1107-1111.
(論文) Development of Antibody-Modified Nanobubbles Using Fc-Region-Binding Polypeptides for Ultrasound Imaging	共著	2019年6月	Pharmaceutics, 11, 283.
(論文) Robust Microfluidic Technology and New Lipid Composition for Fabrication of Curcumin-Loaded Liposomes: Effect on the Anticancer Activity and Safety of Cisplatin	共著	2019年8月	Mol Pharm., 16, 3957-3967.
(論文) Alpha-dystroglycan binding peptide A2G80-modified stealth liposomes as a muscle-targeting carrier for Duchenne muscular dystrophy	共著	2020年10月	J. Control. Release, 329, 1037-1045.

(論文) Ternary Complexes of pDNA, Neuron-Binding Peptide, and PEGylated Polyethyleneimine for Brain Delivery with Nano-Bubbles and Ultrasound	共著	2021年6月	Pharmaceutics, 13, 1003.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 血管炎症部位の検出を可能とする超音響・超音波応答性ナノ粒子の開発		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名) 抗体医薬搭載ナノバブルの開発とがん診断・治療への応用		2022年8月	第54回若手ペプチド夏の勉強会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2020年8月	第36回日本DDS学会学術集会 優秀発表者賞 (ポスター発表の部) 審査員		
2018年～現在	日本DDS学会会員		
2018年～現在	日本薬剤学会会員		
2018年～現在	日本薬学会会員		
2021年～現在	日本癌治療学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 病態生理学教室	職名 教授	氏名 市田 公美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度 ~ 2022 年度	イメージをつかみやすいように、図を多くしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度 ~ 2022 年度	教科書では十分でない内容に関する補足用のプリントを講義前にオンラインで配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年度 ~ 2022 年度	学部で開催されたFDに参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Genome-wide association study revealed novel loci which aggravate asymptomatic hyperuricaemia into gout.	共著	2019 年 10 月	Ann Rheum Dis, 78, 1430-1437
(論文) Dysfunctional missense variant of OAT10/SLC22A13 decreases gout risk and serum uric acid levels.	共著	2020 年 1 月	Ann Rheum Dis, 79, 164-166
(論文) Subtype-specific gout susceptibility loci and enrichment of selection pressure on ABCG2 and ALDH2 identified by subtype genome-wide meta-analyses of clinically defined gout patients.	共著	2020 年 5 月	Ann Rheum Dis, 79, 657-665
(論文) Identification of GLUT12/SLC2A12 as a urate transporter that regulates the blood urate level in hyperuricemia model mice	共著	2020 年 8 月	Proc Natl Acad Sci U S A, 117, 18175-18177
(論文) Urate Transporter ABCG2 Function and Asymptomatic Hyperuricemia: A	共著	2022 年 7 月	Am J Kidney Dis In press

Retrospective Cohort Study of CKD Progression.			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ABCG2による腎外尿酸排泄量の推定		2022年6月	第65回日本腎臓学会学術総会
血清尿酸値6mg/dL以下達成に向けた痛風・高尿酸血症治療戦略～ABCG2を中心に～		2022年7月	認定臨床栄養医東京研修会
痛風・高尿酸血症		2022年7月	薬物療法集中講義 (日本医療薬学会)
尿酸 (痛風) について		2022年11月	第3回人間ドック健診専門医研修会
Identification of Potential Biomarkers for the Progression from Asymptomatic Hyperuricemia to Gout using Plasma and Urinary Metabolomics		2022年12月	the 24th Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	トランスポーター研究会 顧問		
～現在	(一社) 日本腎臓学会 評議員		
～現在	The Purine and Pyrimidine Society Executive Committee member		
2018年～現在	学会誌「痛風と尿酸・核酸」編集委員長		
2018年～2022年	高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン 第3版改訂副委員長		
2020年～現在	(一社) 日本痛風・尿酸核酸学会 副理事長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 病態生理学教室	職名 講師	氏名 長谷川 弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
講義「疾病と薬物治療 IV」			
1 教育内容・方法の工夫	2018 年以前～ 現在	講義用パワーポイントスライドの作成：授業内容が理解しやすいように、教科書にはない図解を作成して理解を促進した。 確認問題の実施：講義終了後、学内 Web システム (Web-Class) を利用して確認テストを行うとともに、解説資料を作成して知識の定着に努めた。 授業評価をうけ、授業の改善を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年以前～ 現在	講義用パワーポイントスライドを作成した。疾患ガイドラインに沿った改訂を毎年行った。	
演習「医療薬学演習 I」			
1 教育内容・方法の工夫	2018 年以前～ 現在	腎疾患を題材に、SGD を行いながら提示された症例に関するシナリオを作成する。最後に、発表会を行い質疑応答から、内容に関する理解を深める。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年以前～ 現在	シナリオ題材の用意、説明用のパワーポイントスライドを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018. 9. 1	第 3 回日本薬学教育学会大会「薬学基礎実習における学生の自己評価と成績との関連性について」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Diet-induced hyperhomocysteinemia impairs vasodilation in 5/6-nephrectomized rats.	共著	2018 年 10 月	Amino Acids, 50, 1485-1494.
Pharmacokinetics and toxicokinetics of D-serine in rats.	共著	2019 年 1 月	J Pharml Biomed Anal, 162, 264-271.
N-C Axially chiral compounds with an <i>ortho</i> -fluoro substituent and steric discrimination between hydrogen and fluorine atoms based on a diastereoselective model reaction.	共著	2019 年 3 月	J Org Chem, 84, 3169-3175
D-Serine safety: A cross species review.	共著	2021 年 8 月	Front Psychiatry, 12, a726365

A simple method for daily inspections of gas chromatography-mass spectrometry systems with an instrumental detection limit as an indicator.	共著	2021年11月	J Chromatogr A, 1657, 462570
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ラットにおけるホモシステインの体内動態		2022年11月	日本アミノ酸学会第16回学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～2019年3月		日本薬物動態学会 分析DSS委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 病態生理学教室	職名 講師	氏名 藤田 恭子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～現在	講義に、適宜、演習を組み込み、学生が自ら考える時間を与え、具体的な学習目標を達成できるような工夫をしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年～現在	講義で使用するスライドおよび講義の要点をまとめたハンドアウトを作成。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年～現在	学部開催のFDフォーラムへの出席。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) イオン液体の実用展開へ向けた最新動向	共著	2022年6月	(株)シーエムシー出版
(論文) Electrochemical Sensing of the secretion of indoxyl sulfate in a rat intestine loop using a self-assembled monolayer-modified gold bead electrode	共著	2022年5月	<i>Talanta</i> , 247, 123551, 2022
(論文) Recognition Electrode and Investigation of a Biomolecular Application in Non-Aqueous Media — Electrochemical Detection of Uremia-Related Substances Excreted	共著	2021年7月	<i>Electrochemistry</i> , 89, 552-226, 2021
(論文) Renaturation of Lyophilized Concanavalin A Treated in Water Content Controlled Hydrated Ionic Liquids	共著	2020年12月	<i>Appl. Sci.</i> , 11, 57, 2021
(論文) Predicting Entropic Effects of Water Mixing with Ionic Liquids Containing Anions of Strong Hydrogen Bonding Ability: Role of the Cation	共著	2020年10月	<i>J. Phys. Chem. B</i> , 124, 9182-9194, 2020
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
水和イオン液体を用いたセルラーゼ凝集体の溶解・リフォールディングに及ぼすイオン構造と含水量の影響		2022年5月	第71回高分子学会年次大会
メルカプトベンズイミダゾール修飾電極を用いたラット腸管内における尿酸・インドキシル硫酸排泄動態の解析		2022年5月	第71回高分子学会年次大会
ラット腸管内における尿酸・インドキシル硫酸排泄動		2022年9月	2022年 電気化学会秋季大会

態の同時検出		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年4月～現在	電気化学会普及委員会 委員	
2021年4月～現在	電気化学誌編集委員会 委員	
2022年11月	第12回イオン液体討論会 実行委員	
2020年7月	電気化学会 セミナーA：初心者のための電気化学測定手法 講師	
2021年6月	電気化学会 セミナーA：初心者のための電気化学測定手法 講師	
2022年9月	2022年 電気化学会秋季大会 実行委員	
2018年6	The 16 th International Symposium on Polymer Electrolytes (ISPE-16) 実行委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 病態生理学	職名 助教	氏名 関根 舞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021 年度	「ゼミナール」の授業 ・設定した課題に対するグループワークを通じて、学生のコミュニケーション能力、情報収集能力及びプレゼンテーション能力向上を視野に入れた授業を行った。 ・学生自らがアミノ酸やタンパク質の解析を行うことで理解を含める工夫をした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021 年度	・授業プリントの作成および配布 ・データベースやパッケージソフトを活用した授業	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021 年度	・新任教員のためのミニ教育ワークショップへの参加及び課題の提出	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 痛風・高尿酸血症治療薬の分類 (申請中の新規薬剤ドチヌラドの紹介も含めて)	共著	2020 年 1 月	循環器内科 vol. 87 No. 1
(著書) キサンチンオキシダーゼ阻害薬	共著	2021 年 5 月	腎と透析 vol. 90 No. 5
(論文) Association of mutations identified in xanthinuria with the function and inhibition mechanism of xanthine oxidoreductase	共著	2021 年 11 月	Biomedicines vol. 9 No. 11
(論文) Urate transporter ABCG2 function and asymptomatic hyperuricemia: A retrospective cohort study of CKD progression	共著	2022 年	American Journal of Kidney Disease, online
(著書) キサンチン尿症	共著	2022 年	日本臨牀社, in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
キサンチン酸化還元酵素阻害薬の阻害機構とプリン代謝への影響		2022 年	第 96 回日本薬理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022 年 3 月～現在	日本薬学会会員		

2022年5月～現在

日本薬理学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬品製造学教室	職名 教授	氏名 松本 隆司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
「有機化学Ⅲ」(2年後期必修科目)における工夫	2018年度以前 ～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・講義毎に予め講義資料(自作パワーポイント資料)をWebClassに掲載した。学生は、それをプリントアウトして手元に置いて講義を受ける。板書でしか伝わらない内容についてのみ板書した(2022年度においては、対応する内容をタブレットに手書きして見せた)。 ・有機化学の基本原理の多くが、先行科目である有機化学Ⅱまでに既出となる。その復習のための機会を頻繁にとり、また、多めの時間を割いて、知識定着と理解の度合いを深めることを図っている。 ・復習に利用できるよう、講義を撮影したビデオを時間限定(講義当日の晩、およびその週末の晩)で視聴できるようにした。 ・それらの知識定着と理解の度合いを深めるため、頻繁かつ多くの復習時間をとった。 ・「反応機構」に対する苦手意識をもつ学生が多いことを改善するため、「反応機構ノート」の作成を課した。新たに学習する反応毎に、このノートに、反応機構・基盤となる原理・反応例をまとめる。また、その都度、PDFファイルとしてWebClassに提出することを課した。 	
「有機化学Ⅳ」(3年後期必修科目)における工夫	2018年度以前 ～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・講義毎に予め講義資料(自作パワーポイント資料)をWebClassに掲載した。学生は、それをプリントアウトして手元に置いて講義を受ける。板書でしか伝わらない内容についてのみ板書した(2022年度においては、対応する内容をタブレットに手書きして見せた)。 ・復習に利用できるよう、講義を撮影したビデオを時間限定(講義当日の晩、およびその週末の晩)で視聴できるようにした。 ・「反応機構」に対する苦手意識をもつ学生が多いことを改善するため、「反応機構ノート」の作成を課した。新たに学習する反応毎に、このノートに、反応機構・基盤となる原理・反応例をまとめる。また、その都度、PDFファイルとしてWebClassに提出することを課した。 	
「反応有機化学」(2年後期専門選択科目)における工夫	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化学の基本原理の多くが、先行科目である有機化学Ⅱまでに既出となる。しかし、この時点で、それら基本事項の身についてない学生が多数いる。上記の必修科目「有 	

		<p>機化学Ⅲ」と並行して進む本科目において、それを補うため、全てを「反応機構」という切り口からまとめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うわべだけの知識獲得にならぬように、あえて「その場で自ら手を動かして、板書された内容を、丁寧にノートにまとめながら理解する」という、古典的な講義形式とした（ただし、コロナ対応のため、タブレットに手書きして見せた）。 ・具体的には、有機化学Ⅰおよび有機化学Ⅱで学習する有機反応の各々について板書で解説を加え、反応毎にその場で「反応機構ノート」に、反応機構・基盤となる原理・反応例をまとめさせた。また、その都度、PDFファイルとしてWebClassに提出することを課した。 ・復習に利用できるよう、講義を撮影したビデオを時間限定（講義当日の晩、およびその週末の晩）で視聴できるようにした。 	
「実践有機化学」（3年前期専門選択科目）における工夫	2020年度～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化学のうちの合成化学的側面について講義を行った。 ・題材として天然有機化合物をとりあげ、その化合物の生物活性や有用性ととも、化学合成について講義した。 ・新カリキュラム移行に伴う講義時間削減によって教授できなくなった内容（各種転位反応、ペリ環状反応、ヘテロ芳香族化合物の反応など）、および、現代有機化学では欠くことのできない遷移金属反応剤を用いる反応をできるだけ取り込んだ。 	
2 作成した教科書、教材、参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・講義で使用するパワーポイントファイル ・講義ビデオ 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年8月 2020年10月	<p>高校生を対象に夏休みに「薬学体験実習」を実施。</p> <p>ミニオープンキャンパスにおいて「研究室&キャンパスツアー」を実施。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Total Synthesis of Aryl C-Glycoside Natural Products: Strategies and Tactics	共著	2018年2月	Chem Rev. 118:1495-1598
Desymmetrization of σ -Symmetric Biphenyl-2,6-diyl Diacetate Derivatives by Lipase-Catalyzed Hydrolysis: Unexpected Effect of	共著	2019年4月	Synlett. 30:557-562

C(3')-Substituent on the Enantiotopic Group Selectivity			
Synthetic Approaches on the Pluramycin-Class Antibiotics	共著	2019年6月	Cutting-Edge Organic Synthesis and Chemical Biology of Bioactive Molecules:75-100, Springer
Anion-Accelerated Aromatic Oxy-Cope Rearrangement in Geranylation/Merylation of Xanthone: Stereochemical Insights and Synthesis of Fuscaxanthone F	共著	2020年9月	Synlett. 31:1378-1383
S_NAr reaction/Claisen Rearrangement Approach to 2,4-Diisoprenylxanthenes: Total Synthesis of Garcinone A	共著	2020年9月	Synlett. 31:1511-1516
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
4-アルケニルイソクマリンの求核的活性化を経る多置換芳香族化合物の合成		2022年4月	第82有機合成化学協会関東支部シンポジウム
Apetalinone Cの全合成		2022年9月	第11回フッ素化学若手の会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2013年2月～2019年2月		有機合成化学協会関東支部 幹事	
2019年2月～2021年2月		有機合成化学協会関東支部 常任幹事	
2014年2月～現在		有機合成化学協会 事業委員会委員	
2019年5月～現在		日本化学会春季年会実行委員会プログラム小委員会部門幹事(有機化学—反応と合成)	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬品製造学教室	職名 准教授	氏名 矢内 光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 年後期必修科目「有機化学 III」	2018 年度以前 ～現在	芳香族化合物の化学を題材に、置換基効果や反応プロファイル、選択性などを講義した。	
3 年前期必修科目「有機化学 IV」	2018 年度以前 ～現在	カルボニル化合物の化学を講義した。履修者の理解に応じて適宜復習的な内容をいれている。	
2 年前期自由科目「アドバンスゼミナール」	2018 年度以前 ～2019 年 7 月	成績不良者に対するサポートの一環として、有機化学の基礎的事項の復習とフォローアップを行った。	
3 年前期選択科目「反応有機化学」	2020 年 4 月～ 2021 年 7 月	有機化学の発展的な内容として、分子軌道計算とフロンティア軌道法を用いた有機反応の解釈を講義した。	
1 年後期実習科目「基礎有機化学実習」	2018 年度以前 ～現在	講義との連携を意識して、説明や指導を行っている。また、比較的少人数での教育であることから、履修者の理解度に応じた対応を行っている。	
2 年前期実習科目「有機化学実習」	2018 年度以前 ～現在	講義との連携を意識して、説明や指導を行っている。また、比較的少人数での教育であることから、履修者の理解度に応じた対応を行っている。	
3 年前期実習科目「医薬品合成実習」	2018 年度以前 ～現在	講義との連携を意識して、説明や指導を行っている。また、比較的少人数での教育であることから、履修者の理解度に応じた対応を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度以前 ～現在	「有機化学III」、「有機化学IV」、「反応有機化学」の各教科において教育内容の理解を助けるためのスライドと演習問題を作成し、配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019 6 6 2019 7 12 2020 7 1 2021 3 3 2021 6 17	東京都立上水高校 東京都立東大和南高校 東京都立東大和南高校 東京都立九段中等教育学校 埼玉県立本庄高校	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年度以前 ～現在	学内のFD研修会に参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Synthesis of spirocyclic cyclobutenes through desulfinitive spirocyclisation of <i>gem</i> -	共著	2022 年 5 月	Chem. Eur. J. 28, e202200704.

bis(triflyl)cyclobutenes			
(トリフルオロメチル)スルホニル基で安定化されたカルボアニオンの化学	単著	2022年3月	有機合成化学協会誌 80, 186-197.
A Fluorinated Carbanionic Substituent for Improving Water-solubility and Lipophilicity of Fluorescent Dyes	共著	2021年3月	Angew. Chem. Int. Ed. 60, 5168-5172.
Regioselective Synthesis of 4-Aryl-1,3-dihydroxy-2-naphthoates Through 1,2-Aryl-migrative Ring Rearrangement Reaction and Their Photoluminescence Properties	共著	2021年8月	Chem. Eur. J. 27, 11442-11449.
Chemical Bonding in Polarised Push-pull Ethylenes	共著	2019年6月	Angew. Chem. Int. Ed. 58, 8839-8844.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○			
(演題名) ○○○○			
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年以前～現在	学術論文査読員 (AGS Catal., Angew. Chem. Int. Ed., Nat. Commun. 他)		
2018年9月～2018年10月	フランス カーン・ノルマンディー大学 招聘教授		
2020年4月～現在	日本フッ素化学会 学会誌『フッ素』編集委員		
2022年6月～2022年9月	日本フッ素化学会『フッ素化学若手の会』実行委員長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬品製造学教室	職名 助教	氏名 重田 雅之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
学生の不利が生じないDX化講義 (東京工業大学学部3年選択科目「生命理工学特別講義第二」)	2019年度～ 2021年度	板書に代えて予めタブレット端末に自筆した絵図(化学式)を映写することで、教員の板書を学生が待つ時間を無くした。これにより学生の板書時間と談論時間を拡充するとともにデジタル表記では伝達困難なニュアンスを板書同等に保つ講義を実践した。	
自発的な問題解決力を育む対応 (2年必修科目「有機化学実習」、東京工業大学学部2年必修科目「生命理工学基礎実験」)	2014年度～ 現在	学生の疑問に対して回答を与えるのではなく、着眼点を誉めるとともに疑問に普遍性を付与して、「調べたい、解決したい」との意欲をさらに高めた。そして解決のヒントを与えて解決行動を促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度～ 現在	講義で使用したパワーポイントファイル 講義の解説文を含んだ実験書(東京工業大学)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度～ 現在	学内開催の全てのFD研修に参加してきた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) ○○○○	単著	20XX年○月	△△社
Preparation of Tetrazole-fused pi-Conjugated Molecules and Their Fluorescence Behavior	共著	2019年7月	Chem. Lett. 48, 662-665.
Iron-catalyzed delta-selective conjugate addition of methyl and cyclopropyl Grignard reagents to alpha,beta,gamma,delta-unsaturated esters and amides	共著	同 年3月	Tetrahedron Lett. 60, 885-890.
Rh-catalyzed intramolecular cyclization of 1-sulfonyl-1,2,3-triazole and sulfinate. Concise preparation of sulfonylated unsaturated piperidines	共著	同 年3月	Tetrahedron Lett. 60, 815-819.

アルキンの合成化学的利用-マイケル付加反応の新展開-	単著	2018年4月	化学と教育 (Chemistry & Education) 66, 190-191.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○○			
(演題名) ○○○○○			
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2010年～現在	日本化学会会員 正会員		
2010年～現在	有機合成化学協会 普通会員		
2012年～現在	光化学協会 正会員		
2014年～現在	近畿化学協会 正会員		
2016年～現在	生命理工オープンイノベーションハブ 次世代医療モダリティ創発グループ メンバー		
2018年～現在	学術論文査読員 (15件, Royal Chemical Society, Elsevier 外)		
2019年12月	Asia Pacific Society for Biology and Medical Sciences keynote presentation award		
2022年2月	有機合成化学協会 ダイセル研究企画賞		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分子生物物理学	職名 教授	氏名 三島 正規
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月以前～現在	有構造解析、物理化学の講義について、図、動画の利用により理解を促進し、時間内での演習も行うことで理解の深化、知識の定着を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月～2021年3月	放送大学印刷教材である、「改訂版 現代を生きるための化学」を分担で作成し、当該ラジオの放送教材3回分を分担講師として収録した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年4月～	放送大学科目である「現代を生きるための化学」が2022年4月より開講（放送）されている。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年1月9, 16, 23日	首都大学東京オープンユニバーシティ2019「分子で理解する先端生命科学：生体分子の構造解析がもたらしたインパクト；基礎から創薬まで」というタイトルで一般の方向けの講義を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Structural insights into ubiquitin phosphorylation by PINK1	共著	2018年7月	Sci Rep 2018 8 10382
(論文) High-Resolution Protein 3D Structure Determination in Living Eukaryotic Cells	共著	2019年5月	Angew Chem Int Ed Engl. 2019 58 7284-7288.
(論文) Mechanism of self/nonsel-discrimination in Brassica self-incompatibility	共著	2020年10月	Nat Commun. 2020 11 4916.
(論文) Structural Basis of the Protochromic Green/red Photocycle of the Chromatic Acclimation Sensor RcaE	共著	2021年5月	Proc Natl Acad Sci U S A. 2021 118 e2024583118.
(論文) Raman Spectroscopy of an Atypical C15- E, syn Bilin Chromophore in Cyanobacteriochrome RcaE	共著	2022年2月	J Phys Chem B. 2022 126 813-821.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) シアノバクテリアの光センサーのX線結晶構造解析と、NMRによるプロトン化状態の解析		2022・6月	日本蛋白質科学会
(演題名) シアノバクテリアの光センサーにおける脱プロトン化した塩基性アミノ酸の観測		2022・11月	日本核磁気共鳴学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月以前～現在	日本核磁気共鳴学会 評議員		
2018年4月～2018年11月	第57回NMR討論会 プログラム委員		
2019年5月～2021年3月	日本学術振興会 研究者養成課 特別研究員等審査会		
2022年5月～現在	薬学教育協会 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂のためのワーキンググループ		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分子生物物理学教室	職名 准教授	氏名 青山 洋史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度以前 ～現在	予習を行いやすい講義資料の作成、練習問題の充実 授業評価は薬学生が苦手とする物理系科目としては 比較的良好 (総合評価は5点中3.5以上)	
2 作成した教科書、教材、参考書		講義で使用しているパワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) ZnCl ₂ -Mediated Double Addition of Dialkylphosphite to Nitriles for the Synthesis of 1- Aminobisphosphonates	共著	2019年10月	The Journal of organic chemistry, vol. 84, 14943-14948.
(論文) Selective Acetylcholinesterase Inhibitors Derived from Muscle Relaxant Dantrolene	共著	2020年2月	Bioorganic & medicinal chemistry letters, vol.30, 126888.
(論文) Electrochemical Synthesis of Sulfinate Esters: Nickel(II)- Catalyzed Oxidative Esterification of Thiols with Alcohols in an Undivided Cell	共著	2020年7月	ACS omega, vol. 5, 17947-17954.
(論文) Transition metal- and catalyst-free one-pot green method for the synthesis of N-sulfonyl amidines via direct reaction of sulfonyl azides with amines	共著	2020年7月	RSC Advances, vol.10, 26701-26708.
(論文) How to Select Firefly Luciferin Analogues for In Vivo Imaging	共著	2021年2月	International journal of molecular sciences, vol.22, 1848.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年度以前～現在	国際学術論文査読 27件		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 分子生物物理学教室	職名 助教	氏名 永江 峰幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年4月～	学生が理解しやすいようにレベルにあった教科書・参考書を適宜選んで卒論指導を行なった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022.5.28	新入教員のためのミニ教育ワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structural basis of chimpanzee APOBEC3H dimerization stabilized by double-stranded RNA	共著	2018年7月	Nucl. Acids Res., 46, 10368-10379
(論文) High-pressure protein crystal structure analysis of Escherichia coli dihydrofolate reductase complexed with folate and NADP+	共著	2018年9月	Acta Crystallogr., Sect. D, 74, 895-905
(論文) A common allosteric mechanism regulates homeostatic inactivation of auxin and gibberellin	共著	2020年5月	Nat. Commun, 11(1), 1-10
(論文) Crystal structure of human V-1 in the apo form	共著	2021年1月	Acta Crystallogr., Sect. F, 77(1)
(論文) Structural basis of the protochromic green/red photocycle of the chromatic acclimation sensor RcaE	共著	2021年5月	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A., 118(20)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) シアノバクテリアの光センサーにおける脱プロトン化した塩基性アミノ酸の観測		2022.11.8	第61回 NMR 討論会
(演題名) 光遺伝学を指向したシアノバクテリオクロムの構造基盤		2023.3.27	日本薬学会第143年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2018年8月～2019年8月	日本生物高分子学会 酵素取扱講習会 プロ養成講座 講師 (毎年1回、各1日)
2019年4月～2020年3月	日本放射光学会 2020年会実行委員
2021年4月～2021年11月	名古屋大学博物館 第27回特別展「結晶展」 講師
2021年8月	名古屋大学博物館 夏休みワークショップ 講師
2021年8月	名古屋大学シンクロトロン光研究センター サマースクール 講師
2021年12月～	日本生物物理学会員
2022年5月～	日本蛋白質科学会会員
2022年7月～	日本核磁気共鳴学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生物分子有機化学	職名 教授	氏名 宮岡 宏明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年以前～ 現在	授業評価アンケートを実施し、それに基づいて講義内容、 講義方法を修正している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年以前～ 現在 2020 年 4 月 10 日	講義で使用するパワーポイントファイル 毎回の講義時の課題問題 最新 薬理学要説, 田村和広 編, 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等	2018 年以前～ 現在	なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2018 年以前～ 現在	学内で開催された FD 講演会等の FD 活動に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Formal synthesis of <i>cis</i> -solamin: acid-catalyzed one-step construction of 2,5-disubstituted tetrahydrofuran	共著	2018 年 4 月	Org. Biomol. Chem., 16, 3018-3025.
(論文) Total Synthesis of Squafosacin F: Stereodivergent Approach to Mono- tetrahydrofuran Acetogenins	共著	2019 年 12 月	RSC Adv., 9, 40368-40377.
(論文) Total Synthesis of Ascospiroketal B	共著	2020 年 10 月	Synlett, 31, 1730-1734.
(論文) Total Synthesis of Chlorinated Oxylipin Eiseniachloride B	共著	2021 年 6 月	Chem. Pharm. Bull., 69, 590-594
(論文) Total syntheses of <i>ent</i> -hypocoprin A and <i>ent</i> -hypocoprin B	共著	2022 年 6 月	RSC Adv., 12, 16576-16580.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 二環性セスキテルペノイド <i>ent</i> -hypocoprin A および B の合成研究		2022 年 11 月	第 48 回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) Bicyclogermacrane 型セスキテルペノイド (-)-Hypocoprin A の全合成		2023 年 3 月	日本薬学会 第 143 年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2018年以前～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム・アドバイザー
2018年以前～現在	Marine Drugs, Member of General Editorial Board

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 生物分子有機化学講座	職名 准教授	氏名 釜池 和大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～ 現在	講義(前期 基礎化学、後期 一般化学): 講義内容をまとめたテキスト、予習、復習用の演習課題および解答解説を作成し配布している。また、講義内での演習課題解説、講義時間外での質問対応、定期試験後のフィードバック講義などにより理解を深めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年4月～ 現在	薬局実務実習施設を訪問し、実習状況の聴取と指導を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A Versatile, Diels–Alder Reaction-Based Approach to Prenyleudesmane Diterpenoids: A Concise Total Synthesis of Sinupol	共著	2020年2月	Synlett, 31, 1007-1010.
(論文) Total Synthesis of Ascospiroketal B	共著	2020年6月	Synlett, 31, 1730-1734.
(論文) Total Synthesis of Chlorinated Oxylipin Eiseniachloride B	共著	2021年3月	Chem. Pharm. Bull., 69, 590-594.
(論文) Unified Approach to <i>ent</i> -Eudesmane-type Terpenoid Synthesis: Total Synthesis of Sinupol and Eutyscoparin A	共著	2021年9月	Synthesis, 54, 689-696.
(論文) Total Synthesis of <i>ent</i> -Hypocoprins A and <i>ent</i> -Hypocoprins	共著	2022年5月	RSC Adv., 12, 16576-16580.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 二環性セスキテルペノイド <i>ent</i> -hypocoprins A および B の合成研究		2022年11月	第48回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) Bicyclogermacrane 型セスキテルペノイド (-)-Hypocoprins A の全合成		2023年3月	日本薬学会 第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年3月21日	日本薬学会第139回年会発表審査員		

2020年1月18, 19日	大学入試センター試験監督
2022年1月15, 16日	大学入学共通テスト試験監督

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	生物分子有機化学講座	助教	太田 浩一朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年4月 ～現在	基礎化学：予習・復習のため、授業毎に内容の要点を纏めた講義資料、課題を学内Webサイトに公開した。 卒論指導：コアタイムを無くし、時差通学の推奨により時間を効率的に使うことを学ばせることができています。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019年1月 13, 14日	第9回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Formal synthesis of cis-solamin: acid-catalyzed one-step construction of 2,5-disubstituted tetrahydrofuran	共著	2018年4月	Org. Biomol. Chem. 16, 3018-3025
(論文) Total Synthesis of Ascospiroketal B	共著	2020年7月	Synlett 1730-1734
(論文) Total Synthesis of Chlorinated Oxylipin Eiseniachloride B	共著	2021年6月	Chem. Pharm. Bull. 69, 590-594
(論文) Unified Approach to ent-Eudesmane-Type Terpenoid Synthesis: Total Synthesis of Sinupol and Eutyscoparin A	共著	2021年10月	Synthesis 54, 689-696
(論文) Total syntheses of ent-hypocoprins A and ent-hypocoprins B	共著	2022年6月	RSC Adv. 12, 16576-16580
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 二環性セスキテルペノイド ent-hypocoprins A および B の合成研究		2022年11月	第48回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) Bicyclogermacrane 型セスキテルペノイド(-)-Hypocoprins A の全合成		2023年3月	日本薬学会 第143年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年2月～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム 世話人		
2005年～現在	日本薬学会 会員		
2016年～現在	有機合成化学協会 会員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 第2英語研究室	職名 教授	氏名 大野 真
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>医療に関連した様々な英文記事を講読し、討論を行う。英語の精密な読解力を養うと共に、医療に関する広範な話題についての発言力を養成することを目的として、効果を上げている。</p> <p>医療や薬学に関する英文の精読とともに、速読・速聴や多読の訓練を行う。重要な構文を含む英文や語句については、繰り返し書かせることを通じて、知識の定着化を図っている。状況に応じて、対面とオンライン(WebClass)を効果的に組み合わせて授業を行っている。</p> <p>英語教員と薬学専門教員が協力し、各々の持ち味を生かした英語教育を行う。状況に応じてオンライン(WebClass)も効果的に利用している。</p> <p>TOEICなどの検定試験の対策として、頻出テーマに沿った問題集を用いて訓練を行う。リスニングとリーディングの両方の能力をバランスよく養成すると共に、TOEICの頻出語彙を習得できるように配慮している。</p>	<p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p>	<p>4～6年必修科目「科別英語特論Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンス英語」</p> <p>1年必修科目「英語(講読)Ⅰ・Ⅱ」、 2年必修科目「薬学英語入門Ⅰ・Ⅱ」</p> <p>3年必修科目「実用薬学英語」</p> <p>選択科目「英語検定Ⅰ・Ⅱ」</p>	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>「英語(講読)Ⅰ・Ⅱ」</p> <p>「薬学英語入門Ⅰ・Ⅱ」</p>	<p>2020年～現在</p> <p>2020年～現在</p>	<p>教材に準じたオンライン(WebClass)上の各種学習課題とクイズの作成</p> <p>教材に準じたオンライン(WebClass)上の各種学習課題とクイズの作成</p>	

「実用薬学英語」 「英語検定Ⅰ・Ⅱ」 「英語コミュニケーションⅠ」	2018年4月以前～現在 2020年 2021年	単語表の作成、2020年度以降は教材に準じたオンライン（WebClass）上の各種学習課題とクイズの作成 教材に準じたオンライン（WebClass）上の各種学習課題とクイズの作成 教材に準じたオンライン（WebClass）上の各種学習課題とクイズの作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「平成30年度東京薬科大学教育改革推進事業」の事業報告	2019年5月	「英語学習の継続性を担保する試み」の事業活動報告を学内にて実施。図書整備、各卒論教室への周知、アンケート結果、低学年授業での必修化等を報告した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 学内でのTOEIC実施担当（薬学部1年生対象） 「平成30年度東京薬科大学教育改革推進事業」	2018年4月以前～2021年 2018年6月～2019年3月	2018年・2019年は対面にて、2020年・2021年はオンラインにて実施。 「英語学習の継続性を担保する試み」の事業として、英語の「多読」活動を導入し、現在も2年必修科目で「授業内多読」を実践している。英語を読む楽しさを実感したとの評価が高い。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）視点の揺らぎ—F・スコット・フィッツジェラルド『最後の大君』論	単著	2018年3月	東京薬科大学研究紀要（第21号）
（論文）形而上学的犯罪小説—コーマック・マッカーシー『老人の住む国にあらず』論	単著	2019年3月	東京薬科大学研究紀要（第22号）
（論文）バートランド・ラッセルの言語観	単著	2020年3月	東京薬科大学研究紀要（第23号）
（論文）「語り手」としてのマーロウ—レイモンド・チャンドラー『大いなる眠り』論	単著	2021年3月	東京薬科大学研究紀要（第24号）
（論文）二重の「隠れん坊ごっこ」—レイモンド・チャンドラー『さらば愛しき人よ』論	単著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要（第25号）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	

なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年4月以前～現在	日本医大多摩永山病院薬物治験審査委員	
2018年4月以前～現在	日本英文学会会員	
2018年4月以前～現在	日本アメリカ文学会会員	
2018年4月以前～現在	日本ウィリアム・フォークナー協会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	個別化薬物治療学教室	教授	降幡 知巳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に実際の症例や試験例題を含めることにより、学生の学習意識の向上を図っている。 ・卒論指導において、科学的な視点、プレゼンテーション方法、論理的思考力、論文の読み方など、基礎コースワークを実施し、学生が効果的に課題解決能力を身につけることができるよう工夫している。 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年4月～ 2019年3月 2019年4月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> ・eReview薬理学(e-learning教材)の章末問題を作問した。 ・上記1に記載の内容に関し、参考書とは別に、独自で収集した資料を含めた講義スライドを作成している。 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年5月 2021年9月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人ソーシャルユニバーシティ薬剤師生涯学習センター主催の薬剤師対象研修講義において、がんゲノムに関する動画講義を行った。 ・JST次世代研究者挑戦的研究プログラム(BUTTOBE)において、大学院生が身につけるべき能力やその取り組み方について、学内採択学生に対して講義を行っている。 	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年4月～ 現在 2021年9月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> ・JST女子中高生の理系進路選択支援事業において、高校生を対象とした「薬の分解を目で見よう」のタイトルで実習を企画・実施した。 ・JST次世代研究者挑戦的研究プログラム(BUTTOBE)の副統括(企画担当)として、育成コンテンツの企画・運営を務めている。 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) A New Conditionally Immortalized Human Fetal Brain Pericyte Cell Line: Establishment and Functional Characterization as a Promising Tool for Human Brain Pericyte Studies.	共著	2018年7月	Mol Neurobiol. 55:5993-6006.
(著書) Cancer-type organic anion transporting polypeptide 1B3 is a target for cancer suicide gene therapy using RNA trans-splicing	共著	2018年10月	Cancer Lett. 433:107-116.

technology.			
(論文) A Human Immortalized Cell-Based Blood-Brain Barrier Triculture Model: Development and Characterization as a Promising Tool for Drug-Brain Permeability Studies.	共著	2019年11月	Mol Pharm. 16:4461-4471.
(論文) In Vitro-In Vivo Correlation of Blood-Brain Barrier Permeability of Drugs: A Feasibility Study Towards Development of Prediction Methods for Brain Drug Concentration in Humans.	共著	2022年6月	Pharm Res. 39:1575-1586.
(論文) Human Immortalized Cell-Based Blood-Brain Barrier Spheroid Models Offer an Evaluation Tool for the Brain Penetration Properties of Macromolecules.	共著	2022年6月	Mol Pharm. doi:10.1021/acs.molpharmaceut.2c00120.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒト不死化細胞血液脳関門モデルの開発 ~中枢神経系疾患治療薬開発の加速を目指して~		2022年5月	第63回日本神経学会学術大会
ヒト不死化細胞血液脳関門モデルの開発: 薬物の脳移行性評価から脳内濃度予測に向けた展望		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
新規 CYP1A2 活性評価法の開発を目指した内因性 Melatonin 部分代謝クリアランスの算出		2022年6月	第38回日本 TDM 学会・学術大会
メラトニン尿中排泄量算出のための脱抱合反応における内標準物質としての安定同位体標識の比較		2022年9月	第47回日本医用マスペクトル学会年会
新規 CYP1A2 活性評価法の開発に向けた AUC 法と1点採血法の比較検討		2022年9月	第47回日本医用マスペクトル学会年会
The function of GPR183/7 α , 25OHC signalling in the brain microvessels and in multiple sclerosis.		2022年9月	5th Brainstorming Research Assembly for Young Neuroscientists
EBI2 receptor-mediated regulation of immune cell transmigration via an in vitro tri-cell model of the blood brain barrier		2022年10月	12th Neuronus IBRO Neuroscience Forum
The human blood-brain barrier spheroids as a model for studying multiple sclerosis pathophysiology.		2022年10月	12th Neuronus IBRO Neuroscience Forum
救急外来を受診しためまい患者における薬剤との関連性に関する検討		2022年10月	第50回日本救急医学会総会・学術集会
HASTR/ci35 は活性化ヒトアストロサイトモデルとして有用である		2022年11月	第96回日本薬理学会年会
ヒト不死化細胞血液脳関門モデルの開発 ~中枢神経系		2022年11月	日本薬物動態学会第37回年会

疾患治療薬開発の加速を目指して～			
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年1月～2021年12月	日本薬物動態学会 総務委員		
2019年1月～現在	日本薬物動態学会 代議員		
2020年9月～現在	日本神経化学会 評議員		
2022年4月～現在	JST A-STEP トライアウト専門委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 個別化薬物治療学教室	職名 准教授	氏名 柴崎浩美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年以前～ 現在	<p><u>3年 個別化医療 I, 4年 薬物動態学</u> 教科書およびパワーポイントを用いた講義と、国家試験問題を用いた実践的な練習問題を行なった。 2020年からはオンライン併用講義となり、穴埋め式の講義プリントを用いた講義、および、講義後に Web を用いて練習問題と質問の聞き取りを行い、次回の講義でフィードバックを行なった。</p> <p><u>5年 情報収集、6年 情報収集</u> 穴埋め式のプリントを作成し、薬物動態に関する計算問題を行う際の解法を順を追って理解できるようにした。基本的な式を用いる例題を行うことにより定着を図った。</p> <p><u>2年 ゼミナール</u> 専門薬剤師に関し、調査、SGD を行うことでコミュニケーションスキルの向上を促した。患者と専門薬剤師および医療スタッフの両方の役割をロールプレイングで経験し、2年生という低学年において薬剤師の責任、求められるものを考え、今後の学習のモチベーションとすることを目指した。終了時のアンケートではロールプレイングが良い経験となったとの意見が多く見られた。</p> <p><u>4年 事前実務実習</u> 初回面談、入院時服薬説明の模擬患者の協力を得た実習において、フィードバックを行なった。実施項目ができていないか否かのみでなく、実習を通し、学生同士のフィードバックが各自の成長と学習項目の定着につながることを説明し、十分なフィードバックをするよう指導した。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年以前～ 現在	<p>各講義において、穴埋め式のパワーポイント資料を作成している。 教材として練習問題を作成した。 練習問題の解説用の穴埋め式プリントおよび一部の問題に関しては、詳細な配布用解説資料を作成した。 ゼミナールに関しては、課題症例のプリントおよび発表資料の雛形を作成し、提示した。</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年8月19日	FD 講演会出席 「卒業生調査の意義 -OB・OGの経験から教育のあり方を考える」
	2020年8月25日	FD ワークショップ参加 「2020年前期の授業アンケートから授業の質保証を考える」
	2021年8月20日	FD 講演会出席 「本学のキャリアパス形成について」 「本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状」 「キャリアパス展開のための学内プログラム実践例」
	2022年4月1日	FD 講演会出席 「オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て」
	2022年8月25日	FD 講演会出席 「本学のキャリアパス形成について」 「本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状」 「就職支援からみる学生のキャリア選択の現状」

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Sensitive and simultaneous quantitation of 6β -hydroxycortisol and cortisol in human plasma by LC-MS/MS coupled with stable isotope dilution method	共著	2018年8月	J Mass Spectrom. 53:665-674.
Midazolam Intoxication in a Premature Neonate	共著	2020年5月	Clin Ther 42:946-951
Effect of UGT1A1, CYP3A and CES Activities on the Pharmacokinetics of Irinotecan and its Metabolites in Patients with UGT1A1 Gene Polymorphisms	共著	2021年2月	Eur J Drug Metab Pharmacokinet 46:317-324
Dried blood spots analysis of 6β -hydroxycortisol and cortisol using liquid chromatography/tandem mass spectrometry for calculating 6β -hydroxycortisol to cortisol ratio	共著	2021年12月	J Mass Spectrom. 56:e4790
LC-MS/MSによるcortisolと 6β -hydroxycortisolの測定に及ぼす血液採取時の抗凝固剤及び保存状態の影響	共著	2022年6月	BUNSEKI KAGAKU 71:357-363
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

臨床応用を目指した内因性コルチゾールをバイオマーカーとした薬物代謝酵素 CYP3A 活性評価	2022年6月	第38回日本TDM学会・学術大会
新規 CYP1A2 活性評価法の開発を目指した内因性 Melatonin 部分代謝クリアランスの算出	2022年6月	第38回日本TDM学会・学術大会
メラトニン尿中排泄量算出のための脱抱合反応における内標準物質としての安定同位体標識の比較	2022年9月	第47回日本医用マスペクトル学会年会
新規 CYP1A2 活性評価法の開発に向けた AUC 法と1点採血法の比較検討	2022年9月	第47回日本医用マスペクトル学会年会
救急外来を受診したためまい患者における薬剤との関連性に関する検討	2022年10月	第50回日本救急医学会総会・学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2014年5月～現在	日本TDM学会 評議員	
2014年6月～現在	日本TDM学会 評議員	
2019年1月～現在	日本医科大学多摩永山病院 IRB 外部委託委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 個別化薬物治療学	職名 講師	氏名 横川 彰朋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～現在	(講義：3年個別化医療Ⅰ、4年薬物動態学) 教科書の確認問題や投与設計の例題・課題を用い、問題解決能力を養った。学会・学術論文および医療現場における最新情報を紹介して、実務実習に対応できるようにした。授業中のテストの実施あるいは宿題を課して実力を養成した。授業の進め方については概ね好評を得ている。	
	2018年～現在	(演習：4年医療薬学演習Ⅰ-ii) 薬物動態解析ソフトによる演習を行い、医薬品開発と臨床試験に精通した薬剤師としての知識を学べるようにした。	
	2018年～現在	(演習：4年後期総合演習) GBTに対応できるよう、出題傾向と対策を講義した。	
	2018年～現在	(卒論教室での教育) 科別英語特論、卒業論文作成を通じ、教室配属の卒論生に対し、英語論文読解、研究実施などの指導を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年3月	テラーメイド医療 第2版 -薬物治療の個別化- (著者：古田隆, 柴崎浩美, 横川彰朋 共著, 京都廣川書店)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年8月	FD ワークショップ参加「2020年の授業アンケートから授業質保証を考える」	
	2022年4月	FD 講演会参加「オンライン教育のこれから～自由記述内容にヒントを得て」	
	2022年5月	情報倫理とセキュリティ e-learning 受講	
	2022年8月	FD 講演会参加「本学のキャリアパス形成について」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Sensitive and simultaneous quantitation of 6 β -hydroxycortisol and cortisol in human plasma by LC-MS/MS coupled with stable isotope dilution method.	共著	2018年8月	J Mass Spectrom, 53, 665-674
(論文) Effect of UGT1A1, CYP3A and CES Activities on the Pharmacokinetics of Irinotecan and	共著	2021年3月	Eur J Drug Metab Pharmacokinet, 46, 317-324

its Metabolites in Patients with UGT1A1 Gene Polymorphisms			
(論文) Dried blood spots analysis of 6β -hydroxycortisol and cortisol using liquid chromatography/tandem mass spectrometry for calculating 6β -hydroxycortisol to cortisol ratio	共著	2021年12月	J Mass Spectrom, 56, e4790
(論文) Development and validation of an LC-MS/MS-based method for quantifying urinary endogenous 6-hydroxymelatonin	共著	2022年5月	Chem Pharm Bull, 70, 375-382
(論文) Effects of 11β -hydroxysteroid dehydrogenase 2 activity on the prediction accuracy of plasma unbound cortisol concentration based on salivary cortisol	共著	2022年6月	Medical Mass Spectrometry, 6, 45-51
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)新規 CYP1A2 活性評価法の開発を目指した内因性 Melatonin 部分代謝クリアランスの算出		2022年6月	第38回日本 TDM 学会・学術大会
(演題名)メラトニン尿中排泄量算出のための脱抱合反応における内標準物質としての安定同位体標識の比較		2022年9月	第47回日本医用マススペクトル学会年会
(演題名)新規 CYP1A2 活性評価法の開発に向けた AUC 法と1点採血法の比較検討		2022年9月	第47回日本医用マススペクトル学会年会
(演題名) CYP3A の活性評価を目指した爪中 6β -hydroxycortisol と cortisol の LC-MS/MS 同時定量法の開発		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
1999年～現在	日本薬学会 会員		
2007年～現在	日本医用マススペクトル学会 会員		
2007年～現在	日本 TDM 学会 会員		
2009年～現在	日本臨床化学会 会員		
2013年～現在	国際 TDM 学会 会員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 個別化薬物治療学	職名 助教	氏名 森尾 花恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Generation of a human conditionally immortalized cell-based multicellular spheroidal blood-brain barrier model for permeability evaluation of macromolecules	共著	2022年8月予定	Bio-Protocol, in press
(論文) In Vitro-In Vivo Correlation of Blood-Brain Barrier Permeability of Drugs: A Feasibility Study Towards Development of Prediction Methods for Brain Drug Concentration in Humans	共著	2022年7月	Pharm Res, 39(7):1575-1586 (2022)
(論文) Human Immortalized Cell-Based Blood-Brain Barrier Spheroid Models Offer an Evaluation Tool for the Brain Penetration Properties of Macromolecules	共著	2022年6月	Mol Pharm, in press (2022)
(論文) Evaluating a Targeted Cancer Therapy Approach Mediated by RNA trans-Splicing in Vitro and in a Xenograft Model for Epidermolysis Bullosa-associated Skin Cancer.	共著	2022年1月	Int J Mol Sci, 23(1):575 (2022)

(論文) Protein kinase C activation upregulates human L-type amino acid transporter 2 function.	共著	2021年3月	J Physiol Sci, 71(1):11 (2021)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Usability of human immortalized cell-based blood-brain barrier spheroid model for evaluation of macromolecular drug permeability via receptor-mediated transcytosis		2022年7月	NEURO2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年6月～現在	日本薬物動態学会会員		
2017年4月～現在	日本癌学会会員		
2021年7月～現在	日本薬学会会員		
2022年1月～現在	日本神経化学学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬理学教室	職名 准教授	氏名 杉山健太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
疾病と薬物治療V	2013年度～ 2022年度	薬剤師国家試験の問題と臨床上の関連について概説した。	
臨床薬理学特論	2013年度～ 2022年度	臨床研究に至るまでの準備について概説した。	
前期ゼミナール	2013年度～ 2022年度	日本における臓器提供の意義について概説した。	
薬物治療学特論(大学院)	2013年度～ 2022年度	臓器移植における臨床研究について概説した。	
実務実習事前実習	2013年度～ 2022年度	5年次に実務実習前の事前実習を担当した。	
総合薬学演習I	2013年度～ 2022年度	薬剤師国家試験対策を中心に自己免疫疾患を担当した。	
医療薬学演習II	2013年度～ 2022年度	薬害と相互作用を担当した。	
医療薬学特論	2021年度～ 2022年度	医薬品開発を担当した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
コンパス薬物治療学	2019年度	分担執筆者を担当した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年～2022年 2012年～2019年 2014年～2022年 2014年～2022年 2015年～2016年	2012年～現在 共同機器運営委員会 2 OSCE委員会 病院薬局運営委員会 人間と薬学運営委員会 薬学教育ワークショップ実施委員会 病院・薬局実習運営委員会	

	2020年～2022年	病院・薬局実習運営委員会	
	2020年～2022年	薬学部ホームページ委員会	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Significance of 25-hydroxy vitamin D in early infants infected with respiratory syncytial virus.	共著	in press 2022年	Journal of Tokyo Medical University in press 2022年
(論文) 病院薬剤師と薬局薬剤師を対象とした関節リウマチ治療に関する意識調査	共著	2021年10月	応用薬理 101(1/2) 7-14 2021年
(論文) Effects of vitamin K2 combined with methotrexate against mitogen-activated peripheral blood mononuclear cells of healthy subjects and rheumatoid arthritis patients	共著	2021年3月	Fundamental & Clinical Pharmacology 35(5) 832-842 2021年
(論文) Vitamin K2 Suppresses Proliferation and Inflammatory Cytokine Production in Mitogen-Activated Lymphocytes of Atopic Dermatitis Patients through the Inhibition of Mitogen-Activated Protein Kinases	共著	2020年10月	Biological and Pharmaceutical Bulletin 44(1) 7-17 2021年
(論文) Effects of sinomenine on the proliferation, cytokine production, and regulatory T-cell frequency in peripheral blood mononuclear cells of rheumatoid arthritis patients	共著	2020年9月	Drug Development Research 82(2) 251-258 2021年
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年10月～2022年	World Federation of Chinese Medicine Sciences Council Member		
2021年2月～2022年	KKR 虎の門病院臨床研究審査委員会 技術専門員		
2018～2022年	現在東京墨田看護専門学校 非常勤講師(臨床薬理学)		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬理学	職名 講師	氏名 恩田 健二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月以前～現在	<ul style="list-style-type: none"> ● WebClass (学内 LSM システム) を積極的に活用し、補助プリント資料の公開、演習、Web 試験の実施 ● ゼミナールでの患者招聘 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年	<ul style="list-style-type: none"> ● コンパス薬物治療学 眼疾患 耳鼻咽喉疾患の項目を執筆した。 ● 講義で使用しているパワーポイントファイル 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬学部における卒業論文研究評価の可視化とディプロマ・サプリメント発行への取組み 2020年 第5回日本薬学教育学会大会 	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年～現在 2021年～現在	<ul style="list-style-type: none"> ● 薬学部における卒論ディプロマ・サプリメントの導入・運用 ● 薬学部におけるゼミナールカルテ・修了証の導入 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Plant-derived alkaloid sinomenine potentiates glucocorticoid pharmacodynamics in mitogen-activated human peripheral blood mononuclear cells by regulating the translocation of glucocorticoid receptor	共著	2019年1月	Phytother Res. 33 (1), 187-196
(論文) Bevacizumab Versus Anti-preeclamptic Drugs: Evaluation with Three-dimensionally Co-cultured Human Mini Tumors	共著	2019年7月	Anticancer Res. 39 (7), 3543-3551
(論文) Tetrandrine enhances glucocorticoid receptor translocation possibly via inhibition of P-glycoprotein in daunorubicin-resistant human T lymphoblastoid leukemia cells	共著	2020年8月	Eur J Pharmacol, 881, 173232,
(論文) Development of Japanese Versions of the Control Preferences Scale and Information Needs	共著	2021年5月	Patient Prefer Adherence 15, 017-1026

Questionnaire : Role of Decision-Making and Information Needs for Japanese Breast Cancer Patients			
(論文) Molecular mechanisms and therapeutic implications of tetrandrine and cepharanthine in T cell acute lymphoblastic leukemia and autoimmune diseases	共著	2021年1月	Pharmacol Ther, 217 107659
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Are Proton Pump Inhibitors Useful for Preeclampsia?		2022年11月	第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) メトトレキサート関連有害事象に及ぼす併用薬の影響に関する FAERS 解析		2022年11月	第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	日本薬学会		
～現在	日本臨床薬理学会		
～現在	日本医療薬学会		
～現在	日本胎盤学会		
～現在	日本薬学教育学会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬理学教室	職名 助教	氏名 田中 祥子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	① 2018年度 以前～現在 ② 2018年度 以前～現在	① 3年生後期 疾病と薬物治療Ⅴ(講義) 自己免疫疾患における疫学・病態および薬物治療に関する講義を行い、国家試験問題を教材に使用しました。 ② 1年生後期ゼミナール(演習) 認知症に関連したテーマで外部講師による講義を取り入れ、プレゼンテーションやSGDを評価しました。	
2 作成した教科書、教材、参考書		① 南江堂 薬物治療学 一部執筆を担当いたしました。 ② 認知症サポーター養成講座(厚生労働省)の教材を使用しました。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		① ② 特にございませぬ。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		① 特にございませぬ。 ② 認知症予防法など評価のための統計演習を実践	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Arsenic Disulfide Combined with L-Buthionine- (S, R) - Sulfoximine Induces Synergistic Antitumor Effects in Two-Dimensional and Three-Dimensional Models of MCF-7 Breast Carcinoma Cells.	共著	2019年7月	Am J Chin Med. 47: 1149-1170.
Midazolam Intoxication in a Premature Neonate.	共著	2020年4月	Clin Ther. 42: 946-951.
Tetrandrine enhances glucocorticoid receptor translocation possibly via inhibition of P-glycoprotein in daunorubicin-resistant human lymphoblastoid leukemia cells.	共著	2020年8月	Eur J Pharmacol. 881: 173232.
Molecular mechanisms and therapeutic implications of tetrandrine and cepharanthine in T cell acute lymphoblastic leukemia	共著	2021年1月	Pharmacol Ther. 217: 107659.

and autoimmune diseases.			
Pharmacodynamic Drug-Drug Interaction on Human Peripheral Blood Mononuclear Cells Between Everolimus and Tacrolimus at the Therapeutic Concentration Range in Renal Transplantation.	共著	2021年2月	Ann Transplant.;26: e928817.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Pharmacogenomics and Epigenetic Drug Targets in Myelodysplastic Syndromes		2022年8月	World Federation of Chinese Medicine Societies
母乳由来エクソソームによるアレルギー発症抑制の可能性に関する検討		2022年12月	日本臨床薬理学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在		日本臨床薬理学会 認定指導薬剤師	
2018年4月～現在		八王子薬剤師会 学校薬剤師	
2019年5月～2021年4月		日本薬学会 ファルマシアトピックス委員会 委員	
2021年8月～現在		日本腎臓学会 CKD診療ガイドライン改訂委員会 委員	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床医療薬学センター	職名 教授	氏名 山田純司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年度以前 ～現在 2020年9月～ 現在	教科書やプリントは、自学習に役立つように詳細かつ明解に記述し、授業中はマークや書き込みを促し、全講義終了後には、学生各自が作成し自らに適した「学修ノート」として仕上がるように仕向けている。また、写真や図表等の視覚に訴える資料を活用している。その一方で、授業で取り上げる内容が多くなり過ぎないように留意し、「学生による授業評価」の結果を参考に、講義の進め方と内容を見直している。 講義動画を収録し、学生が自らの学習ペースに合わせて、いつでも何回でも復習できるようにオンデマンドで再生利用できるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度以前 ～2019年度 2018年度以前 ～現在 2018年4月 2019年2月 2019年3月 2020年4月～ 現在	アドバンス薬・疾病演習（プリント冊子） 2018・2019年度改訂 科別演習Ⅱ-Ⅲ：総合薬学演習（プリント冊子） 2018・2019年度改訂 疾病と薬物治療Ⅱ：代謝・内分泌疾患（学内製本）単著 2018・2019年度改訂 疾病と薬物治療Ⅵ：心血管疾患（学内製本）単著 2018・2019・2020年度改訂 実務実習事前実習・服薬指導の基礎：狭心症（プリント） 2018・2021年度改訂 病態生理学特論（プリント冊子） 2018・2019・2021・2022年度改訂 情報収集Ⅰ：糖尿病（プリント冊子） 2019・2021・2022年度改訂 実務実習事前学習Ⅱ・処方解析学（学内製本）共著 ガイドラインで理解する疾病と薬物治療：高血圧（コアコンテンツ社）単著 ガイドラインで理解する疾病と薬物治療：虚血性心疾患（コアコンテンツ社）単著 総合薬学演習Ⅰ（病態・薬治）（プリント冊子） 2021・2022年度改訂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年4月～ 2019年4月～ 2019年10月～ 2019・2020年度 2021年9月	薬学部教務担当主任 学長補佐、教育研究審議会メンバー、三つの方針検討委員会委員、自己点検・評価、内部質保証委員会副委員長(2021年4月～委員長)、カリキュラム委員会委員長 教育改革担当理事 大学基準協会認証評価受審に係る全学的マネジメント 令和3年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 脊髄小脳変性症と自己抗体	共著	2018年4月	医学書院、BRAIN and NERVE 70:371-382
(論文) Syntaxin 17 promotes lipid droplet formation by regulating the distribution of acyl-CoA synthetase	共著	2018年5月	J Lipid Res 59:805-819
(著書) 自己免疫性小脳失調症の治療	共著	2020年7月	科学評論社、脳神経内科 93:124-130
(論文) 特発性小脳失調症患者の免疫治療効果予測における抗マウス小脳組織由来抗原抗体検査の有用性	共著	2022年2月	臨床神経学 62:112-122
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アシル CoA チオエステラーゼ 2 遺伝子欠損が肝臓の脂肪酸β酸化関連遺伝子発現に及ぼす影響		2022年12月	第43回日本肥満学会・第40回日本肥満症治療学会学術集会
(演題名) 圧負荷心不全モデルにおけるアシル CoA チオエステラーゼ 2 の病態生理学的役割		2022年12月	第80回西東京内分泌代謝研究会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2003年6月～2021年3月	HAB 研究機構 評議員		
2009年4月～現在	薬学教育協議会 病態・薬物治療関連教科担当教員会議 委員		
2011年1月～現在	西東京内分泌代謝研究会 世話人(2022年12月開催当番・座長)		
2011年4月～2020年3月	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 病態・薬物治療部会委員		
2012年5月～現在	薬剤師勉強会/日本薬剤師研修センター認定講習会 主催・講師(2019年12月まで10回/年、各90分講義; 2020年～現在 原則5回/年、各90分講演x2(分担)、東京薬科大学主催・八王子薬剤師会共催)		
2018年9月	第31回薬剤師のための医療薬科学研修会(熊本大学薬学部) 講師		
2018年10月～2019年8月	ソーシャルユニバーシティ薬剤師生涯学習センター 学び直し講座 講師(シリーズ第1回～第10回、各120分)		
2019年6月～現在	ソーシャルユニバーシティ薬剤師生涯学習センター 評価認定審査委員		
2019年9月	東京薬科大学 卒後教育講座第274回 講師		
2019年10月～現在	東京薬科大学 第23期評議員、理事		
2020年6月～現在	ソーシャルユニバーシティ薬剤師生涯学習センター スキルアップ講座・オンデマンド講座 講師(2～4回/年、各90分)		

2021年2月

令和2年度 八王子学園都市大学 後期いちよう塾公開講座 講師

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床医療薬学センタ —	職名 講師	氏名 大友 隆之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年以前～ 現在	講義の前後に学生の理解度を測るための確認テストを実施している。 同一の学習項目に対して講義形式及び演習形式での学習の場を準備することで、学生が課題発見力・問題解決力を習得できるように促している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年以前～ 現在	講義及び演習で使用したパワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022 年 6 月 1 日 2022 年 8 月 25 日 2022 年 10 月 1 日	「NOCC 教育検査の教員説明会」に参加 ワークショップ「次世代の大学のキャリアパスを考える」に参加 「シミュレーション教育を担う教員に対する Faculty Development」に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Usefulness of an anti-mouse cerebellar tissue-derived antigen antibody test in predicting immunotherapy efficacy in patients with idiopathic cerebellar ataxia.	共著	2022 年 2 月	Clinical Neurology vol. 62 No. 2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アシル CoA チオエステラーゼ 2 遺伝子欠損が肝臓の脂肪酸β酸化関連遺伝子発現に及ぼす影響		2022 年・12 月	第 43 回日本肥満学会 第 40 回日本肥満症治療学会学術集会
(演題名) 圧負荷心不全モデルにおけるアシル CoA チオ		2022 年・12 月	第 80 回西東京内分泌代謝研究会

エステラーゼ2の病態生理学的役割		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年以前～現在	好酸球・アレルギー研究会会員	
2018年以前～現在	日本生化学会会員	
2018年以前～現在	日本肥満学会会員	
2018年以前～現在	日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 社会薬学	職名 教授	氏名 北垣 邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年9月～ 現在	予習復習に活用できるように、講義資料はWeb Class上に掲載している。 授業の復習を兼ねた振り返りテストを実施している(2019年から)。 1回1回の授業が独立したものにならないよう、授業間で関連付けを可能な限り学生の振り返りを促す。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・栄養薬学・薬理学入門(第2版) ・治験薬学～治験のプロセスとスタッフの役割と責任～	2020年3月 2020年1月	医薬品の使用に関する項目を執筆した。 治験にかかわる法律・医の倫理に関する項目を執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2016年7月 ～現在	・高等学校における模擬講義	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬剤使用状等に関する調査研究 報告書	共著	2022年3月	一般財団法人医療経済・社会保険福祉協会 医療経済研究機構
(著書) 「学校環境衛生基準」解説 2022	共著 監修	2022年7月	薬事日報社
(論文) 薬局の役割の変遷と今後の展望	単著	2020年	薬局薬学 12(2): 65-73
(論文) Parental drinking according to parental composition and adolescent binge drinking: findings from a nationwide high school survey in Japan	共著	2020年	BMC Public Health. 20:1878 (2020) doi: 10.1186/s12889-020-09969-8
(論文) 入退院時における地域の薬局薬剤師と病院薬剤師の情報連携の有用性に関する研究	共著	2021年	レギュラトリーサイエンス学会誌 12(1): 3-16
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○○			
(演題名) コロナ禍における学校薬剤師の役割 ～なぜ、今、学校薬剤師?～		2022年7月	第25回日本地域薬局薬学会年会

(演題名) 学校薬剤師の活動の現状と期待される役割	2022年5月	第69回北海道薬学大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2022年4月～現在	公益財団法人日本学校保健会 「学校における医薬品管理マニュアル改訂委員会」委員長	
2022年4月～現在	公益社団法人日本薬学会 環境・衛生部会 試験法委員会「学校薬剤師向け衛生試験法教本編集委員会」委員	
2021年6月～2022年3月	文部科学省 専ら外国人の子供の教育を目的としている施設(いわゆる「外国人学校」)の保健衛生環境に係る有識者会議「委員	
2020年6月～現在	公益社団法人日本薬剤師会 「学校と学校薬剤師2020」(仮称)編集委員会委員	
2019年4月～2022年3月	公益財団法人日本学校保健会 「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育に関する指導参考資料」改訂委員	
2018年11月～2022年7月	公益社団法人日本薬剤師会 「学校環境衛生基準2018解説」2019新訂版(仮称)編集委員会委員	
2015年7月～現在	公益社団法人日本薬剤師会 学校薬剤師部会広報ワーキンググループ委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬効解析学教室	職名 教授	氏名 山田 安彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年以前～ 現在	担当科目の講義・演習について、教科書、テキスト、補助プリント、ワークシート、スライド、動画等の教材は全て担当教員が作成している。これら教材は、幅広い知識を整理して理解できるよう、毎年見直して改訂するとともに、最新の情報を反映するよう心掛けている。3 年次には講義で知識の習得を、4 年次には演習で知識・技能の定着を促せるよう工夫している。また、5 年次、6 年次には選択科目を担当し、4 年次までに習得した知識・技能が臨床でどのように適用・応用できるか、実際の経験を交えながら興味を持ち、活かせるように、分かりやすい内容を考えている。学生による授業評価は概ね良好である。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年以前～ 現在	医薬情報演習テキスト (毎年改訂) 大学生協	
	2018 年 8 月	調剤指針 14 改訂 薬事日報社	
	2020 年 3 月	理論調剤学―第 2 版― 京都廣川書店	
	2020 年 10 月	スタンダード薬学シリーズ II 9 薬学演習 I. 医療薬学・臨床薬学 東京化学同人	
	2020 年 3 月	がん薬物治療学―悪性腫瘍、薬物治療の理論と実践―第 2 版 京都廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2018 年以前～ 現在	学内で開催される FD 講演会の聴講 (年 1～2 回) 学内で開催され FD ワークショップへの参加 (数年 1 回)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Model for Analysis of Adalimumab Administered for Crohn's Disease	共著	2018 年 6 月	Biopharm Drug Dispos Vol.39 283-288
(論文) Prediction of Clinical Effects of Infliximab Administered for Inflammatory Bowel Disease Based on Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Modeling	共著	2019 年 7 月	Biopharm Drug Dispos Vol.40 250-261

(論文) Comparisons of Usual Dose of Pharmaceutical Products Used in Japan and United States: Can Differences Be Explained by Pharmacokinetics Alone?	共著	2019年9月	Ther Innov Regul Sci Vol.53 684-690
(論文) Therapeutic and Adverse Effects of Thrombomodulin Alfa to Treat Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation	共著	2020年6月	Shock Vol.54 50-55
(論文) Prediction of Treatment Failure During Infliximab Induction Therapy in Inflammatory Bowel Disease Patients Based on Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Modeling	共著	2020年7月	Eur J Pharm Sci, Vol.150 105317
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
治験における分子標的抗悪性腫瘍薬の用量設定に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
片頭痛急性期治療薬の5-HT _{1F} 受容体を介した臨床効果発現に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
HIF-PH阻害薬のエリスロポエチン増加作用に関する定量的解析		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
腎障害時および腎機能回復期の基底膜成分遺伝子発現量に関する研究		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
高カリウム血症治療薬の消化器系副作用(便秘)に関する検討		2022年7月	第24回医薬品情報学会総会・学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
1999年4月～現在	日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師		
2002年4月～現在	日本医療薬学会代議員		
2009年4月～現在	日本臨床薬理学会指導薬剤師		
2010年4月～現在	薬学共用試験センター薬学共用試験CBT問題管理委員		
2011年4月～現在	東京医科大学八王子医療センター病院倫理委員会委員		
2011年7月～現在	日本医薬品情報学会医薬品情報専門薬剤師		
2011年9月～2019年10月	文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金等に係る選定委員会		
2012年4月～現在	日本眼薬理学会評議員		
2012年4月～現在	東海大学医学部付属八王子病院倫理委員会委員		
2013年4月～現在	日本薬学会代議員		
2013年10月～現在	日本薬剤師会生涯学習問題作成委員会委員		
2016年4月～2022年3月	日本医療薬学会理事		
2016年4月～2022年3月	日本医療薬学会副会頭		
2018年4月～現在	日本薬局学会評議員		
2018年7月～現在	医道審議会専門委員(薬剤師分科会薬剤師国家試験事後評価部会)		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬効解析学教室	職名 准教授	氏名 高柳 理早
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年以前～ 現在	担当科目の講義・演習について、教科書、テキスト、補助プリント、ワークシート、スライド、動画等の教材は全て担当教員が作成している。これら教材は、幅広い知識を整理して理解できるよう、毎年見直して改訂するとともに、最新の情報を反映するよう心掛けている。3 年次には講義で知識の習得を、4 年次には演習で知識・技能の定着を促せるよう工夫している。また、5 年次、6 年次には選択科目を担当し、4 年次までに習得した知識・技能が臨床でどのように適用・応用できるか、実際の経験を交えながら興味を持ち、活かせるように、分かりやすい内容を考えている。学生による授業評価は概ね良好である。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年以前～ 現在 2020 年 3 月 2020 年 3 月 2020 年 10 月	医薬情報演習テキスト (毎年改訂) 大学生協 理論調剤学—第 2 版— 京都廣川書店 がん薬物治療学—悪性腫瘍、薬物治療の理論と実践—第 2 版 京都廣川書店 薬学テキストシリーズ 薬物治療学 第 2 版 朝倉書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2018 年以前～ 現在	学内で開催される FD 講演会の聴講 (年 1～2 回) 学内で開催され FD ワークショップへの参加 (数年 1 回)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Model for Analysis of Adalimumab Administered for Crohn's Disease	共著	2018 年 6 月	Biopharm Drug Dispos Vol. 39 283-288
(論文) Prediction of Clinical Effects of Infliximab Administered for Inflammatory Bowel Disease Based on Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Modeling	共著	2019 年 7 月	Biopharm Drug Dispos Vol. 40 250-261

(論文) Comparisons of Usual Dose of Pharmaceutical Products Used in Japan and United States: Can Differences Be Explained by Pharmacokinetics Alone?	共著	2019年9月	Ther Innov Regul Sci Vol.53 684-690
(論文) Therapeutic and Adverse Effects of Thrombomodulin Alfa to Treat Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation	共著	2020年6月	Shock Vol.54 50-55
(論文) Prediction of Treatment Failure During Infliximab Induction Therapy in Inflammatory Bowel Disease Patients Based on Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Modeling	共著	2020年7月	Eur J Pharm Sci, Vol.150 105317
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
治験における分子標的抗悪性腫瘍薬の用量設定に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
片頭痛急性期治療薬の5-HT _{1F} 受容体を介した臨床効果発現に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
HIF-PH阻害薬のエリスロポエチン増加作用に関する定量的解析		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
腎障害時および腎機能回復期の基底膜成分遺伝子発現量に関する研究		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
高カリウム血症治療薬の消化器系副作用(便秘)に関する検討		2022年7月	第24回医薬品情報学会総会・学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2002年1月～現在		日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師	
2006年11月～現在		山梨大学医学部附属病院 医薬品等臨床研究審査委員会委員	
2009年4月～現在		日本臨床薬理学会 指導薬剤師	
2009年8月～現在		日本医療薬学会 代議員	
2011年7月～現在		日本医薬品情報学会 医薬品情報専門薬剤師	
2015年4月～現在		公益財団法人MR認定センター 教育研修委員会委員	
2020年7月～現在		日本医薬品情報学会 代議員	
2021年4月～現在		公益財団法人日本医療機能評価機構 研究倫理審査委員会委員	
2022年4月～現在		厚生労働省 薬剤師試験委員	
2022年7月～現在		薬学共用試験センター OSCE実施委員会委員	

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬効解析学教室	職名 講師	氏名 片桐 文彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～ 現在	担当科目の講義・演習について、教科書、テキスト、補助プリント、ワークシート、スライド、動画等の教材は全て担当教員が作成している。これら教材は、幅広い知識を整理して理解できるよう、毎年見直して改訂するとともに、最新の情報を反映するよう心掛けている。3年次には講義で知識の習得を、4年次には演習で知識・技能の定着を促せるよう工夫している。また、5年次、6年次には選択科目を担当し、4年次までに習得した知識・技能が臨床でどのように適用・応用できるか、実際の経験を交えながら興味を持ち、活かせるように、分かりやすい内容を考えている。学生による授業評価は概ね良好である。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月16日	がん薬物治療学(第2版) 京都廣川書店	
	2020年10月15日	スタンダード薬学シリーズ II 9 薬学演習 I. 医療薬学・臨床薬学 東京化学同人	
	2018年～現在	医薬情報演習テキスト(毎年改訂) 大学生協	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年以前～ 現在	学内で開催されるFD講演会の聴講(年1～2回) 学内で開催されFDワークショップへの参加(数年1回)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Sensitive and selective quantification of mid-regional proadrenomedullin in human plasma using ultra-performance liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry	共著	2020年5月	J Pharm Biomed Anal Vol.183 113168 doi: 10.1016/j.jpba.2020.113168
(論文) Therapeutic and Adverse Effects of Thrombomodulin Alfa to Treat Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation	共著	2020年7月	Shock Vol.54 50-55

(論文) Prediction of treatment failure during infliximab induction therapy in inflammatory bowel disease patients based on pharmacokinetic and pharmacodynamic modeling	共著	2020年7月	Eur J Pharm Sci Vol.150 105317 doi: 10.1016/j.ejps.2020.105317
(論文) Alpha-dystroglycan binding peptide A2G80-modified stealth liposomes as a muscle-targeting carrier for Duchenne muscular dystrophy	共著	2021年1月	J Control Release vol.329 1037-1045
(論文) Fibulin-4 Accelerates Amyloid Formation by Binding with a Keratin 5 Peptide Fragment	共著	2022年5月	JID Innov vol.2 100114 doi:10.1016/j.xjidi.2022.100114
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
治験における分子標的抗悪性腫瘍薬の用量設定に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
片頭痛急性期治療薬の5-HT _{1F} 受容体を介した臨床効果発現に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
HIF-PH阻害薬のエリスロポエチン増加作用に関する定量的解析		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
腎障害時および腎機能回復期の基底膜成分遺伝子発現量に関する研究		2022年6月	日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス
高カリウム血症治療薬の消化器系副作用(便秘)に関する検討		2022年7月	第24回医薬品情報学会総会・学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年3月20日~2021年3月	日本医療薬学会代議員		
2018年以前~現在	日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師		
2018年10月27日~現在	日本臨床薬理学会認定指導薬剤師		
2018年以前~2022年2月24日	日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬効解析学	職名 助手	氏名 木村 耕二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 「医療薬学演習」での工夫	2020年6月～ 現在	臨床の現場では複雑な症例も多く、それらに対応する薬物療法の中心的担い手となれる薬剤師としての素養を身につける必要がある。本演習では臨床で活躍する薬剤師に必要な知識、考え方などを学び、グループ討論や発表などの意見交換を通じて課題を解決するための能力を修得することを目的にした。授業ではテーマとした疾患の薬物治療について、学生が基礎的な知識や考え方を学習し、共通の理解を深めた後、SGDで症例検討を行い、基礎的な知識・理解を活用、および問題点の発見・問題解決を探求する学習を行った。それらにより、協働や問題解決、アイデア創出などの個人固有の資質・能力が発展するよう工夫した。特に、SGDを行う前に個別に症例検討の課題に取り組みさせることで、課題に対する自分の意見を持った上で他者の理解や考えに触れ、相対的に自身の理解や考えを特徴づけ、発展させるように工夫した。また、授業毎にふりかえりの時間を設け、学生が自身にとって重要な事柄を選択し、選択したものを言語化して意識を向けることで、次の活動に繋がられるよう工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年度～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業説明用のパワーポイントファイルを作成して配布した。 ・課題用のワードファイルを作成して配布した。 ・各自から提出された課題や質問へのフィードバック資料をパワーポイントファイルで毎回作成して配布した。 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年度～ 2022年度分	特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動記録および自己点検・評価の作成 ・学内FD実施委員会によるFD講演会への参加 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Pharmacokinetic and pharmacodynamic model for analysis of adalimumab administered for Crohn's disease treatment	共著	2018年6月	Biopharm Drug Dispos. 39(6):283-288
(論文) Comparisons of Usual Dose	共著	2019年9月	Ther Innov Regul Sci. 53(5):684-690

of Pharmaceutical Products Used in Japan and United States: Can Differences Be Explained by Pharmacokinetics Alone?			
(論文) Prediction of clinical effects of infliximab administered for inflammatory bowel disease based on pharmacokinetic and pharmacodynamic modeling	共著	2019年7月	Biopharm Drug Dispos. 40(7), 250-261
(論文) Prediction of treatment failure during infliximab induction therapy in inflammatory bowel disease patients based on pharmacokinetic and pharmacodynamic modeling	共著	2020年7月	Eur J Pharm Sci. 150, 105317
(論文) Predictor of primary response to antitumor necrosis factor- α therapy for inflammatory bowel disease: a single-center observational study.	共著	2022年6月	Eur J Gastroenterol Hepatol. 34(6), 640-645
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
腎障害時および腎機能回復期の基底膜成分遺伝子発現量に関する研究		2022年6月	日本医療薬学会第5回フレッシュャーズ・カンファランス
片頭痛急性期治療薬の5-HT _{1F} 受容体を介した臨床効果発現に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会第5回フレッシュャーズ・カンファランス
HIF-PH阻害薬の作用発現における標的分子結合占有に基づく定量的解析		2022年6月	日本医療薬学会第5回フレッシュャーズ・カンファランス
治験における分子標的抗悪性腫瘍薬の用量設定に関する検討		2022年6月	日本医療薬学会第5回フレッシュャーズ・カンファランス
高カリウム血症治療薬の消化器系副作用(便秘)に関する検討		2022年7月	第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会
播種性血管内凝固症候群治療薬トロンボモジュリンアルファの効果・副作用に関する理論的解析		2022年11月～12月(予定)	第43回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月 - 2019年3月	一般社団法人日本医療薬学会 代議員選挙管理委員		
2008年12月～現在	日本薬学会会員		
2010年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2010年6月～現在	日本医薬品情報学会会員		
2013年1月～現在	日本臨床薬理学会会員		
2015年5月～現在	日本薬物動態学会会員		
2019年4月～現在	The American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics 会員		
2022年4月～現在	日本消化器病学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 一般用医薬品学教室	職名 教授	氏名 陳 恵一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年～ 現在 2021年2月	・新型コロナ感染拡大期、遠隔授業システム（zoom他）を使用したインタラクティブ授業の実施 ・新規ヘルスケアデータ・サイエンス講義の実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月～ 現在	・授業プリント作成の各講義前PDF資料の配布 ・講義の録画と配信（ヘルスケア・データサイエンス）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年8月 2020年9月	・第6回日本薬学教育学会年会において、「ヘルスケア・データサイエンティスト人材育成プログラム」発表 ・第5回日本薬学教育学会年会において、「オンライン教育による学習効果の検証」発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年5月 2021年8月	・本学の卒業教育講座において、「医療DX(デジタル変革)と薬剤師業務」概説 ・学内FDにおいて、新規実施のヘルスケア・データサイエンス講義について概説	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 米国に見る医療デジタル変革と薬局事業 -患者中心医療へのシフト-	単著	2022年4月	薬局薬学. 14:1-7.
(論文) オンライン教育の方略構築と検証	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要. 25:63-70.
(論文) オンライン教育による学習効果の検証 -技能・態度の習得-	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要. 25:35-42.
(論文) Willingness of Patients Prescribed Medications for Lifestyle-Related Diseases to Use Personal Health Records: Questionnaire Study	共著	2020年5月	J Med Internet Res, 22(5):e13866.
(論文) 電子お薬手帳とビッグデータ	共著	2019年5月	Precision medicine. 2:418-422
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ノーコード環境での消費者向け OTC 医薬品使用管理アプリの開発		2022年11月	日本医療情報学会学術大会
(演題名) OTC 医薬品解熱鎮痛成分における重篤副作用とリスク因子解析：機械学習手法を用いた FDA 副作用報告（FAERS）データの解析		2022年11月	日本医療情報学会学術大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～現在	日本医療情報学会会員		

2013年4月～現在	日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 役員 (2021年3月まで) 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 会員 (現在まで)
------------	---

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	一般用医薬品学教室	准教授	成井 浩二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～ 現在	授業内容を視覚的にも理解しやすいように大きな字でかつ、色調も効果的になるように工夫している。毎年、内容をブラッシュアップしている。	
• 図解、映像の作成		CBT や国家試験に対応できるように過去出題の問題の回答解説を取り入れている。	
• 練習問題		学生による授業評価を受け、授業内容を改善している。	
• 授業評価			
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年8月	第3部 5. 鎮咳去痰薬 (P. 194-199)、6. かぜ薬 (P. 200-205)、18. その他のOTC医薬品 (P. 295-302)、薬剤師国家試験の過去問題と解答 (P. 325-334)	
• OTC 医薬品学 薬剤師にできるプライマリ・ケア 改訂第2版	2022年3月	第7章 1-2. OTC 医薬品の販売・対応 (P. 169-175)	
• 実務実習事前学習テキストブック			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年3月	東京薬科大学研究紀要 (第25巻) 実務実習事前実習をオンラインにて行った際の学習効果の検証	
• オンライン教育による学習効果の検証 - 技能・態度の習得 -	2022年3月	東京薬科大学研究紀要 (第25巻) 車いすによる介助教育をオンラインにて行った際の学習効果の検証	
• オンライン教育の方略構築と検証			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
該当なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) OTC 医薬品学 薬剤師にできる プライマリ・ケア 改訂第2版	共著	2021年8月	南江堂
(著書) 臨床薬学テキストシリーズ セ ルフメディケーション／一般用医薬 品・漢方薬・保健機能食品	共著	2021年9月	中山書店
(論文) スイッチ OTC 医薬品候補成分 およびリフィル処方候補成分に関する 薬剤師の意識調査	共著	2019年	日本薬剤師会雑誌 (第72巻第2号 147-155)
(論文) A Follow-up Survey of Registered Salesclerks after	共著	2021年	日本地域薬局薬学会誌 (第9巻第1号 1-12)

Seminars on Using English with Non-Japanese Customers in OTC Environments			
(論文) 健康関連商品に関する健康被害の事例と薬剤師の役割	共著	2021年	医薬品情報学(第23巻第2号67-71)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○○		2023年3月	日本薬学会 第143年会
(演題名) ○○○○○		2023年3月	日本薬学会 第143年会
(演題名) ○○○○○		2023年3月	日本薬学会 第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年9月～現在	東京都医薬品登録販売者協会研修会 講師		
2015年4月～現在	八王子市立梶田中学校 学校薬剤師		
2016年4月～現在	八王子市立横山第一小学校 学校薬剤師		
2018年11月～2019年6月 2020年11月～2022年6月	日本薬剤師会生涯学習委員会 Webテスト試験問題作成小委員		
2022年7月～現在	日本地域薬局薬学会理事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 第4英語研究室	職名 教授	氏名 森本 信子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>医療に関連した様々な英文記事を講読し、討論を行うと共に、TOEIC等の資格試験での得点向上を目指して、各種の訓練を通して総合的な英語力を養う。例年、TOEIC等で大幅に点数が上がり、読解力もついたと、満足度が高い。状況に応じてオンライン (Zoom, WebClass) も効果的に利用している。</p> <p>医療や薬学に関する英文の精読とともに、速読・速聴や多読の訓練を行う。語彙や重要事項については小テストやディクテーションを実施し、結果を学生にフィードバックして知識の定着を図っている。状況に応じて、対面とオンライン (WebClass) を効果的に組み合わせて授業を展開している。</p> <p>英語教員と薬学専門教員が協力し、各々の持ち味を生かした英語教育を行う。状況に応じてオンライン (WebClass) も効果的に利用している。</p> <p>日常的な表現を身に付けつつ、基本的な文法事項の理解を促し、学生自身の発話を重視した授業を展開している。映像や歌を通してフランスの文化に触れる工夫をしている。各回に小テストを実施し、結果を学生にフィードバックして知識の定着を図っている。状況に応じてオンライン (WebClass) も効果的に利用している。</p>	<p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p>	<p>4～6年必修科目「科別英語特論Ⅰ・Ⅱ」、「アドバンス英語」</p> <p>1年必修科目「英語(講読)Ⅰ・Ⅱ」 2年必修科目「薬学英语入門Ⅰ・Ⅱ」</p> <p>3年必修科目「実用薬学英语」</p> <p>選択科目「フランス語Ⅰ・Ⅱ」</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書 「英語(講読)Ⅰ・Ⅱ」	2018年4月以	語彙や文法に関する小テスト作成、内容理解を促すプリン	

<p>「薬学英语入門Ⅰ・Ⅱ」</p> <p>「実用薬学英语」</p> <p>「フランス語Ⅰ・Ⅱ」</p>	<p>前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p> <p>2018年4月以前～現在</p>	<p>ト作成、さらに2020年度以降は教材に準じたオンライン(WebClass)上の各種学習課題とクイズの作成</p> <p>語彙や文法に関する小テスト作成、内容理解を促すプリント作成、さらに2020年度以降は教材に準じたオンライン(WebClass)上の各種学習課題とクイズの作成</p> <p>単語表の作成、2020年度以降は教材に準じたオンライン(WebClass)上の各種学習課題とクイズの作成</p> <p>毎回の復習小テスト作成、シャンソンの歌詞プリント作成、DVD教材の暗唱文プリント作成、さらに2020年度以降はオンライン(WebClass)用教材および試験作成</p>	
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>「平成30年度東京薬科大学教育改革推進事業」の事業報告</p>	<p>2019年5月</p>	<p>「英語学習の継続性を担保する試み」の事業活動報告を学内にて実施。図書整備、各卒論教室への周知、アンケート結果、低学年授業での必修化等を報告した。</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p> <p>学内でのTOEIC実施担当 (薬学部1年生対象)</p> <p>「平成30年度東京薬科大学教育改革推進事業」</p>	<p>2018年4月以前～2021年</p> <p>2018年6月～2019年3月</p>	<p>2018年・2019年は対面にて、2020年・2021年はオンラインにて実施。</p> <p>「英語学習の継続性を担保する試み」と題して、低学年から卒業まで、継続的な英語学習を可能にする図書環境を整え、主体的な英語学習の習慣を身に付けることを目的として「多読」活動を導入。事業終了後の現在も2年必修科目で「授業内多読」を継続している。学生からは「読むスピードが上がった」「辞書なしでも内容がつかめるようになった」「多読のおかげで精読の力も上がってきた」など好評であり、教員から見ても学生の英語力担保に「多読」が貢献していると評価できる。</p>	
<p>Ⅱ 研究活動</p>			
<p>1. 著書・論文等の名称</p>	<p>単著・共著の別</p>	<p>発行または発表の年月(西暦)</p>	<p>発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称</p>
<p>(論文)『クレヴの奥方』における病</p>	<p>単著</p>	<p>2018年3月</p>	<p>東京薬科大学研究紀要(第21号)</p>
<p>(論文)ラファイエット夫人の手紙ー友人たちと文学ー</p>	<p>単著</p>	<p>2019年3月</p>	<p>東京薬科大学研究紀要(第22号)</p>
<p>(論文)『アンリエット・ダングルテル伝』における人物評ーラファイエット夫人の分析的視点をめぐってー</p>	<p>単著</p>	<p>2020年3月</p>	<p>東京薬科大学研究紀要(第23号)</p>

(論文) 17世紀フランスの女性作家たち	単著	2021年3月	東京薬科大学研究紀要(第24号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月以前～現在	日本フランス語フランス文学会会員		
2018年4月以前～現在	記号学会会員		
2018年4月以前～現在	日大学英語教育学会(JACET)会員		
2020年～2021年	東京薬科大学職員組合第53期副委員長		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名	職名 准教授	氏名 増田 由佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・英語多読活動 ・英語小説執筆キャンプ ・学習科学の応用による学修支援 ・公開講座	2018～現在 2020～現在 2020～現在 2022. 12. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内図書館に多読教材コーナーを新設した。 ・ これを利用して多読課題を導入した。 ・ 学内の教育改革推進事業として全学的多読を推進した。 ・ 学生が共同作業により英語で小説を執筆・出版する短期集中講座を開講した。参加者は約 7000 語～8700 語の英語小説を執筆・出版し、インターネット上で販売した。 ・ 心理学その他の分野の知見をまとめて学内外における学修支援講座を執筆した。 ・ グラズゴー大学から講師を招いて遠隔実施した。 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業用スライドを執筆した。 ・ WebClass 課題各種を作成した。 ・ 英語による映画や動画観賞用の課題を作成した。 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018. 5. 20 2018. 12. 1 2019. 6. 19 2019. 10. 29 2020. 3. 13 2020. 11. 22 2020. 12. 4 2020. 12. 6 2021. 8. 20 2021. 11. 22 2021. 12. 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ JALT 分科会の学会「Pan SIG 2018」で脳科学に基づいた教育を推進するポスター発表 ・ 第1回 JAAL in JACET で多読活動について口頭発表 ・ イギリス心理学会 DART-P で授業中の有酸素運動による学習効果について口頭発表 ・ 学内図書館主催の多読セミナーで講演 ・ 第24回 国際教育研究フォーラムで習熟度の低い学生にも適したアクティブラーニングの実践例について講演 ・ JALT 2020 で計画設計にかかわる学習技能向上のための教員向けワークショップを発表 ・ JALT Tokyo Showcase 2020 で有酸素運動がテスト不安を改善する効果について発表 ・ JAAL in JACET 2020 で学生による英語小説執筆キャンプとその効果について発表 ・ JAAL in JACET 2020 で脳機能を重視した学習技能講座とその効果について発表 ・ JALT2021 で言語生短期記憶にかかわる学習技能向上のための教員向けワークショップを発表 ・ JALT Tokyo Showcase 2021 で有酸素運動がテスト不安を改善する効果を検証した結果を発表 	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018	教育推進事業助成金を獲得、事業を実施した。	
II 研究活動			

1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）律的学習の技能習得と時間増加を目標とした薬学部英語教育における多読活動—導入・経緯・課題—	単著	2019年3月	JAAL in JACET Proceedings vol.1, pp. 65-71.
（論文）‘Book in a Week’ - Can Creative Writing Enhance Language Learning and Learner Confidence in Students?	共著	2021年3月	JAAL in JACET Proceedings vol.1, pp. 50-56.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）‘Book in A Week’ - Can Creative Writing Enhance English Learning and Self-Efficacy?		2022. 7. 5	ECP 2022
（演題名）Cognitive process of chunking for learning and teaching strategies		2022. 9. 25	JALT Listening & Kyoto SIG
（演題名）“Brain-friendly Study Skills for Teachers and Students: Mindfulness”		2022. 11. 11	JALT2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年6月～現在	編集委員（JADE）		
2018年～現在	Ad hoc officer（JALT MBE SIG）		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 医療実務薬学教室	職名 教授	氏名 畝崎 榮
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・ 図解を含む講義資料の作成 ・ 確認テスト・練習問題の作成 ・ 授業評価 ・ 教室ゼミ	2018 年度～現在 2018 年度～現在 2018 年度～現在 2020 年度～現在	<ul style="list-style-type: none"> 教科書とは別に授業内容について図や映像を作成し、パワーポイントを用いて理解を促進した。 確認テストと講義資料等は、学内の WEB システムを利用して学生に配信した。 前後期の授業評価を受け、授業の改善を行った。 バーチャルオフィスを活用した英語ゼミを実施した。Learning Management System を活用し、学習意欲に対応する授業コンテンツを作成した。 	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 病気と薬物療法 精神疾患 神経系・筋疾患 改訂 2 版	2019 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系疾患に関する項目について教科書を執筆した。 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ 新任教員のためのミニ教育ワークショップ	2022 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> 新任教員の FD ワークショップで教育講演を担当した。 	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む) ・ 関東消化器内視鏡医学講習会 ・ MR テキスト 2018 ・ 看護学校薬理学講義	2018 年～2022 年 (毎年 9 月) 2018 年 4 月 2018 年 4 月～2019 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡技師取得に向けて、内視鏡検査に必要な薬理・生理学について教育講演を行った。 公益財団法人 MR 認定センターの研修教科書を執筆した。 都立南多摩看護専門学校で薬理学の講義を行った。 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Preparation and evaluation of water-absorbing swollen mini-tablet aimed at improving ingestion	共著	2019 年 9 月	J Drug Deliv Sci Technol.
(論文) Pharmacodynamic Drug-Drug Interaction on Human Peripheral Blood Mononuclear Cells Between Everolimus and Tacrolimus at the	共著	2021 年 1 月	Ann Transplant.

Therapeutic Concentration Range in Renal Transplantation.			
(論文) Individual Lymphocyte Sensitivity to Steroids as a Reliable Biomarker for Clinical Outcome after Steroid Withdrawal in Japanese Renal Transplantation.	共著	2021年4月	J. Clin. Med.
(論文) Development of Japanese Versions of the Control Preferences Scale and Information Needs Questionnaire: Role of Decision-Making and Information Needs for Japanese Breast Cancer Patients.	共著	2021年5月	Patient Prefer Adherence.
(論文) Influence of Cytochrome P450 2C19 genotype on Helicobacter pylori Proton Pump Inhibitor-amoxicillin-clarithromycin Eradication Therapy: A Meta-Analysis.	共著	2021年10月	Front. Pharmacol.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2005年11月～現在	東京医科大学客員教授		
2007年4月～2019年3月	公益財団法人MR認定センター試験委員会委員		
2011年4月～現在	日本医科大学多摩永山病院 薬物治験審査委員会専門委員		
2015年4月～2019年3月	関東地区調整機構委員		
2015年4月～2019年3月	都立南多摩看護専門学校非常勤講師 (薬理学)		
2015年10月～2019年9月	東京薬科大学評議員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	医療実務薬学教室	准教授	川口 崇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021 年度～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・ バーチャルオフィスを活用した英語ゼミを実施 ・ Learning Management System を活用した学習意欲に対応する授業コンテンツ作成 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年 8 月 2021 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ (参考書) 3ステップで推論する 副作用のみかた・考え方 ・ (教科書) 薬学臨床推論 臨床での考え方 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年 4 月以前～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都病院薬剤師会における臨床推論教育活動 ((通年の研修会や公開講座の実施) ・ 全国における臨床推論教育活動 (講演等) 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Study protocol for SPARED trial: randomised non-inferiority phase III trial comparing dexamethasone on day 1 with dexamethasone on days 1-4, combined with neurokinin-1 receptor antagonist, palonosetron and olanzapine (5 mg) in patients receiving cisplatin-based chemotherapy	共著	2020 年 12 月	BMJ Open. 10. e041737.
(論文) Development of Japanese Versions of the Control Preferences Scale and Information Needs Questionnaire: Role of Decision-Making and Information Needs for Japanese Breast Cancer Patients	共著	2021 年 5 月	Patient Prefer Adherence. 18. 1017-1026.
(論文) How successful is parenteral oxycodone for relieving terminal cancer dyspnea compared with morphine? A multicenter prospective observational study	共著	2021 年 8 月	J Pain Symptom Manage. 62. 336-345.

(論文) Visualizing how to use parenteral opioids for terminal cancer dyspnea: A pilot, multicenter, prospective, observational study	共著	2021年11月	J Pain Symptom Manage. 62. 936-948.
(論文) Effect of paracentesis on the survival of patients with terminal cancer and ascites: a propensity score-weighted analysis of the East Asian Collaborative Cross-cultural Study to Elucidate the Dying Process	共著	2022年6月	Support Care Cancer. 30. 6233-6241.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ANCA 関連血管炎の多施設共同レジストリ J-CANVAS の構築とこれを用いた経時比較・国際比較研究		2022年4月	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
ANCA 関連血管炎の寛解導入療法におけるステロイドパルス療法の有効性・安全性: J-CANVAS レジストリを用いた傾向スコアマッチング		2022年4月	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
ANCA 関連血管炎(AAV)において寛解導入期の低IgG血症は重症感染症発症に関連する: J-CANVAS レジストリデータを用いた過去起点コホート研究		2022年4月	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
ANCA 関連血管炎の東西日本における診療実態—J-CANVAS (Japan Collaborative registry of ANCA-associated Vasculitis) —より		2022年4月	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
ANCA 関連血管炎患者の尿所見改善パターンの実態調査: J-CANVAS レジストリを用いた潜在軌跡モデリング		2022年4月	第66回日本リウマチ学会総会・学術集会
Glucocorticoid Tapering Strategy for ANCA-Associated Vasculitis: The Gap between the Recommendation and the Real-World Practice		2022年6月	European Alliance of Association for Rheumatology 2022
Association between Cytomegalovirus Reactivation and Renal Prognosis during Remission Induction Therapy for ANCA-Associated Vasculitis		2022年6月	European Alliance of Association for Rheumatology 2022
Hypertrophic pachymeningitis in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: a multicenter survey in Japan		2022年6月	European Alliance of Association for Rheumatology 2022
BALAST: An observational study on the nutrition status of patients with advanced gastric cancer who receive taxanes and ramucirumab combination chemotherapy		2022年6月	第7回日本がんサポーターティブケア学会学術集会
免疫チェックポイント阻害剤を投与しているがん患者におけるePROを用いた免疫関連有害事象に関するレジストリ研究(RESPLECT試験)(Trial in progress)		2022年6月	第7回日本がんサポーターティブケア学会学術集会

医師の PRO 調査票と ePRO に対する認識と日常診療への導入に関する調査	2022年6月	第7回日本がんサポーターケア学会 学術集会
補助化学療法後の乳がん患者を対象とした電子的患者報告アウトカムによる遷延性症状関連有害事象に関する観察研究 ; ASTRO 試験 (Trial in Progress)	2022年6月	第7回日本がんサポーターケア学会 学術集会
BALAST: An observational study on the nutrition status of patients with advanced gastric cancer who receive chemotherapy with ramucirumab and a taxane	2022年6月	MASCC/ISOO 2022 Annual Meeting
Patient-reported outcomes with dexamethasone sparing in CDDP-based chemotherapy: A randomized, placebo-controlled, phase III study (SPARED trial)	2022年6月	MASCC/ISOO 2022 Annual Meeting
「臨床現場を楽しく科学する！実例から学ぶコミュニケーションの臨床研究と実践」(シーズン2)内での講演「意思決定に関する研究」	2022年6月	ACP (米国内科学会) 日本支部年次総会・講演会 2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2018年4月以前～現在	東京腎と薬剤研究会 世話人	
2018年4月以前～現在	日本腎臓病薬物療法学会 評議員 / 統計調査委員会委員	
2018年4月以前～2018年6月	日本病院薬剤師会インタビューフォーム検討会 委員	
2018年4月以前～現在	日本がん支持療法研究グループ(国立がん研究センター支持療法開発センター)における臨床研究支援(データサイエンスチーム)	
2018年4月以前～現在	東京都病院薬剤師会臨床推論推進特別委員会委員(2018年より副委員長)	
2018年4月以前～現在	日本がんサポーターケア学会 PRO ワーキンググループ 委員	
2018年2月～現在	東京都薬剤師会学術倫理特別委員会 委員(2021年より委員長)	
2018年5月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 利益相反委員会 委員	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	医療実務薬学教室	助教	藤宮 龍祥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> バーチャルオフィスを活用した英語ゼミを実施した。 Learning Management Systemを活用した学習意欲に対応する授業コンテンツを作成した。 	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月～ 現在	<ul style="list-style-type: none"> 疾病と薬物治療Ⅷ、総合薬学演習Ⅰ・Ⅱの講義で使用しているパワーポイントファイルを作成した。 医療薬学演習Ⅰ、実務実習事前学習Ⅱで使用している演習資料を作成した。 	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020/08/25 2021/05/22	<ul style="list-style-type: none"> 全学FDワークショップに参加した(FD)。 新任教員のためのミニ教育ワークショップに参加した(FD)。 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Risk Associated with Severe Hematological Toxicity in Patients with Urothelial Cancer Receiving Combination Chemotherapy of Gemcitabine and Cisplatin	共著	2020年7月	Chemotherapy. 65. 29-34.
(論文) 抗がん薬治療の前方評価に向けた新規 Risk Classification の開発	共著	2021年4月	日本臨床腫瘍薬学会雑誌. 19. 1-9.
(論文) Influence of Cytochrome P450 2C19 Genotype on Helicobacter pylori Proton Pump Inhibitor-Amoxicillin-Clarithromycin Eradication Therapy: A Meta-Analysis	共著	2021年10月	Frontiers in Pharmacology. 12. 759249.
(論文) Psychological barriers to the use of opioid analgesics for treating pain in patients with advanced recurrent cancer (BAROC): protocol for a multicentre cohort study	共著	2022年3月	BMJ Open. 12. e054914.
(論文) Case of Imatinib	共著	2022年7月	Am J Ther. Online ahead of print.

Susceptibility to CYP3A4-Mediated Drug-Drug Interactions in a Patient With Gastrointestinal Stromal Tumor			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
服薬アドヒアランス ガイドライン（NICE CG76）日本語版の作成		2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年6月～2022年3月		日本臨床腫瘍薬学会 会誌編集委員会 委員	
2022年6月～現在		日本臨床腫瘍薬学会 地域医療連携委員会 委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学基礎実習教育センター	職名 教授	氏名 稲葉 二郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～	<p>3年生 薬理学実習／1年生 基礎生物学実習</p> <p>2019年度から新型コロナウイルス感染症予防のために、対面とオンラインでの実習を並行で行い、対面実習は、半数の人数で行っている。大体80名／1実習室で行っていたところを40名／1実習室で行っている。薬理学実習では、演習と実習を行うことによって、実習で行った内容を十分に説明できるため、学習効果が高まっている。また、実習自信をオンラインで、解説と課題で補填している。1年生基礎生物学実習では、ラットの解剖を行っているが、2018年までは、1班2名で1匹のラットで、雌雄は隣のから説明を受ける形で、複数名で話し合いながら行うことに重きを置いていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染予防のため、1人で解剖することとした。これによって、1人1人が動物愛護の精神を学びながら、1人で解剖できるため、充実している。ただし、解剖が苦手な学生にとっては、かなりな苦痛となっている。そのような学生に対して教員やTAが付き添い、懇切丁寧な対応を行っている。</p> <p>実習説明等を教室で行っていたが、コロナ禍にあり、オンデマンド(WebClass使用)型オンライン、2実習室間での動画共有・音声共有を行うことによって、2実習室同時開催が可能となった。また、これは、業者等に頼むのではなく、独自に配線を行って可能とした。また、実習室のマイク設備から、Zoom等への配信も可能となる様にケーブルを吟味して、接続可能とした。WebClassを利用し、学生アンケートを行い、実習内容について評価している。基本的に、講義で学んだことを実際に、体験できることによって、深い学びとなったとの意見ももらっている。実習項目については、満足度が高い。また、実習書の文字が小さいとか横向きと縦向きが混在している等の指摘を受けた場合には、紙面が許される限り対応している。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書		<p>薬理学実習実験書(毎年見直して発行)、基礎生物学実習実験書(毎年見直して発行)、グラフィカル機能形態(2020年第2版 ISBN 978-4-909197-68-9)、情報収集等の講義資料。PPTで作ったオンデマンド型オンライン用ビデオ。</p>	

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		「東京薬科大学の3年次生化学実習における学生の振り返りについて～過去3年間のデータから分かること～」今田 啓介、水野 晃治、秋元 賀子、坂上 弘明、佐藤 隆、岩谷 結衣、林 秀樹、高木 教夫、安藤 堅、佐藤 弘人、高橋 浩司、稲葉 二郎 日本薬学会 第140年会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		コロナ禍にあり、遠隔教育推進WGのWG長として急に任命された。補助金で何を揃えて、遠隔講義を可能にするか、設計立案を行った。さらに、講義室の人数を減らして、講義を行うためには、講義室間を、Zoomで連携し、かつ、講義室マイクからの入力をPCに、他の教室で、PCで受けたものを、プロジェクターで展開しながら、音声を講義室スピーカーから出すシステムを提案した。元来、外部業者に依頼して行うが、20～30講義室に対して、1講義室100万円かかると、かなり大規模な予算が必要となる。そこで、今回は、変換ケーブルを購入して、マイクチューナーに入室力出来るようにした。その結果、1講義室約3000円で、準備できた。この功績から、東京薬科大学スピリッツ賞(オンライン授業構築)と東京薬科大学スピリッツ賞(ライブ・オンライン教室間連携等構築)をいただいた。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) グラフィカル機能形態	共著	2020年4月	京都廣川書店
Daisaikoto Inhibits Pancreatic Lipase Activity and Decreases Serum Triglyceride Levels in Mice.	共著	2018年	Biol Pharm Bull.;41, 1485-
漢方製剤の成分分析-膠飴および大建中湯の糖類分析とそれらの血糖値への影響	共著	2020年	応用薬理 (Pharmacometrics) 99, 79
(論文) Diet-induced hyperhomocysteinemia impairs vasodilation in 5/6-nephrectomized rats.	共著	2018年	Amino Acids. 50, 1485
(論文) Chemical Constituents of the Bulbs of Scilla peruviana and Their Pancreatic Lipase Inhibitory Activity	共著	2021年	Int J Mol Sci 27, 1262
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○○			
(演題名) ○○○○○			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2010年～現在	三菱化学メディエンス(株)、現 LSI メディエンス 技術顧問
2010年4月～現在	一般社団法人東京薬科大学同窓会東薬会（理事、2014年度1年間退任、2019-2021副会長、2018年-現在 広報委員長）
2013年4月～現在	八王子市学校薬剤師
2019年10月～現在	学校法人東京薬科大学 評議員
2021年8月～現在	東京都薬剤師会 学校保健員会
2017年7月～現在	たまプラーザ看護学校 臨床薬理学 講師
2015年4月～現在	関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 委員
2009年4月～現在	日本薬学会会員※

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学基礎実習教育センター	職名 教授	氏名 安藤 堅
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年～現在 2018年以前～ 現在	<p>「基礎栄養学」</p> <p>内容：健康の維持や増進に必要な栄養摂取（食生活）に関する基本的な知識を習得するとともに、自らの食生活の実態を知ることによって健康を意識し、大学生生活の初期において健康の維持や増進に適切な食習慣の獲得をめざす。</p> <p>方法の工夫：講義スライドの要所に空欄を設け、動画の視聴により空欄を埋める方式を導入した。動画は毎週開示し、視聴期限を設けることで学生の視聴の滞留による学習の停滞を防いだ。演習として食事記録と自己評価を行い、健康管理意識の向上に努めた。</p> <p>授業評価：5段階評価で学内平均4.22と概ね好評。</p> <p>「衛生化学・公衆衛生学実習」人の健康保持・増進に貢献できるように、栄養素の化学及び食品衛生化学、環境衛生学に関する基本的知識や技能、態度を修得する。</p> <p>方法の工夫：食品衛生学の実習では、学生が用いる食材を選択し、環境衛生学の実習では、学生が大学敷地内の様々な所でサンプルを採取することにより、実験データに興味を持ってもらうとともに、得られる実験結果が異なるようにすることで、それに責任を持たせるようにしている。実験書は、実験項目ごとに実験結果を記録するためのページを入れ、実験書に実験記録ノートとしての役割を持たせることで、実習の復習教材として活用しやすくしている。実験書に国家試験衛生薬学分野の過去問題を掲載し、衛生薬学関連講義と連携して活用できるようにしている。</p> <p>授業評価：アンケートでは満足度90%以上であり好評。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年～現在 2016年～現在 2021年～現在	<p>基礎栄養学 講義プリント及び動画</p> <p>衛生化学・公衆衛生学実習 実験書、事前学習用動画</p> <p>微生物・免疫学実習 実験書 事前学習用動画</p> <p>食品の安全性と管理 講義動画</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年9月 2018年3月 2020年3月	<p>日本薬学教育学会大会：演題「ルーブリック評価表を用いた薬学基礎実習における学生自己評価と成績との相関性」</p> <p>日本薬学会：演題「薬学基礎実習における学生の自己評価と成績との関連性について」</p> <p>日本薬学会：演題「東京薬科大学の3年次生化学実習における学生の振り返りについて～過去3年間のデータから分かること」</p>	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年以前～ 現在	OSCE 直前評価者講習会 (2回/年)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ラクトフェリンの潰瘍性大腸炎抑制作用		2022年10月	日本ラクトフェリン学会
母乳成分ラクトフェリンの経口摂取による潰瘍性大腸炎抑制作用		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	たまプラーザ看護学校 栄養生化学 講師		
2018年4月～2021年3月	日本私立薬科大学協会学生部長会委員		
1990年4月～現在	日本薬学会会員※		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学基礎実習教育センター	職名 准教授	氏名 今田 啓介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度 ~ 2022 年度	<p>生化学実習：実習内容の説明動画、ならびに実験の操作手順や器具・機械の操作方法などの動画を実験台に設置したタブレット端末で常に見られるようにし、実験を行いながらも繰り返し確認ならびに学習出来るようにした。また、実習項目に関連する問題を WebClass に用意し、自分自身で理解度を確認できるようにした。</p> <p>代謝生化学：この科目は1,2年次の生化学関連の科目に苦手意識のある学生を対象としており、講義前の予習と毎回の講義時の小テストによって繰り返し学習することで基礎知識の定着を図っている。予習課題は、WebClass に用意し、学生は講義前日までに実施する。講義は、基本事項の確認と予習課題の解説が中心であり、講義の最後に行う小テストで定着度を確認する。2020 年度～2022 年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点から非同期型オンライン講義とし、講義はナレーション付きのスライド動画で行った。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度 ~ 2022 年度	<p>生化学実習：実習内容説明動画、実験器具・機器説明動画、実験方法説明動画、実習説明補助資料、実習書</p> <p>代謝生化学：講義資料、ナレーション付きスライド動画、小テスト解答（解説付き）</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018 年 9 月 2019 年 3 月 2020 年 3 月	<p>ルーブリック評価表を用いた薬学基礎実習における学生自己評価と成績との相関性第3回日本薬学教育学会</p> <p>東京薬科大学の3年次生化学実習における学生の振り返りについて ～ルーブリック評価表を用いた自己評価と成績との関連性～日本薬学会第139年会</p> <p>東京薬科大学の3年次生化学実習における学生の振り返りについて～過去3年間のデータから分かること～日本薬学会第140年会</p>	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018 年度 ~ 2022 年度	薬学部教務担当副主任：講義、実習、試験の運営やスケジュール策定など教務全般に関与。また、3年次の教務ガイダンス、卒論配属ガイダンス、留年者ガイダンス、1年次試験ガイダンスを担当	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Involvement of Catechols in Acteoside in the Activation of	共著	2018 年 10 月	Biol Pharm Bull, 41:1530-1536

Promatrix Metalloproteinase-2 and Membrane Type-1-Matrix Metalloproteinase Expression via a Phosphatidylinositol-3-Kinase Pathway in Human Dermal Fibroblasts			
(論文) Lysophosphatidic Acid Augments the Gene Expression and Production of Matrix Metalloproteinases-1 and -3 in Human Synovial Fibroblasts in Vitro	共著	2021年1月	Biol Pharm Bull. 44:131-135
(論文) Immunoregulatory monocyte subset promotes metastasis associated with therapeutic intervention for primary tumor	共著	2021年6月	Front Immunol, 12:663115, doi: 10.3389/fimmu.2021.663115
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○			
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年6月～現在	日本結合組織学会 評議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学基礎実習教育センター	職名 准教授	氏名 土橋 保夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～	<p>1年生：基礎有機化学実習 2年生：有機化学実習 3年生：医薬品合成実習</p> <p>2019年度よりコロナ禍のもとで実習教育が直面した課題は実習室での三密の回避である。そのために対面実習の人数を半分にし、1つの実験を1人で行える体制を構築した。実験機器類の増設も合わせて行なった。実習内容は全て簡素化したが、各学年での必須習得事項は漏らさずに組み込んだ。デモンストレーションは、学生の反応とそれに対する対応を重視して、動画を用いる事なく実演・対面で行なった。1人で実験を行うことにより、より高い教育効果が得られたことは、学生の実験操作を教員が実際に観察して確認している。初めて化学実験を行う1年生に対しては、当該実験室の機器設備や実験器具について詳細に解説し、また、化学実験と物理現象との関わりを体感してもらった。例えば、減圧とはどのような状態であるかを理解する為に、減圧ろ過で用いる吸引瓶の開口部に手の平を密着させてろ過瓶の内部をアスピレーターで減圧にして手の平が吸い込まれる事を体験させた。こうした体験により、減圧濾過において大気圧の差がもたらす濾過速度の飛躍的な増大を納得させることが出来た。基本的な実験操作である抽出分離には分液ロートが欠かせない。分液ロートの操作については、分液ロートに水とジエチルエーテルのみを入れて、分液ロートの内容物を漏出させない正しかつ効率的な振とう方法と上層と下層のロスのない分液操作を指導した。成長過程で体験してきた環境の影響で、実験が酷く苦手な学生も少なからず在籍しているが、彼・彼女らに対しても教員が懇切丁寧な指導を行なっている。また、環境問題から、融点測定と蒸留に用いられてきた水銀温度計を全てデジタル温度計へと変更した。そのために要求される変更や改造を、20台の融点測定装置および80台の蒸留装置に対して実施した。</p>	

2 作成した教科書、教材、参考書	2018年～	(1) 化学系実習 I 実験書 基礎有機化学実習 (2) 化学系実習 II 実験書 有機化学実習 (3) 化学系実習 III 実験書 医薬品合成実習 (1)～(3)については必要な修正を毎年行って発行している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	なし	
II 研究活動		
なし		
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		
なし		
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
なし		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	薬学基礎実習教育センター	准教授	佐藤 弘人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度以前 ～現在	<p>基礎情報学演習 I</p> <p>WebClass を利用し演習資料を掲載、各演習に対してはルーブリック表による学生自己評価を行い理解度等の把握に努めている。演習資料はわかりやすい作成を心がけ、操作が苦手な方に対しては演習後や別日に個別に指導、メールでの質問対応、コロナ禍においては Zoom (オンラインカフェ) による指導も行っている。</p>	
	2018 年度以前 ～現在	<p>漢方薬物学実習</p> <p>ほぼ未学習の状態の学生に対し、穴埋めの資料を作成し説明時に視聴しながら記入してもらう。知識の確認、定着を目的として、各実習終了時に口頭試問し学生の知識の確認を行う。</p>	
	2018 年度以前 ～現在	<p>天然医薬品化学実習</p> <p>代表的な生薬の確認試験を全体で行い知識技能を修得後、個人別に未知のカット生薬を渡して鑑定を行う個人問題解決型実習を行っている。知識技能の確認は実習後のグループ口頭試問を行い確認している。また、実習操作説明は実習書と字幕付き動画による操作説明を行い、安全に、正しい操作法を分かりやすく説明をしている。</p>	
	2018 年度以前 ～現在	<p>薬剤学実習</p> <p>物理薬剤学、生物薬剤学、製剤設計学の3つの実習を並に行う実習で、それぞれ工夫を行っている。</p> <p>物理薬剤学は WebClass に事前に説明動画、操作動画を配置し予習し参加することで対面時において知識が身につくやすくし、更に口頭試問をして確認している。各実習項目に於いてアンケートを取り、その後の実習の進め方等にフィードバックしている。</p> <p>生物薬剤学は、動画を併用しながら実習の説明を行い、実習の意図などを分かりやすくしている。また解析においてはグラフ用紙を使用し、個人で解析をすることで理解を深めるようにしている。実習の最後は実習項目の内容を学生全体に質問する形でフィードバックしている。</p> <p>製剤設計学は錠剤の作成、製剤試験法の修得するための実習を行っている。WebClass に事前資料と関連する動画をあげ予習をし、当日も動画視聴しながら説明を受けることで、安全に理解しやすい様に配慮している。機械を使った製剤ではその動きをカメラの拡大を使用しながら説明し、</p>	

	2018 年度以前 ～現在	教科書に書かれている装置の仕組みの理解がしやすい様 にしている。製剤試験法では試験器の説明書きを分かりや すい資料にし、班ごとに考えながら試験を行う。解析は個 人 PC による Excel で行い、口頭試問時に説明させなどし ている。 各実習室には、複数のモニターを配置し誰もが見やすい様 に配置し、カメラ等必要機器も必要に応じて配置してい る。更にアンケート等で問題があったところは工夫し修正 している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度以 前～現在	化学系実習 II 実験書（毎年改訂） PowerPoint 資料 2020 年度～ナレーション付き動画、字幕付き動画 化学系実習 III 実験書（毎年改訂） PowerPoint 資料 2020 年度～字幕付き動画 創薬系実習 実験書（毎年改訂） PowerPoint 資料 2020 年度～字幕付き動画	
	2018 年度以前 ～現在	医療情報リテラシー 演習編. 土橋 朗編, 政光プリプラ ン（毎年改訂）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等	2020 年 2 月	第 53 回 八王子市学校保健大会における、八王子薬剤師 会, 東京薬科大学の連携による薬物乱用防止教育の実施と その効果の検証	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	なし		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(著書) ○○○○○	単著	20XX 年○月	△△社
(著書) ○○○○○	共著	20XX 年○月	△△△△出版
(論文) ○○○○○○○○○	単著	20XX 年○月	△△△学会誌（第 10 巻第 2 号）
(論文) ○○○○○○○○○	単著	同 年○月	Journal of △△ vol.21 No.3
(論文) ○○○○○○○○○	共著	20XX 年○月	『△△研究』△△出版
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○○			
(演題名) ○○○○○			
III 学会および社会における主な活動（直近 5 年間に携わったもの数件）			
2018 年度以前～現在	日本薬学会会員		

2018年度以前～2020年度	八王子市学校薬剤師
2018年度以前～現在	八王子市小学校、中学校でのお薬教室講義

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学基礎実習教育センター	職名 助教	氏名 高橋 浩司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
2 年前期実習「分析化学実習」	2018年4月～ 2018年6月 2019年4月～ 2019年6月	分析化学に必要な基本的知識や技術をより良く修得できるようにするために、容量分析に必要な溶液濃度の計算や試料調製、滴定操作、得られた実験値からのファクターや目的成分含量の計算、分析法バリデーションに基づいた分析結果の客観的評価を各個人で行う。	
2 年後期実習「分析化学・物理化学実習」	2018年9月～ 2018年11月 2019年9月～ 2019年11月	分析化学演習では、演習問題を解くことで薬剤師に必要な単位や有効数字の考え方、基礎的な計算、機器分析に関する知識を習得する。また、緩衝液を用いた簡単な実験を行い、緩衝液に対する理解を深めるようにした。物理化学実習では、粘度計を用いた分子量の計算の演習と加水分解反応速度、相互溶解曲線、溶解熱、表面張力に関する実験を行った。	
2 年前期実習「分析化学実習」	2020年5月～ 2020年7月	<p>分析化学に必要な基本的知識や技術をより良く修得できるようにするために、容量分析に必要な溶液濃度の計算や試料調製、滴定操作、得られた実験値からのファクターや目的成分含量の計算を各個人で行う。</p> <p>本年度はコロナ感染拡大防止の対応としてオンラインで実習を実施した。オンラインで実習を行う上で次のことに注意して説明用資料を作成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 図を多用することで、実習で用いるガラス器具の形状や取扱い方、容量分析の手順などをイメージしやすくなるようにスライドを作成した。 2) 講義のように説明ができなため、講義で用いるスライドよりも説明文を増やした。 3) 各実習項目の最初のスライドに注意すべきポイントを挙げ、最後のスライドにポイントの解説を追加した。 4) 実際の容量分析のデモを行っている動画を撮影し、ガラス器具の使い方や実験操作の説明の補助とした。 <p>また、学生と連絡が取れる確率を高めるために、Zimbraメール、WebClassのメール機能、WebClassのタイムラインの3系統を用いて連絡を取れるようにした。さらに、登校できない学生のストレスを少しでも軽減するために、質問に対しては曜日に関係なく即日回答するようにした。</p>	

2年後期実習「分析化学・物理化学実習」	2020年9月～ 2020年11月 2021年9月～ 2021年11月	<p>分析化学実習では、分光光度法、HPLC、電位差滴定に関して実際に装置を用いて測定し、機器分析に関する理解を深めるようにした。物理化学実習では、粘度計を用いた分子量の計算の演習と加水分解反応速度、相互溶解曲線、溶解熱、凝固点降下に関する実験を行った。本年度は50%をオンライン実習で50%を対面実習で実施した。</p> <p>実習では、教育効果に加えてコロナ感染拡散防止に注意して実施した。コロナ感染拡散防止対策として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 飛沫拡散防止用として難燃性塩化ビニルシートを設置 2) 実習開始前の換気とCO2モニターによる換気状況のモニタリングの実施 3) 実習台をアルコールで機器類をコロナ感染予防に効果のある家庭用洗剤で清拭 4) ガラス機器類は使用後に次亜塩素酸ナトリウム水溶液に浸漬 5) 実習説明および実習項目を短縮し、実習室に滞在する時間を短くすることで感染リスクの軽減を行った。 <p>また学習効果の向上を目的として、オンライン実習で視聴する実習説明用の動画と課題(模擬データ)も作成した。</p> <p>以上の点を注意して行った結果、学生からの評価も高く、対面実習によるコロナ集団感染も防止できた。</p>
2年前期実習「分析化学実習」	2021年4月～ 2021年6月 2022年4月～ 2022年6月	<p>分析化学に必要な基本的知識や技術をより良く修得できるようにするために、容量分析に必要な溶液濃度の計算や試料調製、滴定操作、得られた実験値からのファクターや目的成分含量の計算を各個人で行う。</p> <p>本年度はコロナ感染拡大防止の対応として対面実習とオンライン実習を50:50の比率で実施した。</p> <p>オンライン実習では、実習操作の説明用動画を作成した。この動画は対面実習の時にも各自のスマートフォンやタブレットPC、実習室のモニターなどで確認しながら実習を行えるようにした。また、実習の予習と到達度を確認するためのWeb課題を実施した。</p> <p>実習では、教育効果に加えてコロナ感染拡散防止に注意して実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 飛沫拡散防止用として難燃性塩化ビニルシートを設置 2) 実習開始前の換気とCO2モニターによる換気状況のモニタリングの実施 3) 実習台をアルコールで機器類をコロナ感染予防に効果のある家庭用洗剤で清拭 4) ガラス機器類は使用後に次亜塩素酸ナトリウム水溶液に浸漬 5) 実習説明および実習項目を短縮し、実習室に滞在する時間を短くすることで感染リスクの軽減を行った。

		<p>6) 試薬類、ガラス器具類、化学天秤を各個人が専用で使用できるように小分けして配布した。</p> <p>また学習効果の向上を目的として、オンライン実習で視聴する実習説明用の動画と課題(模擬データ)も作成した。</p> <p>以上の点を注意して行った結果、学生からの評価も高く、対面実習によるコロナ集団感染も防止できた。</p> <p>学生と連絡が取れる確率を高めるために、Zimbra メール、WebClass のメール機能、WebClass のタイムラインの3システムを用いて連絡を取れるようにした。さらに、登校できない学生のストレスを少しでも軽減するために、質問に対しては曜日に関係なく即日回答するようにした。</p>	
2 年後期実習「分析化学・物理化学実習」	2022 年 9 月～ 2022 年 11 月		
2 作成した教科書、教材、参考書			
物理系実習Ⅰ「分析化学実習」実習書	2019 年 4 月以前～現在	「分析化学実習」用の実習書	
物理系実習Ⅰ 「分析化学・物理化学実習」実習書	2019 年 4 月以前～現在	「分析化学・物理化学実習」用の実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
東京薬科大学 第4回実務実習指導のためのFD研修会	2018 年	FD研修会のタスクフォースを担当し、ワークショップの円滑な進行に尽力した。	
大学コンソーシアム八王子主催 夏休み子どもいちょう塾	2021 年 7 月 2022 年 7 月	<p>大学コンソーシアム八王子が主催する、小学4, 5, 6年生を対象とした体験実習に講座を開講し、その講師として参加した。実習内容は化学発光を利用した光る液体の調製と夜光塗料を用いた光るスライムの作製を行った。コロナ感染に防止に配慮しながらの実習であったが、実習後の感想には良い感想が多く、多くの子供たちに化学に対する興味を持ってもらえたようである。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学実務実習教育センター	職名 教授	氏名 堀 祐輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
薬局・病院薬学	2018年4月 ～現在	臨床例を適宜例示しながら、各事例における薬剤師の対応や考え方を理解できるように工夫している。4年生の薬学生として薬局、病院、ドラッグストアなどでの、薬剤師業務の具体例を理解できるように工夫している。また、講義最終回では各回の講義を振り返る、総復習を行い、要点を伝えることで印象に残る講義にしている。	
実務実習事前実習	2019年4月 ～現在	各実習項目について、必要とされる習熟度の度合いに応じて系統立てて配置することで、学生の知識、技能の醸成を促すカリキュラムとした。学生からは、実習内容とその関連性を理解した上で、更に高度な教育を受けて行くことが自覚できたとの評価を受けている。特にフィジカルアセスメントなどを取り入れることで、対人業務への取組みや技能を高めることが出来た。	
薬学事前実習事前学習	2019年4月 ～現在	事前に予習できるように WebClass を使用してスライドや動画を掲載したほか、2022年からは教科書を使用することにより教育的効果を高める工夫をしている。	
個別化医療 II	2019年4月 ～現在	臨床例を積極的に例示すると同時に、学生の授業評価に基づきスライドや資料の修正を継続して改訂を加えながら教育を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
ケーススタディー 薬局・病院薬学（京都廣川書店）	2019年3月	各種事例を基に薬剤師目線での考え方や対応について示しており、薬局薬剤師業務、かかりつけ薬剤師、一般用医薬品、ポリファーマシーについて執筆	
個別化医療 II	2019年4月 ～現在	パワーポイントファイルを作成し資料として使用している。	
実務実習事前学習テキストブック （京都廣川書店）	2022年3月	薬学生および新人薬剤師を対象に、薬剤師業務の基本と実際の業務に関して動画と共に網羅的に記載（編著）。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年3月 ～現在	東京薬科大学高大連携事業での講演、見学会の実施（年2回）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2021年3月 ～現在	新型コロナウイルスワクチンの調製、分注作業の研修会開催（八王子市、調布市、大学内等）	
	2022年10月	「シミュレーション教育を担う教員に対する Faculty Development」（大学内で開催予定）	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
ケーススタディー薬局・病院薬学	共著	2019年3月	京都廣川書店
オンライン在宅医療実習の教育評価	共著	2021年3月	東京薬科大学研究紀要 24号, 45-49
デュオトラバ®配合点眼液とその後発医薬品の製剤学的評価 点眼容器の使用性および点眼ノズルの色彩の違いによる視認性に関する検討	共著	2021年6月	医療薬学 47巻, 6号, 326-334
Association of gynecomastia with antidiabetic medications in older adults: data mining from different national pharmacovigilance databases.	共著	2022年1月	Int J Clin Pharmacol Ther. 60:24-31.
実務実習事前学習テキストブック (京都廣川書店)	共著	2022年3月	京都廣川書店
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
空気中浮遊微粒子及び風速測定によるクリーンベンチ内における無菌調製時最適環境の検討		2022年3月	日本薬学会 142 年会
FAERS を用いた DPP-4 阻害薬と血管浮腫の関連性の解析		2022年3月	日本薬学会 142 年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年3月～現在	新型コロナウイルスワクチンの調製、分注作業（八王子市、計30回参加）		
2021年3月～現在	令和3、4年度公民館東分館 男女共同参画講座（東京都小金井市、年1回）		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学実務実習教育センター	職名 准教授	氏名 秋山滋男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
薬学事前実習事前学習	2018年4月～ 現在	4年次の学生を対象に講義を行なっている。学生が事前に予習できるようにWebClassを使用してスライドや動画を掲載したほか、2022年からは教科書を使用することにより教育的効果を高める工夫をしている。	
薬学事前実習事前実習	2018年4月～ 現在	4年次の学生を対象に実習を行なっている。学生からの評価および臨床業務の内容の変化を踏まえ、毎年、実習内容の見直しを行っている。また、学生が実習前後の予習、復習を随時行うことができるようにWebClassを使用してスライドや動画を掲載し教育的効果を高める工夫をした。	
個別化医療 II	2020年4月～ 現在	4年次の学生を対象に講義を行なっている。学生が実習前後の予習、復習をできるようにWebClassを使用してスライドや動画を掲載し教育的効果を高める工夫をした。学生の授業評価に基づきスライドや資料の修正を継続して実施している。	
ゼミナール	2020年4月～ 現在	1年次の学生を対象に演習を行なっている。早期より薬剤師への意識を高めるために、薬局での業務内容を意識し、調剤、製剤、服薬指導などの実践型の演習を実施している。実施後のアンケートの評価を踏まえて内容の見直しを行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬学事前実習事前学習	2018年4月～ 現在	4年次の薬学実務事前学習および薬学実務実習事前実習に使用している教科書である。 編者：堀祐輔 国分秀也	
薬学事前実習事前実習	2018年4月～ 現在	パワーポイントファイルおよび動画を作成し資料として使用している。	
個別化医療 II	2019年4月～ 現在	パワーポイントファイルを作成し資料として使用している。	
ゼミナール	2020年4月～ 現在	パワーポイントファイルを作成し資料として使用している。	

3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年9月 2020年9月	看護師を対象として、栄養管理研修会で栄養と薬剤の投与について講義および実習を行なった。(埼玉県看護協会)	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年10月～ 現在	東京医科大学八王子医療センター研修生としてNSTのカンファレンスへの出席およびNST回診に同行している。	
II 研究活動				
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
	介護老人福祉施設および介護老人保健施設を対象としたアンケート調査における薬剤師の介入状況およびその課題	共著	2021年	日本老年薬学会雑誌 3巻, 3号, 頁(78-85)
	デュオトラバ®配合点眼液とその後発医薬品の製剤学的評価 点眼容器の使用性および点眼ノズルの色彩の違いによる視認性に関する検討	共著	2021年	医療薬学 47巻, 6号, 頁(326-334)
	保険薬局の医療用麻薬の有効利用の実態と緩和医療に対する意識調査	共著	2021年	日本緩和医療薬学雑誌 14巻, 2号, 頁(47-60)
	酸化マグネシウム含有の一般用医薬品販売時の考慮すべき患者背景と適正使用に関する情報提供内容のエビデンスの構築～酸化マグネシウム含有製剤による高マグネシウム血症発症リスク要因解析と発症後の死亡リスクの解析～	共著	2021年	アプライド・セラピューティクス 16巻(77-90)
	経管投薬支援料算定開始に伴う保険薬局を対象とした経管投薬患者への薬剤投与方法の実態調査	共著	2022年	アプライド・セラピューティクス 17巻(49-58)
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
	エビデンスから考えるOTC医薬品販売時の情報提供内容～酸化マグネシウム含有OTC医薬品の副作用リスク要因の解析～		2022年5月	第5回群馬県薬学大会
	OTC点眼薬購入経験者および使用者を対象とした使用状況に関する調査		2022年7月	医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)				
	2012年1月～現在	日本くすりと糖尿病学会 研究推進委員		
	2012年4月～現在	簡易懸濁法研究会 幹事		
	2014年9月～現在	日本医薬品安全性学会 評議員		
	2015年2月～現在	日本静脈経腸栄養学会 学術評議員		
	2017年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

2022年12月末日現在

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学実務実習教育センター	職名 准教授	氏名 大山勝宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～現在	<p>病気とくすり (1年)</p> <p>自発的な予習・復習を可能とするため、1講義毎に授業内容の要点を纏めたプリントを公開している。</p> <p>実務実習事前実習 I</p> <p>担当科目であるコミュニケーション系の実習を通して CBT や国家試験問題で問われるような内容 (薬物動態や製剤、禁忌薬など) を学修できるよう、患者の背景や処方内容を工夫している。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・実務実習事前学習テキストブック (京都廣川書店)	2022年3月	<p>第7章 服薬指導 7-1 薬局 (P165-169)</p> <p>7-2 在宅 (P175-180)</p> <p>第14章 地域医療 14-1 地域医療 (P267-274)</p> <p>を執筆した。</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年10月	「シミュレーション教育を担う教員に対する Faculty Development」に参加(予定)。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Analysis of the Time-To-Onset and Factors Affecting Clinical Outcomes of Immune Reconstitution Inflammatory Syndrome in People Living with HIV Using Data from the Japanese Spontaneous Reporting Database	共著	2021年4月	J Pharm Pharm Sci. 24:153-160.
(論文) Time-to-onset of diabetes with everolimus use: analysis of a spontaneous reporting system database	共著	2021年10月	Pharmazie. 76:515-518.

(論文) Association of gynecomastia with antidiabetic medications in older adults: data mining from different national pharmacovigilance databases	共著	2022年1月	Int J Clin Pharmacol Ther. 60:24-31.
(論文) Pharmacovigilance study of the association between dipeptidyl peptidase-4 inhibitors and angioedema using the FDA Adverse Event Reporting System (FAERS)	共著	2022年7月	Sci Rep. 12:13122.
(論文) Effect of Concomitant Drug Use on the Onset and Exacerbation of Diabetes Mellitus in Everolimus-Treated Cancer	共著	2022年7月	J Pharm Pharm Sci. 25:245-252.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) FAERS および JADER を用いた抗糖尿病薬と女性化乳房との関連性の検討		2022年7月	第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
(演題名) FAERS および JADER を用いた DPP-4 阻害剤と骨折リスク軽減との関連性の評価		2022年7月	第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
(演題名) リアルワールドデータを用いた薬物相互作用研究の可能性		2022年8月	第8回日本医薬品安全性学会学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年11月～現在	多摩薬業連携協議会 委員		
2019年3月～2021年3月	日本医療薬学会 代議員		
2020年1月～現在	日本医薬品安全性学会 社員 (代議員)		
2021年4月～現在	日本腎臓学会 CKD 診療ガイドライン改訂委員会 SR 委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	薬学実務実習教育センター	准教授	国分秀也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～ 現在	各実習項目について、必要とされる習熟度の度合いに応じて系統立てて配置することで、学生の知識、技能の醸成を促すカリキュラムとした。学生からは、実習内容とその関連性を理解した上で、更に高度な教育を受けて行くことが自覚できたとの評価を受けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・実務実習事前学習テキストブック (京都廣川書店) ・ゼロから学ぶオピオイド がん疼痛管理実践マニュアル(日経BP)	2022年3月 2022年3月	薬学生および新人薬剤師を対象に、薬剤師業務の基本と実際の業務に関して動画と共に網羅的に記載。 オピオイドの使用方法、臨床薬物動態、臨床薬理などオピオイドを臨床使用する上での知識を網羅的に記載。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	該当なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		新型コロナウイルスワクチンの調製の研修会開催(八王子市、大学内等)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A Nationwide Survey of Community Pharmacist Contributions to Polypharmacy in Opioid-Using and Non-using Cancer Patients in Japan.	共著	2019年	Biol Pharm Bull. 42(7)
(論文) Pharmacokinetic Analysis, Analgesic Effects, and Adverse Effects of Tapentadol in Cancer Patients with Pain.	共著	2020年	Biol Pharm Bull. 43(6)
(論文) Population Pharmacokinetics of Methadone after Oral Administration in Japanese Patients with Cancer-Related Pain	共著	2020年9月	Journal of Pain & Palliative Care Pharmacotherapy 34(4)
(論文) The Effect of Oral Methadone on the QTc Interval and Pain in Japanese Patients with Cancer Pain	共著	2021年9月	Japanese Journal of Pharmaceutical Palliative Care and Sciences 14(3) 99-104

(論文) A Successful Case of Switching Treatment from Ketamine to Methadone for Complex Neuropathic Pain	共著	2021年	Journal of Palliative Medicine 18
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん疼痛患者における経ロメサドンの鎮痛効果と副作用		2022年9月	第32回日本医療薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年3月～現在	新型コロナウイルスワクチンの調製指導(八王子市、計1回)		
2021年6月～現在	日本緩和医療薬学会理事		
2021年6月～現在	日本緩和医療薬学会研究支援委員会委員長		
2021年6月～現在	日本緩和医療薬学会学会事業推進委員会委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	薬学実務実習教育センター	准教授	戸張 裕子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	1) 2018年4月以前～現在 2) 2018年4月以前～現在	1) 実務実習事前学習・実習 臨床実務に即した症例を用いた実習を通じて、論理的かつエビデンスに基づく思考力の醸成も目指している。 2) 地域保健薬学概論 公衆衛生学上の諸問題について、SGD を利用した全体討議を行い、課題解決能力の醸成を目的としている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	1) 2018年4月以前～現在 2) 2018年4月以前～現在	1) 実務実習事前学習テキストブック(京都廣川), 実習用ワークシート、講義用パワーポイントファイル 2) 講義用パワーポイントファイル	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年9月29日 2019年11月3日 2020年11月14日 2021年3月26日 2021年10月17日	禁煙サポート薬剤師養成講習会「大学教育セッション：禁煙支援のできる薬学生を育てよう」 第13回日本禁煙学会総会「薬剤師の禁煙支援と大学における禁煙支援教育：6年制薬学教育における禁煙支援教育の現状—歯学・歯科衛生学教育と比較して—」 第14回日本禁煙学会総会 禁煙セミナー薬科部会「教育現場からの新時代の薬剤師禁煙サポートスタイル」 日本薬学会第141年会 「薬学生を対象とした能動・受動喫煙関連疾患の知識に関する横断調査」 第15回日本禁煙学会学術総会ワークショップⅡ「大学における無煙環境推進活動」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年4月以前～現在	全学及び学部開催のFDフォーラムへの参加。 OSCEステーション設営、運営。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Tobacco cessation training in 6-year pharmacy schools in Japan: a cross-sectional survey	単著	2019年7月	BMJ Open, e027971
(著書) 薬剤師実務のアウトカム	共著	2019年9月	医学アカデミー
(論文) Comparison of two train-the-pharmacist programs for	単著	2019年10月	Tobacco Induced Diseases, 17(1) A21

supporting tobacco-nicotine dependence in Japan			
(論文) 公共喫煙所の間仕切り変更前後における大学生の受動喫煙に関する実態調査	共著	2021年3月	東京薬科大学紀要, 24, 38-44
(著書) はじめよう! 薬剤師のための禁煙支援ガイド	共著	2022年10月	南江堂
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
地域包括ケアシステムにおける薬剤師のあり方		2022年10月	第81回日本公衆衛生学会総会
都道府県別の禁煙相談薬局割合と喫煙率との関係:各都道府県の薬局機能情報掲載ウェブを利用した調査		2022年10月	第16回日本禁煙学会総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2016年10月～現在	日本禁煙学会 評議員・繁田正子賞選考委員・薬剤師委員会委員 (大学担当)		
2017年7月～現在	日本疫学会 代議員		
2017年7月～現在	日本公衆衛生学会 代議員・薬剤師のあり方委員会委員		
2020年7月～2021年3月	厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務局 参与		
2020年11月～現在	日本社会薬学会 代議員・学術委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学実務実習教育センター	職名 講師	氏名 影山 美穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～ 2019年8月	参加型授業を目標とし、オーディエンス・レスポンス・システムを導入、リアルタイムで講義者と学習者、学習者同士の意見を共有し実習を進めた。
1		2018年4月～ 現在	対面講義分をいつでも視聴できるように動画として配信。202年度はオンデマンド講義として活用。学習後の学生のワークブックには、難解な部分に多くのメモがあり、何度も視聴し理解を深めていることが確認できた。
1		2020年4月～ 2021年7月	学生が各自、自宅で実習を再現することを目的に、代用品の紹介・時間配分等を反映させた動画を作成した。講義にも応用し、各自のペースで学習できる工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月～ 現在	事前実務実習事前学習実習書の分担執筆。 個人担当実習部分のワークブック作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会 薬学部実務実習事前学習への反転学習導入の有効性
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年1月	岐阜大学 医学教育開発研究センターMEDC 主催 第67回医学教育セミナーとワークショップ
		2018年3月	芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター主催 「PBLに活かすプロジェクトマネジメント講座」参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)
(著書)実務実習事前学習テキストブック		共著	2022年3月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(演題名)シンポジウム1 妊娠と糖尿病 既往歴に「妊娠糖尿病を見つけたらあなたが出番です！」		発表年・月	学会名
		2022年9月	第10回 日本くすりと糖尿病学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在		一般社団法人 東京都病院薬剤師会 専門薬剤師養成部糖尿病領域薬剤師養成小委員会 委員	
2018年6月～現在		一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会 世話人	
2018年4月～現在		日本糖尿病学会、日本医療薬学会、日本くすりと糖尿病学会等会員	
2018年4月～現在		日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	

2018年4月～現在	日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師
2018年4月～現在	日本糖尿病療養指導士

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名：薬学実務実習教育センター	職名 講師	氏名 武井 佐和子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 「実務実習事前学習 I」講義における工夫	2018-2022	<p>実務実習事前学習 I の実習の基礎となる知識を必要とする理由を図解等にて解りやすく説明し、国家試験問題を示し習得度を各自が確認できるよう工夫した。</p> <p>内容は、前年度の成果から再検討し、変更を加えた。</p> <p>2020 年度からはコロナ禍で Web Class での配信となり、上記に加え以下工夫をした。</p> <p>講義内容を区切り、区切り毎に理解度を自己確認するためのテストを入れ、テストを受けた後に次の講義視聴が可能となるようなシステムとした。</p>	
1 「実務実習事前学習 I」実習における工夫	2018-2022	<p>「実務実習事前学習 I」講義内容を復習しながら、実技の必要性を理解した上で実技を習得できるよう工夫した。特に実務で重要となる実技は、繰り返し行い取得度を上げる工夫をした。内容は、前年度の成果から再検討し、変更を加えた。</p> <p>2020 年度からはコロナ禍となり、上記に加え以下工夫をした。対面での感染防止の観点から、配布物を減らし、Web Class を活用し、資料、課題の提示、課題の提出を行なった。</p>	
1 「臨床薬学概論」講義における工夫	2020-2022	<p>薬理等これまでに学んだ基礎知識をどのように医療現場で活用するかを理解できるように具体的に示すような工夫をした。内容は、前年度の成果から再検討し、変更を加えた。</p>	
1 「pb1t」授業における工夫	2018-2022	<p>臨床で活躍する専門家を招集し、チーム医療の中で、薬剤師の役割を理解し、在学中に学ぶべきこと受講生が再確認できるよう工夫した。内容は、前年度の成果から再検討し、変更を加えた。</p> <p>2020 年度からはコロナ禍となり、上記に加え以下工夫をした。対面での感染防止の観点から、配布物を減らし、Web Class、zoom を活用し、資料、課題の提示、課題の提出を行なった。</p>	
1. 「総合薬学演習 I」講義における工夫	2018-2022	<p>毎年、前年度の国家試験内容及び本学国家試験の結果を加味し、講義内容を再構成した。講義内容に関連する国家試験問題を資料に示し問題を解き習得度の確認を促した。</p>	

2 作成した教科書、教材、参考書	2018-2022	各授業の資料は、前年度の成果から再検討し変更を加えて使用した。 2021、2022年度の「実務実習事前学習Ⅰ」講義及び実習は、教科書を基本にしたが、上記資料は同様に使用した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 事前実習事前学習テキストブック	共著	2022年3月22日	京都広川
(論文) Effectiveness of Multidisciplinary Pre-graduate Education in Palliative Care	共著	2018年7月28日	JSPhE,doi:10.24489/jjphe.2018-015(2018)
(論文) Physicochemical Properties of Brand and Generic Infusion Fluid Preparations (Part 3): Investigation of Type 1 Hypotonic Infusion Fluids		2021年11月28 日	Drug Discoveries & Therapeutics. No: DDT-21-01083-0A.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年から	一般社団法人 医薬品適正使用・乱用防止推進会議 理事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名 講師	氏名 濱田 真向
東京薬科大学	薬学実務実習教育センター		
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
実務実習事前実習	2009年4月～ 現在	実務実習のための事前実習（態度・技能）に必要な全カリキュラムを作成（教員・場所・時間組み合わせを機械化した計画システムの作成）し、さらに担当科目の方略作成、実施計画立案および少数グループで48回の実習を実施してきている（9～12グループの実習を3～4科目）。また事前実習に必要な模擬患者（SP）の養成・運用を立案し、実施している。さらに学習改善のための学生からの評価および教員間評価を推進している。事前自習の多様な形式のひな型として、学習資料、規定実習内での学生の学習誘導（方略と学習時間の正確なマッチング誘導）、実習項目、実習項目のITC化といった実習の開発を実施してきた。	
薬学事前実習事前学習	2012年12月～ 現在	事前実習に必要な知識、また復習に必要なカリキュラムを作成してきた。実技試験に必要な形式、授業方式、教員やSPの動きなどを実践できるよう、本学の実習形式のひな型を作成してきた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
実務実習事前学習テキストおよびワークシート	2009年4月～ 現在	実務実習のための事前実習に必要な、知識および技術の解説および実習時に利用するワークシート全てのデジタル編纂のための方法の開発を実施してきた。担当科目の執筆の分担担当	
実務実習事前学習テキストブック （京都廣川書店）	2021年4月～ 現在	実務実習のための事前実習に必要な、知識および技術の解説書 担当科目の執筆を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年4月～ 現在	本学紀要による論文発表等	
4 その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）			
本学 SP 研究会活動	2009年4月～ 現在	本学 SP 研究会を組織し、SPの養成、SPの実習および実技試験利用のための方略・企画立案を実施し、SP養成のためのSP研究会活動を実施してきた。◎岐阜大学 医学教育開発研究センター（MEDC）主催の各種FD講座の特に、SP開発、教員FD開発に参加◎事前実習のためのSP養成、◎IPEのためのSP養成、◎実技試験のためのSP養成、◎SPのためのシナリオ作成	
シミュレーション教育を担う教員 に対する Faculty Development	2022年10月		

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
模擬患者を実習シミュレーション運用 するための管理	共著	2019年3月	東京薬科大学研究紀要, (22): 49-54
東京薬科大学模擬患者研究会10年の歩 み	共著	2019年3月	東京薬科大学研究紀要, (22): 55-60
実務実習事前実習のカリキュラム配置 設計手法	共著	2020年3月	東京薬科大学研究紀要, (23): 47-50
模擬患者養成プログラムの組み立ての 実際とシナリオの構造化	共著	2020年3月	東京薬科大学研究紀要, (23): 51-54
東京薬科大学OSCE運用システムの構築 (1)～OSCE評価票システムの構築～	共著	2021年3月	東京薬科大学研究紀要, (24): 73-76
東京薬科大学OSCE運用システムの構築 (2)～OSCE放送システムの構築～	共著	2021年3月	東京薬科大学研究紀要, (24): 77-80
新型コロナ対策下の実務事前実習の運 用設計と室内二酸化炭素濃度を指標と した室内換気評価	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要, (24): 51-58
模擬患者(SP)の新型コロナ対策実習 の評価と参加意識の分析	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要, (24): 85-93
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学実務実習教育センター	職名 講師	氏名 増田 多加子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度～現在	実務実習事前実習 I (病棟での初回面談・服薬説明) で模擬患者を導入するアクティブラーニングを実施した。 実務実習事前実習 I (患者心理) で、SGD などによるアクティブラーニングを実施した。	
PBLT の工夫	2018 年度～現在	実習終了時の学生アンケート結果や、各実習でのアンケート結果を参考にして、症例の難易度を改善した。	
	2018 年度～現在	5 年次前期の実務実習前に実施 薬局・病院実習で扱う主な疾患に関する課題について、自ら調査し、プレゼンの後に質疑応答をすることで、医療者としての討議の重要性について知る	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018 年度～ 2021 年度 2022 年度	東京薬科大学事前実務テキスト上・下巻 (共著) 実務実習事前学習テキストブック (共著)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018 年	事前実務実習に導入したルーブリック評価から見た「共感」「傾聴」の到達率の低さの原因の探索	
第 138 年会 日本薬学会	2018 年	東京薬科大学における事前実務実習の「医療用麻薬を拒否する患者対応」のロールプレイに関する報告	
第 31 回 日本サイコオンコロジー学会総会	2019 年	東京薬科大学の実務実習事前実習における到達度から見る、学生同士のロールプレイ導入タイミングに関する報告	
第 51 回 日本医学教育学会大会 (2019)	2019 年	実務実習事前実習における「医療用麻薬を拒否する患者」のロールプレイで見えてきた「患者心理」に関する報告	
第 13 回 日本緩和医療薬学会年会 (2019)	2020 年	コミュニケーションスキル向上に与える効果を学生同士のロールプレイのタイミングから考える	
第 140 年会 日本薬学会 (2020)	2021 年	1 年生のゼミナール参加者を対象とした薬剤師業務の意識調査	
日本薬学教育学会 (2021)			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
該当なし			
II 研究活動			

1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）実務実習事前学習テキストブック	共著	2022年3月	京都廣川書店
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年～現在	日本緩和医療薬学会 社員		
2019年～現在	日本サイコオンコロジー学会 薬剤師教育検討小委員会		
2020年～現在	日本サイコオンコロジー学会 ピアサポート小委員会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学実実習教育センター	職名 助教	氏名 鯉沼 卓真
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
実務実習事前実習	2022年4月 ～現在	4年次の学生を対象に実施している。担当科目の実習を通じて、国家試験やCBTで問われる内容(薬物送達や添付文書など)を把握できるように処方内容を工夫している。WebClassを使用して資料や動画を掲載し教育効果を高める工夫も行っている。	
アドバンス英語	2022年4月 ～現在	卒業研究に関連し、なおかつ学生各自が関心のある論文を検索させている。科学論文の読み方、「流れ」を意識させるように実施している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
実務実習事前実習	2022年4月 ～現在	パワーポイントファイル及び動画を作成し資料として使用している。	
アドバンス英語	2022年4月 ～現在	和文で書かれた論文をもとにして、まずは論文の基本的な流れを意識するように行っている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年10月	「シミュレーション教育を担う教員に対する Faculty Development」に参加(予定)。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Methotrexate 投与関節リウマチ患者における生物学的製剤併用時の感染リスクに関する Propensity Score を用いた複数の疫学的方法の妥当性の検討	共著	2019年1月	薬剤疫学 26巻, 1号, 頁(27-40)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Methotrexate 投与関節リウマチ患者における生物学的製剤併用時の感染リスクに関する Propensity Score を用いた複数の疫学的方法の妥当性の検討	2022年7月	第24回 日本医薬品情報学会総会・学術大会
（仮）複数の疫学的方法の比較	2022年11月	第27回日本薬剤疫学会学術総会（予定）
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
・・・	日本薬剤疫学会会員	
・・・	日本医薬品情報学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授	氏名 三浦典子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～現在	講義では教科書のほかに配布プリントを作成し、学生の理解を深める工夫をした。 PBLT、ゼミナールでは、学生の発表の場を設け、コミュニケーション能力の醸成に努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・FD研修会への参加	～現在	大学主催のFD研修会に積極的に参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Crucial Role of NLRP3 Inflammasome in a Murine Model of Kawasaki Disease	共著	2019年12月	J Mol Cell Cardiol, 138, 185-196
Adipose Tissue-derived Stem Cells Suppress Coronary Arteritis of Kawasaki Disease in vivo	共著	2020年1月	Pediatr Int, 62(1), 14-21
Coronary Vasculitis Induced in Mice by the Cell Wall Mannoprotein of Candida krusei	共著	2020年5月	Biol Pharm Bull, 43(5), 848-858
CDCP1 on Dendritic Cells Contributes to the Development of a Model of Kawasaki Disease	共著	2021年6月	J Immunol, 206(12), 2819-2827
Recombinant Human Soluble Thrombomodulin Suppresses Arteritis in a Mouse Model of Kawasaki Disease	共著	2022年5月	J Vasc Res, 59(3), 176-188
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

2009年4月～現在	東京都女性薬剤師会副会長
2014年4月～現在	八王子市学校薬剤師
2016年4月～現在	日本女性薬剤師会理事
2019年4月～現在	八王子市立別所中学校学校運営協議会委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧		
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授 氏名 緒方 正裕
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		
総合演習 I (旧薬局試験方)	2013 年～現在	日本薬局方の通則、一般試験法などに関して練習問題を中心に講義・解説を行い、講義の最後に確認問題を解かせて提出させた。日本薬局方は、内容が多数の科目にわたるので関連性や必要性について講義し、知識の整理を行わせた。
総合演習 II	2019～現在	法制的管理薬の部分を担当し、法律だけではなく社会薬学的なことも講義に取り入れ薬物乱用について学生に考えてもらった。
総合薬学演習 I (旧アドバンス演習)	2013 年～現在	各講義担当者の講義翌日に確認テストを行い、正解率の悪い問題へのコメントなどフィードバックを行った。また、確認テストに実践問題を組み込み、基礎科目と実践との関連を学生に意識させた。自分の法制的講義では、麻薬などの違法薬物に関して、化学構造等を通じて衛生や有機との関係性についても講義を行い、科目間のつながりを学生に意識させた。
総合薬学演習 II	2013 年～現在	総合薬学演習 I 試験や外部模試の結果を鑑み、苦手科目や範囲を分析し、総合薬学演習 II の講義担当者のコーディネイト等を行い総合力の向上を行った。
薬学アップトゥデート (旧専門選択)	2019 年から現在	1 年から 5 年までの科目で学年全体が苦手としている科目と新しい内容の科目をピックアップし、講義のコーディネイト等を行った。また、演習問題を作成、解答後にコメント等のフィードバックを行った。
	2020 年から現在	上記の科目に関して、新型コロナウイルス感染症の対応を行った。具体的には、対面と対面の困難な学生に対して zoom で講義を行い、講義は録画を行った。録画は、一定期間学生が web 上で見られるようにし、講義資料やテスト関係も web 上にアップして繰り返し学習できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		
総合演習 I (旧薬局試験方)	2013 年～現在	オリジナルのテキスト、問題集の作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4 その他教育活動上特記すべき事項	2017 年～2020 年	日本薬局方担当者教員会議において、その年の薬剤師国家試験の局方関連問題 (分析、有機) について分析・解説講義を担当

教育関連の委員会活動	2013年～現在	国試対策委員会、総合薬学演習（卒試）実施委員会、総合演習実施委員会、CBT 実施委員会、既卒者支援委員会（国家試験対策）	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
学修者本位の教育実現に向けた学修データの統合・解析～WebClass の学年別利用状況の変化～	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要、25、19-26
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2013年4月～現在		日本薬局方担当者教員会議委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授	氏名 横島 智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月～ 現在	「電磁気学」では、様々な電磁気学の現象について説明しつつ、ベクトル解析が身につくように、演習問題と連動させながら講義を進めている。少人数教育であることから、参加者一人一人にあわせて指導している。	
	2011年4月～ 現在	「物理学」では、高校で物理を履修していない学生も想定して、本当に基礎の部分からスタートし、デモ実験やビデオなどで実際の物理現象を確認し実感してもらいながら、それがどのように物理的な概念や数式に結びつくかを様々な物理現象に対して示している。特に、エネルギーと波に力点を置いて、熱力学と量子力学の理解を目標として授業をおこなっている。また、理解の助けとなるよう、毎回の授業には小テストの問題を課題として与えている。これとは別に、学生のモチベーションを上げるため、薬学と物理の関係について随時取り上げている。	
	2015年4月～ 現在	「計算科学」では、量子科学計算と分子動力学計算について学生各自のノートパソコンに関係するソフトをインストールし、実際に薬の分子や生体分子などの状態を計算して、その結果をパワーポイントのスライドにまとめて、それを提出してもらっている。課題はコンピューターの初心者には比較的重いものになるが、自力では課題を実施することが難しい学生にはマンツーマンで指導することで、コンピューターを扱う能力をかなり向上させることが出来ている。随時、薬学と関係する話題を取り上げている。また、簡単なプログラミングの話も取り上げることで、コンピューターに使われてしまわない学生を育てることを目標としている。	
	2018年4月～ 現在	「基礎物理学集中講義」は「物理学」では不足しがちな問題の解答の解説を、物理学の問題を解くことに慣れていない学生を想定して、丁寧におこなっていくことで、物理に対する学生の理解を深めてもらうための教科である。物理の現象が、どのように文章であらわされ、それをどう読み解かなければいけないのか、それがどのように数式であらわされるのか、そして、物理の概念がそこでどのような役割を果たすのかを中心に少数の問題に時間をかけて教えている。	

2 作成した教科書、教材、参考書		「物理学」、「計算科学」、「基礎物理学集中講義」では講義用のパワーポイントスライドを作成し、WebClass にそのPDF を掲載して学生にダウンロードさせて使用している。また、「物理学」「基礎物理学集中講義」では、LaTeX で独自に作成した小テストの問題を PDF にして WebClass に掲載している。「計算科学」の場合には WebClass に作成したサンプルプログラムや量子科学計算、分子動力学計算をするためのファイルを WebClass に掲載している。「電磁気学」では LaTeX で作成したプリントと問題を PDF にして Moodle に掲載して使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)		入学前教育に携わっている。基礎学力強化検討委員会では初年次教育における問題点の解決にむけて活動している。また、新型コロナウイルスの初期対応において、遠隔教育 WG において Zoom 講義をおこなっていくための枠組みを共に作っていった。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Object Transportation System Mimicking the Cilia of Paramecium aurelia Making Use of the Light-Controllable Crystal Bending Behavior of a Photochromic Diarylethene	共著	2019年9月	Angew. Chem. Int. Ed. 58, 13308-13312.
(論文) Photoinduced swing of a diarylethene thin broad sword shaped crystal: a study on the detailed mechanism	共著	2020年10月	Chem. Sci. 11, 12307-12315.
(論文) Molecular crystalline capsules that release their contents by light	共著	2021年7月	Chem. Sci. 12, 11585-11592.
(論文) Determining Factor of the Quantum Yield of the Cyclization Reaction via Triplet States for Dye-Attached Diarylethene	共著	2021年7月	J. Phys. Chem. A 125, 5895-5902.
(論文) All-Visible (>500 nm)-Light-Induced Diarylethene Photochromism Based on Multiplicity Conversion via Intramolecular Energy Transfer.	共著	2022年8月	J. Phys. Chem. Lett. 13, 7429-7436.

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
(演題名) カチオン性白金錯体の非架橋型二量体の電子状態の解析	2022年9月	日本物理学会 2022年秋季大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2017年4月～2021年3月	日本物理学会代議員	
2019年4月～2020年3月	日本物理学会領域12副代表	
2020年4月～2021年3月	日本物理学会領域12代表	

教育および研究活動の業績一覧		
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 教授 氏名 黒田 明平
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		
「植物薬品学」(2年前期、必修)	2009年度～ 2022年度	生薬および薬用植物に興味を持ってもらえるよう、レジメを予め配布し授業を進めると共に、講義内で扱う生薬については、実物(生薬、薬用植物)を閲覧してもらい、記憶に定着するように工夫をした。
「漢方薬物学Ⅱ」(3年前期、選択)	2017年度～ 2022年度	臨床医である東海大学医学部・教授や漢方の基礎・臨床に造詣の深い東邦大学薬学部・教授に講義の一部を担当いただき、臨床における漢方治療の実践例を示すことで、学生に興味を持ってもらう工夫をした。
「臨床漢方薬物学」(4年前期、選択)	2022年度	漢方のカウンセリングを行っている薬局薬剤師に講義の一部を担当いただき、臨床における漢方治療の実践例を示すことで、学生に興味を持ってもらう工夫をした。
科別特論演習 医療衛生薬学演習 I-i, セルフメディケーション: 薬剤師の関わり方(4年前期、医療衛生薬学科)	2009年度～ 2022年度	ドラッグストアの薬剤師に講義の一部を担当いただき、一般用医薬品を用いたセルフメディケーションの提案例を示すことで、学生に興味を持ってもらう工夫をした。講義、店舗見学、SGD・発表・討議という一連の学習を実施している。(2020年度以降は、コロナ禍により店舗見学は実施していない)
2 作成した教科書、教材、参考書		
薬用食品の開発Ⅱ(普及版)―薬用・有用植物の機能性食品素材への応用―	2018年11月9日	第Ⅱ編 第8章 を執筆した。(シーエムシー出版)
薬学生のための漢方薬入門 第5版	2022年3月30日	第3章 漢方で使う主要生薬 を執筆した。(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		
教育関連の委員会活動	2015年4月～ 2022年3月	教務担当者連絡会(医療衛生薬学科教務担当副主任)、調査研究コース総括・運営委員会、実務実習評価委員会(いずれも2015年4月～)、国試対策委員会、卒試委員会、総合演習実施委員会、CBT実施委員会、既卒者支援委員会(国家試験対策)(いずれも2018年4月～)、遠隔教育推進検討WG(2020年4月～)、自己点検・評価内部質保証実施委員会(2022年4月～)に所属し、コロナ対応も含め、教育

		活動が円滑に進められるよう、活動した。	
共用試験 GBT モニター	2020年3月、 2021年3月、 2022年3月	共用試験 GBT のモニター員を務めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Novel Oleanane-Type Triterpene Glycosides from the <i>Saponaria officinalis</i> L. Seeds and Apoptosis-Inducing Activity via Mitochondria	共著	2022年2月	MDPI、International Journal of Molecular Sciences 23(4)
（論文） Cytotoxic triterpene and steroidal glycosides from the seeds of <i>Digitalis purpurea</i> and the synergistic cytotoxicity of steroidal glycosides and etoposide in SBC-3 cells	共著	2022年5月	Elsevier、Bioorganic Chemistry 122
（論文） Digipregnosides A-C, three novel rearranged 11,12-secopregnane glycosides, and digipregnosides D and E, 12,20-epoxypregnane glycosides from the seeds of <i>Digitalis purpurea</i>	共著	2021年4月	Elsevier、Tetrahedron Letters 70
（論文） Chemical constituents and aldose reductase inhibitory activities of <i>Betula alba</i> bark and leaves	共著	2020年10月	Taylor & Francis、Natural Product Research 36(4)
（論文） Steroidal glycosides from the bulbs of <i>Lilium speciosum</i>	共著	2020年6月	Elsevier、Phytochemistry Letters 37
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
漢方薬中の生薬成分に関する研究(12) ダイオウ配合漢方薬煎液および医療用漢方エキス製剤中のセンノシドA、Bの定量		2023年3月	日本薬学会第143年会
学修者本位の教育実現に向けた学修データの統合・解析～WebClassの学年別利用状況の変化～		2023年3月	日本薬学会第143年会
ゼロから始めるDX（デジタルトランスフォーメーション）のススメ ⑤薬学教育の現場から見たDX		2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年4月～現在	日本生薬学会編集委員会 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター —	職名 准教授	氏名 古石 裕治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～ 現在	「無機化学」においては、無機化合物・錯体などの生体内での役割に結び付けるよう図解や反応式を書き込んだ配布プリントを作成した。「総合演習—構造解析」NMR・IR・MSのデータ集を利用した図を作成し、構造解析の問題を多く作成、学生に理解を深めることのできるように工夫した。毎年、学生による授業評価受け、改善を行っており、ある程度は良い評価を受けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義で使用しているパワーポイント ファイル	2019年4月 ～現在	「無機化学」「総合演習—構造解析」の授業用スライドにおいて、空欄を設けた穴埋め形式のパワーポイントファイルを作成し、学生には配布プリントして配布した。毎年、授業評価の結果から内容の変更、改善を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、 講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 該当なし	単著	20XX年〇月	△△社
Synthesis of Chiral γ,γ - Disubstituted α -Butenolides via Direct Vinylogous Aldol Reaction of Substituted Furanone Derivatives with Aldehydes.	共著	2019年	Org. Lett 21 2606-2609
Organocatalytic Asymmetric Conjugate Addition of Substituted 5-Benzylfurfurals to Nitroalkenes Based on Stereocontrol of Trienamine.	共著	2019年	Tetrahedron 75 2431-2435
Stereoselective Conjugate Addition of Ketones to Alkylidene Malonates Using Thiourea-sulfonamide Organocatalyst	共著	2018年	Chirality 30 1215-1224

Cinchona- diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst for the highly Enantioselective Hydrophosphonylation of Ketones and Enones.	共著	2018 年	Org. Lett 20 5569–5572
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
該当なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携 わったもの数件）			
該当なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 准教授	氏名 片野 修一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～ 現在	「わかると面白い」「わかるとはどういうことか」ことを学生にわからせるための講義を一貫して続けている。学生の学力の実態を正確に把握するよう常に努めている。その結果を可能な限り授業に反映させるようにしている。 学びに対する本学学生の姿勢や基礎学力には非常に危機的なものがあり、そのことに対する注意喚起をしている。授業評価の自由記述欄には毎年3ページほどびっしり「わかり易い」「話が面白い」「興味深い」と書かれている。もともと数学は面白いのだから、それをありのまま伝えれば面白いに決まっているので、当然の反応だと思っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・WebClass 掲載の膨大な参考資料 ・根底から理解する 微分積分学入門 ・同 第2版 ・根底から理解する 統計学入門		2018年～現在 2018年4月 2022年1月 2022年	補助的な多数の資料(非常に多岐に渡る)を学生の電子学習媒体であるWebClassに掲載。質問に来た学生には、説明しながら書いた資料をそのまま渡している。 「なぜ」や「どうして」を徹底的に解説。薬学に合わせて指数・対数の高校とは違う立場からの復習の章や常微分方程式入門の章を置いた。 学生の実態を踏まえて内容の一部順序および記述を変更し、演習問題を充実させ、図も詳しくした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年4月～ 現在 2021年10月～ 現在	2021年度東京薬科大学教育改革推進事業「医療データサイエンス教育コース開発事業」の計画段階から助言する形で参加し、対象となるいくつかの講義を担当している。 講義「数学を巡る世界」「数学Ⅱ」に触発された10人の学生たちが2021年度に創部した数学同好会の顧問を務め、数学の立場から彼らが教養を深める活動を助けている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)根底から理解する 微分積分学入門	単著	2018年4月	ムイスリ出版株式会社
(著書)根底から理解する 微分積分学入門 第2版	単著	2022年1月	ムイスリ出版株式会社
(著書)根底から理解する統計学入門	単著	2022年出版予定	ムイスリ出版株式会社

「薬学部の教育制度改革が教育と研究に与えたインパクト——薬学教育6年制を検証する——」	研究分担者	2018年4月～ 2020年3月	科学研究費基盤研究C
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～現在	日本医科大学多摩永山病院治験（IRB）委員会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 講師	氏名 吉田 君成
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・学習相談の常時受け付け ・図解、映像の作成 ・練習問題と解説の作成 ・講義動画の公開 ・授業評価	2018年4月以前～現在 2018年4月以前～現在 2018年4月以前～現在 2020年4月～現在 2018年4月以前～現在	学生がいつでも質問できるようにメールでも受け付ける 授業内容を学生が理解しやすいように、教科書や参考書に無い図解や映像（要点集、教科書訂正一覧、用語集、Q&A等）を作成し、WebClass に追加資料として掲載し自学習を促した オリジナルの練習問題とその解説を WebClass に掲載し、学生がいつでも何度でも解答でき、解答解説を確認できるようにした 授業の動画を学生に限定して公開し、復習を促した 学生の授業アンケート内容を次年度の授業に反映した	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 該当なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Synthesis of 2-arylhydrazono-4-chloro-3-oxobutanoates existing as (E)/(Z)-hydrazone isomers in solution: Correlation between equilibrium constants and substituent constants	共著	2020年1月	Journal of Molecular Structure Volume 1199, 5 January 2020, 126960
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～2021年3月	薬学共用試験センター モニター担当		

2022年4月～現在

めじろ台二丁目町会会長

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名 教授	氏名 下枝 貞彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
専門薬剤師制度に興味のある1,2年次学生を対象とした「病院薬剤師・専門薬剤師の仕事」の一端を紹介する。ゼミナールの実施	2018年～2021年の毎年10月～12月	<p>血液疾患を中心とした悪性腫瘍の薬物療法に病院勤務薬剤師として長年携わり、大学教員になってからもがん専門薬剤師の資格を維持している強みを活かし、SGDのみから構成されるゼミナールを主宰した。</p> <p>本ゼミナールの履修を通じ、病院薬剤師の仕事の内容と、専門領域に特化する薬剤師の必要性が理解でき、今後のキャリアデザイン構築と学習意欲の向上につながるものとする。</p>	
1年生に対する献血事業の重要性を伝える講義「献血の話」の実施	2018年～2022年の毎年4月	<p>東京都血液センターの医師、武蔵野赤十字病院の輸血部長と臨床検査技師と共に、献血の重要性と献血に必要な検査、献血が必要となる疾患などについて解説を行う。</p> <p>本講義は単に献血事業の重要性を伝えるだけにとどまらず、献血事業を通じ医療従事者として醸成しなければならない倫理観や使命感を修学する機会とも位置付けている。すなわち、献血事業を通じ、命をつぐむことの重要性と薬学との関連性を学生自らが想起できるプログラムとなっている。</p>	
1年生に対する臨床現場に必要な薬剤師の資質に関する講義の実施	2018年～2022年の毎年4月	<p>薬剤師として臨床現場で活躍するために、1年生のうちからどのような点に着目し6年間修学していくべきなのかを伝える講義である。専門性の高い薬剤師が、臨床現場で医師と協働してのように治療にあたっているのかを具体的に解説し、臨床現場で活躍する薬剤師を目指す学生のキャリアデザイン構築に資する講義である。</p>	
2年生に対する総合系ゼミナール「介護施設でのボランティア体験を契機に「老い」について考えよう」の実施	2018年～2019年の毎年9月	<p>日本は、人類が未だかつて経験したことのない超高齢化社会を迎えようとしている。長寿健康は私達共通の願いではあるが、日本のような成熟した社会では様々な問題も生じている。たゆみなく成長を続けるグローバル経済市場において、今後日本がどのような成長戦略を選択すべきか考えるとき、超高齢化社会の存在を抜きに議論を進めることはできない。</p> <p>そこで本ゼミナールでは、介護施設でのボランティア体験を通じ、学生にも「老い」を身近に感じてもらいながら、医療従事者として将来、日本の超高齢化社会をどのように相互扶助していくべきなのか議論を深める。本ゼミナールでは3箇所の介護施設や病院を訪問し、ボランティア体験</p>	

		を通じて入所者の方々と交流する。ボランティア体験後は、学生が感じたことや、今後福祉の現場で求められる医療サービスとは何であるのか、SGD や演習を通じグループごとの考えを集約し、その結果を発表することで更に議論を深める実習と演習である。
3年生に対する疾病と薬物治療Ⅵと疾病と薬物治療Ⅶ講義の実施	2018年度～ 2022年年度の 毎年後期	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態、薬物治療に関する基本的事項を修得する。本講義は、造血器腫瘍および循環器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を習得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得するものである。
3年生に対する薬局・病院薬学講義の実施	2018年度～ 2022年年度の 毎年前期	<p>保険薬局薬剤師と病院薬局薬剤師は、患者の薬物療法に関する情報を相互に提供し、円滑な連携関係を構築することにより、不良安全の確保に資することが求められている。医療機関の中で行われている薬に関する患者サービスが、分業によって地域に広がった場合でも同じサービスを受けられるようにしなければならない。そのためには、保険薬局薬剤師と病院薬局薬剤師が共通の認識を持ち、調剤と情報提供が行う必要がある。</p> <p>そこで本講では、保険薬局薬剤師と病院薬局薬剤師の役割を学ぶことを通じて、いわゆる薬業連携で薬剤師が相互にその職能を果たすことができる環境を作るための基礎的知識を身につけることを目的とした講義が展開される。</p>
6年生に対するがん薬物療法特別補講講義の実施	2018年度～ 2022年年度の 毎年12月	疾病と薬物治療の一環として6年生後期に実施するがん薬物療法に関わる総まとめの講義である。実臨床で即応用できることを念頭に、臨床的に重要だと思われる箇所を絞り、最新の薬物治療について講義を行っている。特に本講義は、年末に開催されるがん専門薬剤師集中教育講座の内容を参考にしながら、最新かつ最重要項目について解説を行っている。
5年生に対するチーム医療に貢献する高度がん専門薬剤師を指向した実践型PBLTの実施	2018年度～ 2022年年度の 毎年2月	<p>本PBLTは、高度専門薬剤師になるための基礎力と思考パターンを身につけることを目標に以下の内容を行う。</p> <p>①がん治療に伴う Medikation エラーの軽減を目的とした医薬品の包装や形態について議論し、模擬医薬品の表示ラベルを作成する</p> <p>②患者の訴えや病態に応じた特殊製剤の適用を議論し、院内製剤として調製する。</p> <p>③コンプライアンスの低下を回避し治療効果を高める方策を議論し、実行する。</p> <p>④がん化学療法を安全確実に施行するための方策や技術</p>

		<p>について議論し、薬剤師に求められる注射薬調剤の基本的な手技を習得する</p> <p>⑤実症例を基に、高度がん専門薬剤師の視点から、がん患者に対する薬学的アプローチを議論しその具体策を提示する。</p>
4年生に対する科別演習セルフメディケーションの実施	2018年度～2022年年度の毎年7月	<p>保険薬局・ドラッグストアへの就職を希望する学生が多い中、当該施設において薬剤師がどのような積極的役割を果たすべきかについて考えることで、自らのキャリアデザインを構築できるよう工夫しながら講義を行っている。特に映像資料や新聞記事などを用い、最近話題となった関連事項にスポットを当て、学生自らその内容について考えを述べられるようなカリキュラム構成となっている。</p>
1年生に対するリーダーシップ論講義の実施	2018年度～2022年年度の毎年4月～7月	<p>教育年限の延長と共に本学でも臨床現場で活躍することを念頭に入学し、薬剤師免許取得後は、保険薬局や病院への就職を希望する学生が増え、薬学におけるキャリアデザインが狭小化している。もちろん就職先を大学入学当初からある程度絞り込み、その目標に向かって勉学に励む姿を否定することはできない。その一方で、キャリアデザインが狭小化し、学生自らの興味が医療分野以外に向けられなくなることで弊害の生じる可能性も危惧される。世界の動向や産業構造の変化によって、今後日本の社会がどこへ向かおうとしているのかを知らずして、あるべき福祉や医療の未来を語ることはできない。</p> <p>そこで、薬学生が医療分野に特化した職域だけに興味を持つのではなく、医療分野以外の多岐に亘る職域で活躍されている業界のトップリーダーからリーダーシップ論を聞くことによって、自らが目指す職業をより広義に捉え将来の目標として考える力を養成することを目的に、「リーダーシップ論」の講義が開講した。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		
<p>ケーススタディ 薬局病院薬学</p> <p>序章 保険薬局・病院薬局の概要 II</p> <p>病院薬局業務の概要 15～25</p> <p>第4章 経口抗がん剤-病院から薬局へ - 71～81</p> <p>第9章 災害への医療支援 139～153</p> <p>第11章 学校薬剤師 175～184</p> <p>東京、京都廣川</p>	2019年3月16日	<p>「地域包括ケア」という新たな医療制度の枠組みを合言葉に、保険薬局と病院薬局がタッグを組んで、健康寿命の延伸に貢献することが求められている。保険薬局と病院薬局が連携することの重要性は以前から何度も繰り返し言われてきたが、具体的にどのような分野で相互の得意分野を活かすことで連携が可能となるのか、その具体的な方法が見つからないこともしばしば経験してきた。また、地域包括ケアの枠組みの中でも、保険薬局はかかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師として様々な役割が期待されており、医薬分業制度の中で患者を中心に据えその他の医療機関との連携を今以上に強化し、患者情報を共有することで効率</p>

		<p>的に活用していくことが必要とされている。</p> <p>しかし、中には今でも、保険薬局では受け取った処方せんを早く正確に調剤してくれればそれだけで十分で、それ以上のことは特に望んでいない患者も存在している。したがって薬剤師自身が自分たちの言葉で、なぜかかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師が安心安全な薬物治療を受ける上で必要なのか、明確に説明していく必要がある。</p> <p>そこで本書は、保険薬局や病院薬局で長きにわたり勤務経験のある教員や現役薬剤師が中心となり、保険薬局と病院薬局がそれぞれどのような観点から独自の薬剤師業務を遂行し、どのような分野で連携が可能となるのか、わかりやすく解説することに努めた。特に本書は具体的事例にこだわり、執筆者自らの経験を紙面上で再現し、時間軸でその後の経過を示しながらキーワードに解説を加えることとした。したがって、本書は地域包括ケアの枠組みにおいて薬剤師が現在提供しているファーマシューティカルケアの内容を学ぶ必要がある薬学生ばかりでなく、新たな薬剤師業務の創生を目指す若手薬剤師にとっても活用可能な構成となっている。</p>
<p>がん薬物治療学 悪性腫瘍、薬物治療の理論と実際 第2版</p> <p>第7章 悪性腫瘍の臨床と薬の使い方 127～223</p> <p>第8章 臨床での抗悪性腫瘍薬の副作用と支持療法 225～244</p> <p>第9章 がん終末期医療と緩和ケア 245～273</p> <p>付録 主な薬剤一覧表 275～298</p> <p>東京、京都廣川</p>	<p>2020年3月16日</p>	<p>薬学教育モデル・コアカリキュラムのうち薬物治療に関しては、全ての実習生がどの実習施設でも標準的な疾患について広く学ぶことを目的として、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症が「代表的な疾患」として提示されている。さらにこの薬学教育モデル・コアカリキュラムの中で、臓器別がんの病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を具体的に説明できることが求められているのは、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性リンパ性白血病、成人T細胞性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨肉腫、胃がん、食道がん、肝がん、大腸がん、胆嚢・胆管がん、膵がん、肺がん、頸部および感覚器の悪性腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍、前立腺がん、子宮がん、卵巣がん、腎がん、膀胱がん、乳がん等多岐にわたる。</p> <p>しかし、これらの臓器別がん全てを実習生が限られた実習期間内で網羅的に学ぶことは難しく、領域を絞り学んでいく必要がある。そこで本章ではいわゆる5大がんといわれている、肺がん、乳がん、胃がん、結腸・直腸がん、肝細胞がんとともに、薬剤師国家試験での出題が目立つ、食道がん、膵臓がん、子宮がん、卵巣がん、前立腺がん、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を加え解説している。</p>

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
<p> Medikation Error 軽減を目的とした医薬品包装への理解を深める実践型 PBLT (Problem Based Learning Tutorial) における教育効果. 2018 東京国際包装展医薬品包装コミュニティゾーン,</p>	<p>2018, 10, 4 (東京)</p>	<p>本学では実務実習が終了した薬学部 5 年次生を対象に、がん指導薬剤師の教員がチーム医療に貢献する高度がん専門薬剤師を指向した実践型 PBLT を実施している。本 PBLT では、様々なテーマを取り上げ徹底した SGD を行っている。その SGD の中に、 Medikation Error の軽減を目的とした医薬品の包装や形態について議論するセッションがある。</p> <p>一方我々の教室では、配属学生が 5 年次に実務実習を行う際、薬学生の立場から改善が必要と考えられる医薬品包装について、現物を写真に収め実習終了後報告するよう促してきた。</p> <p>そこで、薬学部 5 年生と共に行った本 PBLT での議論や、実務実習中に学生の視点から改善が必要だと感じた医薬品包装に関する報告事項を中心に、薬学生が考える望ましい医薬品包装形態とは何であるのかを提示する。同時に、 Medikation Error を回避する上で医薬品の包装形態がいかに重要であるかという点を踏まえた臨床教育を取り入れていくことに、どのような意義があるかを提示した。</p>
<p>イリノイ大学シカゴ校 (UIC) における短期臨床薬学研修プログラムの概要と参加報告. 第 3 回日本ヘルスケア学会年次大会</p>	<p>2019, 9, 6 (東京)</p>	<p>2019 年に米国イリノイ大学シカゴ校 (以下, UIC) 薬学部との間に学術交流に関する提携を新たに結んだ。これを契機に、UIC が毎年 7 月に開催している International Summer Program へ参加者し、次年度以降学生を派遣する予定とした。</p> <p>本プログラムは、米国の臨床薬学教育の中でも定評ある UIC 薬学部が、各国の薬学生や現役薬剤師などを対象として、2013 年に創設した 4 週間の短期臨床薬学研修コースである。講師陣は UIC の附属病院や附属薬局、外来診療部門で臨床業務に就きながら教鞭をとる実務系教員で、薬学部や PharmD コースの学生教育のほか、臨床部門のレジデント (PharmD 後期研修生) 教育も担っている。</p> <p>まず、米国における臨床薬学の展開や UIC の組織体制についての導入教育があり、次に患者の情報収集と SOAP の書き方や臨床論文の解釈、以降は疾病各論といった構成になっている。各講義は前半がレクチャー中心、後半がより実践的な Case Study や臨床状況を想定したディスカッション、模擬演習等に当てられている。当然、米国のガイドラインに準拠しており、保険医療制度の違いもあるため、我が国の医療現場にそのまま適用できない部分もあるが、現場の臨場感が直に伝わってくる講義は、米国の臨床薬剤師が受けてきた教育手法を知るには十分な内容となって</p>

		いる。以上より本プログラムは、薬学生が幅広く米国臨床薬学の概要を効率よく学ぶには最適のプログラムである。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
武蔵野赤十字病院における臨地実務	2018年4月～ 2022年3月	<p>自らが有するがん専門薬剤師の資格を維持するためには、臨床現場との接点を持ち続ける必要がある。そこで週一回武蔵野赤十字病院薬剤部へ出向し、血液内科並びに腫瘍内科に入院している患者の薬物療法に関する情報を電子カルテより収集し、医局カンファレンスに出席し薬学的見地からその症例に対して必要な薬物治療の提言等を行っている。</p> <p>その際には、定員2名を上限に大学院生もしくは学部生を同伴し、実際にがん専門薬剤師の視点からどのように症例と対峙するべきなのかについて実践的教育を行っている。また学部生の薬物治療学に対する教育に活用したり、ゼミナール開催地における症例検討用の素材として活用したりしている。</p> <p>さらにこれらの活動を通じて、臨地の医師・薬剤師と協働して臨床研究を実施し、その内容について国際学会を含めた内外の学会で発表を行うとともに英語論文にし、博士過程大学院生の学位論文などに発展させている。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Evaluating the effect of aromatherapy on a stress marker in healthy subjects.	共著	2019年8月	J Pharm Health Care Sci.14;5:18. doi: 10.1186/s40780-019-0148-0.
Efficacy of Ginseng-content Chinese Medicine for Anthracycline-induced Cardiotoxicity. (A Meta-analysis Compatible with PRISMA)	共著	2019年9月	Pharmacometrics. 97. 67-73
Effects of Supplement (γ -aminobutyric acid (GABA)) Administration, Aromatherapy, and Mindfulness Meditation as Complementary and Alternative Medicine on the Salivary Oxytocin Concentration in Healthy Individuals	共著	2020年12月	Pharmacometrics. 99. 109-114
Effects of Short-Term Aromatherapy on Nrf2 Expression in Peripheral	共著	2020年12月	Pharmacometrics. 99. 115-121

Blood Mononuclear Cells			
Prescription of fall risk-increasing drugs and evaluation of medical safety campaigns on fall prevention	共著	2021年12月	Pharmacometrics. 101. 69-76
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Nrf2による非ホジキンリンパ腫患者の治療抵抗性予測因子への臨床応用に関する研究		2022年5月8日	第14回日本がん薬剤学会学術大会
がん化学療法に伴うストレス緩和を指向したロボット介在療法が及ぼす長期的なストレス緩和効果の検討		2022年5月8日	第14回日本がん薬剤学会学術大会
薬剤師の意識調査に基づく医療現場が必要とする再生医療等製品の添付文書情報に関する研究		2022年5月8日	第14回日本がん薬剤学会学術大会
補完代替療法への応用を指向したロボットのストレス緩和効果に関する基礎的研究		2022年5月13日	第15回日本緩和医療薬学会
PARO [®] を用いたロボット介在療法のストレス緩和効果に関する基礎的研究～動物介在療法における諸問題克服を目指して～		2022年5月13日	第15回日本緩和医療薬学会
ドキシソルピシン誘発心筋症モデルマウスを用いた紅参抽出物の経口投与による有用性の検討		2022年9月17日	第5回日本腫瘍循環器学会学術集会
Effect of Serum Erythropoietin Concentration on Chemotherapy Induced Peripheral		2022年9月23日	第32回日本医療薬学会 International session
Basic Research for the Practice of Reverse Translational Research in Doxorubicin-induced Cardiomyopathy		2022年9月23日	第32回日本医療薬学会 International session
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～現在	文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」学内主担当教授		
2018年4月～現在	日本医療医薬学会 評議委員		
2018年4月～現在	日本緩和医療薬学会 評議委員		
2018年4月～現在	独立行政法人労働者健康安全機構 業績評価委員会医学研究評価部会専門委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名 准教授	氏名 平田 尚人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1 年生 臨床現場に必要な薬剤師の資質に関する講義の実施		2018年4月 ～2022年4月	病院薬剤師出身の教員が薬学部1年の新入学期に臨床現場で活躍する薬剤師としての心構えや、今後6年間修学する上で、必要な知識・技能・態度をどのように習得していくべきなのかを伝える講演形式の講義である。
1 年生 人間と薬学Ⅱ (救急救命・応急処置講習)		2018年9月～ 2022年12月	BLS-AED, 出血および外傷・熱傷への対応, 窒息・アナフィラキシーへの対応等 講習では心肺蘇生 (BLS-AED) のみならず、外傷や熱傷、大量出血、アナフィラキシーショックなどへの初期対応を網羅的に学び、実習で体得させ、医療従事者を志す学生に対し、ファーストレスポnderとして十分な知識と技術の習得させることを一番の目的としている。加えて、まだ薬学を学び始めたばかりの1年生に対して、医療従事者としての自覚をもたせる態度教育としての位置づけと意欲的に薬学を学び続けるためのモチベーションの向上という副次効果も期待している。実際の手技指導では、専門職連携教育 (IPE; Interprofessional Education) の一環として、国士舘大学体育学部救急医学科の教員 (救急救命士) を客員講師に招き、そのご協力のもとで実施しているが、本学教員も講義と実習に同席のうえ、手技指導の補助的な役割を果たしつつ、技能や態度に対する評価を行っている。
1 年生 災害医療ゼミナール		2018年11月～ 2022年12月	トリアージ・多数傷病者受け入れ訓練・被災地支援活動・避難所アセスメント・感染症パンデミック対応 (ワクチン接種手技) 災害時に次々と生じうる問題点を議論することに重点を置き、解決に導く幅広い視野と実践能力を身につけることを目的とし、1年生のうちから自ら体験させて考えさせることを目的としている。 発災後の時系列にしたがい、様々な場所での災害対応を連日演習する。ゼミナールの終盤には IPE を取り入れた演習を計画し、感染症パンデミックのような危機的状況で医療従事者をいかに再配分して有効利用するのか、現行法にとらわれず、ワクチンに擬えたバイアル品の溶解希釈操作、シリンジへの充填を体験させた。看護学部の教員 (看護師) にご協力いただき、練習用の模型を用いた筋注等の注射手技、その前後におけるアナムネ聴取や経過観察 (アナフィ

		ラキシー反応の観察と評価)を含めて体験させ、一連の流れと医療従事者として果たすべき薬剤師の役割は何かを考えるきっかけとした。
2年生 総合系ゼミナール「介護施設でのボランティア体験を契機に「老い」について考えよう」	2018年～2019年 の毎年9月	療養型医療施設でのボランティアゼミナール通じ、学生にも「老い」を身近に感じてもらいながら、医療従事者として将来、日本の超高齢化社会をどのように相互扶助していくべきなのか議論を深める。ボランティア体験後は、学生が感じたことや、今後福祉の現場で求められる医療サービスとは何であるのか、SGDや演習を通じグループごとの考えを集約し、その結果を発表することで更に議論を深める実習と演習である。
4年生 科別演習(セルフメディケーション)	2018年6月～ 2022年6月	トリアージ・多数傷病者受け入れ机上訓練 災害時に薬剤師は医療従事者として何ができ、平時からどんな準備が必要なのかをグループワークやロールプレイ演習を通して模擬体験し、発災後の時系列を追いながら各フェーズでの災害対応をディスカッションできるような構成になっている。
5年生 問題解決型学習(PBLチュートリアル: 災害医療)	2019年2月～ 2023年2月	トリアージ・感染症パンデミック対応 災害・救急医療の演習を2日間に渡って経験させる枠を設け、COVID-19のパンデミック対策の演習にあてた。ここでは、汚染区域(レッドゾーン)に入るための個人防護具(PPE)の着衣方法、レッドゾーン内で活動するための注意点等を説明し、さらにイエローゾーンでのPPEの脱衣についても体験させた。この時、PPEやグローブの外側に汚染に見立てて水性マジックで塗りつけ、どうすれば汚染物を皮膚につけないように脱衣できるのかを考えながら実施させた。この際、仮に手が汚染された場合でも、手順ごとにアルコールによる手指消毒を必ず実施することで感染リスクを十分に下げることができる旨を説明している。 さらに、医療関連施設内でのクラスターの発生を想定し、実例をもとに適切なゾーニングや感染対策の具体的な方法について検討させ、感染制御の理論から実践までをディスカッションさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
講義配付資料	2018年4月～ 2023年3月	すべての講義において、オリジナルの講義資料を作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
実務実習における教育連携 ～実習生を受ける側から送り出す立場 になって感じたこと～	2021年8月28 日	日本病院薬剤師会関東ブロック第51回学術大会(Web開催) シンポジウム13

東京薬科大学における 災害医療薬学 教育の現状と課題 ～災害医療に関する学生のニーズをい かに大学教育へ反映させるか～	2021年8月21 日	第6回日本薬学教育学会 シンポジウム3 (Web開催)
災害医療と薬剤師の役割 災害時に増える循環器系疾患・血栓塞 栓症とその対策	2019年10月8 日	八王子薬剤師会 スキルアップセミナー
循環器疾患の薬物治療と災害医療にお ける薬剤師の役割	2019年6月2 日	2019年度 東京薬科大学卒後教育講座 (第273回)
循環器系疾患の治療や災害時医療で重 要な薬の話 ～災害でも増える循環器疾患と薬物治 療～	2019年4月20 日	2019年度 八王子市民大学 いちよう塾 市民公開講座
薬学から見た循環器疾患治療薬のポイ ント (循環器系疾患で使われる薬につい て)	2018年12月9 日	第4回 CV-NET (Cardio Vascular Network) 信州
循環器領域の薬物治療と病棟薬剤師の 役割 ～患者さん自らが進んで薬物治療に参 加するために～	2017年11月	長野県薬剤師会病診部会 南信支部薬剤業務研究会
薬剤師が考える抗血栓薬の薬剤管理	2017年7月28 日	北信薬剤師会 中高地区生涯学習会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
関東調整機構・東京都薬剤師会 2021年度第10回認定実務実習指導薬 剤師養成WS	2022年1月9 日 - 2022年1 月10日	タスクフォース
関東調整機構・東京都薬剤師会 質の高い実務実習を維持するためのア ドバンストWS	2020年11月29 日	タスクフォース
関東調整機構・東京都薬剤師会 2019年度第9回認定実務実習指導薬剤 師養成WS	2019年11月22 日 - 2019年11 月23日	タスクフォース
日本災害医学会 第1回栃木災害薬事研修 (PhDLS) プロ バイダーコース	2019年11月10 日	タスクフォース
日本災害医学会 第2回神奈川災害薬事研修 (PhDLS) プ ロバイダーコース	2019年10月26 日	タスクフォース

関東調整機構・東京都薬剤師会 2019年度第8回認定実務実習指導薬剤師養成WS	2019年9月21日 - 2019年9月22日	タスクフォース	
日本災害医学会 第4回東京災害薬事研修(PhDLS)プロバイダーコース	2019年6月9日	タスクフォース	
厚生労働省 平成30年度第10回 日本DMAT隊員養成研修	2019年2月25日 - 2019年2月27日	タスクフォース	
関東調整機構・長野県薬剤師会 2017年度長野県認定実務実習指導薬剤師養成WS	2017年11月24日 - 2017年11月26日	タスクフォース	
関東調整機構・長野県薬剤師会 2017年度長野県認定実務実習指導薬剤師アドバンスドWS	2017年8月19日 - 2017年8月20日	タスクフォース	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
東京薬科大学における災害医療薬学教育の現状と課題 ～災害医療に関する学生のニーズをいかに大学教育へ反映させるか～	単著	2022年 (in press)	薬学教育 第6巻
新型コロナウイルス感染症 クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス対応活動報告-2	共著	2022年6月	社会薬学 41(1) 82-87
末梢血単核細胞におけるNrf2発現に対する短期アロマセラピーの効果 (Effects of Short-Term Aromatherapy on Nrf2 Expression in Peripheral Blood Mononuclear Cells)	共著	2021年1月	応用薬理 99(5-6) 115-121
アントラサイクリン誘発性心毒性に対する朝鮮人参含有漢方薬の有効性 PRISMAを用いたメタアナリシス (Efficacy of Ginseng-Content Chinese Medicine for Anthracycline-Induced Cardiotoxicity(A Meta-Analysis Compatible with PRISMA))	共著	2019年11月	応用薬理 97(3-4) 67-73
Evaluating the effect of aromatherapy on a stress marker in healthy subjects	共著	2019年8月	JOURNAL OF PHARMACEUTICAL HEALTH CARE AND SCIENCES 5(1)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(災害医療関連-1・演題未定)		2023年3月(予)	第28回日本災害医学会総会・学術集

	定)	会
(災害医療関連-2・演題未定)	2023年3月(予定)	第28回日本災害医学会総会・学術集会
シンポジウム：心リハスタッフがこれだけは知っておきたい薬の知識 Ver.4 ～心不全～ がんの治療により増える心血管病に備える(腫瘍循環器という領域とチーム医療)	2022年6月11日	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
COVID-19 パンデミック以降に生じた医薬品供給の問題点と今後の課題	2022年5月26日	第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会
Efficacy of ginseng extract in oral administration to doxorubicin-induced cardiomyopathy model mouse	2022年2月	The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy (ACCP in Nagoya)
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2022年1月30日 - 現在	東京都南多摩保健所 新型コロナウイルス感染症対策業務支援(南多摩災害医療ワーキンググループ・東京薬科大学・日本体育大学)	
2020年2月23日 - 2020年2月26日	厚生労働省 ダイヤモンド・プリンセス号 新型コロナウイルス感染症 神奈川県庁現地対策本部 DMAT 事務局支援(日本 DMAT ロジスティックチームとしての災害派遣)	
2019年6月～現在	(一社)東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員	
2006年7月 - 2018年8月	長野県薬草指導員(薬草観察会講師)	
2017年12月9日	平成29年度 JR 長野駅多数傷病者事故対応訓練(長野市消防局・DMAT・JR 東日本合同訓練)	
2017年11月1日	長野市医師会 災害医療研修会(タスク・講師)	
2017年10月8日 - 2017年10月9日	厚生労働省 2017年度 中部ブロック DMAT 実動訓練	
2017年9月24日	平成29年度 JA 長野厚生連 北信総合病院多数傷病者対応訓練	
2017年5月30日	長野市医師会災害医療委員会招聘 (救護用医薬品・医療材料選定アドバイザー)	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 臨床薬剤学教室	職名 助教	氏名 畔蒜 祐一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
ゼミナール(1年生) 「病院薬剤師の仕事について考えよう」	2021年～	<p>病院薬剤師として血液疾患を中心とした悪性腫瘍の薬物療法に長年携わった経験を活かし、大学教員になってからSGDのみから構成されるゼミナールを主宰した。</p> <p>本ゼミナールの履修を通じ、病院薬剤師の仕事の内容と、専門領域に特化する薬剤師の必要性が理解でき、今後のキャリアデザイン構築と学習意欲の向上につながるものとする。</p>	
講義(1年生) 「臨床現場で必要な薬剤師の資質」	2021年～	<p>薬剤師として臨床現場で活躍するために、1年生のうちからどのような点に着目し6年間修学していくべきなのかを伝える講義である。専門性の高い薬剤師が、臨床現場で医師と協働してのように治療にあたっているのかを具体的に解説し、臨床現場で活躍する薬剤師を目指す学生のキャリアデザイン構築に資する講義である。</p>	
講義(2年生) 「疾病と薬物治療Ⅰ」	2021年～	<p>疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの的確な患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識を修得する。本講義では、病態を理解する上で必要な臨床検査の知識および血液・造血器疾患に関して病態生理、臨床症状、検査・診断、治療、患者説明の知識を修得する。</p>	
講義(3年生) 「疾病と薬物治療Ⅵ」	2020年～	<p>患者情報に応じた薬の選択、用法・用量設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態、薬物治療に関する基本的事項を修得する。本講義は、造血器腫瘍および循環器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を習得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。</p>	
実習(4年生) 「実務実習事前学習Ⅱ」	2020年～	<p>5年次の病院実務実習・薬局実務実習に先立って、前期に行った実務実習事前学習Ⅰ(事前実務実習)の効果を高めるために、修得した知識と技能・態度を駆使して患者・来局者対応から処方監査、薬剤調製、調剤薬鑑査、薬剤交付と情報の提供、服薬指導管理までの調剤全般を円滑に遂</p>	

		行できる能力と態度を身につける。また、TDM や処方解析、チーム医療、地域医療での薬剤師の役割等これからの薬剤師職務に関する知識・態度を総合的に修得する。
演習 (4 年生) 「セルフメディケーション」	2020 年～	患者意思決定プロセスにおける薬剤師の役割 生活習慣病に係る医療費が財政に大きな負担を与えている背景から、国では「21 世紀における国民健康づくり運動 (健康日本 21) を策定し、国民自らが健康増進に努め、こうした病を予防しようとする考え、すなわち「セルフメディケーション」を推進している。本演習では、漢方や芳香精油、保健機能を有する食品、健康状態を知るための分析技術、OTC 薬などの視点から「セルフメディケーション」への薬剤師の関わり方について知識・技能を修得する。
講義 (5 年生) 「プライマリケアⅡ」	2020 年～	超高齢者を迎えようとしている日本において、医療費の削減と健康寿命の延伸は喫緊の課題である。地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献するためには、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に薬剤師が参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上につながることの重要性が認識されている。 そこで本講義では、受講者が将来、適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得することで、地域の保健、医療、福祉に関する現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための保険薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。
演習 (5 年生) 「チーム医療に貢献する高度がん専門薬剤師を指向した実践型 PBLT」	2020 年～	本 PBLT は、高度専門薬剤師になるための基礎力と思考パターンを身につけることを目標に以下の内容を行う。 ①がん治療に伴う Medikation エラーの軽減を目的とした医薬品の包装や形態について議論し、模擬医薬品の表示ラベルを作成する ②患者の訴えや病態に応じた特殊製剤の適用を議論し、院内製剤として調製する。 ③コンプライアンスの低下を回避し治療効果を高める方策を議論し、実行する。 ④がん化学療法を安全確実に施行するための方策や技術について議論し、薬剤師に求められる注射薬調剤の基本的な手技を習得する ⑤実症例を基に、高度がん専門薬剤師の視点から、がん患者に対する薬学的アプローチを議論しその具体策を提示する。

<p>講義 (5年生)</p> <p>「専門薬剤師総論」</p>	<p>2020年～</p>	<p>臨床現場に関わる薬剤師は、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、正確な患者情報の収集を基本とし、病状を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に応じた薬物療法を提案・実施・再検証できる能力が求められる。さらに近年では医療チームの一員として、特に薬剤師は、医薬品のリスク回避を目的に、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関しても精通することが求められている。</p> <p>そこで本講義では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定、医薬品情報・安全性ならびに治療ガイドラインを考慮した適正な薬物療法を提示するために、患者情報を解析し、具体的症例を交えながら最適な薬物治療を実践するための薬学的アプローチを伝授する。</p> <p>本講義は、その基礎となる薬学的アプローチの考え方を理解し、専門領域に特化するための準備学習となる。</p>
<p>講義 (5年生)</p> <p>「専門薬剤師特論Ⅰ」</p>	<p>2020年～</p>	<p>臨床現場に関わる薬剤師は、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、正確な患者情報の収集を基本とし、病状を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に応じた薬物療法を提案・実施・再検証できる能力が求められる。さらに近年では医療チームの一員として、特に薬剤師は、医薬品のリスク回避を目的に、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関しても精通することが求められている。</p> <p>そこで本講義では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定、医薬品情報・安全性ならびに治療ガイドラインを考慮した適正な薬物療法を提示するために、患者情報を解析し、具体的症例を交えながら最適な薬物治療を実践するための薬学的アプローチを伝授する。</p> <p>本講義は、実際に病院薬剤師が臨床現場でどのような視点から薬学的アプローチを行っているのか、その一端を修得することができる。</p>
<p>講義 (6年生)</p> <p>「専門薬剤師特論Ⅱ」</p>	<p>2020年～</p>	<p>臨床現場に関わる薬剤師は、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、正確な患者情報の収集を基本とし、病状を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に応じた薬物療法を提案・実施・再検証できる能力が求められる。さらに近年では医療チームの一員として、特に薬剤師は、医薬品のリスク回避を目的に、有害事象(副作用、相互作用)、薬害、薬物乱用に関しても精通することが求められている。</p> <p>そこで本講義では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定、医薬品情報・安全性ならびに治療ガイドラインを考慮した適正な薬物療法を提示するために、患者情報を解析し、具体的症例を交えながら最適な薬物治療を実践</p>

		<p>するための薬学的アプローチを伝授する。特に本講義は対象が実務実習を終了した6年生であることから、病院薬学的視点からの実践的な薬学的アプローチの手法について解説する。</p> <p>本講義は、実際に病院薬剤師が臨床現場でどのような視点から薬学的アプローチを行っているのか、その一端を修得することができる。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		
講義資料	2020年～	<p>「病院薬剤師の仕事について考えよう」</p> <p>「臨床現場で必要な薬剤師の資質」</p> <p>「疾病と薬物治療Ⅰ」</p> <p>「疾病と薬物治療Ⅵ」</p> <p>「セルフメディケーション」</p> <p>「プライマリケアⅡ」</p> <p>「チーム医療に貢献する高度がん専門薬剤師を指向した実践型 PBLT」</p> <p>「専門薬剤師総論」</p> <p>「専門薬剤師特論Ⅰ」</p> <p>「専門薬剤師特論Ⅱ」</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
イリノイ大学シカゴ校 (UIC) における短期臨床薬学研修プログラムの概要と参加報告. 第3回日本ヘルスケア学会年次大会	2019, 9, 6 (東京)	<p>2019年に米国イリノイ大学シカゴ校(以下, UIC)薬学部との間に学術交流に関する提携を新たに結んだ。これを契機に, UICが毎年7月に開催している International Summer Programへ参加者し、次年度以降学生を派遣する予定とした。</p> <p>本プログラムは、米国の臨床薬学教育の中でも定評あるUIC薬学部が、各国の薬学生や現役薬剤師などを対象として、2013年に創設した4週間の短期臨床薬学研修コースである。講師陣はUICの附属病院や附属薬局、外来診療部門で臨床業務に就きながら教鞭をとる実務系教員で、薬学部や PharmD コースの学生教育のほか、臨床部門のレジデント (PharmD 後期研修生) 教育も担っている。</p> <p>まず、米国における臨床薬学の展開やUICの組織体制についての導入教育があり、次に患者の情報収集と SOAP の書き方や臨床論文の解釈、以降は疾病各論といった構成になっている。各講義は前半がレクチャー中心、後半がより実践的な Case Study や臨床状況を想定したディスカッション、模擬演習等に当てられている。当然、米国のガイドラインに準拠しており、保険医療制度の違いもあるため、我が国の医療現場にそのまま適用できない部分もあるが、</p>

		現場の臨場感が直に伝わってくる講義は、米国の臨床薬剤師が受けてきた教育手法を知るには十分な内容となっている。以上より本プログラムは、薬学生が幅広く米国臨床薬学の概要を効率よく学ぶには最適のプログラムである。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
杏林大学医学部付属病院における臨地 実務	2021年12月～	実務家教員として学生に対して常に臨床における最新の知見を伝える為、週一回杏林大学医学部付属薬剤部へ出向し、病院薬剤師業務を行っている。	
薬学共用試験 OSCE 実施委員会	2020年～	薬学共用試験 OSCE 実施委員として、担当するステーションの設営、運用全般を担当している。	
薬学共用試験 OSCE 外部評価者	2021年～	学外における薬学共用試験 OSCE 外部評価者業務を担当している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Preparation and Biological Characterization of Limulus Factor G-activating Substance of <i>Aspergillus</i> spp.	単著	2017年11月	Med Mycol J. 2017;58(4):E121-E129. doi: 10.3314/mmj.17-00010.
Effects of Supplement (γ - aminobutyric acid (GABA)) Administration, Aromatherapy, and Mindfulness Meditation as Complementary and Alternative Medicine on the Salivary Oxytocin Concentration in Healthy Individuals	共著	2020年12月	Pharmacometrics. 99. 109-114
Effects of Short-Term Aromatherapy on Nrf2 Expression in Peripheral Blood Mononuclear Cells	共著	2020年12月	Pharmacometrics. 99. 115-121
Prescription of fall risk- increasing drugs and evaluation of medical safety campaigns on fall prevention	共著	2021年12月	Pharmacometrics. 101. 69-76
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Nrf2による非ホジキンリンパ腫患者の治療抵抗性予測 因子への臨床応用に関する研究		2022年5月8日	第14回日本がん薬剤学会学術大会
がん化学療法に伴うストレス緩和を指向したロボット介 在療法が及ぼす長期的なストレス緩和効果の検討		2022年5月8日	第14回日本がん薬剤学会学術大会
薬剤師の意識調査に基づく医療現場が必要とする再生医		2022年5月8日	第14回日本がん薬剤学会学術大会

療等製品の添付文書情報に関する研究		
補完代替療法への応用を指向したロボットのストレス緩和効果に関する基礎的研究	2022年5月13日	第15回日本緩和医療薬学会
PARO®を用いたロボット介在療法でのストレス緩和効果に関する基礎的研究～動物介在療法における諸問題克服を目指して～	2022年5月13日	第15回日本緩和医療薬学会
ドキシソルビシン誘発心筋症モデルマウスを用いた紅参抽出物の経口投与による有用性の検討	2022年9月17日	第5回日本腫瘍循環器学会学術集会
Effect of Serum Erythropoietin Concentration on Chemotherapy Induced Peripheral	2022年9月23日	第32回日本医療薬学会 International session
Basic Research for the Practice of Reverse Translational Research in Doxorubicin-induced Cardiomyopathy	2022年9月23日	第32回日本医療薬学会 International session
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年～	くろね犬猫病院顧問薬剤師	
2020年～	文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」	
2021年～	東京都南多摩保健所における新型コロナウイルス感染症クラスター発生施設に対する積極的疫学調査・調査内容及び患者データの記録等	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	医薬品安全管理学教室	教授	杉浦 宗敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018 年度以前 ～現在	疾病と薬物治療 I (2 年次後期) : 「能動的薬物治療論」を教科書として利用し、その内容を整理したパワーポイントによるスライドを作成し講義を行った。講義終了後、講義資料としてスライドを Web クラスにアップした。講義では作成したパワーポイントのスライドに重要な個所を赤字とするなどポイントをしぼった説明を心掛け、重要な部分の理解を促した。 調剤学 (4 年次前期) :	
	2018 年度以前 ～現在	「理論調剤学」を教科書として利用し、その内容を整理したパワーポイントによるスライドを作成し、講義資料として Web クラスにアップした。調剤の基本的な考え方を理解させることを目的に講義を行った。臨床で使用される機会の多い代表的な医薬品を利用して限られた時間の中でポイントをしぼって説明した。同時進行で行われている実務実習事前学習および実務実習事前実習の内容を確認しながら講義を実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019 年 3 月 2020 年 3 月	ケーススタディ薬局病院薬学 を編集および分筆した。 理論調剤学 (第 2 版) を編集および分筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019 年 7 月	第 51 回日本医学教育学会大会「東京薬科大学の実務実習事前実習における学生同士のロールプレイ導入のタイミングに関する報告」として発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)	2018 年度以前 ～現在	年数回開催される学内の FD 研修会へ参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 理論調剤学 (第 2 版)	共著	2020 年 3 月	京都廣川書店
(論文) Potent Anti-tumor Activity of Cepharanthine against Triple Negative Breast Cancer Spheroid: Comparison with Tetrandrine	共著	2020 年 12 月	Oncology Letters vol. 26 No. 6 331.
(論文) Experimental Study about Appropriate Time for Compounding Equal Volume Mixture of Heparinoid	共著	2021 年 8 月	医薬品情報学 vol. 22 No. 4 177-184.

Oil-based Cream and Steroid Cream Using Planetary Centrifugal Mixer			
(論文) オピオイドナイーブ軽度および中等度がん性疼痛患者におけるオピオイド鎮痛薬の選択に関する解析	共著	2022年5月	癌と化学療法 vol.49 No.5 563-567.
(論文) Effectiveness and safety of extended treatment with direct oral anticoagulants for venous thromboembolism in Japan: A retrospective cohort study using claims data	共著	2022年6月	Thrombosis Update vol.8 100113.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 2型糖尿病患者における心血管死に対する血糖降下薬の有効性に関するメタアナリシス		2022年7月	医薬品情報学会総会・学術大会
(演題名) 抗精神病薬服用による静脈血栓塞栓症再発リスクの評価		2022年7月	医薬品情報学会総会・学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2009年9月～現在	日本医療薬学会代議員		
2011年10月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会 実務部会委員		
2015年7月～2020年3月	日本医療薬学会 専門薬剤師育成委員会委員		
2015年9月～現在	JORTO 副理事長		
2017年2月～現在	日本緩和医療薬学会評議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	医薬品安全管理学教室	准教授	今井志乃ぶ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月1日～2022年7月31日	教科書を中心に、周辺領域の情報を踏まえた資料を作成し理解を促進した。 学生のアンケートによる授業の評価を受け良好であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・理論調剤学(京都広川書店) ・WebClassに掲示の資料	2019年4月1日～2022年7月31日	薬剤の調整について主に編纂を行った。 動画など、資料の作成を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		選択科目で臨床の最新情報を学生に伝える工夫を行った。 また、IPE委員として東京医科大学医学部、看護学部と協同し、早期議事臨床として多職種カンファランスをオンラインで実施した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Association between pre-admission anticoagulation and in-hospital death, venous thromboembolism, and major bleeding among hospitalized COVID-19 patients in Japan.	共著	2022年3月	Pharmacoepidemiology and drug safety vol.21 No.3
(論文) Comparison of patient characteristics and in-hospital mortality between patients with COVID-19 in 2020 and those with influenza in 2017-2020: a multicenter, retrospective cohort study in Japan	共著	2022年3月	The Lancet regional health. Western Pacific vol.20 100365-100368
(論文) Economic and clinical burden from carbapenem-resistant bacterial infections and factors contributing: a retrospective study using electronic medical records in Japan.	共著	2022年6月	BMC infectious diseases vol.22 581-588
(論文) Influence of inpatient rehabilitation after crisis in patients with myasthenia gravis: A retrospective cohort study using a nationwide administrative database in Japan.	共著	2022年7月	Journal of the neurological sciences vol.438 120280-120288
(論文) Longer Daily Duration of Supervised Rehabilitation after Laparoscopic Surgery for Colorectal Cancer Improves Activities of Daily Living.	共著	2022年7月	Journal of rehabilitation medicine vol.54 jrm00304

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Decrease of surgery in Inflammatory Bowel Disease treatment in Biologic era: a nationwide administrative database analyses in Japan	2022年6月	The 10th Annual Meeting of AOCC (Asian Organization for Crohn's & Colitis)
良好な試験結果の公表が SGLT-2 阻害薬の処方動向に及ぼす影響の評価：分割時系列分析	2022年7月	第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会
抗精神病薬服用による静脈血栓塞栓症再発リスクの評価	2022年7月	第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会
2型糖尿病患者における心血管死に対する血糖降下薬の有効性に関するメタアナリシス	2022年7月	第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年～現在	日本医薬品情報学会 研修委員	
2018年～現在	日本社会薬学会 社会薬学編集委員	
2018年～2020年6月	日本アプライド・セラピューティクス学会 評議委員	
2018年～2022年3月	日本医療薬学会 医療薬学編集委員	
2018年4月～2022年4月	日本薬剤疫学会 薬剤疫学とデータベースタスクフォース座長	
2020年7月～2021年6月	日本医療薬学会 JPHCS 誌論文賞選考小委員会 委員	
2021年3月～現在	日本社会薬学会 代議員	
2021年11月～現在	日本薬剤疫学会 評議員	
2022年1月～現在	Web サイトリニューアルタスクフォース委員	
2022年2月～6月	日本社会薬学会 選挙管理委員	
2022年5月～現在	日本薬剤疫学会 健康・医療情報データベース活用委員会 委員長	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 医薬品安全管理学教室	職名 助教	氏名 清海 杏奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年度以前～現在	ループリック表用いた自己評価、授業前後に行うアンケート(自由記載あり)を用いた学生意見の反映とフィードバック、学生への質疑応答及び小テストの実施
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年度以前～現在	授業プリントの自作及び毎回配布、WebClassでの授業資料の端末閲覧、著書(分担)の利用
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年10月20日	東京薬科大学生命科学部25周年シンポジウムにおける「屋根瓦教育の評価、アセスメント」に関するのポスター発表参加
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		・2018年度以前～2019年度 ・2019年度～現在	・東大医科研病院での週一回の研修 ・国立病院機構本部での週一回の研究
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Arsenic disulfide induced apoptosis and its potential mechanism in two and three dimensionally cultured human breast cancer MCF 7 cells.	共著	2018年6月	Int J Oncol. 52, 1959-1971
(論文) Differentiation induction of human breast cancer cells by arsenite in combination with tetrandrine.	共著	2019年12月	Am J Transl Res. 11, 7310-7323
(論文) Potent antitumor activity of cepharanthine against triple-negative breast cancer spheroids compared with tetrandrine.	共著	2020年12月	Oncol Lett. 26, 331
(論文) Immunological differences in human peripheral blood mononuclear cells treated with traditional Japanese herbal medicines Hochuekkito, Juzentaihoto, and Ninjin'yoeito from different pharmaceutical companies.	共著	2021年9月	Evid Based Complement Alternat Med., 7605057.
(論文) Salivary inflammatory mediators as biomarkers for oral mucositis and oral mucosal dryness in cancer patients: a pilot study	共著	2022年4月	PLoS One. 17, e0267092
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Equity and ethnicity for COVID-19 patients with monoclonal antibody administration: a descriptive study		2022年10月	2022 ACCP Global Conference
(演題名) Proteinuria with bevacizumab and the effects of antihypertensive drugs using a Japanese administrative database: retrospective cohort study		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	日本薬学会会員		
2018年～現在	日本医療薬学会会員		
2018年～現在	日本乳癌学会会員		
2018年～現在	日本薬剤疫学会会員		
2021年	日本社会薬学会 論文査読者		
2021年～現在	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 Medication Outcomes center Visiting Scholar		
2022年	The Mansfield-PhRMA Research Scholars Program フェロー		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 RI 共同実験室	職名 特任教授	氏名 遠藤 朋宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年～	WebClassを使用した資料(講義資料、練習問題、薬学で知っておくべき放射性核種表など)を掲載し、開講期間は自由にダウンロードできるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年3月12日	実務実習事前学習テキストブック(堀祐輔、国分秀也 編著)、第5章 5-4 放射性医薬品(分担執筆)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Effect of sulfobutyl ether- β -cyclodextrin and propylene glycol alginate on the solubility of clozapine	共著	2019年4月	Pharm. Dev. Technol., 24(4), 479-86
Crystallographic evaluation of the conformation of quetiapine included in β -cyclodextrin	共著	2020年	Int. J. Pharm., 587, 119625
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
表面プラズモン共鳴法と分子動力学計算による β -シクロデキストリンとイブプロフェン鏡像異性体間の包接挙動検討		2022年9月	第38回シクロデキストリンシンポジウム
(演題名) ○○○○			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年9月～2018年8月	シクロデキストリン学会 評議員		
2014年3月～2018年3月	日本アイソトープ協会ライフサイエンス部会薬学・薬理学研究専門委員会委員		
2019年4月～2021年3月	大学基準協会大学評価分科会委員候補者		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 中央分析センター	職名 助手	氏名 深谷 晴彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度～ 2022年度	薬局実務実習コーディネータを務め、各年度（Ⅰ～Ⅲ期）に5～6名を担当し、実習前の事前打ち合わせ及び実習中の2回の薬局訪問、実習生の日報・週報及び到達度の確認とレポート作成について指導を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Retusone A, a Guaiane-Type Sesquiterpene Dimer from <i>Wikstroemia retusa</i> and Its Inhibitory Effects on Histone Acetyltransferase HB01 Expression	共著	2022年5月	Molecules 27, 2902-2911
(論文) Cytotoxic triterpene and steroidal glycosides from the seeds of <i>Digitalis purpurea</i> and the synergistic cytotoxicity of steroidal glycosides and etoposide in SBC-3 cells	共著	2022年5月	Bioorganic Chemistry 122, 105697- 105709
(論文) Five new highly oxidized neoclerodane diterpenes, salvileucalins E-I from <i>Salvia leucantha</i>	共著	2020年10月	Heterocycles 100, 2061-2071
(論文) Benzofuran and Coumarin Derivatives from the Root of <i>Angelica dahurica</i> and Their PPAR- γ Ligand-binding Activity	共著	2020年5月	Phytochemistry, 173, 112301-112310

(論文) Anion-Accelerated Aromatic Oxy-Cope Rearrangement in Geranylation/Nerylation of Xanthone: Stereochemical Insights and Synthesis of Fuscaxanthone F	共著	2020年5月	Synlett, 31, 1378-1383
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) フェニルプロパノイド単位が結合した RA 系ペプチド化合物の構造		2022年9月	日本生薬学会 第68回年会
(演題名) ○○○○○		2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
特になし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 社会薬学教育センター薬事関 係法規研究室	職名 教授	氏名 益山 光一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月以 前～現在	法規を学ぶことの意義や必要性をわかりやすく説明するため、可能な限り関係する最近の報道等を講義の最初で毎回紹介及び解説する。講義終了後に講義内容に関する小テストを毎回実施し、学んだ法規・制度の理解を自己確認させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月以 前～現在	薬事関係の法制度については、毎年大きく変化していることから、教科書「薬事関係法規・制度 解説」毎年改訂している。併せて、薬事関連法規と制度Ⅰ及び薬事関連法規と制度Ⅱの講義用教材も毎年各13回分作成している。 レギュラトリーサイエンスに関しては、スタンダード薬学の薬学総論 Ⅱ薬学と社会第2版(2022年1月)に執筆している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年9/12 2021年8/22	第10回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 シンポジウム12:レギュラトリーサイエンス教育の新展開 のシンポジストとして本学でのレギュラトリーサイエンス教育実践を講演した。 第6回日本薬学教育学会大会 シンポジウムS10レギュラトリーサイエンス教育をどう行うか?—他の科目との連携—のシンポジストとして、本学での教育実践を講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年8/20	全学FDワークショップにおいて、「本学の卒業生データからみるキャリアパスの現状」について、進路の決定や卒業後の状況を踏まえた教育を考える場の講義を実施した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)月刊薬事 重篤副作用の予防と治療		共著	2022年6月 じほう
(論文) The association between concerns toward adverse reactions during pre - approval drug reviews and the post - approval addition of clinically significant adverse reactions to package inserts: A retrospective analysis		共著	2018年8月 Pharmacoepidemiol Drug Saf. 1-12 (2018)

of pre - approval drug review reports and safety updates			
(論文) リフィル制度の取組みに向けたわが国の課題	共著	2019年5月	レギュラトリーサイエンス学会誌(第9巻第2号)
(論文) チラシの活用による薬局薬剤師への患者相談に関する調査～円滑な対人業務推進に向けて～	共著	2019年9月	日本薬剤師会雑誌(第73巻第3号)
(論文) 入退院時における地域の薬局薬剤師と病院薬剤師の情報連携の有用性に関する研究	共著	2022年1月	レギュラトリーサイエンス学会誌(第12巻第1号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ○○○○			
(演題名) ○○○○			
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年9月～現在	日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会 常任世話人会		
2016年4月～2022年6月	日本薬剤師会法制委員会		
2019年12月～現在	日本医療研究開発機構において、AMED 創薬基盤推進研究事業のプログラムオフィサー(P0)として、事業の支援を実施している。		
2020年4月～現在	薬剤師国家試験 試験委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	情報教育研究センター	助教	倉田香織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・1年次必修「基礎情報学演習Ⅰ」 ・1年次選択「基礎情報学演習Ⅱ」 ・4年次必修「医薬情報演習」 ・2年次必修「総合系ゼミナールⅢ」	2018年度以前 ～現在 2018年度以前 ～現在 2018年度以前 ～現在 2018年度以前 ～現在	<p> 教養科目であるが、医療情報基礎と位置づけ、計算処理能力の向上と文書の取扱い能力の向上の双方向から課題を設定し、医療実務での工夫を毎回紹介している。すべての演習課題ごとに手順書と、画面遷移がわかるようPPTスライドを参考資料として、WebClass(LMS)に用意している。提出課題は全て赤ペンをいれて返却し、各自のポートフォリオとなるようにしている。完成度が低かった部分については、解説を追加し、フィードバックを行っている。採点結果を参考にして修正したものの再提出を認め、継続的な能力の向上と定着を図るとともに、ルーブリック評価を行うことで、演習における獲得目標の明確化を図っている。 </p> <p> 分子モデリング、データの一括処理、通信における秘匿や認証、グラフィクスプログラミングなど、幅広くICTの話題に触れられるように、2名の教員で分担して行うオムニバス形式ではあるが、前後のつながりを意識した構成としている。MOS検定の出題範囲を解説したテキストを一部使用し、プログラミング手法を随時紹介するなど、各種ICT・データサイエンス系の検定試験の受験を推奨している。 </p> <p> 薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理、EBMの実践、生物統計、臨床研究デザインおよび解析に関する基本的事項を修得することが演習の目的であるが、実務実習前の4年生にとっては、知識を臨床につなげるためにはどうしたら良いかと考えることが重要であると考えている。そこで、演習の最終日に、EBMの実践のための5つのStepの一連の流れを学ぶ総合演習(前半はTBL、後半はPBL、まとめのビデオ視聴)を実施している。 </p> <p> 「医薬品のプロとして薬の効果を考える」では、現場で活躍する病院・薬局薬剤師がファシリテーターとなり、SGDを中心とした授業を行なっている。医薬品の効果に関する研究(臨床研究)はどのように行われているのか、臨床研究を通じて明らかにされた「薬の効果」を多くの人々が享受できるようにするにはどうしたら良いのか、臨床研究論文は、もはや研究者だけが読むものではなく、医療者も活用できるということ、「サプリメント・健康食品」といった身近な商品を使って、EBMの基礎を学べるようにしている。 </p>	

<p>・4年次必修「医療薬学演習 II 医薬品開発と臨床試験」</p>	<p>2018年度以前～現在</p>	<p>「日本市場から撤退した医薬品を追う」では、医薬品の開発から撤退までの情報を網羅的に収集し、分析するグループを担当している。本テーマは、通常の Google 検索では情報を集めにくい。そこで、医薬品の社会的側面と Drug Information 活動についても理解を深めることができるよう、図書館サービスの使い方や NDB (オープン) データの使い方などについても指導を行うようにしている。</p>
<p>・1年次必修「基礎情報学」</p>	<p>2020年度～現在</p>	<p>医療情報学を念頭におき、カリキュラムを編成している。情報学はシステムのあり方を学ぶ学問であるということ、そして、システムを使って他職種との情報の共有を行うことで安全な医療を提供することが、私たちが目指す薬剤師像である、ということを読んで欲しいと考えている。文字コードの学習では、日本語表現の複雑さに触れ、電子カルテシステムの構築における影響を例に、日本語を使う、私たちの文化におえる問題点を考えるところから授業を始めている。AI 技術とデータサイエンスでは、薬剤部や薬局で使用するシステムが、さらに院内や地域のさまざまなシステムに繋がり、ビッグデータが生み出され、活用されている事例を紹介している。最後に、医療安全を進めていくためには、過ちがなぜ起きるのか、それを犯さないためには、どのようなシステムを構築すれば良いのか、そういうことを考えることが、この医療情報学の中で非常に重要な話題であるという話をしている。医療現場におけるこうした情報のあり方を正しく理解し、情報を扱う者が遵守すべき著作権保護や個人情報保護に関する法の理解と、データを守るための情報セキュリティの三原則(機密性、完全性、可用性)や暗号化通信の技術についての理解を深めていくため、オンライン授業やオンライン診療、オンライン服薬指導といった事例を取り上げて説明している。</p>
<p>・3年次必修「医薬情報 I」</p>	<p>2021年度～現在</p>	<p>講義内容をよく理解してもらうために、「11 医薬品情報データベースの活用」では、医学中央雑誌と MEDLINE の検索に関する演習課題を、「12 医薬品情報の収集・評価」では、PMDA の情報提供サイトの検索に関する演習課題を、そして、「13 医薬品情報の加工・提供」では、CBT や卒業試験、国家試験等の想定問題を提示している。</p>
<p>・5年次必修「PBL-T」</p>	<p>2021年度～現在</p>	<p>1日目：RCTの批判的吟味、2日目：英国薬剤師のDI活動、3日目：コクランレビューの批判的吟味、4日目：GRADEによるCPG作成演習、5日目：Revman演習、6日目：適用の検討、の流れを通して、SR(MA)の実施を含むEBM実践の一連の流れを学べるように工夫している。卒論研究にも応用できるように、レビュー形式で全てのプロダクトを作成するよう指導している。</p>

<p>・4年次選択「多変量解析(ヘルスケア・データサイエンス)」</p>	<p>2021年度～現在</p>	<p>「R/EZRを用いた単変量解析と多変量解析」と「PythonとAI(機械学習)」を担当している。データサイエンスのためのPythonの基本的な使い方から機械学習の実装までを取り扱う。2021年度の授業評価を受けて、2022年度は演習内容の量を減らし、解説の途中で学生たちに選択肢を選ばせたり、プログラム作成の演習課題では、パーツの並べ替え形式などを多く取り入れ、段階を追って理解できるように工夫した。</p>
<p>・コロナ禍に関するオンライン対応</p>	<p>2020年4月～8月 2020年9月～現在</p>	<p>完全オンライン教育を実施した2020年度前期は、PCをはじめとするICT機器に不慣れな学生に対応するため、空き時間に「オンラインサロン」を開設し、担当教員への連携を支援した。 担当科目の中で、「基礎情報学」「医薬情報Ⅰ」は非同期型、「多変量解析(ヘルスケア・データサイエンス)」は同期型でのオンライン対応を継続している。</p>
<p>・授業改善のためのアンケート(総合授業評価)の結果</p>	<p>2020年度 2021年度 2022年度</p>	<p>基礎情報学 3.46、基礎情報学演習Ⅰ 4.38、医薬情報演習 2.93 基礎情報学 3.50、基礎情報学演習Ⅰ 4.13、医薬情報Ⅰ 3.73、医薬情報演習 3.82、多変量解析 3.00、基礎情報学演習Ⅱ 4.00 基礎情報学 3.56、基礎情報学演習Ⅰ 4.09、医薬情報Ⅰ 3.84、医薬情報演習 3.83、ヘルスケア・データサイエンス 3.38</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>◎出版した教科書</p> <p>・医療情報リテラシー講義編第5版</p> <p>・医療情報リテラシー演習編第9版</p>	<p>2022年3月27日 2022年3月27日</p>	<p>1年次必修科目「基礎情報学」用に教員自ら作成した教科書である。(2018年度以前より版を重ねている) 1年次必修科目「基礎情報学演習Ⅰ」用に教員自ら作成した教科書である。(2018年度以前より版を重ねている)</p>
<p>◎プレプリント教材など</p> <p>・基礎情報学演習Ⅱテキスト</p> <p>・医薬情報演習テキスト</p> <p>・多変量解析(ヘルスケア・データサイエンス)</p>	<p>2018年度以前～現在 2018年度以前～現在 2021年4月～現在</p>	<p>1年次選択科目「基礎情報学演習Ⅱ」用に教員自ら作成した教科書である。第5回～第11回を執筆した。 4年次必修科目「医薬情報演習」用に教員自ら作成した演習用テキストである。医薬情報演習(2)を執筆した。他に、医学文献を批判的吟味しながら読むための方法を解説した事前学習用資料もあわせて作成している。 4年次選択科目「多変量解析(ヘルスケア・データサイエンス)」用に教員自ら作成した演習用教材である。「R/EZRを用いた単変量解析と多変量解析」では、PPTスライドに加えて、EZRで演習を行うためのプログラムソースを教材とすて作成している。「PythonとAI(機械学習)」では、PPTスライドに加えて、jupyter notebookで演習を行うための</p>

		プログラムソース教材として作成している。また、参考資料として、github に演習資料を公開している。
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WebClass 利用講習会 ・薬学部における卒業論文研究評価の可視化とディプロマ・サプリメント発行の取り組み ・東京薬科大学における ICT 環境に関する実態調査 オンライン授業前夜の薬学部学生のBYOD機活用に関する報告 ・ヘルスケア・データサイエンティスト人材育成プログラム実施報告 ・薬学教育における情報教育の過去・現在・未来 	<p>2020年3月</p> <p>2020年3月 2020年9月</p> <p>2020年9月 2021年3月</p> <p>2021年8月</p> <p>2022年3月</p>	<p>学内教員を対象に、WebClass の利用マニュアル等を執筆し、オンライン対応を実施するための利用講習会を開催した。</p> <p>東京薬科大学研究紀要 第 23 号において詳細を報告した後、第 5 回日本薬学教育学会大会にてポスター発表を行なった。</p> <p>第 5 回日本薬学教育学会大会にてポスター発表を行なった後、東京薬科大学研究紀要 第 24 号において詳細を報告した。</p> <p>第 6 回日本薬学教育学会大会にて、当該プログラムの実施報告を行なった。</p> <p>東京薬科大学研究紀要 第 25 号において、情報教科担当教員とともに、情報教育の今後についてまとめた。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)</p> <p>◎他大学での教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城西大学大学院講義 	<p>2019年12月5日 2022年3月5日</p>	<p>ドライリサーチ特論を担当し、文献 DB を用いた系統的文献収集と書誌情報を用いたテキストマイニングを中心とした演習を指導した。</p>
<p>◎地域での教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援委員会 ・東京薬科大学・八王子薬剤師会地域連携協議会 ・八王子市立横川中学校での授業 	<p>2018年度以前 ～2020年3月</p> <p>2018年度以前 ～現在</p> <p>2018年度以前 ～現在</p>	<p>本学学生が地域で開催されるイベント等に安全に参加できるよう支援を行った。</p> <p>地域での学校における「健康教育」への参加・連携、ライフスキル教育を基本にした実践的教育活動の構築、地域での健康教育活動の連携推進をはかるための活動を行っている。八王子市内の小中学校で行われる薬物乱用防止教育の講師として授業を担当する他、本学学生の授業に参加できるよう支援を行った。</p> <p>毎年1回、7月に薬物乱用防止に関する授業を養護教諭とともに実施している。1年生は喫煙防止、2年生や医薬品の適正使用、3年生はセルフエスティームを主要テーマと</p>

<p>・薬局実習小委員会</p>	<p>2019年4月～ 2021年3月</p>	<p>して、薬物乱用の防止につなげる内容としている。講演とグループワークを組み合わせ、より実践的な内容を目指している。</p> <p>実務実習における「学校薬剤師の活動」の学習のための実習を企画、講師として実施した。</p>
<p>◎ICT活用のための教育活動</p> <p>・情報教育研究センター ユーザー会議</p>	<p>2018年度以前～ 現在</p>	<p>「情報通信技術（ICT）教育の充実強化を図り、薬学、生命科学に資するICT及びその分野に関連する教育・研究を行い、本学の学術的な地位の向上を目指す」ための活動について意見交換および方針決定を行った。また、全学ライセンス（Zoom、ChemOfficem、JMP、Turnitin）の利用促進のためのセミナーを実施した。さらに、情報倫理とセキュリティ e-learning教材を用いた情報倫理教育を教職員対象に実施した。</p>
<p>・新学期ガイダンス</p> <p>・情報倫理Webテストおよび実務実習生に対する個人情報保護教育</p> <p>・薬学部ディプロマ・サプリメント検討WG</p> <p>・遠隔教育推進検討WG</p> <p>・東京薬科大学教育改革推進事業「ヘルスケア・データサイエンティスト人材育成プログラム」</p> <p>・東京薬科大学教育改革推進事業「学修者本位の教育実現に向けた学修データの統合・解析～AI分析を指向した教職協働による基盤整備～」</p>	<p>2018年度以前～ 現在</p> <p>2018年度以前～ 現在</p> <p>2019年4月～ 2021年3月</p> <p>2020年4月～ 現在</p> <p>2020年度</p> <p>2021年度</p>	<p>新入生を対象に、ネットワーク利用に関する説明を行った。東薬IDの配布および学内サービスの利用法の説明、インターネットへの接続方法、Microsoft Officeのインストール、Acrobat Readerのインストール、画面クリップの作成方法、ウイルス対策ソフトウェアや無線LAN接続の方法、Zoomの利用方法に関する内容を取り扱った。</p> <p>両学部新入生および薬学部5年生を対象に、情報倫理教育として、パンフレットの配布とe-learningを実施した。さらに、薬学部5年生を対象に、実務実習プレ実習において、医療現場における個人情報保護に関するガイダンスとe-learningを実施した。</p> <p>卒業論文研究の評価を活用したディプロマ・サプリメントの開発および学生への配布システムの構築に関して、既存の学内Webシステムを最大限に利用し、かつ、ユーザーフレンドリーで、持続可能なシステムとして実現した。これをプロトタイプとしたゼミナールカルテを、ゼミナール委員会を中心に開発中である。</p> <p>薬学部教員が本学の所有する遠隔教育資源を活用して、遠隔教育を推進するための方策（技術的な推進・サポート体制）を検討・実施した。Zoomによる同期授業、非同期によるオンデマンド授業、講義室連携による中継授業、LMSの整備、新入生対応について重点的に取り組んだ。</p> <p>「ヘルスケア・データサイエンティスト人材育成」を目的とする授業の設置のためのモデル授業を企画、実施した。多変量解析とRプログラミングの授業を担当した。</p> <p>薬学部の学生ごとのデータを、教職協働で集積し、統合・整理したデータを「AIの機械学習用」へ、統計解析したデータを「教職員による個別指導」などに用いるために、学内システムの履歴情報の解析と、AIの機械学習の有用性の</p>

・データサイエンス教育推進委員会	2021年10月～ 現在	実証を担当した。 薬学部・生命科学部の学生が修得すべきデータサイエンス関連のスキルを定め、全学を対象とした教育プログラムの構築と、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)リテラシーレベルの認定に向けて、申請書類を作成に取り組んだ。また、工学院大学附属高等学校・東京薬科大学 合同研修会を2021年10月に開催した。	
◎その他 ・CBT実施委員会(システムサポート)	2020年4月～ 現在	CBT実施のための準備および当日の試験運営を行った。2018年度以前より、2019年度までは、システム管理支援を行なった。	
・調査研究コース統括・運営委員会(医療の最前線担当/PBLT担当)	2020年4月～ 現在	1年生と5年生(実務実習直前)の学びあいを目的とした演習を企画したが、中止となった(医療の最前線担当)。5年生を対象とした問題解決型プログラムを中心とした演習の企画と実施を行った(PBLT担当)。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Proportion of Japanese outpatients filling prescriptions for long-term medication regimens.	共著	2019年5月	Patient Prefer. and Adherence, vol. 13, pp. 667-673
(論文) Characterization of Parvalbumin in 127 Species of Fish by Enzyme-linked Immunosorbent Assay Using Monoclonal Anti-frog Parvalbumin IgG Antibody and Serum IgE from an Allergic Patient	共著	2019年6月	J. Cookery Sci. Jpn., vol. 52, pp. 147-158
(論文) 薬局薬剤師を対象とした継続的なEBM教育プログラムが薬剤師業務に与える影響	共著	2019年11月	薬学教育, 第3巻, pp. 133-139.
(論文) 学修者本位の教育実現に向けた学修データの統合・解析～WebClassの学年別利用状況の変化～	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要, 第25号, pp. 19-26.
(論文) 薬学部4年生を対象としたEBMの実践を学ぶためのTBL&PBLハイブリッド学習プログラムの試行と評価	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要, 第25号, pp. 27-34.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ゼロから始めるDX(デジタルトランスフォーメーション)のススメ、薬学教育の現場から見たDX		2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
学修者本位の教育実現に向けた学修データの統合・解析～WebClassの学年別利用状況の変化～		2023年3月	日本薬学会 第143年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～現在	八王子市学校薬剤師
2020年1月～現在	日本くすりと糖尿病学会 研究推進委員会
2020年8月～現在	一般社団法人スマートヘルスケア協会 シニアアドバイザー

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名 東京薬科大学	講座名 情報教育研究センター	職名 助教	氏名 山田 寛尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
基礎情報学演習 II	2020 年度～	分子を 3 次元的に観察し、コンピュータを使った創薬の入門を学ぶ。ソフトウェアを操作するだけでなく、その原理や分子の 3 次元的な見方を解説している。また、Design By Numbers を用いて、プログラミングの基本的な考え方、書き方を学習する。演習ではプログラミングを書くだけでなく、どのように動作するのか解説しながら行なっている。	
多変量解析(ヘルスケア・データサイエンス)	2021 年度～	データサイエンスのための Python の基本的な使い方から機械学習の実装までを行う。2021 年度の授業評価で学習内容が多く、難しいとの声が多くあった。2022 年度では演習内容の量を減らし 1 つ 1 つの内容の理解度を深めるためゆっくりと解説しながらの授業進行をおこなった。また、github に演習資料を公開し、予習できるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
基礎情報学演習 II	2020 年度	講義・演習資料 6 回分	
基礎情報学演習 II	2021 年度	講義・演習資料 6 回分	
多変量解析(ヘルスケア・データサイエンス)		講義・演習資料 8 回分	
基礎情報学演習 I	2022 年度	講義・演習資料 12 回分	
基礎情報学演習 II		講義・演習資料 6 回分	
ヘルスケア・データサイエンス		講義・演習資料 8 回分	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD を含む)			
情報教育研究センター ユーザー会議	2021-2022 年度	「情報通信技術 (ICT) 教育の充実強化を図り、薬学、生命科学に資する ICT 及びその分野に関連する教育・研究を行い、本学の学術的な地位の向上を目指す」ための活動	
GBT 実施委員会	2022 年度	GBT 実施のための準備期間・実施日における ICT サービス	

ヘルスケア・データサイエンティスト 人材育成講義	2021年2月	の管理・監視業務 「ヘルスケア・データサイエンティスト人材育成」を目的にモデル講義を実施し、その中でPythonの使い方およびAI・機械学習の実習を担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Machine-learning-assisted discovery of polymers with high thermal conductivity using a molecular design algorithm.	共著	2019年6月	npj computational materials, 5(1), 66
Predicting Materials Properties with Little Data Using Shotgun Transfer Learning.	共著	2019年9月	ACS Central Science, 5(10), 1717- 1730
iQSPR in XenonPy: A Bayesian Molecular Design Algorithm.	共著	2019年11月	Molecular Informatics, 39(1-2)
材料研究における転移学習の応用	共著	2021年5月	統計数理, 69(1), 49-63
高分子インフォマティクスの諸問題	共著	2021年5月	統計数理, 69(1), 65-82
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Molecular Dynamics Simulation of Starch Blanching Enzyme: Improvement of Heat Resistance by Introducing Ancestral Sequence		2022年8月	GCP2022(33rd IUPAP Conference on Computational Physics)
FHL1タンパク質のLIM2ドメインにある亜鉛配位残基が 変異することによる構造変化に関するMDシミュレーシ ョン		2022年9月	日本物理学会2022年秋季大会
高温条件下におけるシアニディオシゾン由来 Starch Branching EnzymeのMDシミュレーション		2022年9月	日本物理学会2022年秋季大会
Structural analysis of LIM2 domain by MD simulation		2022年9月	第60回日本生物物理学会年会
Molecular Dynamics Simulation of Heat-Resistant Starch Branching Enzyme under High Temperature Conditions		2022年9月	第60回日本生物物理学会年会
ノーコード環境での消費者向けOTC医薬品使用管理アプ リの開発		2022年11月	第42回医療情報学連合大会(第23回 日本医療情報学会学術大会)
OTC医薬品解熱鎮痛成分における重症副作用と因子解 析:機械学習手法を用いたFDA副作用報告(FAERS)デー タの解析		2022年11月	第42回医療情報学連合大会(第23回 日本医療情報学会学術大会)
Coarse-Grained Molecular Dynamics Simulation of Thermostable Starch Branching Enzyme		2023年1月	2023 13th International Conference on Bioscience, Biochemistry and Bioinformatics
MDシミュレーションによる祖先配列を導入した Starch		2023年3月	日本物理学会2023年春季大会

Branching Enzyme の構造解析		
学修者本位の教育実現に向けた学修データの統合・解析 ～WebClass の学年別利用状況の変化～	2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年以前～現在	日本物理学会	
2018年以前～現在	日本化学会	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
東京薬科大学	生命・医療倫理学研究室	教授	櫻井 浩子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年～現在	授業では、医療倫理に関連するドキュメンタリーなどビデオ視聴を取り入れ、学生自らが問題意識を持ち課題解決に導けるようアクティブラーニングを導入している。	
	2017年～2019年	1年次授業にて、グループワークの手法としてワールドカフェを導入し、対話の楽しさを実感してもらった。	
	2019年～現在	臨床現場で薬剤師が会う倫理的問題に関するビデオ教材を独自に開発した。2年生ゼミナールにて教材として活用したところ、薬剤師として必要な知識・態度ともに向上が見られた。	
	2019年～現在	薬学教育ではあまり扱わない新生児・小児医療、獣医領域について講義し、薬剤師の職能のあり方について意識づけをしている。授業アンケートからも有意義な機会となっている。	
	2020年～現在	1年次授業にて、患者とのコミュニケーションにおいて対応に困難を要する「怒り」についてアンガーマネジメントを実施している。授業アンケートから「とても興味深く、より具体的なコミュニケーションの取り方を知りたい」など一定の評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2016年～現在	授業プリントの自作および毎回配布	
	2018年3月	『研究発表のための情報デザイン入門——スライドとポスターを効果的につくる』作成協力	
	2019年～現在	倫理ビデオ教材の作成と授業内活用	
	2019年～現在	薬学生向け PROG 活用ガイドブック『いきいきと活躍できる薬剤師を目指して』の作成と活用	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	第2回日本薬学教育学会大会	2017年9月	薬学教育におけるジェネリックスキル育成の課題：東京薬科大学でのPROG測定および育成について
	日本薬科大学FD勉強会	2018年3月	東京薬科大学におけるPROG導入実績
	第4回日本薬学教育学会大会	2019年8月	薬学生向けPROG活用ガイドブック『いきいきと活躍できる薬剤師を目指して』の開発：薬剤師として求められる10の基本的な資質を踏まえて
	第4回日本薬学教育学会大会	2019年8月	倫理ビデオ教材の開発：臨床薬剤師へのヒアリング結果をシナリオとして
	第5回日本薬学教育学会大会	2020年8月	倫理ビデオ教材を用いたゼミナール・薬局新人研修の試み：受講生アンケートからみる講義および教材評価について

第14回日本緩和医療薬学会年会	2021年5月	て 薬学生における倫理観：がん患者・家族に対するグリーフケアの観点から	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 東京薬科大学平成29年度教育改革推進事業 東京薬科大学附属社会医療研究所研究助成 一般社団法人薬学教育協議会 東京薬科大学2019年度教育改革推進事業 東京薬科大学2020年度教育改革推進事業	2017年8月～ 2018年3月 2017年4月～ 2019年3月 2019年10月 2019年6月～ 2020年3月 2020年6月～ 2022年3月	薬学部ディプロマ・ポリシーを見通した授業モデル 薬剤師が直面する倫理的問題を考えるための教材開発 学習成果基盤型教育(OBE)アドバンスワークショップ修了 薬学生に必要かつ強みとなる5つの教育プログラムの試行 AIの活用と協働における薬剤師業務：ヒューマニティ・コミュニケーションの養成を目指す事前実習前教育プログラムの試行	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 災害に備えた慢性疾患患者支援：患者自身の薬剤管理に対する薬局薬剤師の役割	共著	2021年8月	日本薬剤師会雑誌(第73巻8号)
(論文) 医療プロフェッショナリズム教育としての「新生児医療と薬剤師」授業の試み	共著	2021年8月	日本薬学教育学会雑誌(第5巻)
(論文) NICUにおける薬剤師の役割と協働：看護師の薬剤業務の現状から見た課題	共著	2021年10月	日本小児臨床薬理学会雑誌(第34巻第1号)
(論文) 薬局薬剤師のポリファーマシー介入における実態調査と課題	共著	2022年9月	日本薬剤師会雑誌(第74巻第9号)
(論文) 薬学生の倫理観の涵養に向けて：倫理ビデオ教材を用いたゼミナールの試み	共著	2022年9月	日本薬学教育学会雑誌(第XX巻第X号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん患者の在宅緩和ケアに対する薬局薬剤師業務：薬局薬剤師と訪問看護師双方のアンケート調査からの一考察		2022年7月	第27回日本緩和医療学会学術大会
(演題名) 動物への漢方治療：日台比較からみる普及の可能性と課題		2022年10月	第55回日本薬剤師会学術大会
(演題名) 小児・思春期がん患者の妊孕性温存についての情報提供に関する現状と課題		2022年11月	第34回日本生命倫理学会年次大会
(演題名) 子どもの成長や特徴を踏まえた『18トリソミ		2022年11月	第66回日本新生児成育医学会・学術集

『母子健康手帳』発行の試み		会
(演題名) 偽造医薬品の購入規制	2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2006年4月～現在	日本生命倫理学会会員	
2014年4月～2018年3月	立命館大学 衣笠総合研究機構 客員研究員	
2015年6月～現在	CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)	
2015年10月～2022年5月	日本キャリア教育学会認定 キャリア・カウンセラー	
2016年9月～2021年9月	国家資格キャリアコンサルタント	
2016年12月～現在	日本薬学教育学会会員	
2017年7月～現在	一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメントファシリテーター	
2018年～2022年5月	日本キャリア教育学会会員	
2018年1月～現在	日本在宅医療連合学会会員	
2019年8月～現在	若手・女性研究者奨励金選考委員会委員	
2019年8月	日本薬剤師会論文審査員	
2020年1月	日本生命倫理学会論文審査員	
2020年7月～現在	日本小児臨床薬理学会会員	
2020年10月～現在	日本新生児成育医学会会員	
2020年10月～現在	厚生労働省NIPT等の出生前検査に関する専門委員会委員	
2021年3月～現在	認定特定非営利活動法人(NPO)健康と病いの語りディベックス・ジャパン 医療的ケア児の家族の語りプロジェクトアドバイザー委員	
2021年7月～現在	日本生命倫理学会新生児・小児部会幹事	
2022年4月～現在	日本公衆衛生学会会員	
2022年7月～現在	日本アプライド・セラピューティクス学会会員	
2022年8月～現在	動物介在教育・療法学会会員	
2022年8月～現在	独立行政法人労働者健康安全機構両立支援コーディネーター	
2022年11月～現在	出生前検査認証制度等広報啓発事業プロジェクトチーム構成員	
2023年1月～現在	日本助産師会主催不妊症・不育症ピアサポーター	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 人間と薬学Ⅱ	職名 助教	氏名 山田 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年9月	新型コロナ禍で、「介助(車いす)」「救急救命」の講義部分、「選択講義」は同期型オンライン演習を実施した。救急救命の実技実習は対面形式の中、少人数で実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・日本薬学会第141年会	2021年3月	オンライン教育の方略構築と検証を発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	～ 現在	年に3回以上、FDに参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 該当なし			
(論文) Chinese herbal medicines and nutraceuticals inhibit <i>Pseudomonas aeruginosa</i> biofilm formation	共著	2021年8月	<i>Access Microbiol</i> , 3:000254
(論文) オンライン教育の方略構築と検証	共著	2021年3月	東京薬科大学研究紀要 2020
(論文) Kampo medicines suppress the production of exfoliative toxins causing impetigo in <i>Staphylococcus aureus</i> .	共著	2020年3月	<i>Journal of Dermatology</i> , 47:714-719
(論文) Combination effects of modified Gingyo-san extract and antimicrobial agents.	共著	2020年1月	<i>European Journal of Integrative Medicine</i> , 33:101016
(論文) <i>Panax notoginseng</i> extract possesses significant antibacterial activity against pathogenic streptococci.	共著	2019年1月	<i>Journal of Dermatology</i> , 47:714-719
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 未定			
(演題名)			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2019年4月～現在	日本薬剤師会会員
2019年4月～現在	日本薬学会会員
2019年7月～現在	八王子市立横川中学校 薬物乱用防止教室（年1回）
2020年4月～現在	日本社会薬学会 代議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京薬科大学	講座名 薬用植物園	職名 講師	氏名 三宅 克典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年～現在	薬用植物園を活用した少人数制ゼミナールの実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年5月	医歯薬学系博物館事典(分担執筆)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年～現在	薬用植物園の整備と展示の充実	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Novel seco-phenanthroquinolizidine alkaloids from Indonesian <i>Boehmeria virgata</i>	共著	2021年10月	Phytochem Lett vol.45
(論文) Chemical Components in <i>Hedera rhombea</i> Leaves and Their Cytotoxicity.	共著	2022年2月	Chem Pharm Bull (Tokyo) vol.70 No.2
(論文) Taxonomic Studies on Zingiberaceae of Myanmar(4) A New Species of <i>Zingiber</i> (Sect. <i>Cryptanthium</i>) from Kayah State	共著	2022年2月	Bull Natl Mus Nat Sci, Ser. B vol.48 No.1
(論文) 四国のカギカズラ資源調査	共著	2022年3月	東京薬科大学研究紀要 25巻
(論文) Retusone A, a Guaiane-Type Sesquiterpene Dimer from <i>Wikstroemia retusa</i> and Its Inhibitory Effects on Histone Acetyltransferase HB01 Expression	共著	2022年5月	Molecules vol.27 No.9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アカボシタツナミソウ由来ポリメトキシフラボンの骨形		2022年9月	日本生薬学会

成に対する影響		
(演題名) トベラ科トベラ <i>Pittosporum tobira</i> 葉の化学成分と ID01 阻害活性	2022年9月	日本薬学会関東支部
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2017年4月～2019年3月	ファルマシアトピックス小委員	
2016年4月～現在	八王子学園都市大学いちょう塾講師	
2021年～現在	日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬研修会講師	
2019年～現在	日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習講師	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	479	471	98.3
2年	438	423	96.6
3年	459	442	96.3
4年	442	418	94.6
5年	415	413	99.5
6年	467	457	97.9

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	308	90
麻疹	124	109
水痘	375	38
ムンプス	264	137
B型肝炎	20	159

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・ 演習室 ²⁾	特大講義室	421、560	2	981	無線LAN接続可能
	大講義室	210、240	2	450	無線LAN接続可能
	中講義室	140～190	18	2940	13室は可動式。全室無線LAN接続可能
	小講義室	32～84	21	1567	全室可動式、無線LAN接続可能。
	CBTルーム	120	2	240	CBTに使用
実習室	生物系、医療系実習室	80	2	160	基礎生物学、免疫学実習、薬理学実習で使用
	化学系実習室	80	4	320	基礎有機化学、有機化学、漢方薬物学、天然医薬品化学、医薬品合成実習で使用
	物理系実習室	80	2	160	分析化学、物理化学・分析化学実習で使用
	生物系、医療系実習室	80	2	160	生化学、病態生理学・薬物安全性学実習で使用
	生物系、健康・環境実習室	80	2	160	微生物学、衛生化学・公衆衛生学実習で使用
	創薬系実習室	54	3	162	薬剤学実習で使用
	シミュレーションルーム	55	3	165	実務実習事前学習・実習で使用
	内用液剤調剤室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用
	散剤実習室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用
	保険薬局調剤室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用
	注射剤計量調剤室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用
	注射剤計数調剤室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用

	DI室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用
	製剤室	55	1	55	実務実習事前学習・実習で使用
自習室等 ³⁾	学習用指定講義室	80~120	4	403	無線LAN接続可能。図書館閲覧室も自習可能（基礎資料12）
	学習相談室	16	1	16	無線LAN接続可能。指導する教員を配置している。
	医療棟自習スペース	12~16	3	44	無線LAN接続可能。
	学生食堂（生協食堂）	1238	1	1238	無線LAN接続可能。
	学生会館	35~68	3	141	無線LAN接続可能。
薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所（薬学部キャンパス内） ② 施設の構成と規模 敷地面積41000平方メートル 340.5平方メートルの温室兼管理棟 ③ 栽培している植物種の数 約2700種 ④ その他の特記事項 本園は東京都内最大級の薬用植物園である。				

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にして備考欄に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください（教卓にあるものなどを除く）。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1),2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備 考
教員個室（教授室）	29m ²	1人	48	原則として教授室。准教授以下が使用している場合あり。
実験室・研究室（特大）	140m ²	24人	19	
実験室・研究室（大）	106m ²	16人	12	
実験室・研究室（中）	59m ²	12人	14	
実験室・研究室（小）	34m ²	8人	44	

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、（基礎資料11-1）と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が（隣接する2～3講座で共用で）占有する施設があれば、記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。（ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。）

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1),2)}	室数	施設の内容
中央分析センター	2	測定室、管理室
バイオセーフティ	4	バイオセーフティ室、オートクレーブ室、培養室、ジャーファーメンター室
実験動物施設	40	第一実験動物施設（動物室13、実験室7、事務室2、その他15） 教育2号館3階サテライト（動物室2、その他1）
R I 共同実験室	17	管理区域外： 1（管理室） 管理区域内： 16（汚染検査室、測定室、暗室1および2、コールドルーム、トレーサー室1、2および3、機器室、合成トレーサー室、クリーンルーム、動物室、貯蔵室、処理室、廃棄物保管室、廃棄作業室）
共同機器室	34	研究1号館10、研究2号館11、DR棟2、研究3号館10、研究4号館1

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。（面積などは不要です。）
- 2) 例示以外の実験施設（例えば、培養室など）があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
図書館	565	3,616	15.6	なし	0	PC 5台	学部3406、大学院210
計	565	3,616	15.6		0	0	学部3406、大学院210

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ（キャンパスが異なるなど）、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2019年度	2020年度	2021年度	
図書館	104512	103063	436	518	1001	8347	1869	1838	1457	
計	104512	103063	436	518	1001	8347	1869	1838	1457	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。